

第二 大連民政署

- 第一 墳地ノ位置ハ當署ニ於テ之ヲ指定ス
- 第二 墳地ノ位置ハ當署ニ於テ之ヲ指定ス
- 第三 墳地ノ位置ハ當署ニ於テ之ヲ指定ス
- 第四 墳地ノ位置ハ當署ニ於テ之ヲ指定ス
- 第五 墳地ノ位置ハ當署ニ於テ之ヲ指定ス
- 第六 墳地ノ位置ハ當署ニ於テ之ヲ指定ス

小崗子市街名

- 第一區一號地區
- 第一區二號地區
- 第一區三號地區
- 第一區四號地區
- 第一區五號地區
- 第一區六號地區
- 第一區七號地區
- 第一區八號地區
- 第一區一號地區
- 第一區二號地區
- 第一區三號地區
- 第一區四號地區
- 第一區五號地區

- 南大龍街 第二區六號地區
- 南同仁街 第二區七號地區
- 日新街 第二區八號地區
- 北久壽街 第三區一號地區
- 北泰公街 第三區二號地區
- 北鎮政街 第三區三號地區
- 北財神街 第三區四號地區
- 北新起街 第三區五號地區
- 南久壽街 第四區一號地區
- 南泰公街 第四區二號地區
- 南鎮政街 第四區三號地區
- 南財神街 第四區四號地區
- 南新起街 第四區五號地區

街路交通ニ關スル注意

市街ノ發展ニ伴ヒ交通ハ益々頻繁ニ加フルヲ以テ互ニ秩序ヲ重シク細心留意スルニ非ハ其ノ危險測ルヘカラサルモノアリ之カ爲夫々取締規則ノ設ケアリ又隨時警備スル所アリタルニ拘ラス往々當然ノ注意ヲ怠リテ危害ヲ受クル者アルハ甚々遺憾トスル所ナリ依テ更ニ注意事項ヲ提示スルコト左ノ如シ

- 一 幼兒ニハ住所氏名ヲ記載シタル名札ヲ佩用セシメ其ノ外出セシムルコトキハ必ズ相當ノ保護者ヲ附スヘキコト
- 一 往來頻繁ノ街路ニ於テ兒童ヲ遊戯又ハ馳驅セシムヘカラサルコト
- 一 電氣線路ヲ徘徊シ又ハ電氣行進中ノ前路ヲ通過シ若ハ其ノ運

第二 大連民政署

物品取扱手續

- 一 牛馬踏車及歩行者行進フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊砲車踏車ニ對シテハ右ニ避ケヘタ其ノ街角ヲ通行スルトキハ右折者ハ大進リ左折者ハ小進リチナスヘキコト
- 一 乗客又ハ積荷アル車ニ對シテハ空車ニ於テ避讓スヘキコト其ノ中馬ニ在リテモ亦同シ
- 一 郵便車、消防車、救急車ニ對シテハ避讓スヘキコト
- 一 往來頻繁又ハ狹路ノ場所若ハ街角橋上等ヲ通行スル牛馬踏車ハ點ケ聲其ノ他相當ノ合圖ヲ爲シ除行スヘキコト
- 一 街角橋上其ノ他往來ノ妨害トナルヘキ場合ニ牛馬踏車ヲ停止スヘカラサルコト
- 一 荷馬車三輛以上引續キ行進スルトキハ三輛等ニ約四五間ノ距離ヲ保ツヘキコト
- 一 軌道ニ由ルモノノ外一般ニ左側行進ノ慣例ヲ遵守スヘキコト
- 一 歩道ノ設ケアル場所ハ徒歩者ハ成ルヘタ歩道ニ由ルヘキコト
- 一 歩道ニハ蓋ニ車馬ヲ引入ルヘカラサルコト
- 一 蓋ニ對路ニ佇立シ又ハ物品ヲ置キ其ノ他交通ノ妨害トナルヘキ行爲アルヘカラサルコト

第二 大連民政署

大連民政署物品取扱手續左ノ通改正ス

大連民政署物品取扱手續

- 第一條 物品ノ取扱ハ本手續ニ依ルヘシ
- 第二條 各課及必要ノ箇所ニ物品取扱主任ヲ置キ所要物品ノ出納及監守ヲ爲サシム
- 第三條 物品取扱主任ハ第一號第二號様式ノ左記帳簿ヲ備ヘ物品ノ出納ヲ整理スシ
 - 一 備品受拂簿 (第一號様式)
 - 一 消耗品受拂簿 (右 同)
 - 一 備品保管簿 (第二號様式)
- 第四條 物品ノ請求ハ備品消耗品ニ區別シ第三號様式ノ請求及領收證明紙ニ其ノ品目數量及所要ノ目的ヲ明記シ課長ノ捺印ヲ受ケ物品會計官吏ニ差出シ物品ヲ受領スヘシ
- 第五條 消耗品ハ毎月五日迄ニ其ノ月中使用豫定高チ一時ニ請求受領スヘシ但シ臨時使用ノモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 第六條 前二條ニ依リ受領シタル物品ハ直ニ第三條ノ受拂簿ニ登記シ各自ノ専用ニ供シタルモノハ更ニ備品保管簿ニ登記シ常ニ受拂簿ニ明瞭ナラシムヘシ
- 第七條 使用物品中不用トナリタルモノハ物品取扱主任ハ第四號様式ノ返納證明紙ニ其ノ品目數量ヲ記入シ現品ヲ添ヘ物品會計官吏ニ返納スヘシ
- 第八條 修理又ハ洗濯ヲ要スル物品ハ直ニ物品取扱主任ヨリ物品會計官吏ニ現品ヲ回付スヘシ
- 第九條 年度末ニ至リ使用未済ノ消耗品アルトキハ第七條ニ據リ返納ノ手續ヲ爲スヘシ

手續ヲ爲スヘシ

- 第十條 物品取扱主任交替ノ場合ハ各品目ノ現在高チ取調ヘ第三條ノ受拂簿ト照合シ引續キテ作リ前後任者署名捺印ノ上物品ヲ受授ナリシ引續キテ寫シ物品會計官吏ニ差出スヘシ但シ交替ノ場合ニ於ケル物品取調ニハ物品會計官吏立會フモノトス
 - 第十一條 故意又ハ怠慢ニ依リ物品ヲ亡失毀損シタルモノハ賠償ノ責任セシム共用物品ノ亡失毀損カ共用者中何人ノ所爲ニ屬スルカヲ認知シ難キトキハ共用者連帯シテ賠償ノ責任セシム
 - 第十二條 物品取扱主任ハ物品亡失ノ場合及毀損物品ニシテ修理ヲ加フルモ使用ニ堪ヘズト認ムルモノアルトキハ第五號様式ノ報告書ヲ作り物品會計官吏ニ差出スヘシ但シ毀損物品ハ第七條ニ據リ返納ノ手續ヲ爲スヘシ
 - 第十三條 物品取扱主任ハ各自ノ専用ニ供シタル物品及手許現在高チ隨時點檢シ之ヲ諸帳簿ニ照シ荷モ不整理ニ流レナル様注意スヘシ
 - 第十四條 郵便切手取調書ノ受拂及整理ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム
- 附則
- 本手續ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十九年九月一日訓令第二號ハ本手續施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
(様式略ス)

●郵便切手取扱手續

明治三十九年十月七日 各課、各段、大連民政署郵便切手取扱手續左ノ通定ム

- 第一條 郵便切手ハ本手續ニ依リ取扱フヘシ

●大連公會堂使用規則

明治三十九年十月七日 大連公會堂使用規則 第八號

- 第二條 郵便切手ノ概算渡ハ文書取扱主任及出張者ニ限ルモノトス
 - 第三條 前條ニ依リ郵便切手ノ概算渡ヲ受ケムトスルトキハ第一號様式ニ依リ文書取扱主任ハ一箇月間ノ使用豫定高出張者ハ出張中使用豫定高チ一時ニ請求受領スヘシ
 - 第四條 文書取扱主任及出張者郵便切手ノ概算渡ヲ受ケタルトキハ第二號様式ノ郵便切手受拂簿ニ登記シ毎日ノ遺拂ヲ明瞭ニ記載スヘシ
 - 第五條 文書取扱主任ハ左記ノ三期ニ分チ翌月五日マテ第三號様式ノ郵便切手受拂簿算書ヲ調製シ遺拂明細書ヲ添ヘ物品會計官吏又ハ物品出納役ニ提出スヘシ但シ遺拂明細書ハ第四條ノ受拂簿ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
 - 七月 十一月 三月
 - 第六條 出張者ハ歸著後十日以内ニ前條算書ヲ調製シ第四條ノ受拂簿ヲ添ヘ物品會計官吏又ハ物品出納役ニ提出スヘシ但シ殘餘ノ切手ハ精算書ト同時ニ差出スヘシ
 - 第七條 郵便切手ノ請求及精算書ニハ總テ所屬長ノ捺印ヲ受ケ物品會計官吏又ハ物品出納役ニ提出スヘシ
- 附則
- 本手續ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十九年九月訓令第三號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
(様式略ス)

●官有家屋ノ被害狀況申告方

明治三十九年七月七日 告示第十四號

官有家屋借受人ハ風雨其ノ他ノ結果ニ依リ該家屋ニ被害アリタルトキハ直ニ其ノ狀況ヲ當署ニ申告スヘシ

第二 大連民政署

本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三 金州民政支署

● 處務細則 明治三十三年三月十日 大連民政署訓令第三號 金州支署出張所

金州支署處務細則左ノ通之ヲ定ム

第一章 通則

第一條 各係ニ係長ヲ置キ屬又ハ警部ヲ以テ之ニ充テ其ノ所管ノ事務ヲ掌理セシム

第二條 各係ニ主任ヲ置ク其ノ事務分掌左ノ如シ

庶務係

- 一 職員進退身分其ノ他機密ニ關スル事項
- 二 署名及署名印ノ管理ニ關スル事項
- 三 恩給扶助其ノ他賄賂與ニ關スル事項
- 四 文書ノ發受ニ關スル事項
- 五 訓令、告示、告諭及内訓等ノ查閱發布ニ關スル事項
- 六 統計報告ニ關スル事項
- 七 教育ニ關スル事項
- 八 社寺宗教ニ關スル事項
- 九 殖産其ノ他商工ニ關スル事項
- 十 賑恤救濟及慈善ニ關スル事項
- 十一 他係ニ屬セザル事項

法務主任

- 一 民刑事訴訟及民事調停ニ關スル事項
- 二 非訟事件ニ關スル事項

稅務主任

- 一 租稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
- 二 稅外諸收入ノ收納ニ關スル事項
- 三 官有財產ニ關スル事項

會計主任

- 一 經費ノ豫算決算及出納ニ關スル事項
- 二 物品ノ出納及購買ニ關スル事項
- 三 營繕及宿舍配當ニ關スル事項
- 四 借入ノ命免及監督ニ關スル事項

警務係

警務主任

- 一 警察文書ノ收發編纂及保管ニ關スル事項
- 二 巡查巡捕ノ配置勤務及身分ニ關スル事項
- 三 警察賞與ニ關スル事項
- 四 會屯ノ監督ニ關スル事項
- 五 兵卒及戶籍ニ關スル事項
- 六 地理ニ關スル事項
- 七 係中他ニ屬セザル事項

保安主任

- 一 營業取締ニ關スル事項
- 二 運輸交通ノ取締ニ關スル事項
- 三 銃砲火藥其ノ他危險物ノ取締ニ關スル事項

第一章 通則

第一條 各係ニ係長ヲ置キ屬又ハ警部ヲ以テ之ニ充テ其ノ所管ノ事務ヲ掌理セシム

第二條 各係ニ主任ヲ置ク其ノ事務分掌左ノ如シ

庶務係

- 一 職員進退身分其ノ他機密ニ關スル事項
- 二 署名及署名印ノ管理ニ關スル事項
- 三 恩給扶助其ノ他賄賂與ニ關スル事項
- 四 文書ノ發受ニ關スル事項
- 五 訓令、告示、告諭及内訓等ノ查閱發布ニ關スル事項
- 六 統計報告ニ關スル事項
- 七 教育ニ關スル事項
- 八 社寺宗教ニ關スル事項
- 九 殖産其ノ他商工ニ關スル事項
- 十 賑恤救濟及慈善ニ關スル事項
- 十一 他係ニ屬セザル事項

法務主任

- 四 水火災警防ニ關スル事項
- 五 風俗取締ニ關スル事項
- 六 遺失物、埋藏物、漂流物ニ關スル事項
- 七 其ノ他保安ニ關スル事項

司法主任

- 一 司法警察ニ關スル事項
- 二 刑事被告人及囚人ノ看守押送ニ關スル事項

衛生主任

一 衛生警察ニ關スル事項

第二章 文書取扱

第三條 本署ニ到達スル文書ハ警務係警務主任ニ於テ接受シ總務係ニ屬スルモノハ直ニ總務係庶務主任ニ交付スヘシ

各係ニ於テ收受シタル文書ハ受付年月日及番號ヲ本書ニ附記檢印シ件名其ノ他要項ヲ發受件名簿ニ登記シタル上署長ニ提出スヘシ

親展文書ヲ接受シタルトキハ封緘ノ儘署長ニ提出スヘシ

第四條 文書ノ配付ヲ受ケタルモノハ即時處分案ヲ具シ他ニ關係アルモノハ合議ノ上決裁ヲ受ケヘシ

第五條 文書ニシテ至急親展又ハ書留配達證明等特種ノ取扱ヲ要スルモノハ主任ニ於テ相當記號ヲ文案ノ欄外ニ朱記スヘシ

第六條 急應ヲ要シ又ハ機密ノ取扱ヲ要スルモノノ外決裁文書ハ各主任ニ於テ淨査檢印シ總務係ニ屬スルモノハ庶務主任警務係ニ屬スルモノハ警務主任ニ於テ發受件名簿ニ登記ノ上發送スヘシ

第七條 前條ニ依リ發送シタル文書ノ原案ハ各主任ニ還付シ受領ノ印ヲ求ムヘシ

完結シタル書類ハ總務係ニ在リテハ各主任警務係ニ在リテハ警務主任ニ於テ編纂保管スヘシ

第八條 文書ノ番號ハ毎年之ヲ更新ス

文書番號ノ上ニ「金」ノ一字ヲ記シ次ニ主務係ノ頭字ヲ連冠スヘシ

同一事件ノ文書ハ其ノ完結ニ至ルマテ同一番號ヲ用キ「一」「二」「三」等ト記シテ之ヲ區別ス

第九條 本細則ハ支署出張所ニ之ヲ準用ス但シ別ニ係ヲ置カス

● 特別會計及地方費歳入徵收事務取扱方

明治三十三年三月二日 金州支署長訓令第一號

其ノ邊所管ニ屬スル特別會計歳入及地方費歳入ノ徵收事務ハ分掌官トシテ取扱フヘキ儘ト心得ヘシ

● 地方規約實施ニ關スル件

明治三十三年六月二日 金州民政支署長告諭

夫レ地方ノ安寧ヲ保持シ福利ヲ増進スルハ各人ノ經營努力ニ俟フコト固ヨリ論ナシト雖獨爾相敬メ隣佑相輔ケ而シテ官民其ノ力ヲ一ニスルニ非ズムハ其ノ實ヲ舉クルコト能ハサルナリ本官廳ニ官命ヲ奉シテ此ノ地ニ蒞ムヤ夙ニ之ヲ地勢ニ稽ヘ之ヲ民情ニ察シ勸業ニ教育ニ將又衛生ニ專ラ民生ノ幸福ヲ増進スルニ苦心シ一面警務官吏ヲ警助シテ匪賊ノ勸誡ニ力メ日夜忘ルコトナシト雖浮瀆ノ徒尙未タ全ク其ノ跡ヲ絶フニ至ラズ動モスレハ欺テ邊外ノ賊徒ニ逼シ以テ郷土ヲ騷擾シ累テ其民ニ及ホス處業從テ興ラズ風教亦振ハス民物靡靡トシテ地方困乏セリ其ニ憂慮ニ堪ヘザルナリ是レ蓋シ各人協力一致ノ觀念ニ乏ク自治自衛ノ思想薄キノ致ス所ナ

第三 金州民政支署

ラスムハアラス夫レ官ト人民トハ須ラク一心同體ナルヘシ獨リ頭腦有リテ手足之ニ伴ハサレハ遂ニ完人タル能ハス惟フニ現下管内ノ實況ハ正ニ此ノ德ナシトセズ是レ本官ノ夙ニ憂慮スルトコロニシテ又人民ノ一大不幸ナリ個人民深ク此ニ鑑ミ鄰閭互ニ相詢リ連ニ保甲聯莊ノ規約ヲ立テ以テ時弊ヲ匡正スヘシ是レ實ニ地方ノ安寧ヲ維持シ其ノ福利ヲ増進スル所以ナリ抑モ保甲ノ法タル比閭ノ制ニシテ隣佑相敬メ故アレハ則チ備テ設ケ盜賊アレハ則チ追捕シ善行ハ之ヲ賞シ奸宄ハ之ヲ糾シ務テ比戸封スヘキノ俗ヲナスニ在リ乃チ彈盜安民ノ要務ナリトス此ニ古制ヲ斟酌シテ規約ノ準則ヲ示ス蓋シ規約ニ連座ノ責任アリ過愈ノ處分アリ而シテ又賠償獲費ノ途具ハル條理整然細大漏ラスナン若夫レ甲民ニシテ規約事項ニ違反シ保甲役員ニシテ其ノ職務ノ義務ニ背戾スルモノハ科罰立トコロニ到リ至モ假借セサルヘシ各地此ノ規約成リ其ノ實行ヲ見ルノ日ハ犯奸作科ノ徒其ノ身ヲ容ルルノ地ナク狗盜聚博ノ輩亦自カラ其ノ跡ヲ絶ツニ至リ其長其ノ産ヲ興シ其ノ業ニ樂ミ齊ク太平ヲ謳歌スルヲ得ム個人民宜シク此ノ旨ヲ體シ精勵力行其ノ實ヲ收メ其ノ効ヲ享ケムコトヲ期シ徒ニ紛擾懈怠以テ此ノ至善至美ノ法ヲ具文トナシ長ニ囑諭ノ悔ヲ貽ス勿レ

地方規約標準

一 會ノ名稱區域及編成
第一條 本會ハ金州民政支署何會ト稱ス
第二條 本會ハ何村屯區外何村屯區ヲ以テ其ノ區域トス
第三條 本會内各甲ノ名稱及區域左ノ如シ
何會何村屯區第何甲 自何番地 至何番地
第四條 保甲ノ編成ハ現在ノ會村屯區ヲ基礎トス

四二

第五條 甲ハ約十戸乃至二十戸ヲ以テ之ヲ編成ス
村屯區ノ戸數二十戸以上ナルトキハ之ヲ甲ニ區分ス
二 戸口ノ異動及出入者取締ニ關スルコト
第六條 家長ハ其ノ戸口ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ甲長ニ報告スヘシ
第六條ノ二 家長ハ門戸見易キ場所ニ門牌ヲ揭示スヘシ
甲長ハ甲内ノ各家長村屯區長ハ區域内ノ各甲長ノ門牌ヲ門戸見易キ場所ニ揭示スヘシ
第七條 左ノ事實アリタル場合ニハ各家長ハ即時之ヲ甲長ニ報告スヘシ
一 犯罪人又ハ舉動不審ノ者甲内ニ入込タルトキ
二 謠言誹語又ハ地方ノ安寧風俗ヲ紊亂スヘキ行為アル者甲内ニ入込タルトキ
三 他所ノ者ヲ宿泊セシメ又ハ自家ノ者一泊以上他家ヘ旅行スルトキ
其ノ出發又ハ歸來ノトキ亦同シ
三 會ノ安寧及福利ニ關スルコト
第八條 會内住民ハ常ニ左ノ事項ヲ恪守スルモノトス
一 官ノ命令規定ヲ誠實ニ遵守スルコト
二 會村屯區甲長ノ訓戒ニ服従スルコト
三 他人ノ身上行為ニ對シテ誹毀罵詈ヲ爲シ又ハ官廳ニ虛偽ノ申告ヲ爲ササルコト
第九條 家長ハ互ニ相戒メ浮浪犯罪ノ徒ヲ出ササルコトヲ努ムヘシ若シ之ヲ認知シタルトキハ甲長ニ急報スヘキモノトス
第十條 家長ハ匪賊強盜其ノ他ノ犯人會内ニ潛伏シ若ハ會内ヲ通過スルコトヲ認知シタルトキハ甲長ニ急報シ其ノ警戒防禦搜索逮捕ニ助力スヘシ

第十一條 家長ハ常ニ衛生ニ注意シ邸宅ノ内外及通路下水等ノ清潔ヲ保持スルモノトス
第十二條 家長ハ傳染病又ハ獸疫發生ノ場合ニハ甲長ニ急報シ其ノ預防消毒ニ從事スヘキモノトス
第十三條 家長ハ會内ノ道路橋樑溝渠及道路竝木ヲ保護シ其ノ小破竝枯損ヲ修繕若ハ補植スルノ義務アルモノトス
第十四條 家長ハ其ノ管理スル田畑森林ニ害虫發生シタルトキハ直ニ甲長ニ急報シ之ヲ驅除豫防ニ着手スヘシ
四 連座ノ責任ニ關スルコト
第十五條 左ノ場合ニ於テハ情狀ニ依リ會村屯區甲内ノ各家長連座ノ責任ヲ支署長ノ認可ヲ經テ會長之ヲ決定スルモノトス
一 匪賊強盜其ノ他大ナル犯人ヲ出シタルトキ
二 犯罪者ヲ隱匿シ其ノ他之ニ便宜ヲ與ヘタル者アルトキ
三 列車又ハ鐵道線路ニ瓦石竹木ノ類ヲ投擲シ其ノ他危險ナル障礙ヲ與ヘタルトキ
四 電線ヲ切斷シ電柱若ハ郵便函ヲ毀損シタル者アリタルトキ
五 林木ヲ盜伐シ又ハ杉地ノ雜草ヲ刈取リ又ハ掘取リ其ノ他植林ノ障礙トナルヘキ行為ヲナシタル者アリタルトキ
六 濫ニ山林原野ニ於テ火ヲ焚キ又ハ林木ヲ燒失セシメタル者アリタルトキ若ハ他人ノ造林地内ニ濫ニ放牧シタル者アリタルトキ
第十六條 總テ事務ニ官ニ申告シ若ハ自ラ警防ニ從事スル等時宜テ失セズ害惡ヲ輕易ナラシメタル者ハ連座ノ責任ヲ免ヌルコトアルヘシ
五 壯丁團ニ關スルコト
第十七條 壯丁ハ會内ノ各家長協議ノ上選出スルモノトス

第三 金州民政支署

四三

第十八條 壯丁團員ニ選出セラレタル者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス
第十九條 壯丁團ハ警察官吏ノ指揮アルニアラサレハ出動スヘカラス但シ非常時變ニ際シ指揮ヲ俟ツノ違ナキトキハ此ノ限ニ在ラス
第二十條 壯丁團ハ左ノ各號ヲ遵守スルモノトス
一 會村屯區長ノ指揮ニ従フコト
二 食藥品ハ常ニ手入ヲ爲シ汚損セシメサルコト
三 召集命令ヲ受ケタルトキハ迅速ニ集結シ位置ニ集結スルコト
第二十一條 壯丁團員ハ無報酬トス但シ職務ノ爲出動シタルトキハ出動手当ヲ給スルコトアルヘシ
六 會村屯區甲長ノ職務ニ關スルコト
第二十二條 會長ハ所轄警察官吏ノ指揮ヲ受ケ會内規約ノ實行ヲ監督シ壯丁團ヲ指揮ス
第二十三條 村屯區長ハ區域内甲長ヲ監督シ該會長ノ職務ヲ補佐スルモノトス
第二十四條 甲長本規約ニ依リ其ノ管理ニ關スル事務ノ外所屬村屯區長ノ職務ヲ補佐スルモノトス
第二十五條 會長ハ毎月少クモ一回以上會内ヲ巡視シ所轄警察官吏ニ其ノ狀況ヲ報告スヘシ
第二十六條 村屯區長ハ毎月少クモ二回以上其ノ會内ヲ巡視シ其ノ狀況ヲ會長ニ報告スヘシ
第二十七條 甲長ハ甲内住民ヨリ申告ヲ受ケタル事件ニ就テハ直ニ村屯區長ニ報告スヘシ
第二十八條 會村屯區甲長ハ本會ヲ要スル事件ヲ認知シタルトキハ直ニ

第三 金州民政支署

之ヲ警察官吏ニ報告スヘシ

七 賞罰及救恤ニ關スルコト

第二十九條 壯丁團員及會ノ住民中左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ民政

支署長ハ會長ノ意見ヲ聽キ賞與ヲ給スルコトアルヘシ

一 風火水災等ノ災者及其ノ他ノ場合ニ於テ人命又ハ財產ヲ救護シ功

勞顯著ナル者

二 匪賊其ノ他重大ナル犯罪人ヲ捕獲シタル者

三 犯罪人其ノ他會内ノ公安ヲ害スヘキ事件ヲ探知シ警察官吏又ハ會

村長ニ急報シ逮捕ヲ容易ナラシメ若ハ其ノ事件ヲ未發ニ防遏スル

ヲ得セシメタル者

四 德行卓絶又ハ公共ノ利益ヲ起シ其ノ成績顯著ニシテ會民ノ模範ト

ル者

第三十條 會村屯區甲長ニシテ職務ニ精勵シ品行方正ニシテ他ノ模範ト

ナル者ニ對シテハ民政支署長ハ賞與ヲ給スルコトアルヘシ

第三十一條 會村屯區甲長ニシテ職務ノ爲死亡シ又ハ負傷シタルトキハ

救恤料ヲ給スルコトアルヘシ

第三十二條 會村屯區甲長其ノ職務ニ違背シタルトキハ民政支署長之ヲ

懲罰ス

前項ノ懲罰ハ五十圓以内ノ過意金減額及罰金ノ三種トス

第三十三條 會長ハ所轄支署長ノ認可ヲ經テ左ノ事項ニ該當スル者ニ對

シ二十圓以内ノ過意金又ハ之ニ相當スル賦役ヲ課スルコトヲ得

一 規約ノ加盟ヲ拒ミタル者

二 連座責任者

三 規約ニ背キタル者

四四

四 經費ノ賦課ヲ受ケ放ナク其ノ徵收ニ應ゼサル者

五 申告義務ヲ怠リタル者

六 壯丁團員故ナク出役セサル者

八 經費

第三十四條 本規約施行ノ爲要スル一切ノ經費ハ總テ各家長ノ負擔トシ

民政支署長ノ認可ヲ受ケ會長之ヲ賦課徵收ス

第三十五條 過意金處分ニ基ク過意金ハ其ノ會ノ收入トス

第三十六條 會長ハ會費ノ收支ヲ明ニスヘシ

附則

第三十七條 本規約ハ其ノ實行ヲ期スルカ爲會内各家長署名捺印正副二

通ヲ作り副本ハ監督官廳ニ提出シ正本ハ會長ニ於テ保管スルモノトス

保甲制度實施手續

一 本制度ハ明治四十二年六月一日ヲ以テ之ヲ實施ス

一 現在ノ村屯區長申新ニ甲長トナルモノハ別ニ何等ノ形式ニ依ラズ當然

甲長ト命ゼラレタルモノトス

一 現在ノ村屯區長中引續キ村屯區長トシキモノハ別ニ任命又ハ選舉ノ形

式ヲ用ヒス

一 數村屯區合セテ村屯區長ヲ新設スル場合及新ニ甲長トシキモノニシテ

現ニ村屯區長ニ非ラサル者ニ在リテハ人民ノ選舉ニ因リ會長ハ所轄警

察官吏派所ヲ經由シテ支署直轄内ニ在リテハ支署長出役所所轄内

ニ在リテハ出役所長ノ認可ヲ受ケシムルコト

前項ノ場合ニ在リテ出役所長認可ヲ與ヘタルトキハ直ニ其ノ氏名ヲ

支署長ニ報告スルコト

一 壯丁團ハ一會毎ニ之ヲ編成シ各村屯區長ノ管轄區域ニ從ヒ更ニ之ヲ

班ニ分ツ

一 壯丁團ノ役員左ノ如シ

一 團長 會長ヲ以テ團長ニ充ツ

二 副團長

三 班長 若干名 村屯區長ヲ以テ班長ニ充ツ

副團長ハ人民ノ選舉ニ依リ團長ニ於テ所轄官衙ヲ經由シテ支署長ノ

認可ヲ受ケルモノトス

一 壯丁ハ各家長ニ於テ一名ヲ出スヲ例トスルモ十七歳以上四十五歳以

下ノ男子ハ總テ壯丁タル義務アルモノトス

一 常備壯丁ノ數ハ團長ニ於テ其ノ員數手當額ヲ定メ所轄官衙ヲ經由シ

テ支署長ノ認可ヲ受ケルモノトス

一 門牌ハ第一號樣式ニ依ル

一 會長及村屯區長ハ左ノ簿冊書類ヲ備付クヘキコト

一 保甲規約級

一 保甲役員名簿(樣式)

二 壯丁團員名簿(樣式)

三 壯丁團員名簿(第三號)

四 附命令級

五 諸報告級

六 經費收支簿(樣式)

七 經費收支簿(第四號)

(樣式第六)

壯丁選任服務並服裝內規

第三 金州民政支署

一 壯丁ハ常備、後備、後備ノ三種ニ別ツ

常備壯丁

一 常備壯丁ハ各會一名若ハ二名ヲ選出シ一箇年滿シテ會事務所ニ置ク

一 常備壯丁ニハ一人一箇月銀七圓以内ノ手當ヲ給ス

後備壯丁

一 後備壯丁ハ各村ニ於テ選拔シタル體格強健ニシテ事ニ堪ユル者ヲ以

テ之ニ充テ各會ノ須要ニ應ジ十五名以内ヲ置ク

一 後備壯丁ハ常時任務ニ服セサルモ必要ノ時期(一年中三四箇月間)ニ

於テ必要人員ヲ會事務所ニ常置スルモノトス

一 後備壯丁ニシテ常備ノ任務ニ服シタル者ハ一人ニ付一年銀四石五斗

以内ノ手當ヲ給ス

後備壯丁

一 後備壯丁トハ保甲制度實施手續第七項義務壯丁中常置壯丁及後備壯

丁ニ屬セサルモノヲ謂フ

一 後備壯丁ハ常時勤務ニ服セサルモ必要ノ時期ニ際シ警察官吏若ハ壯

丁團長ノ指揮ニ依リ自己ノ居村警戒ニ從事シ交代ニテ見張り夜間リ

等ヲナスモノトス

一 後備壯丁ニハ總テ手當ヲ支給セス

一 後備壯丁警戒ニ從事スルトキハ村内一定ノ場所ニ詰所ヲ設クルコト

一 後備壯丁後備壯丁ノ服裝左ノ通定ム但シ勤務ニ就キタル場合ノ外ハ之

ヲ著製スルコトヲ許サス

(一) 支那式チロキ形上衣

(二) 地質縮木縮單衣

(三) 團ハ白地(徑曲尺八寸)

第三 金州民政支署

- (一) 文字ハ赤色
- (二) 印ハ金州民政支署印ヲ捺捺ス
- (三) 服章ハ腹背共同シ

(服装圖略ス)

●書房取締規定 明治三十三年四月十日告示

- 書房取締規定
- 第一條 書房ヲ設立セムト欲スル者ハ開設一週前前左部事項ヲ具シ民政支署長ニ願出テ認可ヲ受クヘシ
 - 一 書房教師ノ氏名住所族籍年齢及履歴
 - 二 書房ノ位置並名稱
 - 三 學科目
 - 四 書房ノ坪數及生徒豫定數
 - 五 開設ノ年月日
 - 第二條 書房ヲ開設シタルトキハ一週間内ニ左部事項ヲ具シ民政支署ニ届出ツヘシ
 - 一 生徒及其ノ父兄ノ氏名住所年齢(生徒)學歷(生徒)
 - 二 教科書
 - 三 教授時間表
 - 四 束 條
 - 第三條 書房從來ノ各學科ノ外更ニ漢文初等國文教科書、日本語、算術ヲ教授スヘシ但シ日本語ハ當分ニテ缺クコトヲ得
 - 第四條 書房閉鎖ノ時ハ其ノ旨民政支署ニ届出ツヘシ
 - 第五條 民政支署ニ於テ必要ト認ムルトキハ書房教師ノ檢定ヲ行フ檢定

四六

ニ合格セザルモノハ教師タルコトヲ許ササルコトアルヘシ

第六條 書房教師ハ政治ニ涉リ又ハ他ノ學堂或ハ書房ノ妨礙トナルヘキ言動ヲ爲スヲ得ス

第七條 書房ノ教授訓練及設備等不完全ナルカ又ハ第五、六條ニ違背シタルトキハ閉鎖ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 本規定ハ明治四十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 本規定發布ノ際現ニ書房ヲ開設シタルモノハ施行後一週間以内ニ本規定第一條第二條ニ依リ民政支署ニ報告スヘシ

●書房教員養成所規定 明治三十三年四月九日制定

- 書房教員養成所規定
- 第一條 本所ハ金州管内書房教員ヲ養成スルヲ以テ目的トス
 - 第二條 本所生徒定員ヲ二十名トシ金州管内各會長ノ推薦ニ依リ左部各號ノ資格ヲ有スル者ニ限リ入學ヲ許ス但シ必要ノ場合ハ入學試驗ヲ行フコトアルヘシ
 - 一 關東州内ニ本籍ヲ有スル者
 - 一 年齢十八歳以上四十歳以下ニシテ從學七年以上ノ者
 - 一 品行方正思想堅實ニシテ阿片煙ヲ喫セス將來教育者タルニ適シタル者
 - 第三條 各會長ハ毎年三月十日限リ當該民政支署出張所ヲ經テ左部ノ事項ヲ具シ入學志願者ヲ推薦スヘシ
 - 一 入學者ノ氏名住所族籍年齢父兄ノ職業
 - 二 學歷

第四條 本所教授學科目ハ左ノ如シ

- 一 各科教授法大意
- 一 學校管理大意
- 一 日本語
- 一 算術
- 一 各科教材ノ說明
- 一 體操
- 第五條 本所修業年限ハ滿一箇年トシ毎年四月初ヨリ翌年三月末ニ至ル第六條 本所學期ヲ分ケテ左ノ三學期トス
- 第一學期 四月一日ヨリ七月三十日マテ
- 第二學期 九月一日ヨリ十二月二十六日マテ
- 第三學期 一月八日ヨリ三月二十五日マテ
- 第七條 學生ヲ推薦シタル各會長ハ其ノ學資トシテ左ノ金額ヲ下記期日ヲ限リ本所ヘ納付スルモノトス但シ該金額ハ必要ニ應ジ増減スルコトアルヘシ
- 一 銀十八元 四月一日
- 一 銀十八元 七月一日
- 一 銀十八元 十一月一日
- 一 銀十二元 二月一日
- 第八條 本所生徒ニハ筆墨紙料及其ノ他雜費トシテ毎月銀一圓五十錢以内ヲ給ス
- 第九條 本所卒業生ハ卒業ノ日ヨリ滿三箇年間推薦ヲ受ケタル會内ノ教育ニ從事スルノ義務ヲ有ス
- 第十條 本所生徒ニシテ左部ノ一項若ハ數項ニ該當スルモノハ退所ヲ命

第三 金州民政支署

四七

セラレコトアルヘシ

- 一 正當ノ理由ナクシテ缺席一箇月以上ニ涉ル者
- 一 將來教育者タルニ不適當ナリト認ムヘキ行為アル者
- 一 學業ノ成績不真ニシテ成績ノ見込ナキ者
- 第十一條 本所卒業生又ハ在籍生徒ニシテ第九條ノ義務ヲ盡ササルカ又ハ第十條ニ依リ退所ヲ命セラレタルトキハ當該會長ノ負擔ニ係ル學費ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命セラレコトアルヘシ
- 附則
- 第十二條 本則ハ明治四十二年五月一日ヨリ施行ス
- 第十三條 明治四十二年度ニ限リ五月一日ヨリ翌年四月末日迄ヲ以テ一學年トス

●蒙學堂規程 明治三十三年三月三日告示

- 蒙學堂規程
- 第一章 總則
- 第一條 蒙學堂ハ支那兒童ニ初等普通教育ヲ施ス所トシ蒙學堂ニ於テハ兒童身體ノ發達ニ留意シ體育ヲ施シ日本語ヲ教授シ兼テ日常ノ生活ニ必須ナル智識技能ヲ授ケルヲ以テ目的トス
 - 第二條 蒙學堂ハ會立者ハ私立トス
 - 第二章 設立及維持
 - 第三條 蒙學堂ヲ設立セムトスルモノハ會立ニアリテハ會長私立ニアリテハ其ノ設立者ヨリ左部事項ヲ具シ金州民政支署長ニ願出テ認可ヲ受クヘシ
 - 一 名稱及位置

第三 州民政支署

- 一 設立者ノ住所族籍氏名年齢職業但シ私立ノ場合ニ限ル
 - 一 教師ノ氏名及履歷但シ私立ノ場合ニ限ル
 - 一 學級數
 - 一 校舍ノ略圖面
 - 一 經費ノ收支豫算
 - 第四條 蒙學堂ノ設立及維持ニ關スル經費ハ會立ニアリテハ當該會、私立ニアリテハ其ノ設立者ノ負擔トス但シ私立蒙學堂ニ對シテハ會費ヲ以テ其ノ一部ヲ補助スルコトヲ得
 - 第五條 蒙學堂豫算ハ毎年二月末日限リ金州民政支署長ヘ報告スヘシ
 - 第六條 蒙學堂ヲ閉鎖シ又ハ第三條ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ直ニ金州民政支署長ニ願出テ認可ヲ受ケヘシ
- 第三章 職員
- 第六條 蒙學堂ニハ左ノ職員ヲ置ク
 - 正教員 一人
 - 副教員 若干
 - 第七條 正教員ハ民政支署長又ハ出張所長ノ指揮ヲ受ケ教授ニ從事シ庶務ヲ掌リ並所屬職員ヲ監督ス
 - 第八條 副教員ハ正教員ノ指揮ヲ受ケ教授ニ從事シ庶務ヲ掌ル
 - 第九條 正教員ハ金州民政支署ノ教員免許狀ヲ有スル者ニ限ル
 - 第十條 蒙學堂教員ハ會立ニアリテハ金州民政支署長之ヲ任免シ私立ニアリテハ設立者ヨリ何出テ金州民政支署長ノ認可ヲ受ケヘシ
- 第四章 學科及修業年限
- 第十一條 蒙學堂ノ教科目ハ修身日本語漢文算術體操トシ其ノ程度ハ別紙第一號表ニ依ル

四八

- 第十二條 修業年限ハ三箇年トス但シ土地ノ情況ニ依リ金州民政支署長ノ認可ヲ受ケ年限ヲ伸縮スルコトヲ得
 - 第五章 學年及休業日
 - 第十三條 學年ハ毎年陽曆四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ終ル
 - 第十四條 休業日ハ左ノ通トス
 - 一 日曜日
 - 一 日本大祭日祝日及都府府始政記念日陸海軍記念日
 - 一 清國清明節端午節中元節仲秋節霜降節十月朔一日
 - 一 夏季休業 每年中伏
 - 一 冬季休業 毎年陽曆十二月二十一日ヨリ翌年一月二十日マテ
 - 第十五條 前條休業ノ外特ニ二日以上ニ亘リ臨時休業ヲ要スルトキハ當該正教員ヨリ何出テ民政支署長又ハ出張所長ノ認可ヲ受ケヘシ但シ非常事態等ニ際シ前項ノ認可ヲ受ケル違ナキトキハ休業ノ後直ニ正教員ヨリ支署長又ハ出張所長ニ報告スヘシ
 - 第六章 學級及設備
 - 第十六條 一學級ノ兒童數ヲ四十人以下トス
 - 第十七條 蒙學堂ニ於テハ教室ノ採光換氣及其ノ他教授管理及衛生上必要ノ設備ヲナスヘシ
 - 第七章 修業及卒業
 - 第十八條 正教員ハ兒童卒業ノ成績ヲ考査シ學年末ニ於テ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ第一號書式ノ修業證書ヲ修業年限ノ終ニ於テ全教科ヲ修了セリト認メタル者ニハ第二號書式ノ卒業證書ヲ授與スヘシ
- 第八章 年輪及入退學

- 第十九條 蒙學堂初學年ニ入學スヘキ兒童ノ年齢ハ八歳以上十歳以下トス
 - 第二十條 蒙學堂ニ入學セシムトスルトキハ其ノ兒童ヲ保護スル者ニ於テ左ノ各號ニ掲ケタル事項ヲ具シ蒙學堂ニ願出ツヘシ
 - 一 兒童或保護者ノ氏名出生年月日本籍地現住所
 - 二 兒童入學前ノ經歷
 - 三 保護者ノ職業及兒童トノ關係
 - 第二十一條 兒童ヲ退學セシムトスルトキハ其ノ兒童ヲ保護スルモノヨリ其ノ事由ヲ具シ正教員ニ願出ツヘシ
 - 第二十二條 蒙學堂ハ入學シタル兒童ニ就キ第三號書式ニ依リ學籍簿ヲ調製スヘシ
- 第九章 除籍
- 第二十三條 蒙學堂兒童ニシテ左ノ一項若ハ數項ニ該當スル者アルトキハ正教員ハ民政支署長又ハ出張所長ノ認可ヲ受ケ之ヲ除籍スルコトヲ得
 - 一 無届缺席二箇月以上ニ亘ルル者
 - 二 性行不真ニシテ改善ノ見込ナキ者
 - 三 學業劣等ニシテ成業ノ見込ナキ者
- (書式略ス)
- 蒙學堂正教員認許規定 明治三十年四月四日制定
 - 蒙學堂正教員認許規定
 - 第一條 金州民政支署管内ニ於テ蒙學堂正教員タラムトスル者ハ民政支署長ニ願出テ認許狀ヲ受ケヘシ
 - 第二條 前條認許狀ヲ受ケムトスル者ハ金州民政支署管内公學堂ニ於テ

- 師範教育ヲ受ケ當該公學堂長ノ學習證明書ヲ所持スル者ニ限ル
 - 第三條 第一條ニ依リ認許狀ヲ受ケムトスルトキハ願出ニ應答及公學堂長學習證明書ヲ添付シ金州民政支署ニ差出スヘシ
 - 第四條 蒙學堂正教員認許狀ノ有効期限ハ下付ノ日ヨリ滿三箇年トス
 - 第五條 認許狀ノ有効期限滿了シタルトキハ學業檢定ノ上更ニ免許狀ヲ下付ス
 - 第六條 前條認許狀ノ再下付ヲ得ムトスル者ハ履歷書ニ前認許狀寫ヲ添ヘ金州民政支署長ニ願出ツヘシ
 - 第七條 蒙學堂正教員認許狀ハ別記書式ニ依ル
 - 第八條 蒙學堂正教員認許狀ヲ有スル者ニシテ其ノ體面ヲ汚スノ行爲アリタルトキハ該認許狀ヲ廢棄ス
- (書式略ス)
- 門標掲出方 明治三十年一月十日 署令第一號
 - 當署管内居住者ハ左記第一號第二號樣式ノ門標ヲ掲出スヘシ違フ者ハ料二處ス
 - 本令ハ明治四十年一月二十日ヨリ施行ス
 - 第一號樣式 (木札七寸横三寸)
- 金州 城內(外) 何街(何會村)

第何番戶(何番戶ノ) 第何番地(何番地ノ)

(一號二號等) (一號二號等)

第三 金州民政支署

第二號樣式 (札質又ハ寸法適宜)

氏	名
---	---

備考

- 一 第一號樣式ノ門標ハ楷書ヲ以テ墨書スヘシ
- 二 番號ハ從來ノ地番又ハ月番ニ依ルルモシ番號不明ノモノ及附屬家屋ハ當署又ハ支署ニ就キ承合スヘシ
- 三 生計ヲ異ニスル數戶一家屋內ニ同居スル場合ハ各第二號樣式ニ依ル門標ヲ掲出スヘシ
- 四 從來ノ門標ハ此ノ署令ニ依ル門標ヲ掲ケルモ仍掲出スヘシ

●金州市場貸下規則 明治四十年七月二日 署令第三號

金州市場貸下規則左ノ通相定ム

金州市場貸下規則

- 第一條 市場ノ貸下クヘキ場所ヲ左ノ三種ニ分ツ
 - 一 販賣店(中甲乙ノ各十四室、東、西、北ノ各七室四棟四十九室)
 - 二 緊留場(木製棚架)
 - 三 附屬地(通路外ノ空地ニシテ地區劃第一號ヨリ第三十號ニ至ル)
- 第二條 市場ニ於テ賣買スル物件ハ左ノ種目ニ限ルモノトス但シ獸畜ハ緊留場、燃料ハ所屬地以外、魚菜肉類ハ他ノ物件ト同一店舗ニ於テ賣下ヲ得

買スルコトヲ得ス

- 一 魚類
- 二 蔬菜
- 三 鳥獸肉
- 四 食料品
- 五 雜貨
- 六 家具具服類
- 七 家畜
- 八 燃料

- 第三條 販賣店緊留場又ハ附屬地ノ貸下ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ保證金ヲ提供シテ金州民政署ニ願出クヘシ但シ保證金額ハ販賣店ニ在リテハ貸下料ノ一箇月分緊留場及附屬地ニアリテハ貸下料ノ二箇月分トス
- 一 貸下ヲ受ケムトスル場所
- 二 販賣品目
- 三 願人ノ氏名、年齡、本籍、住所、職業
- 四 代理人ヲ以テ營業ヲ爲サシムル者ニアリテハ代理人ノ氏名、年齡、本籍、住所、職業
- 五 願出ノ年月日

- 第四條 貸下ノ許可ヲ受ケタル者ハ許可ノ日ヨリ五日以内ニ其ノ月分ノ貸下料ヲ納付シ其ノ後ハ毎月分々前月二十五日迄ニ納付スヘシ
- 第五條 貸下期間ハ滿一箇年トシ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル但シ季節アル物件ノ販賣ニハ季節前同ノ貸下ヲ爲シ附屬地及緊留場ニアリテハ日貸下爲スコトアルヘシ

第六條 貸下ニ依リ得タル權利ハ官ノ許可ナクシテ之ヲ轉貸、讓渡又ハ其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 借受人ハ貸下ヲ受ケタル場所ノ維持ニ必要ナル小破修繕ヲ爲スヘシ

第八條 販賣店ハ貸下許可ノ日ヨリ一週間以内ニ開店セサルトキハ貸下ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 市場貸下料ハ別ニ之ヲ定ム

第十條 借受人此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基キテ定メタル事項ニ違背シタルトキハ貸下ノ許可ヲ取消シ賠償セシムルコトアルヘシ

●金州市場取締規則 明治四十年七月二日 署令第四號

金州市場取締規則左ノ通相定ム

金州市場取締規則

- 第一條 市場ノ營業者ハ警察及營業ニ關スル一般ノ規定ヲ遵守スルノ外市場ニ關スル官ノ命令ヲ遵守スヘキモノトス
- 第二條 市場ハ毎日日出ニ開キ日没ニ閉スルヲ例トス但シ營業ノ種類ニ依リ官ノ許可ヲ得テ之ヲ伸長スルコトヲ得
- 第三條 市場內特ニ指定シタル場所以外ニ於テハ焚火ヲ爲スコトヲ得ス
- 第四條 市場ノ營業者ハ各自ノ借區及借區附近道路下水ノ掃除及小破修繕ヲ爲スヘシ但シ借區以外ノ掃除及修繕ニ關シテハ營業者共同遂行

第三 金州民政支署

ノ義務ヲ負フモノトス

第五條 市場ノ營業者ハ日本人清國人各別ニ一名ツテノ總代人ヲ選舉シ金州民政署ニ届出ツヘシ總代人交代ノトキ亦同シ

第六條 總代人ノ爲スル事項左ノ如シ

- 一 市場一般ノ取締ニ關スル事項
- 二 各營業者ニ對スル官ノ命令ヲ傳達スルコト
- 三 營業狀況ヲ官ニ報告スルコト
- 四 以上ノ外市場ニ關シ官ノ命令ニ事項

第七條 總代人其ノ職務執行ニ必要ナル費用ハ營業者ヨリ徴收ス

第八條 市場ノ營業者市場ノ營業衛生其ノ他ニ關シ規約ヲ設ケムトスルトキハ規約案ヲ具シ金州民政署長ノ認可ヲ受クヘシ

●金州市場販賣店貸下料 明治四十年七月二日 署令第四號

明治四十年七月二日 署令第三號及同年十二月一日 署令第四號金州市場販賣店貸下料左記ノ通改正ス

左記

- 一 販賣店一區劃 金 一圓
- 一 緊留場一區劃 金 三十錢
- 一 附屬地一區劃 金 十五錢
- 一 但シ一日若ハ一回 金 一錢
- 以上

●牛疫齋口瘡防疫心得

明治三十四年正月十日
告諭第二號

昨年初冬以來滿洲州ニ於テ牛疫及流行性齋口瘡流行シ其ノ勢頗ル猛烈ナ極メタルヨリ一朝此ノ激烈ナル病毒ヲ輸入セムカ其ノ慘禍ハ蓋シ測ル可カラサルモノアルヲ以テ客臘以來之カ防護ニ力メタルモ遂ニ同月中旬普蘭店出張所管内朝陽寺會ニ一頭ノ牛疫發生セリ爾來本月九日ニ至ル間ニ長山寺姜家堡子、快馬廟、土城子ノ各會ニ亘リテ牛疫三十一頭大塊家也、七頂山、劉家店、上江家屯ノ各會ニ於テ齋口瘡二十五頭ノ發生ヲ見ルニ至ルヲ以テ最モ預防ニ力メタルモ尙且斯ノ如ク散漫流行スルニ至リタルハ憂慮ニ堪ヘサル處タリ該病ハ獨リ牛畜ヲ損フノミナラス羊豚ニモ亦感染スヘキ毒病ナルヲ以テ其ノ產業ニ及ボス損害モ尠少ナラス各飼養者ハ須ク左記各項ヲ遵守シ防疫上悔テ後日ニ貽スコトナキ様特ニ注意スヘシ

防疫心得

- 一 常ニ近隣又ハ交通アル地方ニ於ケル獸疫ノ有無ヲ注意スルコト
- 二 畜舎及其ノ附近ハ常ニ清潔ニ保持シ空氣流通ノ調節ニ注意スルコト
- 三 放牧又ハ他ヨリ往來スル畜類ト自己ノ畜類トヲ接近セシメサルコト
- 四 畜類ハ勿論芻秣及獸畜ニ要スル物品ハ獸疫流行地ヨリ輸出セサルコト
- 五 自己飼養ノ獸畜ニシテ不健康ノモノアリト認メタルトキハ直ニ左ノ處置ヲ爲シ同時ニ最寄警察官署ニ届出ツヘシ

(一) 同一畜舎内ニ收容シアル畜畜ハ其ノ儘之ヲ留置キ健康ハ一定

- ノ場所ニ隔離スルコト
- (二) 患畜ハ其ノ畜舎ヨリ出入セシメサルコト
- (三) 芻秣其ノ他畜舎内ノ物品ハ當該官吏ノ指揮アルニアラサルハ他ニ搬出セサルコト

●衛生組規則施行規程

明治三十四年正月十日
署令第二號

衛生組規則施行規程左ノ通相定ム

- 第一條 衛生組規則ニ依リ金州柳樹屯及鏡子窩ニ各衛生組合ヲ設ケ金州(柳樹屯)鏡子窩)衛生組合ト稱ス
- 第二條 金州衛生組合ハ金州城內一團及東門外、西門外、南門外、北門外、柳樹屯衛生組合ハ大連灣會柳樹屯街一團及秋家屯、張家屯、四王家屯、李家屯、劉家屯、干家屯、鏡子窩衛生組合ハ鏡子窩街一團及小李家屯、李家屯、後密小耶家屯、小劉家屯、劉家屯ヲ以テ其ノ區域トス
- 前項ノ區域ヲ分テ數箇ノ小區域トス其ノ地域ハ別ニ之ヲ告示ス
- 第三條 衛生組合ニ於テ施行スヘキ業務左ノ如シ
 - 一 汚物ノ掃除
 - 二 街路ノ撒水
 - 三 平時並傳染病流行時ニ於ケル各自豫防衛生ヲ恪守スヘキ方法ヲ講スルコト
 - 四 種痘ノ普及ヲ圖ルコト
 - 五 傳染病又ハ其ノ疑アル患者アルトキハ直ニ醫師ノ診察ヲ受ケシムル方法ヲ設ケルコト
 - 六 清潔法施行ノ場合ハ共同施行ノ方法ヲ設ケルコト

七 前各條ノ外衛生組合ニ於テ必要ト認メ若ハ民政署長及支署長ニ於テ特ニ命ジタル事項

第四條 衛生組合ニハ事務所ヲ設ケ必要ノ器具及衛生材料ヲ設備スヘシ其ノ品目及數量ハ別ニ之ヲ指定ス

第五條 衛生組規則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

- 一 組合會ノ議決方法
- 二 組合費徵收ニ關スル事項
- 三 會計事務ニ關スル事項
- 四 財産ノ管理及處分ニ關スル事項
- 五 事務分掌ニ關スル事項
- 六 其ノ他必要ト認ムル事項

第六條 衛生組會長、副衛生組會長、衛生委員及副衛生委員ハ名譽職トス但シ其ノ事務ノ繁閑ニ依リ報酬ヲ給スルコトヲ得

第七條 衛生組會長、副衛生組會長、衛生委員及副衛生委員ノ任期ハ滿一箇年トス但シ滿期後再任シ若ハ任期中ト雖不適當ト認ムルトキハ之ヲ解職スルコトアルヘシ

前項ノ職員ハ正當ノ理由ナクシテ任期中之ヲ辭スルコトヲ得ス

第八條 衛生組合ニハ衛生組合會ヲ設ケヘシ

第九條 衛生組合會ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

- 一 衛生組會長
- 一 副衛生組會長
- 三 衛生委員
- 四 副衛生委員

第三 金州民政支署

第十條 左ノ事項ハ衛生組合會ノ決議ヲ經ヘシ

- 一 組合規約ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルコト
- 二 衛生組合費徵收ノ方法ヲ定ムルコト
- 三 衛生組合費ノ豫算ヲ定メ及決算ヲ認定スルコト
- 四 衛生組合ニ關スル財産ノ管理及處分法ヲ設ケルコト
- 五 其ノ他衛生組合ニ關スル重要事項
- 第十一條 衛生組合ハ事務員ヲ設ケコトヲ得事務員ハ民政署長ノ認可ヲ經テ衛生組會長之ヲ命免ス
- 第十二條 衛生組合ハ民政署長ノ認可ヲ經テ前條職員ノ外衛生上ノ技能ヲ有スルモノニ事務ヲ囑託スルコトヲ得
- 第十三條 事務員ニハ一定ノ職限ヲ著用セシムルコトヲ得其ノ制式ハ衛生組會長之ヲ定メ民政署長ノ認可ヲ受ケヘシ
- 第十四條 衛生組會長ハ民政署長ノ認可ヲ經テ事務執行ニ關スル規定ヲ設ケルコトヲ得

第四 奉天警務署

警務署事務開始 明治三十九年三月廿一日

公布式 明治三十九年五月五日

鐵道附屬地ニ準用スル都督府令及關東州民政署令

民政署令 明治三十九年五月廿六日

同年同署令第二十七號營業取締規則

同年同署令第二十八號關東州民政署令第二號營業取締規則

同年同署令第二十九號關東州民政署令第三號營業取締規則

同年同署令第三十號關東州民政署令第四號營業取締規則

同年同署令第三十一號關東州民政署令第五號營業取締規則

同年同署令第五號肉取締規則

同年同署令第六號屠獸取締規則

同年同署令第十九號生河豚販賣取締規則

同年同署令第二十四號理髮營業取締規則

同年同署令第二十五號人力車營業取締規則

同年同署令第二十六號酒類取締規則

居住、營業願届出方 明治三十九年五月廿一日

自今當署並支署ニ提出スル居住用及諸營業願届ハ所在南滿洲鐵道株式會社出張所ヲ經由スヘシ但シ該出張所ノ設置ナキ地方ハ此ノ限ニ在リ

道路左側通行ノ件 明治三十九年七月十五日

奉天鐵道附屬地内停車場ヨリ十間房ニ通スル新設道路ハ其ノ左側ヲ通行スヘシ但シ其ノ他ノ道路ト雖牛馬諸車及人家運搬ノ箇所ニシテ團體ヲ組ミ連行スルモノハ道路ノ左側ヲ通行スヘシ

藝妓酌婦及雇婦女健康診断施行日 明治三十九年五月廿一日

自今奉天警務署鐵道附屬地内ニ於ケル藝妓酌婦及雇婦女ニ對シ健康診断施行日時左ノ通相改ム 自正午十二時 毎週金曜日 至午後二時

獸骨營業者遵守事項 明治三十九年五月廿一日

獸骨營業者ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

- 一 獸骨營業トハ牛馬其ノ他獸骨買取又ハ拾集シテ貯藏シ若ハ他ニ輸出及其ノ仲買ヲ爲スモノヲ謂フ
- 一 獸骨營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ記シ本署又ハ支署ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ
- (一) 貯藏場ノ位置及構造圖面
- (二) 買取又ハ拾集地及獸骨ノ種類(牛骨馬骨ノ如シ)
- 一 獸骨貯藏場ハ人家運搬ノ箇所ニ設ケルコトヲ得ス
- 一 獸骨ヲ輸出セムトスルトキハ其ノ都度斤量輸出日時及積込ノ場所ヲ明記シ二日以前ニ本署又ハ支署ニ届出テ検査ヲ受ケヘシ
- 一 獸骨ハ前項届出以前ニ於テ二十倍ノ石炭酸水又ハ粉末石灰ヲ以テ消毒スヘシ但シ既ニ化製シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

ペスト病豫防消毒ノ件 明治三十九年五月廿一日

今同管口附近ニ於テペスト病發生シ漸次蔓延ノ兆有之候條左記各項ニ準シ豫防消毒ヲ執行スヘシ

- 一 ペスト發生地及其ノ附近ニ出入スヘカラス
- 一 發生地及其ノ附近ヨリ來リタル物資若ハ人ニ對シテハ消毒ヲナスヘシ
- 一 家屋ノ内外及便所ハ一般ニ清潔法ヲ執行スヘシ被服履具等ハ常ニ乾燥セシムルヲ要ス
- 一 鼠ハ病毒傳播ノ虞アルニ付此ノ際特ニ捕鼠ニ務メ捕鼠ハ直ニ燒棄スヘシ
- 一 鼠鼠ヲ發見シタルトキハ手足ニ觸ルルコトナク木片等ヲ以テ適宜ノ容器ニ收メ消毒ノ上本署支署又ハ警察官吏出張所ニ持參スヘシ

- 一 身體ノ創傷皮膚ノ脱剥若ハ洗足等ハ病毒侵入ノ虞アルニ付相當ノ注意ヲ加フヘシ
- 一 身體ニ異狀アル場合特ニ惡寒發熱頭痛咳嗽其ノ他鼠疫高熱等ニ疼痛ヲ感スルトキハ直ニ醫師ノ診断ヲ受ケヘシ
- 一 以上各項ノ外豫防上ニ要スル事項ハ各自ニ於テ注意執行スヘシ

天然痘ニ關スル注意事項 明治三十九年五月廿一日

目下遼陽及鐵嶺等ニ於テ天然痘患者發生シ病毒傳播ノ虞アルニ付此ノ際大ニ戒慎ヲ要ス萬一該病毒ニシテ漸次蔓延セムカ其ノ端ノ及フ處實ニ測リ知ルヘカラス各自宜ク此ノ意ヲ體シ左記各項ニ準シ互ニ相警戒豫防スルコトニ努ムヘシ

注意事項

- 一 天然痘ノ豫防ハ種痘ヲ以テ最良法トス故ニ各自最寄ノ醫師ニ就キ可成種痘ヲ受ケヘシ
- 一 天然痘患者及疑似患者ヲ發見シタル時ハ直ニ適當ノ箇所ニ隔離シ其ノ旨本署支署又ハ警察官吏出張所ヘ届出ツヘシ
- 一 患者アル家ヨリ物品ヲ收受シ又ハ交通スヘカラス
- 一 身體若熱腫脹若ハ痛痒ヲ覺ヘ其ノ他異變ヲ感シタル時ハ直ニ醫師ノ診断ヲ受ケ適當ノ治療ヲナスヘシ

飲料水ニ關スル注意事項 明治三十九年五月廿一日

不潔水ヲ飲料ニ供スルハ衛生上最憂慮ニ堪ヘサル所ナルモ從來地方ノ風習トシテ粗造ノ井戸側ヲ用ヒ或ハ蓋板若ハ下水ノ設備ナク或ハ其ノ設備アルモ頗ル不完全ナルカ若ハ井戸ニ接近スルヲ以テ塵芥汚物又ハ溜溜ノ

第四 奉天警務署

汚水自然井中ニ滲入シ爲ニ水ノ素質ヲ變換スルノ患者不尠就中雨期ニ際シ既ニ傳染病發生セシ地方モ有之忽爾ニ付スヘカラサル儀ニ付自今共同私有ノ別ナク左記注意事項ニ準據シ新調又ハ修理スヘシ

飲料水注意事項

- 一 井戸破壊ニヨリ汚水滲透ノ虞アルモノハ速ニ新調スヘシ
- 二 井戸流シノ大破セルモノハ新調シ其ノ小破セルモノハ板及蓋十等適當ノ材料ヲ以テ完全ニ修繕スヘシ
- 三 井戸ニ下水ナキモノハ新調スヘシ但シ下水ハ能ク水ノ流通スル様注意スヘシ
- 四 前項ノ場合ニ於テ事情不得止モノハ當分汚水溜ヲ設ケルモ妨ケナシト雖井戸ヲ距ルコト二間以上タルヘシ但シ地所狹隘ニシテ二間以内接近セサルヲ得サル場合ハ板又ハ蓋土等ヲ用ヒ汚水ノ漏レサル様ノ設備ヲ爲スヘシ
- 五 井戸ヨリ三間以内厨房ヲ新ニ作ルヘカラス但シ現在設備ノ分ト雖修繕又ハ改築ヲナストキハ前項ニ準據スヘシ
- 六 井戸ノ近傍ニ於テ汚穢ノ物品ヲ洗濯シ及魚鳥ノ骨腸其ノ他不潔ノ物品ヲ投棄スヘカラス

● 病犬撲殺

明治三十二年八月一日 告示第六號

人畜ニ危害ヲ及ボスヘキ疑アル病犬ハ其ノ畜犬タルト否トニ拘ラス見當リ次第撲殺スヘキニ付畜犬ニハ此ノ際飼主ニ於テ其ノ住所氏名ヲ記入シタル頭環又ハ牌子ヲ附シ且狂犬病又ハ其ノ疑アル疾患ニ罹リタルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ拘束シ即時本署又ハ派出所ニ届出ツヘシ

● 飼犬者心得事項

明治三十二年四月一日 告示第三號

ヲ生スルノ虞モ亦將ニ多カラムトス此ノ時ニ方リ各自ノ注意警戒ヲ怠タラムカ其ノ結果測ル可カラサルモノアリ各自宜ク深ク警戒ヲ嚴ニシ注意ヲ密ニシ以テ苟モ失誤ナカラムコトニ努メ災害ヲ未發ニ豫防セムコトヲ期ス可シ

第四 奉天警務署

五六

近來野犬繁殖シ行人ニ危害ヲ加フル虞アルヲ以テ當分ノ内閣時之カ撲殺ヲ行フ等ニ付飼犬所有者ハ左記各項ノ通處置スヘシ第一項第二項ノ處置ヲ爲サルモノハ野犬ト看做シ撲殺スルコトアルヘシ

記

- 一 飼犬ニハ頭環又ハ牌子ヲ附シ之ニ飼主ノ住所氏名ヲ記入スヘシ
- 二 摩蓋ニシテ人畜ヲ咬傷スル虞アル飼犬ハ之ヲ放飼スヘカラス
- 三 畜犬ニシテ狂犬病又ハ其ノ疑アル疾患ニ罹リタルコトヲ發見シタル者ハ之ヲ拘束シ即時本署又ハ最寄警察官吏派出所ニ届出ツヘシ

● 獸疫ニ關スル注意

明治三十二年四月一日 告示第一號

目下當縣附近地附近ニ於テ獸疫(特ニ馬ニ於ケル炭疽熱)流行ノ兆アルニ付現ニ牛馬羊豚ヲ飼養シ居ルモノハ此ノ際特ニ左ノ事項ニ注意スヘシ

- 一 飼養中ノ牛馬羊豚ニシテ減食、發熱其ノ他疑ハシキ徵候ヲ認メタル時ハ其ノ旨書面又ハ口頭ヲ以テ本署吏署又ハ警察官吏派出所ニ届出ツヘシ
- 二 前項ノ場合ニ於テハ直ニ獸醫ノ診斷ヲ受ケルハ勿論餘獸トノ隔離ヲ最行スヘシ
- 三 獸疫ナルコトヲ發見シタル時ハ警察官吏ノ指示ヲ受ケルニアラザンハ自由ニ疫獸ノ移動其ノ他ノ處置ヲナスヘカラス

● 火災警戒

明治三十二年十月三十一日 告示第四號

火災ハ概テ火氣取扱ノ不注意ニ起因スルモノノ如ク之ヲ統計ニ徵スルモ失火ハ放火ヨリ多ク夏期ハ冬期ニ比シ其ノ數僅少ナリトス今ヤ初冬ノ季節ニ入り各戸共ニ火氣ヲ使用スルコト漸ク頻繁ナラムトスルニ際シ火災

第五 奉天總領事

●總領事館開館 明治三十九年六月一日 告示第一號

●公布式 明治三十九年七月一日 館令第一號

●關東總督府及奉天軍政署發布ノ規則中効力ヲ

有スル件 明治三十九年七月一日 告示第四號

●諸願届ハ居留民會經由方 明治三十九年七月一日 告示第四號

●東陵、北陵ニ對シ不敬ニ亘ル行爲ヲ戒ム 明治三十九年七月三日 告示第九號

●清國內地ノ旅行ニ關スル注意 明治三十九年七月一日 告示第六號

カラサルハ勿論拜觀券ヲ有スルモノト雖凡テ守備官ノ指導ニ從ヒ最モ謹慎ヲ旨トスヘシ荷モ不敬ニ亘ル行爲アリタル本邦人ハ直ニ當館ニ送還セラルヘシ

●道路左側通行ノ件 明治三十九年六月三日 告示第二號

●奉天居留民會規則 明治三十九年七月一日 館令第五號

●新民府居留民會規則 明治三十九年七月十五日 館令第十號

ノ職ヲ執ルコト能ハサル場合ニ於テ行政委員會ハ其ノ委員ノ互選ヲ以テ會長ノ臨時代理者ヲ設ケ該事故ノ存スル期間會長ノ事務ヲ執ラシムルコトヲ得

●新民府居留民會規則 明治三十九年七月十五日 館令第十號

●新民府居留民會規則 明治三十九年七月十五日 館令第十號

●新民府居留民會規則 明治三十九年七月十五日 館令第十號

●新民府居留民會規則 明治三十九年七月十五日 館令第十號

●新民府居留民會規則 明治三十九年七月十五日 館令第十號

●新民府居留民會規則 明治三十九年七月十五日 館令第十號

●新民府居留民會規則 明治三十九年七月十五日 館令第十號

第五 奉天總領事館

任命スルコトヲ得

第十條 行政委員會ハ收入支出ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナル帳簿ヲ備ヘ
毎月末ニ其ノ明細表ヲ領事官ニ呈出スヘシ
第十一條 行政委員會ハ五十圓以上ノ支出ニ關シテハ領事官ノ認可ヲ受
クヘシ
第十二條 行政委員會ハ本規則ノ施行細則ヲ議決シテ領事官ノ認可ヲ經
テ之ヲ施行ス

第十三條 本則ハ明治三十九年十一月一日ヨリ實施ス

●居留民取締規則 明治三十九年五月一日 館令第一號

居留民取締規則左ノ通之ヲ定ム

第一條 常館管轄内ニ新ニ居留スル者ハ左ノ事項ヲ具シ五日以内ニ届出
ツヘシ

- 一 本籍
 - 二 舊住所
 - 三 新住所
 - 四 族稱
 - 五 職業
 - 六 氏名
 - 七 生年月日
 - 八 到着年月日
- 第二條 前條各號ノ事項中異動ヲ生シタルトキ及出生、死亡其ノ他戶籍

上ニ關スル事項ハ事實ノ發生シタル日ヨリ五日以内ニ届出ツヘシ但シ
常館管轄外ニ移轉セムトスル者ハ出發前ニ届出ツルコトヲ要ス

第三條 前二條ノ届出ハ家族、同居人、使用人ニ在リテハ戶主、世帯主又
ハ僱主、戶主、世帯主又ハ僱主ノ死亡、失踪等ニ付テハ家族、同居人又ハ
使用人中ノ主ナル者若シ其ノ在ラサルトキハ家主、口リ之ヲ爲スヘシ
第四條 居留者ニシテ一戶ヲ構ヘタルモノハ別記様式ニ依リ其ノ住所其
戶主又ハ世帯主及同居人ノ氏名ヲ記載シタル門標ヲ掲出スヘシ
第五條 左ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ届出テ許可ヲ受クヘシ其ノ營業所
ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ別ニ規程アルモノハ各其ノ規定ニ依
ル

- 一 新聞紙、雜誌及圖書ノ發行
- 二 銀行、會社及保險業
- 三 多數ノ職工又ハ人夫ヲ使役スル各種ノ製造業及工業
- 四 電氣、瓦斯、汽機、汽機又ハ宏大ナル機械ヲ使用スル諸營業
- 五 銃砲、火藥其ノ他爆發物ノ輸出入、製造及販賣業
- 六 石油ノ輸出入及販賣業
- 七 鍛冶及鑄物工業
- 八 製藥、賣藥製造及販賣業
- 九 市場、屠獸場及化成品
- 十 質屋、古物商
- 十一 運送業及倉庫業
- 十二 印刷及出版印刷業
- 十三 醫師、藥劑師、獸醫、產婆ニ在テハ開業ノトキ及私立病院ニ在テ
ハ設立ノトキ

十四 按摩術、入齒細工、接骨術、灸治、鍼治及醫工

十五 牧畜及狩獵

十六 代書業、案内業、雇人口入業及仲買業

十七 理髮業及女髮結

十八 製氷、氷貯藏及販賣業

十九 清涼飲料製造業

二十 牛乳搾取及生肉販賣業

二十一 湯屋、溫泉浴場

二十二 人力車、乗合馬車營業

二十三 演劇、寄席其ノ他諸興行業

二十四 勸業場、觀物場及遊藝場

二十五 俳優、相撲、遊藝人及遊藝師匠

二十六 其ノ他特ニ指定シタル營業

第六條 前條以外ノ營業ヲ爲サムトスルトキハ開業以前ニ届出ツヘシ
第七條 前二條ノ願届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 營業ノ種別、資本金額
 - 二 營業所
 - 三 營業者ノ本籍、住所、族稱、氏名、生年月日
 - 四 屋號又ハ商號
 - 五 支店又ハ出張所ナルトキハ本店ノ所在地及其ノ屋號又ハ商號
 - 六 共同ノ營業ニ在リテハ其ノ主任者及同居者ノ本籍、住所、族稱、
生年月日並出資額
- 前項ノ事項中變更ヲ生シタルトキハ三日以内ニ届出ツヘシ
第八條 休業又ハ廢業ヲ爲サムトスル者ハ其ノ休業又ハ廢業前ニ届出ツ
續テ爲スヘシ

第五 奉天總領事館

第九條 願届書ニ在リテハ其ノ期間ヲ示スルコトヲ要ス
ノ種類ヲ届出テ認可ヲ受クヘシ

第十條 本令ニ依リ願届ハ便宜最寄警察官吏派出所ニ届出スコトヲ得

第十一條 營業取締上必要ト認ムルトキハ當該營業者ニ對シテ遵守ス
ル事項ヲ命令シ又ハ吏員ヲシテ營業所ニ臨檢セシメ若ハ營業ニ關ス
ル帳簿ヲ檢閲セシムルコトアルヘシ

第十二條 營業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又
ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一 公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊スル所爲アリト認メタルトキ

二 本令ニ依リ處罰ヲ受タルモ改悛ノ狀ナシト認メタルトキ

三 公課ヲ滞納シ督促ヲ受タルモ之ニ應ゼザルトキ

第十三條 各營業者ニシテ組合ヲ設ケムトスルトキハ其ノ規約ニ役員ノ
權限並選舉ノ方法及組合費ノ收支其ノ他必要ナル事項ヲ定メ認可ヲ受
クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十四條 取締上必要ト認ムルトキハ前條ノ組合規約ノ改正又ハ役員ノ
改選ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 本令又ハ本令ニ基テ命令若ハ處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ
科料ニ處ス

附則

本令ハ明治四十二年五月十五日ヨリ施行ス
本令施行ノ際許可ヲ經テ現ニ營業ヲ爲ス者ハ本令ニ依リ許可ヲ經タルモ
ノト看做ス其ノ願届未了ノモノハ本令施行ノ日ヨリ十日以内ニ願届ノ手
續ヲ爲スヘシ

明治三十九年七月館令第三號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢ス

(様式)

六寸	六寸
奉天、 警 第 何 號	戸主 (世帯主) 何 某
川中田	川中田
同居	同居

備考 門標ハ警署號戸主又ハ世帯主同居人ノ順位ヲ以テ掲出スルモ

●奉天居留民衛生組合規則 明治三十九年九月三日 館令第六號

- 奉天居留民衛生組合規則左ノ通定ム
- 奉天居留民衛生組合規則
- 第一條 奉天居留民ハ公共衛生ノ發達及普及ヲ圖ル爲本規則ニ依リ衛生組合ヲ設置ス
- 第二條 衛生組合ニ左ノ議員ヲ置ク其ノ任期ハ各一箇年トス
- 一 組合長 一人
- 二 副組合長 一人
- 三 衛生委員 若干人
- 第三條 衛生組合ノ區域及衛生委員ノ定員ハ居留民會ニ於テ決議シ當館ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 組合長副組合長及衛生委員ハ組合員之ヲ選舉シ當館ヘ報告スヘシ
- 前項ノ議員ニシテ不適任ト認ムルトキハ當館ニ於テ改選ヲ命スルコト

アルヘシ

- 第五條 組合長ハ居留民會長ノ監督ヲ受ケ左ノ職務ヲ行フ
- 一 衛生ニ關スル官署ノ命令ヲ組合員ニ傳達スルコト
- 二 衛生組合會ノ決議ヲ執行シ及組合ノ事務ヲ統理スルコト
- 三 衛生組合會ノ議長トナリ議事ヲ整理スルコト
- 第六條 副組合長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
- 第七條 衛生委員ハ衛生組合會ノ議員トシテ組合ニ關スル事項ヲ議決シ兼テ組合員衛生状態ヲ監視シ公共衛生ニ關スル事務ヲ處理ス
- 第八條 衛生組合ニハ書記ヲ置キ庶務ニ從事セシムルコトヲ得
- 第九條 衛生組合ニ於テ決議シタル事項ハ總テ當館ニ報告スヘシ
- 前項ノ決議ニシテ公益ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ又ハ取消ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十條 衛生組合ハ組合會ノ決議ニ依リ當館ノ認可ヲ經テ組合費ヲ賦課徵收スルコトヲ得
- 第十一條 組合費ノ豫算及決算ハ當館ノ承認ヲ受ケ之ヲ組合員ニ周知セシムヘシ
- 組合員ハ何時ニテモ組合ニ關スル金品ノ出納又ハ事務ノ經過ニ付帳簿書類ヲ閲覧シ説明ヲ受クルコトヲ得
- 第十二條 居留民會長ニ於テ必要ト認ムルトキハ聯合衛生組合會ヲ召集スルコトヲ得
- 聯合衛生組合會ハ各衛生組合長及副組合長ヲ以テ組織シ居留民會長ヲ其ノ議長トス

第九條ノ規定ハ聯合衛生組合會ニ亦之ヲ適用ス

第十三條 衛生組合ヨリ當館ヘ提出スル申請及報告ハ居留民會長ヲ經由スヘシ

本規則ハ明治四十二年九月十五日ヨリ施行ス

●奉天商業會議所規則 明治三十九年十月三日 館令第十二號

- 奉天商業會議所規則左ノ通相定ム
- 奉天商業會議所規則
- 第一條 奉天商業會議所ハ奉天及其ノ附近ニ在留スル帝國臣民ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス
- 第二條 本會議所ノ事務權限左ノ如シ
- 一 商業ノ發達ヲ圖ルニ必要ナル方案ヲ調査スルコト
- 二 商業ニ關スル法規ノ制定、改廢、施行ニ關スル意見ヲ行政廳ニ開申シ及商業ノ利害ニ關シ意見ヲ表示スルコト
- 三 商業ニ關スル事項ニ關シ行政廳ノ諮問ニ應スルコト
- 四 商業ノ狀況及統計ヲ調査發表スルコト
- 五 官廳ノ命令又ハ商工業者ノ委嘱ニ依リ商業ニ關スル事項ヲ調査シ又ハ商品ノ産地價格ヲ證明スルコト
- 六 官廳ノ命ニ依リ商業ニ關スル鑑定又ハ參考人ヲ推選スルコト
- 七 關係人ノ請求ニ依リ商業ニ關スル紛議ヲ仲裁スルコト
- 八 總領事官ノ認可ヲ受ケ商業ニ關スル營造物ヲ設立シ又ハ管理シ

其ノ他商業ノ發達ヲ圖ルニ必要ナル施設ヲ爲ス

第三條 本會議所議員ノ定數ハ十五名トス

奉天居留民會ニ五等以上ノ賦課金ヲ納付スル者ハ議員選舉權及被選舉權ヲ有ス

第四條 議員ノ任期ハ二箇年トス

第五條 本會議所ニ左ノ役員ヲ置ク

會 頭 一名

副會頭 一名

會頭ハ本會議所事務ヲ統轄擔任シ會議ノ議長トナル

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會議事故アルトキハ其ノ代理トナル

第六條 會頭副會頭ハ議員ニ於テ互選シ領事官ノ認可ヲ受クヘシ

會頭副會頭ノ任期ハ二箇年トス

第七條 本會議所ノ經費ハ議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ於テ之ヲ負擔ス

經費ノ豫算ハ領事官ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 本會議所設立ノ準備ハ領事官ノ選定シタル發起人三名之ヲ行フ

第九條 發起人ハ本會議所事務ノ執行ニ必要ナル細則ヲ定メ以テ定メ

領事官ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 發起人ノ任務ハ議員及會頭副會頭ノ選舉ヲ以テ終ル

第十一條 本則ハ明治四十年一月一日ヨリ之ヲ實施ス

●旅人宿、下宿屋、料理店、飲食店營業取締規則 明治三十九年五月二日 館令第二號

旅人宿、下宿屋、料理店、飲食店營業取締規則左ノ通之ヲ定ム

第五 奉天總領事館

旅人宿、下宿屋、料理店、飲食店營業取締規則

第一章 通則

- 第一條 旅人宿、下宿屋、料理店、飲食店營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ許可ヲ受ケヘシ其ノ支店ヲ設ケ又ハ營業所ヲ移轉シ若ハ營業ノ用ニ供スル家屋ノ模範替ヲ爲サムトスルトキ亦同シ
 - 一 本籍、住所、族稱、氏名、生年月日
 - 二 營業ノ種別及營業所
 - 三 屋號
 - 四 營業ノ用ニ供スル家屋ノ平面圖
 - 五 資本金額
- 第二條 營業者親ラ業務ヲ管理スルコト能ハサルトキハ管理人ヲ定メ認可ヲ受ケヘシ
- 第三條 營業者ハ其ノ營業所ノ門戶ニ業名、屋號、氏名及營業所ノ地名番號ヲ明記シタル看板ヲ掲ケ夜間ハ標燈ヲ點スヘシ
- 第四條 使用人ヲ雇入レタルトキハ其ノ本籍、族稱、氏名、年月日、使用ノ目的及從業ノ職業解僱シタルトキハ其ノ行先地ヲ具シ三日以内ニ届出ツヘシ
- 第五條 許可證面ニ異動ヲ生シ若ハ亡失毀損シタルトキハ再換ヘ又ハ再下付ヲ請ヒ營業ノ許可ヲ取消サレ又ハ死亡若ハ失踪シタルトキハ之ヲ返納スヘシ其ノ期間ハ共ニ三日以内トス
- 第六條 廢業シタルトキハ三日以内ニ許可證ヲ添ヘ届出ツヘシ
- 第七條 營業者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

六四

- 一 結構病、癩、癩癧其ノ他傳染性疾患アル者ヲシテ客ヲ接待セシメ又ハ客ニ供スル飲食物及器具ノ取扱ヲ爲サシメ若ハ其ノ取扱ヲ爲ス場所ニ立入ラシムヘカラス
- 二 不當ノ代料ヲ請求シ又ハ客ノ需メナキニ飲食物ヲ出シ若ハ遊興ヲ勸ムヘカラス
- 三 支拂金ノ抵償トシテ客ノ所持品ヲ領置シ又ハ客ノ依頼ニ依リ物品ヲ入質シ若ハ之ヲ賣却セムトスルトキハ警察官吏ノ承認ヲ受ケヘシ
- 四 身分不相應ノ金錢ヲ浪費シ又舉動不審ト認ムル客アルトキハ速ニ警察官吏ニ申告スヘシ
- 五 衛生上有害ナル飲食物ヲ客ニ供スヘカラス
- 六 客室ハ適當ニ換氣ノ方法ヲ行ヒ且家屋内外トモ常ニ清潔ナラシムヘシ
- 七 客ニ供スル飲食器具及器具ハ常ニ清潔ニシ飲食物ハ塵芥虫類等ノ附着セサル模範當ノ措置ヲ爲スヘシ
- 八 客室廊下其ノ他適當ノ場所ニ唾棄ヲ備ヘ之ニ消毒ノ効力アル薬液ヲ盛り且時々清潔ニ洗滌スヘシ
- 九 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ日々清潔ニ掃除スヘシ
- 十 客室ノ入口ニハ番號ヲ標示スヘシ
- 十一 客ニ面會ヲ要スル者アルトキハ故ナク其ノ取次ヲ拒ムヘカラス
- 第十二條 客ノ遺失物及ハ携帶品ノ紛失若ハ盜竊アリタルトキハ疑ハシキ者ノ外出ヲ留メ速ニ警察官吏ニ申告スヘシ傳染病又ハ其ノ疑ヒアル患者ノ發生シタルトキ亦同シ
- 第十三條 取締上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ警察官吏ヲ營業所ニ出檢スヘシ

第五 奉天總領事館

第二章 旅人宿下宿屋

- 第十五條 旅人宿及下宿屋ハ客室ノ境界ハ壁障又ハ板戸ヲ用キ且ツ堅固ナル錠前ヲ付シタル押入レ又ハ戸棚ヲ設ケ其ノ錠前ハ各錠ヲ異ニシ之ヲ宿泊人ニ交付シ置クヘシ
- 第十六條 宿泊料下宿料其ノ他ノ定額ハ帳簿及客室ニ揭示スヘシ

六五

- 第十七條 宿泊人ノ承諾ナクシテ他人ヲ其ノ室内ニ立入ラシム又ハ同伴者ニアラサル客ヲ雙方ノ承諾ナクシテ同室ニ宿泊セシムヘカラス
- 第十八條 淫ニ放歌高吟シ又ハ音曲ヲ演シ其ノ他客ノ妨害ナルヘキ行為ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス
- 第十九條 客引ヲ使用セムトスルトキハ其ノ本人ヲ出頭セシメ認可ヲ請クヘシ
- 第二十條 旅人宿營業者ハ宿泊人名簿下宿屋營業者ハ下宿人名簿ヲ備ヘ客ノ本籍住所族稱職業氏名年齢特微投宿及出發年月日就前ノ宿泊地及行先地ヲ記載シ置クヘシ
- 第二十一條 營業者ハ本館ノ指定シタル様式ニ依リ午後九時迄ノ投宿人ハ同十一時迄其ノ後ノ投宿人ハ翌日午前九時迄ニ警察署又ハ最寄警察官吏派出所ヘ届出ツヘシ其ノ出發又ハ轉宿シタルトキ亦同シ
- 第二十二條 下宿屋營業者ハ下宿人ノ族籍氏名ヲ記載シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ニ掲出スヘシ
- 第二十三條 藝妓酌婦又ハ備婦女タルノ許可ヲ得サル婦女ヲ同居セシムヘカラス但シ止ムヲ得サル事由アルトキハ認可ヲ請クヘシ
- 第二十四條 藝妓酌婦及備婦女ヲシテ街路ヨリ遠見シ得ヘキ場所ニ於テ扮粧シ又ハ列座佇立セシメ若ハ通行人ニ對シ遊興ヲ勸誘セシムヘカラス
- 第二十五條 午後一時ヨリ同七時迄ノ間ニ於テ歌謡音曲ヲ演シ其ノ他安眠ヲ妨害スヘキ行為ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス
- 第二十六條 藝妓酌婦ニ非ラサル婦女ヲシテ客席ニ侍セシメ又ハ酌婦備婦女ヲシテ藝妓酌婦ニ紛ハシキ行為ヲナサシムヘカラス

- セシメ又ハ營業ニ關スル帳簿及書類ヲ檢閲セシムルコトアルヘシ
- 第十條 取締上必要アリト認ムルトキハ左ノ命令ヲ爲スコトアルヘシ
 - 一 營業ノ用ニ供スル家屋ノ改造又ハ修繕ヲ爲スコト此ノ場合ニ於テハ工事落成後檢査ヲ受ケヘシ
 - 二 使用人ヲ解僱セシメ又ハ同居人ヲ拒絕セシムルコト
 - 第十一條 左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ
 - 一 許可ヲ受ケタル後正當ノ理由ナクシテ三箇月以上閉業セヌ又ハ六箇月以上休業シタルトキ
 - 二 公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ストノ行為アリト認メタルトキ
 - 三 本令ニ依リ處罰ヲ受ケルモ改悛ノ狀ナシト認メタルトキ
 - 四 公課ヲ滞納シ督促ヲ受ケルモ之ニ應セサルトキ
 - 第十二條 營業上ニ關シテハ家族同居人又ハ使用ノ所爲ト雖營業者其ノ責任ニ任ズ但シ管理人ヲ定メタルトキハ管理人其ノ責任ニ任ズヘシ
 - 第十三條 營業者ハ組合ヲ設ケ其ノ規約ニハ役員ノ權限及選舉ノ方法組合費ノ收支其ノ他必要ノ事項ヲ定メ認可ヲ請フヘシ
 - 第十四條 組合役員ヲ選舉シタルトキハ就任前認可ヲ請クルコトヲ要ス
 - 第十五條 取締上必要ト認ムルトキハ組合規約ノ改正又ハ役員ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第五 奉天總領事館

第二十七條 飲食店營業者ニ在リテハ藝妓酌婦ヲ寄寓セシメ又ハ藝妓酌婦ヲシテ寄席ニ侍セシムヘカラス

第二十八條 藝妓酌婦及備婦女ニ對スル貸借ハ一定ノ規程ニ記載シ之ヲ各自ニ交付シ置キ翌月五日迄ニ前月分ノ精算ヲ爲スヘシ

第四章 罰則

第二十九條 本令又ハ本令ニ基テ命令若ハ處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ木賃宿ニ之ヲ準用ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
明治三十九年七月館令第二號ハ之ヲ廢ス

●藝妓、酌婦及備婦女取締規則 明治三十九年五月日 館令第三號

藝妓、酌婦及備婦女取締規則左ノ通ニ之ヲ定ム

- 第一條 藝妓、酌婦又ハ料理店、飲食店ノ備婦女ヲラムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ願出テ許可證ヲ請クヘシ
 - 一 本籍、住所、族稱、氏名、生年月日及月主ニ非サル者ハ月主トノ續柄
 - 二 藝名又ハ稼業上ニ用ル稱呼アル者ハ其ノ名稱
 - 三 抱主又ハ備主ノ職業、屋號及氏名
 - 四 前住所及前職業
- 前項ノ願書ニハ月籍簿本、抱主又ハ備主トノ契約書ノ謄本、當館ノ指定シタル醫師ノ健康證明書未成年者ハ親權者又ハ後見人ノ承諾書、夫アル者ハ其ノ同意書ヲ添附スヘシ

六六

第二條 藝妓、酌婦、備婦女ハ親ヲ其ノ許可證ヲ保管シ從業中ハ之ヲ携帶スヘシ

第三條 許可證面ニ異動ヲ生シ又ハ許可證ヲ亡失毀損シタルトキハ三日以内ニ書換又ハ再下付ヲ請ヒ廢業シタルトキハ即日其ノ屬書ヲ添ヘ之ヲ返納スヘシ本人死亡又ハ失踪シタルトキハ抱主、備主、家主又ハ同居人ヨリ三日以内ニ其ノ届書ヲ添ヘ許可證ヲ返納スヘシ

第四條 藝妓、酌婦及備婦女旅行又ハ外泊セムトスルトキハ届出テ認可ヲ受ケヘシ

第五條 藝妓、酌婦及備婦女ハ當館ノ指定シタル日時場所ニ於テ健康診斷ヲ經ルニアラサレハ從業スルコトヲ得ズ但シ特ニ認許ヲ經タル者ハ此ノ限ニ在ラス

疾病又ハ止ムヲ得サル事故ニ因リ前項ノ健康診斷ヲ受クルコト能ハサルトキハ疾病ニアリテハ醫師ノ診斷書、事故ニアリテハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書面ヲ添ヘ届出ワルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ本人ノ居所ニ就テ檢査ヲ行フコトアルヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ不健康者ト診斷セラレタルトキハ本館ノ指定シタル病院ニ入院シ治療ヲ受ケ更ニ健康診斷ヲ經ルニアラサレハ從業スルコトヲ得ズ但シ病狀ニ依リ通院加療ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 藝妓、酌婦及備婦女ハ左ノ各號ニ該ル所業ヲ爲スヘカラス

- 一 遊技ニ託シ賭博ニ類スル所業ヲ爲スコト
- 二 異様ノ扮粧又ハ醜態ヲ爲スコト
- 三 猥褻ナル放歌又ハ舞踊ヲ爲スコト

明治三十九年七月館令第六號ハ之ヲ廢ス

●質屋營業取締規則 明治三十九年五月日 館令第一號

質屋營業取締規則左ノ通ニ之ヲ定ム

- 第一條 質屋營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ其ノ支店又ハ出張所ヲ設ケムトスルトキ亦同シ
 - 一 營業所
 - 二 營業者ノ本籍住所族稱氏名生年月日
 - 三 共同營業ニ在リテハ其ノ主任者及共同者ノ本籍住所族稱氏名生年月日並出資額
 - 四 屋號又ハ商號
 - 五 資本金額
 - 六 支店又ハ出張所ニ於テハ管理人ヲ設ケ其ノ本籍住所族稱氏名生年月日並本店ノ所在地及其ノ屋號又ハ商號
- 前項ノ事項中變更ヲ生シタルトキハ三日以内ニ届出フヘシ但シ營業所並資本金額ノ變更ニ付テハ願出テ許可ヲ受ケルコトヲ要ス
- 第二條 質屋營業者ハ領事ノ認可ヲ受ケ組合ヲ設ケルコトヲ得其ノ規約ハ領事ノ認可ヲ受ケヘシ
- 領事ニ於テ必要ト認ムルトキハ組合規約ノ改正又ハ役員ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ
- 第三條 質屋營業者ハ其ノ店舗外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第四條 質屋營業者ハ左ノ事項ヲ其ノ店舗内ノ見立キ場所ニ揭示スヘシ
 - 一 利率ノ歩合

六七

四 午前一時ヨリ同七時マテノ間ニ於テ歌舞音曲ヲ演シ又ハ喧嘩ニ涉ルヘキ所業ヲ爲スコト

五 街路ヨリ透見シ得ヘキ場所ニ於テ扮粧ヲ爲シ又ハ列座佇立シ若ハ通行人ニ對シ遊興ヲ勸誘スルコト

六 許可證ヲ貸借スルコト

七 酌婦、備婦女ニシテ藝妓ニ類スル所業ヲ爲スコト

第九條 藝妓、酌婦、備婦女ハ其ノ抱主又ハ備主トノ貸借關係ヲ記載シタル帳簿ヲ所持シ警察官吏ノ要求アルトキハ何時ニテモ其ノ檢閲ヲ受ケヘシ

第九條 藝妓、酌婦、備婦女ハ客ノ身分不相應ナル物品ヲ所持シ又ハ不審ノ舉動アリテ思料シタルトキハ速ニ抱主又ハ備主若ハ警察官吏ニ申告スヘシ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ其ノ稼業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消ス

- 一 公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊スル所爲アリト認メタルトキ
- 二 本令ニ依リ處罰ヲ受ケルモ改悛ノ狀ナシト認メタルトキ
- 三 不健康ノ狀態ニ在リテ從業ニ堪ヘスト認メタルトキ
- 四 公課ヲ怠納シ督促ヲ受ケルモ之ニ應ゼサルトキ
- 第十一條 藝妓、酌婦、備婦女ノ願出ハ凡テ抱主又ハ備主ノ連署ヲ要ス但シ本館ノ承認シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十二條 本令又ハ本令ニ基テ命令若ハ處分ニ違背シタルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第五 奉天總領事館

第五 奉天總領事館

- 一 流質期限
- 一 質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方
- 一 質物出入時間
- 第五條 質屋營業者ハ質置主ノ質入物件ニ對スル權利確證ノ上質契約ヲ締結スヘク不正品ノ嫌疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ
- 第六條 質屋營業者ハ住所氏名不詳ノ者ノ物品ヲ質契約ノ目的トナスコトヲ得ス但シ住所氏名ノ詳ナル者ノ保證又ハ警察官ノ許可アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第七條 質屋營業者ハ一定ノ帳簿ヲ備ヘ置キ質契約ニ關スル事項ヲ詳記スヘシ
- 質屋營業者ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ帳簿質札及通帳ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム
- 第八條 質屋營業者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ質物ヲ保管シ轉賣使用收益シ若ハ貸付スルコトヲ得ス
- 第九條 質置主ハ流質期限内何時ニテモ元金ヲ辨濟シテ其ノ質物ヲ受戻スコトヲ得
- 第十條 質屋營業者ハ質札又ハ通帳持參人ノ請求ニ應ジ其ノ質物ヲ返還スルコトヲ得
- 第十一條 質屋營業者ハ流質期限經過後自由ニ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得
- 第十二條 領事ニ於テ必要ト認ムルトキハ警察官ヲ質屋營業所其ノ介庫又ハ質物ヲ設置セリト認ムル場所ニ臨檢セシメ若ハ營業ニ關スル帳簿ヲ檢閲セシムルコトアルヘシ
- 第十三條 傳染病汚染ノ虞アル物件ハ消毒ノ後ニアラザルハ質契約ノ

- 目的ト爲スコトヲ得ス
- 前項ノ物件ニ對シ警察官ハ消毒ヲ施サシメ或ハ之ヲ棄却セシムルコトヲ得
- 第十四條 警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ該物品圖書ヲ發スルコトアルヘシ
- 前項ノ品圖書到達シタルトキハ其ノ到達年月日時ヲ該書ノ餘白ニ附記シ保存スヘシ
- 質屋營業者ハ質物中前項品圖書ニ記載セル物件ニ相當スル物件ノ存在セルヲ知リタルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ
- 第十五條 質物ニシテ遺失物若ハ贓品ニ係ルトキハ警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付ス被害者知レサルトキハ二箇年ノ後徵收者ニ還付スヘシ
- 第十六條 質屋營業者ハ帳簿閉鎖ノトキヨリ起算シ三箇年間營業ニ關スル帳簿ヲ保存スルコトヲ要ス若シ前項ノ期間内ニ之ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十七條 休業又ハ廢業ヲ爲サムトスルトキハ其ノ休業又ハ廢業前二屆出ツヘシ但シ休業ニ在リテハ其ノ期間ヲ表示スルコトヲ要ス
- 第十八條 質屋營業者ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スルトキハ領事ハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ
 - 一 公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊スノ行爲アリト認メタルトキ
 - 二 本則ニ依リ處罰セリレ尙改悛ノ狀ナシト認メタルトキ
 - 三 公課ヲ滯納シ督促ニ應セザルトキ
- 許可ヲ取消サレタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理又ハ管理人タルコトヲ得ス營業停止ノ處分ヲ受ケタル者其

- ノ期間内亦同シ
- 第十九條 質屋營業者廢業(休業)シ若ハ營業ノ許可ヲ取消サレタルトキト雖其ノ以前ニ締結シタル質契約及其ノ目的物ニ付キテハ尙本規則ヲ適用ス營業停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間内亦同シ
- 第二十條 領事ハ取締ノ必要上質屋營業者ニ對シ前記規定ニ基キ命令ヲ發シ處分ヲナスコトヲ得
- 第二十一條 本則又ハ本則ニ基キ命令若ハ處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 附則
- 本則ハ發布ノ日ヨリ施行ス
- 本則施行ノ際許可ヲ經テ現ニ質屋營業ヲ爲ス者ハ本則ニ依リ許可ヲ得タルモノト看做ス

賣藥行商取締規則 明治三十九年九月三日 警部省令第八號

- 賣藥行商取締規則左ノ通相定ム
- 第一條 賣藥行商ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ保證人選署ノ上願出テ許可證ヲ受クヘシ
 - 一 本籍
 - 二 現住所
 - 三 身分
 - 四 氏名
 - 五 生年月日
- 前項ノ保證人ハ賣藥營業者タルヲ要ス

第五 奉天總領事館

- 第二條 賣藥行商者ニシテ許可證由ニ異動ヲ生シ又ハ許可證ヲ毀損亡失シタルトキハ三日以内ニ届出テ其ノ再下付ヲ受クヘシ
- 第三條 賣藥行商許可證ノ効力ハ其ノ下付ノ日ヨリ六箇月間トス
- 第四條 賣藥行商許可證ノ有効期限ヲ經過シ引續行商セムトスル者ハ更ニ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第五條 賣藥行商者行商スルトキハ許可證ヲ携帯スヘシ
- 第六條 賣藥行商者ハ異種ノ服裝ヲ爲シ又ハ特種ノ章票ヲ附スルコトヲ得ス但シ認許ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第七條 賣藥行商許可證ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス
- 第八條 賣藥行商者ハ強賣又ハ醫藥ニ類スル所爲アルヘカラス
- 第九條 賣藥行商者ニシテ不正ノ所業アリト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第十條 本規則ニ違犯シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 附則
- 本規則ハ明治三十九年九月十日ヨリ施行ス

魚鳥獸肉販賣取締規則 明治三十九年九月七日 警部省令第六號

- 魚鳥獸肉販賣取締規則左ノ通相定ム
- 第一條 奉天ニ於テ魚類鳥類及獸類ノ生肉ヲ販賣シ又ハ行商セムトスル者ハ族籍住所氏名年齢及其ノ種類ヲ記シ總領事館ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 牛馬羊豚ノ肉ハ當該官吏ノ檢査ヲ經テ屠殺シ其ノ檢印アルモノニ非ザレハ販賣スルコトヲ得ス

第五 奉天總領事館

- 第三條 野獸及野鳥ハ狩獲捕獲ノモノニ非サレハ販賣スルコトヲ得ス
- 第四條 毒草其ノ他毒物ヲ使用シテ捕獲シタル魚類ハ販賣スルコトヲ得ス
- 第五條 生河豚ハ食用ノ目的ヲ以テ販賣シ又ハ貯藏スルコトヲ得ス
- 第六條 馬肉販賣ト他ノ獸肉販賣トハ兼業スルコトヲ得ス
- 第七條 鷹取シタル肉類ヲ混合シ或ハ其ノ名稱ヲ詐リ販賣スルコトヲ得ス
- 第八條 魚鳥獸肉ノ置場容器其ノ他ノ器具ハ常に清潔ニ掃除スヘシ
- 第九條 獸肉ハ清潔ノ麻布又ハ綿布ヲ以テ覆フヘシ
- 第十條 魚類ハ總領事館ノ指定シタル市場ヲ經テモノニ非サレハ販賣シ又ハ行商スルコトヲ得ス
- 第十一條 當該官吏ハ魚鳥獸肉ヲ検査シ不其ト認ムルトキハ販賣ヲ禁止シ又ハ廢棄セシムルコトヲ得
- 第十二條 魚鳥獸肉ハ行商許可證ヲ携帶スルニ非ラサレハ行商スルコトヲ得ス
- 第十三條 本令ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス其ノ情狀重キモノハ禁業ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

銃砲火藥類取締規則

明治三十九年八月八日 警令第七號

- 第一條 本規則ニ於テ銃砲ト稱スルハ軍用銃砲及非軍用銃砲ヲ謂ヒ火藥ト稱スルハ火藥類取締規則ニ通相定ム

- 類ト稱スルハ火藥雷管等火線其ノ他爆發物ヲ謂フ
- 第二條 軍用銃砲及火藥類ハ官廳ノ委任ヲ受ケタル者ニテラサレハ製造又ハ輸入スルコトヲ得ス但シ火藥商及特ニ官廳ノ許可ヲ受ケタル者ノ火藥類輸入ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 非軍用銃砲製造營業ヲ爲サムトスル者ハ當總領事館ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ
- 第四條 非軍用銃砲ノ修繕營業トスル者ハ非軍用銃砲製造營業者ト看做ス
- 第五條 非軍用銃砲商及火藥商ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ當總領事館ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ
- 第六條 第三條及第四條ノ營業許可ヲ受ケタル者ハ其ノ許可ノ日ヨリ三箇月以内ニ開業セス又ハ開業後六箇月休業シタルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第七條 非軍用銃砲製造營業者非軍用銃砲商及火藥商カ規則ニ違背シ又ハ營業ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ
- 第八條 非軍用銃砲製造營業者ハ其ノ製造改造ニ係ル銃砲ヲ銃砲商以外ノ者ニ賣渡シ讓渡シ交換シ又ハ贈與スルコトヲ得ス但シ官廳又ハ特ニ官廳ノ許可ヲ得タル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條 銃砲火藥類ハ行商シ又ハ露店市場其ノ他屋外ニ於テ販賣スルコトヲ得ス
- 第十條 非軍用銃砲ヲ所有スル者ニシテ新ニ來住シタルトキハ三日以内ニ記シ届出ツヘシ

- ニ其ノ種類員數ヲ記シ届出ツヘシ
- 第十一條 警察官吏ハ必要ト認ムルトキハ何人ノ所有ヲ問ハス銃砲火藥類ノ検査ヲ爲スコトヲ得
- 第十二條 公共ノ安寧ヲ保持スルニ必要ト認ムルトキハ一定ノ期間又ハ地域ヲ定メ銃砲火藥類ノ授受運搬及携帶ヲ禁シ又ハ制限スルコトアルヘシ
- 第十三條 前項ノ場合ニ於テ警察官吏ハ必要ト認ムルトキハ火藥銃砲類ヲ領置スルコトヲ得
- 第十四條 銃砲火藥類ノ營業者ハ其ノ取引シタル銃砲及火藥類ノ種類員數取引ノ年月日及讓渡人並注文人讓受人ノ住所氏名其ノ他必要事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
- 第十五條 銃砲火藥類營業者ハ一箇月間取引シタル銃砲及火藥類ノ種類員數並各種別月未現在高ヲ翌月十日迄ニ當總領事館ニ届出ツヘシ
- 第十六條 本規則ニ規定スルモノノ外銃砲火藥類ノ授受所持貯藏運搬其ノ他願届ニ關スル事項ハ明治三十二年勅令第三百六十六號銃砲火藥類取締法施行規則ヲ適用ス
- 第十七條 本規則施行前ヨリ非軍用銃砲ヲ所有スル者ハ本規則施行後五日以内ニ其ノ種類員數ヲ届出ツヘシ
- 第十八條 本規則ニ違背シタル者ハ科料又ハ拘留ニ處ス

- ニ依リ軍用銃砲及火藥類ヲ輸入セムトスルモノハ清國官廳ノ許可證若ハ同上官廳トノ契約書爲テ添ヘ種額賦稅價格等ヲ具シ當總領事館ノ許可ヲ受ケヘシ

軍銃彈藥ニ關スル件

明治三十九年九月九日 警令第三號

- 露國式遠征軍銃、彈藥及我陸軍者携下ニ係ル軍銃、彈藥ハ明治三十九年當館令第七號銃砲火藥類取締規則ノ軍用銃砲及火藥類ト看做ス
- 前項ノ銃砲彈藥ヲ見本其ノ他ノ名稱ヲ以テ私カニ店舖外ニ携出シタル者ハ科料若ハ拘留ニ處ス
- 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

警察犯處罰令

明治三十九年十月三日 警令第八號

- 警察犯處罰令左ノ通相定ム
- 一 故ナク人ノ居住若ハ看守セザル邸宅、遊逸物及船内ニ潛伏シタル者
- 二 密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒介者ハ容止ヲ爲シタル者
- 三 一定ノ住居又ハ生業ナクシテ四方ニ徘徊スル者
- 四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強請威迫ノ行爲ヲ爲シタル者
- 五 許可ヲ得シテ左ノ行爲ヲ爲シタル者
 - 一 工場、店舖其ノ他營業ノ用ニ供スル蒸氣、煤油、煙筒、火爐ヲ建設修理シタル者
 - 一 劇場其ノ他ノ觀物ヲ開キタル者
 - 一 煙火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者

軍用銃砲火藥類輸入ノ件

明治三十九年十月三日 警令第十一號

- 明治三十九年八月八日公布總領事館令第七號銃砲火藥類取締規則第二條

第五 奉天總領事館

第五 奉天總領事館

- 一 火藥類ヲ運搬シタル者
- 二 道路又ハ路傍ニ露店又ハ小屋掛ヲ爲シタル者
- 三 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壊セムトスル家屋其ノ他ノ建築物ノ修理ヲ爲ササル者
- 四 官署ノ命令ヲ受ケテ煙筒ノ掃除ヲ爲ササル者
- 五 官署ノ督促ヲ受ケテ燈火又ハ焚火ノ取締ヲ怠リタル者
- 六 官署ノ督促ヲ受ケテ掃除ヲ怠リタル者
- 七 飲用ヲ禁シタル水ヲ飲用シ又ハ飲料トシテ販賣シタル者
- 八 合力運搬ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者
- 九 濫ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物品入場券等ヲ配付シタル者
- 十 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益分配者ハ金品ヲ強請シタル者
- 十一 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 十二 新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 十三 新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者
- 十四 申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者
- 十五 祭事祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 十六 自己占有ノ場所内ニ老幼不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者又ハ其ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シ

- 一 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧嘩シ又ハ泥酔シテ徘徊シタル者
- 二 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬、舟艇其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 三 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者
- 四 劇場寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者
- 五 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者
- 六 人ヲ誑惑セシムヘキ流言、浮説又ハ虛報ヲ爲シタル者
- 七 妄ニ吉凶、禍福ヲ說キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ノ授與シテ人ヲ惑ハシタル者
- 八 病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者
- 九 濫ニ催眠術ヲ施シタル者
- 十 官職、位記、勳章、學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、徽章等ヲ用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者
- 十一 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者
- 十二 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者
- 十三 河川、溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨ケヘキ行爲ヲ爲シタル者

第五 奉天總領事館

- 三十三 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者
- 三十四 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者
- 三十五 官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚穢シ若ハ撤去シタル者
- 三十六 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入り若ハ其ノ現場ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求メヲ受ケタルニ拘ラス傍觀シテ之ニ應セサル者
- 三十七 濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ標燈ヲ消シタル者
- 三十八 他人ノ田野園圃ニ於テ菜果ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
- 三十九 使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者
- 四十 濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者
- 四十一 他人ノ身體物件又ハ之ニ害ヲ及ボスヘキ場所ニ對シ物件ヲ抛擲シ又ハ放射シタル者
- 四十二 神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物件ヲ汚穢シタル者
- 四十三 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者
- 四十四 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 四十五 不熟ノ果物腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者
- 四十六 濫ニ他人ノ繫キタル舟艇、牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者
- 四十七 許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之ヲ保存ヲ爲シタル者

- 四十八 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ粗褻、穢程シ又ハ髣髴、股部、足部ヲ露ハシ其ノ他醜體ヲ爲シタル者
- 四十九 男子ニシテ帽子ヲ冠ラズ又ハ男女裝束ヲ換ヘ其ノ他異樣ノ容裝ヲ爲シ路上ヲ徘徊スル者
- 五十 路上ニ於テ放歌高聲ヲ發シ制止ヲ肯セサル者
- 五十一 路上ニ於テ賭博ニ類スル行爲ヲ爲シタル者
- 五十二 警察官吏ノ戸口調査ニ對シ水實ヲ申述セサル者
- 五十三 宿屋下宿屋扉入口入屋ニ於テ族籍、身分、職業、氏名、年齡ヲ詐稱シタル者
- 五十四 制止ヲ肯セスシテ夜間午前一時以後歌舞音曲ヲ爲シ其ノ他喧嘩シテ他人ノ安眠ヲ妨クル者
- 五十五 傳染病者ヲ隱匿シ其ノ届出ヲ爲ササル者
- 五十六 街路ニ於テ屎尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 五十七 濫ニ銃砲ヲ發射シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物件ヲ玩ヒタル者
- 五十八 家屋其ノ他ノ建築物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者
- 五十九 石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者
- 六十 開業ノ醫師、產婆故ナク病者又ハ妊婦、產婦ノ招キニ應セサル者
- 六十一 故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者
- 六十二 炮煮、洗滌、剥皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケスシテ店頭ニ陳列シ又ハ行商シタル者
- 六十三 濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之ヲ取除ノ義務ヲ怠リタル者
- 六十四 監獄ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者

第五 奉天總領事館

六十五 濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ喚シ又ハ驚逸セシメタル者

六十六 狂犬、猛獸等ノ繫鎖ヲ忘リ逸走セシメタル者

六十七 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者

六十八 濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚穢シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、貸貸家札其ノ他標標ノ類ヲ汚穢シ若ハ撤去シタル者

六十九 橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繋キタル者

七十 人家稠密ノ場所ニ於テ銃獵ヲ爲シタル者

七十一 許可ヲ得ズシテ埋火彈ヲ爲シタル者

七十二 許可ヲ得ズシテ劇毒藥ヲ販賣シ又ハ授受シタル者

七十三 傳染病豫防ニ關シ警察官吏ノ命令ニ從ハサル者

七十四 警察取締上警察官吏ノ制止又ハ命令ヲ背セタル者

本令ニ規定シタル違反行為ヲ敬告シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シテ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年七月館令第四號逕啓即日ハ之ヲ廢止ス

●奉天消防組規程

明治三十九年五月廿六日 館令第九號

奉天消防組規程左ノ通相定ム

第一條 在奉天本邦居留民ノ爲火災警戒防禦ノ目的ヲ以テ消防組ヲ設置ス

第二條 消防組ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

一 頭取 一人

二 副頭取 一人

三 小頭 三人

四 消防手 若干人

第三條 頭取ハ警察官ノ命ヲ承ケ組員ヲ指揮監督シ消防組ニ關スル全般ノ事務ヲ總理ス

副頭取ハ頭取ヲ補佐シ頭取事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

小頭ハ上班ノ命ヲ承ケ消防手ヲ指揮監督ス

消防手ハ上班ノ命ヲ承ケ火災警戒防禦ニ從事ス

第四條 消防組員ハ奉天ニ居留スル年齢十八歳以上ノ本邦人タル男子ニシテ左ノ各號ニ適合スル者タルコトヲ要ス

一 相當ノ職業ヲ有スル者

二 不良組織ノ行爲ナキ者

三 前科又ハ懲戒命令若ハ退去處分ヲ受ケタルコトナキ者

四 身體強壯ノ者

第五條 消防組員ハ總領事館ニ於テ之ヲ命免ス但シ頭取及副頭取ハ奉天居留民行政委員會ノ推薦ニ依リ之ヲ任用スルモノトス

第六條 消防組員ハ名譽職トス但シ火災警戒又ハ演習ノ爲出陣シタルトキハ出陣手當ヲ支給ス

第七條 消防組ハ警察官ノ指揮命令ニ依リ進退スヘシ

第八條 消防組ハ火災警戒防禦ヲ爲スニアラサレハ集合又ハ運動スルコトヲ得ズ但シ警察官ニ於テ儀式訓練其ノ他ノ必要ニ因リ特ニ命シタルトキ又ハ其ノ認許ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在リス

第九條 消防組ハ警察官ノ指揮アルニアラサレハ建設物ヲ破壞シ又ハ栽植物ヲ截折スルコトヲ得ズ

第十條 消防組ハ如何ナル場合ト雖他人ニ對シ金品ヲ要求シ又ハ強迫ニ涉ル所爲若ハ相暴ノ言動ヲ爲スヘカラス

第十一條 消防組ノ舉動ニシテ治安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊スノ虞アリト認ムルトキハ解散ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 火災、鎮火及演習召集ノ場合ハ電話其ノ他ノ方法ニ由ルノ外警鐘ヲ以テ之ヲ報ス其ノ打ち方左ノ如シ

- 一 其ノ警鐘ノ所在ヨリ近火ノトキ 連打
- 二 其ノ警鐘ノ所在ヨリ近火ニ非ラサルトキ 二點打
- 三 鎮火シタルトキ 一點打
- 四 演習召集ノトキ 三點打

第十三條 消防組員火災ヲ認メタルトキハ速ニ器械置場ニ到リ各自擔當ノ器具器械ヲ携帶シテ現場ニ駆付ケ消防ニ從事スヘシ但シ消防組設置區域内ニ於ケル本邦人ノ火災ニ應リタルトキ又ハ本邦人ニ危害ノ及ハムトスル場合ノ外ハ警察官ノ命令ヲ待テ出陣スヘシ

第十四條 消防組員病氣其ノ他ノ事故ニ因リ出陣スルコト能ハサルトキハ副頭取及小頭ハ頭取ニ消防手ハ小頭ニ届出スヘシ

第十五條 頭取ハ火災警戒又ハ演習ノ爲出陣シタル人名ヲ取調ヘ警察署長ニ報告スヘシ

第五 奉天總領事館

第十六條 消防組員ニシテ消防組設置區域外ニ轉居又ハ退去シタルトハ同時ニ解散セラレタルモノト看做ス但シ頭取及副頭取ハ警察署長小頭以下ハ頭取ノ承認ヲ經テ一時旅行スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 消防組員ニシテ職務上功勞顯著ナル者ニハ相當ノ金品ヲ賞與シ又ハ賞狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十八條 消防組員規定又ハ指揮命令ニ違背シ若ハ消防組ノ體面ヲ汚損スル所爲アルトキハ左ノ各號ニ依リ之ヲ懲戒ス

一 免職

二 停職

三 罰金

第十九條 消防組員ニハ相當ノ被服器具又ハ假令ヲ貸與ス

前項ノ物件ハ退職、死亡ノトキ又ハ一時旅行セムトスルトキハ之ヲ返納スヘシ其ノ過誤怠慢ノ爲亡失毀損シタルトキハ賠償ヲ命スルコトアルヘシ

第二十條 消防組員職務ノ爲死没シ又ハ傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキハ死没者ニ對シテハ祭料及遺族扶助料、傷疾疾病者ニ對シテハ治療料、休業手當及退職補助料ヲ支給ス

第二十一條 消防器具器械ノ保管ハ頭取ノ責任トシ毎月一回以上之ヲ調査シ異狀アルトキハ速ニ修理ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條 頭取ハ組員名簿及消防器具器械簿ヲ備ヘ置キ遺漏ナク加除訂正ヲナスヘシ

第二十三條 本規程ニ依リ警察署長又ハ奉天居留民行政委員會ニ於テ之ヲ決議シ領事官ノ認可ヲ經テ施行スルモノトス

第二十四條 消防組ハ警察官ノ命令アルトキハ火災以外ノ警災ニ對シテ

第五 奉天總領事館

警戒又ハ防禦ニ從事スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ火災警防ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

本規程施行ノ爲必要ナル細則ハ領事官ノ認可ヲ經奉天居留民會行政委員
會ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

第六 營口警務署

●公布式

明治三十二年一月一日
告示第一號

營口警務署長ノ發スル告示、告諭ハ本署揭示場ニ揭示スルヲ以テ公布式
卜定ム

第六 營口警務署

第七 牛莊領事館

● 居住届 明治三十九年十二月二日告示

當港在留本邦人ニシテ到着歸國轉居等ノ異動届洩レ多ク月籍整理上差支アルニ付現在留者ハ此ノ際更ニ左ノ難形ニ依リ來十日迄ニ當館ニ届出ツヘシ

居住届 原籍何縣何郡何村字何々何番地戶主士族(平民)某何男(女)某 當時管口何街第何號 某方 職業 何 某

私儀何月何日何地ヨリ渡來用書地へ居住致候間此段及届届候也 生年月日 明治何年何月何日 右 何 某

在牛莊領事館

● 在留、轉居届ハ居留民團役所經由方

明治四十二年 十月十日告示 本年館令第四號ニ依リ當館ニ差出スヘキ在留届、轉居届ハ居留民團役所ヲ經由スヘシ

● 警察ニ關スル願届出方

明治四十一年 三月五日告示

管口新市街居留者ノ警察ニ關スル願届ハ本官宛チ以テ便宜管口警察署へ差出スコトヲ得

● 警察上ノ願届ハ副本ヲ要セス

明治四十一年 七月三日告示

警察事項ニ關シ當館ニ差出ス願届書ハ自今副本ヲ要セス

● 營口軍政署發布ニ係ル諸營業取締規則適用ノ件

明治三十九年五月一日 館令第二號

當港在留本邦人ニシテ旅店、質屋、古物商、銃砲火藥商、料理店、飲食店其ノ他警察上ノ取締ヲ要スル諸營業者ニ對シテハ當分ノ間從來營口軍政署ノ發布シタル規則ヲ適用スルニヨリ自今之ニ關スル諸願届ハ總テ當館へ差出スヘシ

● 居留民團法施行ニ關スル件

明治四十一年三月十日 館令特第一號

居留民團法施行規則第四條ノ手續ヲ履ミ居留民團法施行ニ關スル件左ノ通相定ム

居留民團法施行ニ關スル件

第一章 居留民會

第一條 六箇月以來毎月取得課金五圓以上ヲ納ムル者ヲ以テ居留民會議員トス

第二條 行政委員會ハ毎年十二月三十一日ヲ期トシ居留民會議員タル者

格ヲ有スル者ヲ調査シ二箇月以内ニ議員名簿ヲ調製スヘシ但シ第一回ノ議員名簿ハ三月一日ヲ期トシ十五日以内ニ之ヲ調製スヘシ

第三條 居留民會議長ノ選舉ハ匿名投票ヲ以テシ出席議員ノ投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

第四條 投票ノ過半數ヲ得タル者ヲキトキハ最多數ノ投票ヲ得タル者ニ名ニ就キ決選投票ヲ行ヒ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

第五條 議員投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名ヲ議長ニ申出テ議長ハ議員名簿ニ照シ之ヲ受テ封緘シ投票筒ニ投入スヘシ但シ投票筒ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開ケコトヲ得ス

第六條 行政委員會ノ員數ハ十名トシ豫備行政委員ノ員數ハ五名トス

第七條 行政委員及豫備行政委員ノ選舉ハ匿名連記投票ヲ以テ同時ニ之ヲ行フ

第八條 行政委員及豫備行政委員ノ選舉ハ各投票ヲ通算シテ有効投票ノ最多數ヲ得タル者ヨリ順次ニ定數ノ行政委員ヲ定メ以下順次ニ定數ノ豫備行政委員ヲ定ム

第九條 投票ニ記載ノ人員十五名ヲ超ヘ又ハ十五名ニ滿タルコトアル領事ハ其ノ指名シタル者ニ名ヲ選舉ニ立會ハシムヘシ

第十條 投票ニ記載ノ人員十五名ヲ超ヘ又ハ十五名ニ滿タルコトアル領事ハ其ノ指名シタル者ニ名ヲ選舉ニ立會ハシムヘシ

第十一條 投票ニ記載ノ人員十五名ヲ超ヘ又ハ十五名ニ滿タルコトアル領事ハ其ノ指名シタル者ニ名ヲ選舉ニ立會ハシムヘシ

第十二條 投票ニ記載ノ人員十五名ヲ超ヘ又ハ十五名ニ滿タルコトアル領事ハ其ノ指名シタル者ニ名ヲ選舉ニ立會ハシムヘシ

第十三條 投票ニ記載ノ人員十五名ヲ超ヘ又ハ十五名ニ滿タルコトアル領事ハ其ノ指名シタル者ニ名ヲ選舉ニ立會ハシムヘシ

第十四條 投票ニ記載ノ人員十五名ヲ超ヘ又ハ十五名ニ滿タルコトアル領事ハ其ノ指名シタル者ニ名ヲ選舉ニ立會ハシムヘシ

第十五條 投票ニ記載ノ人員十五名ヲ超ヘ又ハ十五名ニ滿タルコトアル領事ハ其ノ指名シタル者ニ名ヲ選舉ニ立會ハシムヘシ

第十六條 投票ニ記載ノ人員十五名ヲ超ヘ又ハ十五名ニ滿タルコトアル領事ハ其ノ指名シタル者ニ名ヲ選舉ニ立會ハシムヘシ

第十七條 投票ニ記載ノ人員十五名ヲ超ヘ又ハ十五名ニ滿タルコトアル領事ハ其ノ指名シタル者ニ名ヲ選舉ニ立會ハシムヘシ

第十八條 投票ニ記載ノ人員十五名ヲ超ヘ又ハ十五名ニ滿タルコトアル領事ハ其ノ指名シタル者ニ名ヲ選舉ニ立會ハシムヘシ

第十九條 投票ニ記載ノ人員十五名ヲ超ヘ又ハ十五名ニ滿タルコトアル領事ハ其ノ指名シタル者ニ名ヲ選舉ニ立會ハシムヘシ

第二十條 投票ニ記載ノ人員十五名ヲ超ヘ又ハ十五名ニ滿タルコトアル領事ハ其ノ指名シタル者ニ名ヲ選舉ニ立會ハシムヘシ

第二十一條 投票ニ記載ノ人員十五名ヲ超ヘ又ハ十五名ニ滿タルコトアル領事ハ其ノ指名シタル者ニ名ヲ選舉ニ立會ハシムヘシ

第二十二條 投票ニ記載ノ人員十五名ヲ超ヘ又ハ十五名ニ滿タルコトアル領事ハ其ノ指名シタル者ニ名ヲ選舉ニ立會ハシムヘシ

第二十三條 投票ニ記載ノ人員十五名ヲ超ヘ又ハ十五名ニ滿タルコトアル領事ハ其ノ指名シタル者ニ名ヲ選舉ニ立會ハシムヘシ

モ其ノ投票ヲ無効トセス其ノ十五名ヲ超ユルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却スヘシ

第十條 投票ノ受理効力ニ關シ議長アル者ハ連二領事ニ申立テ其ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

第十一條 行政委員及豫備行政委員ノ選舉ヲ終リタルトキハ居留民會議長ハ其ノ氏名及得票數ヲ具シ領事ニ報告シ認可ヲ受ケヘシ

第十二條 居留民團法施行規則第三十九條第三項ノ補缺選舉ニハ行政委員及豫備行政委員ノ選舉ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條 行政委員中缺員ヲ生シ豫備行政委員ヲ以テ之ヲ補缺ナラス場合ニ於テ其ノ順序ハ行政委員及豫備行政委員ノ選舉ニ於ケル得票ノ順序ニ依ル但シ其ノ票數相等シキモノハ第四條第二項ノ規定ニ準シテ之ヲ定ム

第十四條 行政委員ノ選舉アリタル後領事ノ認可ヲ得サル者アルカ爲定數ノ行政委員ヲ得ルコト能ハサル場合ニ豫備行政委員ヲ以テ行政委員ニ補充スルノ順序ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第十五條 行政委員會組織セラルトキハ連二議長議員代理者及會計主任ヲ選舉スヘシ

前項ノ選舉ニ關シテハ居留民會議長ノ選舉ニ關スル規定ヲ準用ス居留民團法施行規則第三十四條第二項但し議長ノ選舉ニ付テモ亦同シ

第十六條 行政委員會ハ五名以上ノ委員出席スルニ非ラザレバ會議ヲ開ケコトヲ得ス但シ臨時緊急ヲ要スル事項ニシテ定員數ノ出席ヲ得ツニ限アラサルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 財務

第十七條 豫算ヲ居留民會ニ提出スルトキハ併テ居留民團事務報告書及

第七 牛莊領事館

財產明細表ヲ提出スヘシ

第十八條 出納ハ毎年六月九月十二月三月ノ四回ニ検査ヲ爲スヘシ
前項ノ検査ハ居留民會ニ於テ選舉シタル二名以上ノ委員之ヲ行フ
前項ノ選舉ニ關シテハ居留民會議長ノ選舉ニ關スル規定ヲ準用ス
第十九條 出納閉鎖ハ年度經過後三箇月ヲ以テ期限トス
決算ハ出納閉鎖後一箇月以内ニ證書ヲ添ヘ會計主任ヨリ之ヲ行政委員
會ニ提出スヘシ

行政委員會ハ之ヲ審查シ意見ヲ附シテ次ノ居留民會通常會ニ報告スヘシ
第二十條 行政委員會ハ決算報告及之ニ關スル居留民會ノ議決ヲ領事ニ
報告シ且其ノ要領ヲ公告スヘシ
第二十一條 豫算ノ調整ハ別紙ノ表式ニ依ルヘシ(表式ハ之ヲ略ス居留
民團法施行規則參考卷ハ八頁一九五頁參照)
第二十二條 左記ノ建物及物品ハ居留民團ヲシテ之ヲ保管使用セシム但
シ其ノ使用ノ目的ヲ變更スルコトヲ得ス
一 學校設備品
二 遊樂院設備品
三 消防機關設備品

營口小學校職員職務及服務規程 明治三十三年三月三日 館令第一號

牛莊居留民團立營口尋常高等小學校職員職務及服務規程
第一條 學校長及教員ハ教育ニ關スル勸諭ノ旨趣ヲ奉體シ法律命令ニ從
ヒ誠實ニ其ノ職務ニ服スヘシ
第二條 學校長ハ校務ヲ整理シ所屬教員ヲ監督ス
第三條 訓導ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ及學校長ノ指揮ヲ受ク庶務ニ從事ス

委員會議長ニ報告スヘシ
第十四條 學校長及教員傷疾疾病又ハ其ノ他ノ事故ニ依リ缺勤セムトス
ルトキハ始業前學校長ハ首席教員ニ教員ハ學校長ニ其ノ旨届出ワヘシ
其ノ傷疾疾病ノ爲缺勤七日以上ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ爾後
十五日毎ニ届出ツヘシ
前項後段ノ場合並事故ノ爲缺勤七日以上ニ及フトキハ學校長又ハ首席
教員ヨリ領事及居留民團行政委員會議長ニ報告スヘシ
第十五條 學校長及教員左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ居留民團行政
委員會議長ヲ經テ領事ニ届出ツヘシ
一 喪二丁リタルトキ
二 父母ノ疾病ヲ看護セムトスルトキ
三 父母ノ忌日ニ丁リタルトキ
四 墓參拜地療養其ノ他ノ事故ニ依リ旅行セムトスルトキ但シ轉地療
養ノ際ハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ
五 陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時奉變ニ際シ召集セラレタルトキ
六 改氏名ノトキ

第十六條 學校長ハ毎月始メ其ノ前月ニ於ケル職員ノ勤務表ヲ製シ領事
及居留民團行政委員會議長ニ報告スヘシ
第十七條 學校長及教員ハ始業十五分前ニ登校シ出勤簿ニ捺印スヘシ
第十八條 學校長及教員ハ事故アルトキハ首席教員其ノ職務ヲ代理スヘ
シ
第十九條 本規程ニ依リ教員ヨリ差出スヘキ文書ハ學校長ヲ經由スヘシ

第七 牛莊領事館

第四條 准調導ハ訓導ノ職務ヲ助ケ
第五條 學校長ハ校務ノ整理及教授擔任ノ事務ニ關シ職務規程ヲ設ケ領
事ニ開申スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
第六條 學校長ハ各教科目ノ教授細目ヲ定メ領事ニ開申スヘシ其ノ之ヲ
變更シタルトキ亦同シ
第七條 學校長及教員ハ居留民團ノ地區ニ居住スヘシ但シ領事ノ認可ヲ
受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第八條 學校長及教員ハ營利ノ目的トスル會社ノ業務執行社員取締役監
查役トナリ又ハ給料ヲ受ケテ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス但シ領事ノ認
可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
學校長及教員ハ領事ノ認可ヲ受ケルニアラサレハ營利ノ目的トスル業
務ヲ爲スコトヲ得ス
第九條 學校長ハ學校ノ編成ニ應ジ所屬教員ノ分額ヲ定ムヘシ
第十條 新ニ教員任用ノ必要アルトキハ學校長ニ於テ本人ノ履歷書ニ意
見書ヲ添ヘ居留民團行政委員會議長ヲ經テ領事ニ又ハ居留民團行政委
員會議長ニ申請スヘシ
第十一條 學校長ハ領事又ハ居留民團行政委員會議長ニ學校ニ關スル意
見ヲ申立ツルコトヲ得
第十二條 學校長及教員退職又ハ休職ヲ命セラレタルトキハ退還ナク遊
任ノ事務ヲ學校長ニ引繼クヘシ
第十三條 學校長及教員職務ノ爲出張ヲ要スルトキハ學校長ニ於テ其ノ
理由及日數ヲ具シ居留民團行政委員會議長ヲ經テ領事ノ許可ヲ受ケ
シ但シ往復一日ノ出張ハ此ノ限ニ在ラス
前項ニヨリ出張シタル者ハ歸校後其ノ要領ヲ記レ領事及居留民團行政

營口小學校職員俸給代用又ハ囑託教員手當 支給規程 明治三十三年三月三日 館令第二號

牛莊居留民團立營口尋常高等小學校職員俸給代用又ハ囑託教
員手當支給規程
第一條 本規程ニ於テ職員トハ學校長訓導及准調導ヲ指フ
第二條 學校長及訓導ノ月俸額ハ明治卅三年文部省令第十四號第四百十
八條本科正教員ノ例ニ依リ准調導ノ月俸額ハ同專科正教員ノ例ニ依ル
本件正教員ノ資格ヲ有シ一級上俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ニハ明治三十
三年文部省令第十四號第四百十九條ノ規定ヲ準用ス
第三條 本科正教員タルヲ得ヘキ資格ヲ有スル教員ノ俸給ハ六級以上ト
ス
第四條 職員ノ俸給ハ在職一箇年以上勤続スルニアラサレハ昇給セシム
ルコトヲ得ス
第五條 職員ノ俸給ハ其ノ意ニ反シテ減給スルコトヲ得ス
第六條 休職者ニハ俸給ヲ給セス但シ職務ノ爲傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹
リ休職ヲ命セラレタル者ハ領事ニ於テ居留民團行政委員會議長ノ同意ヲ得
其ノ一部若ハ全部ヲ給スルコトヲ得
第七條 職員ニシテ休職ヲ命セラレ小學校教員ノ講習科ニ入學スル者ハ
前條但書ノ規定ヲ準用ス
第八條 職員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍軍人俸給令ニ依リ俸給ヲ受ケル
者ニハ其ノ間俸給ヲ給セス但シ本職ノ俸給額ヨリ尠ナルトキハ其ノ
不足額ヲ給スルコトヲ得
第九條 職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ

第七 牛莊領事館

- 給スヘシ
- 一 懲戒ニ因リ免職ニ處セラレタルトキ
- 二 免許狀奪奪又ハ免許狀ノ失效ニ因リ教員ノ職ヲ失シタルトキ
- 三 轉任シタルトキ
- 第十條 職員死亡シタルトキハ其ノ在職中ト休職中トニ拘ラス在職最終ノ俸給月額三箇月分ヲ其ノ遺族ニ給スヘシ但シ遺族トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ
- 教員休職若ハ死亡シタルトキハ其ノ當月分ノ全額ヲ支給スヘシ
- 第十一條 俸給ハ新任復職増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ支給スヘシ
- 第十二條 疾病ノ爲執務セザルコト九十日ヲ踰ユル者及私事ノ故障ニ由リ六十日ヲ踰ユルモノハ月俸ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受ケル者及特別賜暇休養スル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十三條 退職者若ハ休職者事務引繼ノ爲執務スルトキハ在職當時ノ俸給ニ由リ日割ヲ以テ之ヲ支給ス
- 第十四條 俸給ハ毎月二十五日之ヲ支給ス但シ當日休日ナルトキハ前日ニ繰上ケヘシ
- 第十五條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位ノ端數ヲ生スルトキハ四捨五入シ錢位ニ進ムヘシ
- 第十六條 俸給ハ銀ヲ本位トシ一圓未満ハ混合貨幣ヲ以テ支給スヘシ
- 第十七條 代用又ハ囑託教員ニハ手當トシテ月額銀十圓以上銀五十圓以下ヲ支給ス
- 第十八條 第九條第十條第十一條第十二條第十四條第十五條第十六條ノ規定ハ代用又ハ囑託教員手當支給方ニ關シテ準用ス

●官有土地及建造物貸下規則

明治二十一年四月六日 館令第二四號

- 今般關東都府府理部ノ委託ニ依リ當領事館ニ於テ春日新市官有土地及建造物ヲ管理スルニ付之ヲ保存利用改良其ノ他諸般ノ便宜ノ爲官有土地及建造物貸下規則左ノ通相定ム
- 第一條 春日新市官有土地及建造物貸下規則
- 第二條 營口新市官有土地及建造物貸下ハ本規定ニ依ル
- 第三條 官有土地及建造物ハ官有財産管理委員會ヲシテ之カ直接保管ノ事ヲ掌ラシム
- 官有財産管理委員會ハ領事ノ監督ノ下ニ右土地及建造物ノ改良保存及公共ノ利益ノ爲ニ必要ナル一切ノ措置ヲ取ルヘシ
- 第四條 貸下ヲ受ケルコトヲ得ルモノハ營口在留本邦人トス
- 第五條 官有土地及建造物ノ貸下ハ競争入札若ハ隨意契約ニ依ル
- 第六條 貸下ハ左ノ期間ヲ越ユルコトヲ得ス
 - 一 土地ハ十年
 - 一 建造物ハ一年
- 土地利用ノ爲ニ必要ナル定着物ヲ土地ト共ニ貸下クルトキハ其ノ土地ノ貸下期間之ヲ貸下クルコトアルヘシ
- 貸下期間満了ノトキ土地ハ六箇月建造物ハ一箇月以前ニ當業者ノ執レコリモ何等ノ申出ナキトキハ契約ハ同一條件ニ依リ更新スルモノト看做ス
- 第六條 建造物ヲ建築スルノ目的ヲ以テ土地ノ貸下ヲ受ケタル者契約満了ノ日ヨリ六箇月以内ニ工事ニ着手セザルトキハ返地セシムルコトアル

ルヘシ

- 第七條 官有土地及建造物ノ借受人ハ契約ニ依ルノ外其ノ原形ヲ變スルコトヲ得ス
- 第八條 官有土地及建造物ノ借受人ハ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス
- 第九條 官有土地ノ借受人ハ特ニ許可ヲ受ケタルニアラサレハ其ノ地ヲ當初借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス
- 借受人前項ノ規定ニ違背スルトキハ其ノ使用ヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメ返地ヲ命スルコトヲ得
- 第十條 借受人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原狀ヲ變シタルトキハ借地滿期ニ至リ自費ヲ以テ之ヲ原形ニ復シ返納セシムヘシ但シ官ニ於テ其ノ必要ヲ認メサルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十一條 官有土地及建造物ノ貸下期間中官ノ使用ニ供スル必要ヲ生シタルトキハ貸下ノ契約ヲ解除シ之ヲ返還セシムヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其ノ受ケタル損失ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得ス但シ官ニ於テ斟酌スヘキ事情アリト認メタルトキハ特ニ給與ヲナスコトアルヘシ
- 第十二條 官有土地及建造物貸下ニ關スル契約ノ締結解除及諸願書届書類ノ方式ハ官有財産管理委員會ヲシテ取扱ハシム
- 第十三條 官有財産管理委員會ハ官有土地及建造物臺帳二冊ヲ作り一ハ之ヲ領事館ニ一ハ之ヲ官有財産管理委員會事務所ニ備フ
- 土地及建造物ヲ貸下クルトキハ居留民團行政委員會ハ其ノ都度之ヲ臺帳ニ記入シ借受人ニ對シ贈本一通ヲ交付スヘシ
- 附則
- 第十四條 此ノ規則ノ施行前ニ官有土地及建造物ノ貸下ノ契約ヲナシタ

第七 牛莊領事館

ルヘシ

- ル者ハ其ノ契約ノ滿期迄總テ舊契約ニ依ルヘシ
- 第十五條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 居留者取締規則 明治二十一年四月三日 館令第二四號
- 居留者取締規則左ノ通之ヲ定ム
- 第一條 當館管内ニ居留スル者ハ左ノ事項ヲ具シテ居留本ヲ添附シテ居留ノ日ヨリ三日以内ニ届出ツヘシ
 - 一 本籍
 - 二 前住所
 - 三 新住所
 - 四 職業
 - 五 氏名
 - 六 生年月日
 - 七 到着年月日
- 第二條 前條各號ノ事項中異動ヲ生シタルトキハ其ノ事實ヲ發生シタル日ヨリ三日以内ニ届出ツヘシ但シ當館管外ニ移轉セムトスル者ハ届出前ニ届出ツルコトヲ要ス
- 第三條 前二條ノ届出ハ家族同居人又ハ使用人ニ在リテハハハ主世帯主又ハ傭主ヨリ主世帯主又ハ傭主ノ死亡失踪等ニ付テハ家族同居人又ハ使用人中ノ主ナル者ヨリ若シ其ノ在ラサルトキハ家主ヨリ之ヲ爲スヘシ
- 第四條 居留者ハ其ノ住所ニ氏名ヲ掲載シタル門標ヲ掲出スヘシ
- 第五條 左ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ願出テ許可ヲ受ケヘシ但シ別ニ規定

第七 牛莊領事館

- 定アルモノハ各其ノ規定ニ依ル
- 一 新聞紙、雜誌及圖書ノ發行
 - 二 銀行、會社及保險業
 - 三 多數ノ職工又ハ人夫ヲ使役スル各種製造業及工業
 - 四 電氣、瓦斯、汽機、汽罐又ハ宏大ナル機械ヲ使用スル諸營業
 - 五 銃砲火藥其ノ他爆發物ノ輸出入、製造及販賣業
 - 六 石油ノ輸出入及販賣業
 - 七 鍛冶、鑄物業
 - 八 製藥、醫藥製造、藥種商、賣藥販賣業
 - 九 市場、屠獸場、化成場
 - 十 獸骨及生皮販賣業
 - 十一 質屋、古物商、賣賣所
 - 十二 倉庫業、金錢貸付業
 - 十三 印刷業、印刷彫刻業
 - 十四 醫師、藥劑師、獸醫、產婆業、私立病院ノ設立
 - 十五 按摩、入齒、接骨、灸治、鍼治
 - 十六 牧畜業
 - 十七 師範工
 - 十八 代書業、案内業、雇入口入業、仲介業
 - 十九 理髮業、女型結業
 - 二十 製氷、氷雪貯藏及販賣業
 - 二十一 清涼飲料水製造業、給水業
 - 二十二 牛乳搾取、生肉販賣業
 - 二十三 湯屋、溫泉浴場

- 二十四 人力車、乗合馬車營業
 - 二十五 演劇、寄席其ノ他諸興行
 - 二十六 親商場、親物場、遊藝場
 - 二十七 俳優、相撲、遊藝人、遊戯、教示業
 - 二十八 運送業、同濟業、通關業
 - 二十九 渡船浮船曳船水先案内、潜水業
 - 三十 水上行商
 - 三十一 賣藥部外藥劑製造業
 - 三十二 貯鹽業
 - 三十三 掃除業
 - 三十四 醃漬、古綿、古紙業
- 第六條 前條以外ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ開業前居留民廳役所ニ届出ツヘシ
- 第七條 營業ノ願届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 營業ノ種別、資本金額
 - 二 營業所
 - 三 本籍、住所、氏名、生年月日
 - 四 屋號又ハ商號
 - 五 支店又ハ出張所ナルトキハ本店ノ所在地及其ノ屋號又ハ商號
 - 六 共同ノ營業ニ在リテハ其ノ主任者及共同者ノ本籍、住所、族稱、生年月日並各自ノ出資額
- 前項ノ事項中變更アリタルトキハ三日以内ニ届出ツヘシ
- 第八條 營業者親ヲ業務ヲ管理スルコト能ハサルトキハ管理人ヲ定ム届出ツヘシ但シ第五條ノ許可營業ニ在リテハ認可ヲ受クヘシ

第九條 營業ニ關シテハ家族同居人又ハ使用人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ズ但シ管理人ヲ定メタルトキハ管理人其ノ責ニ任ズヘシ

第十條 營業ヲ廢止シ又ハ休業シタルトキハ三日以内ニ届出ツヘシ休業中ノ者開業シタルトキ亦同シ

第十一條 福引又ハ景品附其ノ他特種ノ方法ヲ以テ賣出チ爲サムトスルトキハ其ノ方法期間ヲ詳記シ届出テ認可ヲ受クヘシ

第十二條 營業取締上必要ト認ムルトキハ特ニ其ノ遵守スヘキ事項ヲ命令シ又ハ吏員ヲシテ營業所ニ臨檢セシメ若ハ營業ニ關スル書類及帳簿ヲ檢閲セシムルコトアルヘシ

第十三條 營業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一 公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊スノ所爲アリト認メタルトキ

二 本令ニヨリ處分ヲ受クルモ改悛ノ狀ナシト認メタルトキ

三 公課ヲ滞納シ督促ヲ受クルモ之ニ應ゼサルトキ

第十四條 營業者ニシテ組合ヲ設ケムトスルトキハ其ノ規約ニ役員ノ權限選舉ノ方法及組合費ノ收支其ノ他必要ナル事項ヲ定メ届出テ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十五條 取締上必要ト認ムルトキハ前條ノ組合ノ解散又ハ規約ノ改正若ハ役員ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第十六條 家屋其ノ他ノ建造物ヲ新築シ下水又ハ溜池等ヲ設ケムトシ又ハ其ノ増築變更チ爲サムトスルトキハ届出ツヘシ

第十七條 金品ノ寄附ヲ募集セムトスルトキハ其ノ目的方法募集區域等ヲ詳記シ届出テ認可ヲ受クヘシ

第十八條 本令又ハ本令ニ基ク命令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處

第七 牛莊領事館

附則

本令ハ明治四十二年八月一日ヨリ施行ス

本令施行ノ際願届ノ上現ニ營業ヲ爲シ居ル者ハ本令ノ手續ヲ經タルモノト看做ス其ノ願届未了ノ者ハ本令施行ノ日ヨリ十日以内ニ願届ノ手續ヲ爲スヘシ

●旅人宿下宿屋營業取締規則 明治三十三年七月三日 館令第五號

旅人宿下宿屋營業取締規則左ノ通之ヲ定ム

第一條 旅人宿及下宿屋營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ願出テ許可ヲ受クヘシ其ノ支店ヲ設ケムトシ又ハ營業所ヲ移轉セムトシ若ハ營業ノ用ニ供スル家屋ノ棟樑等ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

一 本籍、住所、氏名、生年月日

二 營業ノ種別及營業所

三 屋號

四 營業所ノ圖面

五 資本金額

第二條 營業者親ヲ其ノ業務ヲ管理スルコト能ハサルトキハ管理人ヲ定メ認可ヲ受クヘシ

第三條 營業所ノ門戸ニハ其ノ業名、屋號及營業主ノ氏名ヲ記載シタル看板ヲ掲ケ夜間ハ燈ヲ點スヘシ

第四條 使用人ヲ雇入レタルトキハ其ノ本籍氏名生年月日使用ノ目的ヲ具シ三日以内ニ届出ツヘシ其ノ解僱シタルトキ亦同シ

第七 申請領事館

- 第五條 許可證面ノ事項ニ異動ヲ生シ若ハ許可證ヲ亡失、毀損シタルトキハ三日以内ニ書換ヘ又ハ再下付ヲ申請スヘシ
- 第六條 營業ノ許可ヲ取消サレ又ハ死亡、失踪、廢業ノトキハ三日以内ニ届出テ許可證ヲ返納スヘシ
- 第七條 營業者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ
 - 一 結核、癩、瘰癧其ノ他傳染性疾患アル者ヲシテ客ヲ接待セシメ又ハ客ニ供スル飲食物及器具ヲ取扱ハシムヘカラス
 - 二 不當ノ代料ヲ請求シ又ハ客ノ需メナキ飲食物ヲ出シ若ハ遊興ヲ勸ムヘカラス
 - 三 支拂金ノ抵償トシテ客ノ所持品ヲ領置シ又ハ客ノ依頼ニ依リ物品ヲ入貨シ若ハ之ヲ賣却セムトスルトキハ警察官吏ノ承認ヲ受クヘシ
 - 四 身分不相應ノ金錢ヲ浪費シ又ハ舉動不審ト認ムル客アルトキハ速ニ警察官吏ニ申告スヘシ
 - 五 衛生上不適當ナル飲食物ヲ客ニ供スヘカラス
 - 六 客室ハ適當ニ換氣ノ方法ヲ行ヒ且家屋ノ内外ハ常ニ清潔ナラシムヘシ
 - 七 客ニ供スル飲食器具及寢具ハ常ニ清潔ニシテ飲食物ハ塵芥虫類等ノ附着セサル様相當ノ措置ヲ爲スヘシ
 - 八 客室廊下其ノ他適當ノ場所ニ唾壺ヲ備ヘ之ヲ消毒ノ效力アル藥液ヲ盛り且時々清潔ニ洗滌スヘシ
 - 九 客室ノ入口ニハ其ノ番號ヲ標示スヘシ
 - 十 客ノ承諾ナクシテ濫ニ他人ヲ其ノ室内ニ入ラシムヘカラス

八六

- 十一 客ニ面會ヲ要スル者アルトキハ故ナク其ノ取次ヲ拒ムヘカラス
- 十二 客ノ見易キ場所ニ宿料定額ヲ掲示スヘシ
- 第十三條 客ノ變死傷又ハ携帶品ノ紛失若ハ盜竊アリタルトキハ疑ハシキ者ノ外出ヲ留メ速ニ警察官吏ニ申告スヘシ
- 第十四條 傳染病又ハ其ノ疑ヒアル患者ノ發生シタルトキ亦同シ
- 第十五條 取締上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ警察官吏ヲ營業所ニ臨檢セシメ又ハ營業ニ關スル書類及帳簿ヲ檢閲セシムルコトアルヘシ
- 第十六條 取締上必要アリト認ムルトキハ左ノ命令ヲ爲スコトアルヘシ
 - 一 營業ノ用ニ供スル家屋ノ改造又ハ修繕ヲ爲スコト
 - 二 使用人ヲ解僱セシメ又ハ同居人ヲ拒絶セシムルコト
- 第十七條 左ノ各號ノ一二該ルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ
 - 一 許可ヲ受ケタル後正當ノ理由ナクシテ三箇月以上閉業セス又ハ六箇月以上休業シタルトキ
 - 二 公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊スノ行爲アリト認メタルトキ
 - 三 本令ニ依リ處分ヲ受ケルモ改悛ノ狀ナシト認メタルトキ
 - 四 公課ヲ滞納シ督促ヲ受ケルモ之ニ應ゼサルトキ
- 第十八條 營業ニ關シテハ家族同居人又ハ使用人ノ所爲ト雖營業者其ノ責任ニ負レ管理人ヲ定メタルトキハ管理人其ノ責任ニ任スヘシ
- 第十九條 營業者ハ組合ヲ設ケ其ノ規約ニ役員ノ權限及選舉ノ方法組合ノ收支其ノ他必要ノ事項ヲ定メ届出テ認可ヲ受クヘシ
- 第二十條 組合役員ヲ選舉シタルトキハ就任前認可ヲ受ケルコトヲ要ス
- 第二十一條 取締上必要ト認ムルトキハ組合規約ノ改正又ハ役員ノ改選ヲ

命スルコトアルヘシ

- 第十五條 各客室ノ境界ハ壁襖又ハ板戸ヲ以テ區劃シ錠前ヲ附シタル押入又ハ戸欄ヲ設備スヘシ
- 第十六條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ日々清潔ニ掃除シ消毒劑ヲ撒布スヘシ
- 第十七條 客引ヲ使用セムトスルモノハ其ノ本人ヲ出頭セシメ認可ヲ受クヘシ
- 第十八條 濫ニ放歌高聲シ又ハ音曲ヲ演シ其ノ他客ノ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス
- 第十九條 營業者ハ宿泊人名簿ヲ備ヘ客ノ本籍、住所、職業、氏名、年齢、特徴、投宿及出發、年月日時刻、前宿泊地、行先地並用務等ヲ記載シ置クヘシ
- 第二十條 營業者ハ指定ノ様式ニ從ヒ午後九時迄ノ投宿人ハ同十一時迄其ノ後ノ投宿人ハ翌日午前九時迄ニ警察署又ハ警察官吏派出所ニ届出ツヘシ出發又ハ轉宿シタルトキ亦同シ
- 第二十一條 本令又ハ本令ニ基ク命令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治四十二年八月一日ヨリ施行ス

●料理屋取締規則 明治四十二年八月九日 館令第三號

料理屋取締規則左ノ通之ヲ定ム

料理屋取締規則

第一條 料理屋ノ營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ領事館ニ願出

第七 牛莊領事館

テ許可ヲ受クヘシ其ノ營業場所ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

- 一 族籍住所氏名年齢
- 二 樓名又ハ屋號
- 三 營業ノ場所
- 四 營業用家屋ノ圖面
- 第五條 料理屋營業用家屋ニシテ階上客室ノ坪數十五坪以上三十坪迄ハ幅四尺以上ノ階上ニ箇ヲ設置シ尙三十坪ヲ増ス毎ニ一箇ヲ増設スヘシ
- 第六條 料理屋ニシテ旅舍兼業ヲ爲サントスルトキハ確然其ノ區劃ヲ設クヘシ
- 第七條 料理屋營業者ニシテ本令ニ違反シ又ハ公安風俗ヲ害スルノ虞アリ若ハ他人ニ名義ヲ貸スノ事實アリト認ムルトキハ其ノ營業ヲ停止シ若ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第八條 料理屋營業者ニシテ許可ヲ得タル後正當ノ事由ナクシテ二箇月以内ニ閉業セス又ハ五箇月以上休業シタルトキハ許可ノ效力ヲ失フモノトス
- 第九條 料理屋營業者ハ夜間十二時以後ニ於テ放歌音曲ヲ爲サシムヘカラス
- 第十條 料理屋營業者ハ同居スル藝妓附屬等ニシテ疾病アルトキハ速ニ

八七

第七 牛莊領事館

- 醫師ノ治療ヲ受ケシムヘシ
- 第十一條 料理屋營業者ハ客ヲ宿泊セシムルヘカラス
- 第十二條 料理屋營業者ハ組合ヲ設ケ領事館ニ届出テ認可ヲ受ケヘシ其ノ規約ノ改正變更ヲ要スルトキ亦同シ
- 第十三條 組合ハ正副取締各一名ヲ選舉シ領事館ニ届出テ認可ヲ受ケヘシ
- 第十四條 取締ハ料理屋又ハ藝妓酌婦ニ關スル事項ニ付キ領事館ヨリ命令アリタルトキハ關係者一般ニ告知スヘシ
- 第十五條 組合ハ領事館ノ指定スル醫師ニヨリ毎月三回以上藝妓酌婦ノ健康診断ヲ受ケシメ傳染性疾患アリト認めラレタルトキハ領事館指定ノ病院ニ入レ治療ヲ受ケシムヘシ
- 第十六條 組合員集合ヲ爲サムトスルトキハ豫メ領事館ニ届出テ認可ヲ受ケヘシ
- 第十七條 料理屋營業者ハ其ノ營業上家族雇人ノ所爲ニ對シ費ヲ負フモノトス
- 第十八條 本則ニ違犯シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 第十九條 本則ハ明治四十年九月一日ヨリ施行ス
- 第二十條 現在營業者ニシテ第二條ノ制限ニ適合セサル者ハ大性繕若ハ改築ヲ要スル際迄之ヲ猶豫ス

●藝妓酌婦取締規則 明治三十二年四月二十日 館令第二號

- 藝妓酌婦取締規則左ノ通相定ム
- 第一條 藝妓又ハ酌婦タラムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ且戸籍簿本醫師
- 一 遊技ニ托シ賭博ニ類スル所業ヲ爲スヘカラサルコト
- 二 客席又ハ見送ノ場所ニ於テ醜態ヲ顯ハシ又ハ猥褻ナル放歌演舞ヲ爲スヘカラサルコト
- 第八條 藝妓酌婦一時休業セムトスルトキ又ハ休業中ノ者就業セムトスルトキハ豫メ警察署ニ届出ツヘシ但シ就業届書ニハ醫師ノ健康證書ヲ添附スヘシ
- 第九條 本則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 第十條 本則ニ違背シ又ハ公安風俗ヲ害スルノ虞アリト認めムルトキハ警察ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ
- 附則
- 第十一條 本則ハ明治四十三年四月二十五日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十二條 從來許可ヲ受ケタル藝妓酌婦ハ本則ニ依リ更ニ出願許可ヲ要セズ
- 第十三條 明治四十年館令第四號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●藝妓酌婦健康診断規則 明治三十二年七月六日 館令第七號

- 藝妓及酌婦健康診断規則左ノ通相定ム
- 第一條 藝妓及酌婦ハ警察署ノ指定シタル日時場所ニ於テ検査醫ノ健康診断ヲ受ケヘシ
- 警察署ニ於テ必要ト認めムルトキハ臨時健康診断ヲ行フコトアルヘシ
- 第二條 傳染性疾患ニ罹リタルコトヲ自覺シタルトキハ其ノ旨ヲ警察署又ハ警察官吏派出所ニ届出ツヘシ
- 第三條 料理店又ハ飲食店內ニ寄寓スルモノハ休業中ト雖本則ニ從ヒ健

第七 牛莊領事館

●健康診断書ヲ添附シ警察署ニ届出テ許可證ヲ受ケヘシ

- 一 住所及籍身分氏名年齢
- 二 藝妓又ハ酌婦ノ別
- 三 藝名ヲ有スル者ハ其ノ名稱
- 四 前居住地(他人ノ家ニ寄寓シ居タルモノハ其ノ家主ノ職業氏名及從來ノ職業)
- 五 新ニ寄寓スヘキ料理屋及其ノ主人ト契約上ノ關係
- 未成年者又ハ有夫ノ婦ニ在テハ前項ニ記載シタル外親權者(養父又ハ夫)ノ承諾書ヲ添附スルコトヲ要ス
- 第二條 十七歳未満ノ者ハ酌婦タルコトヲ得ス
- 第三條 左ニ記載スル場合ハ三日以内ニ警察署ニ届出テ第一號ノ場合ハ許可證ノ書換テ第二號ノ場合ハ其ノ再下付ヲ受ケテ第三號廢業死亡ノ場合ハ其ノ返納ヲ爲スヘシ但シ死亡又ハ失踪ノ場合ニ於テハ地主又ハ家族若ハ同居人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一 許可證面ニ異動ヲ生シタルトキ
- 二 許可證ヲ毀損亡失シタルトキ
- 三 廢業、死亡又ハ失踪シタルトキ
- 第四條 藝妓酌婦ハ料理屋内ニ寄寓スヘシ但シ警察署ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 藝妓酌婦ニシテ寄寓所外ニ宿泊シ若ハ旅行セムトスルトキハ豫メ警察署ニ届出ツヘシ
- 第六條 藝妓酌婦ハ就業中許可證ヲ携帯スヘシ
- 許可證ハ之ヲ他人ニ貸與スルコトヲ得ス
- 第七條 藝妓酌婦ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

健康診断ヲ受ケヘシ

- 第四條 疾病其ノ他ノ事由ニ依リ健康診断ヲ受ケヘキ當日出願スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記シ健康診断所出願ノ警察官吏ニ届出(疾病ニ罹ルモノハ診断書ヲ添付スルコト)ヲヘシ
- 第五條 前條ノ場合警察署ニ於テ必要ト認めムルトキハ検査醫ヲシテ往診セシムルコトアルヘシ
- 第六條 藝妓酌婦ハ受檢ノ都度警察署ノ下付シタル受檢證書ニ検査醫ノ健康證明ヲ受ケヘシ
- 第七條 傳染性疾患アリト認めラレタル者ハ直ニ當日同仁醫院ニ入院治療ヲ受ケヘシ但シ重症モ輕症ナルモノニ限リ特ニ通院ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第八條 藝妓ニシテ夫ト同居スル者及年齢滿十四年以下及三十五年以上ニ涉ルモノハ其ノ出願ニ依リ健康診断ヲ免除スルコトアルヘシ
- 第九條 本則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 附則
- 第十條 本則ハ明治四十二年十一月八日ヨリ之ヲ施行ス

●質屋營業取締規則 明治三十二年二月三日 館令第一號

- 質屋營業取締規則左ノ通相定ム
- 質屋營業取締規則
- 第一條 質屋營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官吏ニ届出テ許可ヲ受ケヘシ其ノ支店又ハ出張所ヲ設ケムトスルトキ亦同シ
- 一 營業所
- 二 營業者ノ本籍、住所、族稱、氏名、生年月日

第七 牛莊領事館

- 三 共同營業ニ在リテハ其ノ主任者及共同者ノ本籍、住所、族稱、氏名、生年月日並出資額
 - 四 屋號又ハ商號
 - 五 資本金額
- 支店又ハ出張所ニ於テハ管理人ヲ設ケ其ノ本籍、住所、族稱、氏名、生年月日並本店ノ所在地及其ノ屋號又ハ商號
- 前項ノ事項中變更ヲ生シタルトキハ三日以内ニ届出ツヘシ但シ營業所並資本金額ノ變更ニ付テハ願出テ許可ヲ受ケルコトヲ要ス
- 第二條 質屋營業者ハ領事官ノ認可ヲ受ケ組合ヲ設ケルコトヲ得其ノ規約ハ領事官ノ許可ヲ受ケヘシ
- 領事官ニ於テ取締上必要ト認ムルトキハ組合規約ヲ改正又ハ役員ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ
- 第三條 質屋營業者ハ其ノ店舗外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス
- 第四條 質屋營業者ハ左ノ事項ヲ其ノ店舗内ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ
- 一 利子ノ歩合
 - 一 流質期限
 - 一 質物ノ異雜ニ罹リタルトキノ處辨方
 - 一 質物出入時間
- 第五條 質屋營業者ハ質置主ノ質入物件ニ對スル權利確證ノ上質契約ヲ締結スヘク不正品ノ嫌疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ
- 第六條 質屋營業者ハ住所氏名不詳ノ者ノ物品ヲ質契約ノ目的トナスコトヲ得ス但シ住所氏名ノ不詳ナル者係誰又ハ警察官ノ許可アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第七條 質屋營業者ハ一定ノ帳簿ヲ備ヘ置キ質契約ニ關スル事項ヲ詳記ス

- スヘシ質屋營業者ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ
- 帳簿、質札及通帳ノ格式ハ別ニ之ヲ定ム
- 第八條 質屋營業者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ質物ヲ保管シ、轉賣、使用收益シ若ハ貸付タルコトヲ得ス
- 第九條 質置主ハ流質期限内何時ニテモ元利金ヲ辨済シテ其ノ質物ヲ受戻スコトヲ得
- 第十條 質屋營業者ハ質札又ハ通帳持受人ノ請求ニ應シ其ノ質物ヲ受戻スコトヲ得
- 第十一條 質屋營業者ハ流質期限經過後自由ニ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得
- 第十二條 領事官ニ於テ必要ト認ムルトキハ警察官ヲシテ質屋營業所其ノ倉庫又ハ質物ヲ藏匿セリト認ムル場所ニ臨檢セシメ營業ニ關スル帳簿ヲ檢閲セシムルコトアルヘシ
- 第十三條 傳染病毒汚染ノ虞アル物件ハ消毒ノ後ニアラザレハ質契約ノ目的ト爲スコトヲ得ス
- 前項ノ物件ニ對シ警察官ハ消毒ヲ施サシメ或ハ之ヲ棄却セシムルコトヲ得
- 第十四條 警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ質物品圖書ヲ發スルコトアルヘシ
- 前項ノ品圖書到達シタルトキハ其ノ到達年月日時ヲ該品圖書ノ餘白ニ附記シ保存スヘシ
- 質屋營業者ハ質物中前項品圖書ニ記載セル物件ニ相當スル物件ノ存在ヲ知リタルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

●賣藥行商取締規則 明治三十四年三月三日 館令第六號

- 本則ハ明治四十三年一月二十三日ヨリ施行ス
- 本則施行ノ際許可ヲ經テ現ニ質屋營業ヲ爲ス者ハ本則ニ依リ許可ヲ得ルモノト看做ス
- 賣藥行商取締規則左ノ通之ヲ定ム
- 賣藥行商取締規則
- 第一條 賣藥行商ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ保證人連署ノ上願出テ許可證ヲ受ケヘシ
 - 一本籍
 - 二住所
 - 三氏名
 - 四生年月日
- 前項ノ保證人ハ賣藥業者タルコトヲ要ス
- 第二條 許可證面ノ事項ニ異動ヲ生シ又ハ許可證ヲ毀損亡失シタルトキハ三日以内ニ再換ヘ又ハ再下付ヲ申請スヘシ
- 第三條 廢業其ノ他ノ事由ニ依リ營業ヲ廢止スルニ至リタルトキハ三日以内ニ届出テ許可證ヲ返納スヘシ
- 第四條 許可證ノ效力ハ下付ノ日ヨリ六箇月間トス
- 第五條 許可證ノ有効期限ヲ經過シ引續キ營業セムトスル者ハ更ニ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ前許可證ハ返納スルコトヲ要ス
- 第六條 行商スルトキハ必ス許可證ヲ携帶スヘシ
- 許可證ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス
- 第七條 異種ノ服裝ヲ爲シ又ハ特種ノ尊嚴ヲ附シ行商スルコトヲ得ズ但

第七 牛莊領事館

- 第十五條 質物ニシテ遺失物若ハ廢物ナルトキハ警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被徵者ニ還付ス被徵者知レサルトキハ二箇年後被徵收者ニ還付スヘシ
- 第十六條 質屋營業者ハ帳簿閉鎖ノトキヨリ起算シ三箇年間其ノ營業ニ關スル帳簿ヲ保存スルコトヲ要ス若シ前項ノ期間内ニ之ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第十七條 休業又ハ廢業ヲ爲サムトスルトキハ其ノ休業又ハ廢業前ニ届出ツヘシ但シ休業ニ在リテハ其ノ期間ヲ表示スルコトヲ要ス
- 第十八條 質屋營業者ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スルトキハ領事官ハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 一 公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊スノ行爲アリト認メタルトキ
 - 二 本則ニ依リ處罰セラレ尙改悛ノ狀ナシト認メタルトキ
 - 三 公課ヲ滞納シ督促ニ應セサルトキ
- 許可ヲ取消サレタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理人又ハ管理人タルコトヲ得ス營業停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間内亦同シ
- 第十九條 質屋營業者廢業、休業シ若ハ營業ノ許可ヲ取消サレタルトキト雖其ノ以前ニ締結シタル質契約及其ノ目的物ニ付テハ尙本則ヲ適用ス營業停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間内亦同シ
- 第二十條 領事官ハ取締ノ必要上質屋營業者ニ對シ特ニ命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得
- 第二十一條 本則又ハ本則ニ基ク命令若ハ處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

第七 牛莊領事館

シ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス
第八條 強買又ハ強賣ニ類スル所爲アルヘカラス
第九條 開放地外ニ行商セムトスルトキハ出發前ニ其ノ地名豫定日數ヲ届出ツヘシ其ノ歸著シタルトキハ三日以内ニ届出ツルコトヲ要ス
第十條 公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊リ若ハ不正ノ所業アリト認ムルトキハ許可ヲ取消スコトアルヘシ
第十一條 本令又ハ本令ニ基テ命令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治四十二年八月一日ヨリ施行ス

銃砲火藥類取締規則

警口軍政署制定
發令年月日不詳

銃砲火藥類(獵銃拳銃同彈藥)取締規則
第一條 當管内在住者ニシテ銃砲火藥類ノ取扱ヲ爲サムトスルモノハ銃砲火藥類取締規則及同施行規則並同施行細則ヲ遵守スルハ勿論ナリト雖尙本則ニ依リ取扱フヘキモノトス
第二條 銃砲火藥類買賣贈與交換セムトスルモノハ軍政署ノ下付シタル許可證ヲ有スルモノニ非ラサレハ買賣贈與交換スルコトヲ許サス
第三條 銃砲火藥類ヲ他管ヨリ輸入セムトスルモノハ其ノ種類數量及使用ノ目的ヲ書面ニ認メ豫メ軍政署ノ許可ヲ受クルニ非ラサレハ輸入揚陸スルヲ許サス
軍政署ニ於テ前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ其ノ旨税關ニ通知スルモノトス
前項許可ヲ得テ揚陸シタルトキハ其ノ品目數量ヲ軍政署ニ届出ツヘシ

古物商取締法

警口軍政署制定
發令年月日未詳

古物商取締法
第一條 古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ殘部ノ手入ヲナシタルモノヲ買賣交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ指フ
第二條 古物商ヲ管マムトスルモノハ其ノ物品ノ種類ヲ定メ軍政署ノ免許ヲ受クヘシ
第三條 古物商物品ヲ買受ケ若ハ交換セムトスルトキハ賣主讓渡主ニ於テ其ノ物品ヲ處分ノ權利ヲ有スルコトヲ確證シタル後之ヲ爲スヘシ若シ不正品ノ疑アルトキハ直ニ軍政署ヘ申告スヘシ
第四條 住所氏名ノ詳ナラサルモノヨリ物品ヲ買受又ハ交換スルコトヲ得ズ但シ住所氏名ノ詳ナル者雖人タルトキ又ハ軍政署ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第五條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニアラサレハ之ヲ買受ケ又ハ讓受クルコトヲ得ス
前項ノ物品ニシテ憲兵ニ於テ未ダ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシム其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ官沒ス
第六條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ軍政署ハ品類ヲ管スルコトアリ
第七條 贓物ノ品類アルトキハ其ノ品類ニ相當スル物品ヲ買受ケ又ハ交換シ若ハ寄贈ヲ受ケ若ハ其ノ以前ニ之ヲ得タル儘ニ所持シタルトキハ直ニ軍政署ニ届出ツヘシ

第七 牛莊領事館

第四條 銃砲火藥ヲ買受ケ贈與交換セムトスルモノハ其ノ使用ノ目的數量ヲ書面ニ認メ濟國人ハ所轄村長以上ノ保證者ヲ添ヘ其ノ他ノ者(日本人、西洋人)ハ直接其ノ都度軍政署ニ願出テ其ノ許可證ヲ受クヘシ
第五條 軍政署ノ許可證ハ銃砲火藥類ノ受授ノ際讓渡人ニ示シテ第五條ノ記入及署名捺印ヲ受クヘシ
第六條 銃砲火藥類ヲ讓渡スルモノハ其ノ銃砲火藥ノ種類數量及其ノ年月日ヲ許可證ニ記入シ署名捺印スヘシ
第七條 銃砲火藥類ヲ讓渡シタル營業者ハ銃砲火藥類ノ種類數量年月日及讓渡人住所氏名使用ノ目的及必要ノ事故ヲ備付帳簿ニ記載スヘシ
第八條 銃砲火藥營業ニ關スル備付帳簿ハ警察官吏ノ要求アルトキハ檢査ニ供スルモノトス
第九條 第三條ノ書類ニハ讓渡人ノ住所氏名讓渡ヲ受ケムトスル銃砲火藥ノ種類數量使用ノ目的讓渡ノ期間ヲ明記スヘシ
第十條 銃砲火藥讓渡許可證様式
第十一條 本規則ニ違反ノ行為アルトキハ其ノ條件ヲ沒收ス

Table with columns: 種類數量, 使用ノ目的, 讓渡期間, 讓渡年月日, 署名捺印

第八條 古物商物品ヲ買受シ若ハ交換シタルトキハ其ノ物品及賣主讓渡主ノ帳簿ニ記載シ又ハ買主讓渡主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ
第九條 憲兵ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認メタルトキハ何時タリトモ物品及帳簿ノ檢査ヲ爲シ時立ニ依リ其ノ物品ヲ没収ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトアリ
第十條 古物商法規ニ違反シ軍政署ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得
第十一條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期限內亦同シ
第十二條 古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ營業者ヨリシタルト否トモ同ハス憲兵ニ於テ之ヲ徵收シ被奪者ニ還付スルコトヲ得
第十三條 本則ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ科料ニ處シ又營業ヲ禁止若ハ停止ス
第十四條 營業上ニ付テ家族又ハ雇人ノ所爲ト認營業主其ノ責任ニ任ズ
人力車輓營業取締規則
警口軍政署制定
發令年月日不詳
第一條 本則ニ於テ人力車ト稱スルハ日本形人力車ニシテ人ノ乘車スルモノヲ指フ
第二條 人力車輓營業ヲナサムトスルモノハ住所氏名年齢營業ニ用ユ

第七 牛莊領事館

ル車輛數ヲ記シタル營業許可願書ヲ管口軍政署ニ提出シ營業認可證ヲ受クヘシ

人力車輓業業者カ人力車ノ數ヲ增加セムトスルトキハ亦之ニ準ス

第三條 管口軍政署其ノ車輛ノ検査及輓子ノ健康診断ヲ行ヒ營業許可證ヲ與フ

第四條 人力車輓子ハ滿二十歳以上滿五十歳以下ノ男子ニ限ルモノトス

第五條 人力車輓子ハ公私設人力車駐車場外ノ場所ニ停車又ハ佇立スヘカラス

第六條 人力車輓子ハ常ニ營業認可證ヲ携帯シ車中ニ提灯燭燭「マツチ」ヲ準備シ置クヘシ

第七條 夜間ハ車輛ノ運轉又ハ停車中ト雖必ス燈火ヲ點スヘキモノトス

第八條 提灯ノ表面ニ認可證ノ番號ヲ朱記スヘシ

第九條 數輛運行スルトキハ必ス四米突以上ノ距離ヲ保持テ行進スヘシ

第十條 人馬ノ交通頻繁ナル道路ヲ行進スルトキハ少シク徐行シ公衆ニ危害ヲ與ヘサル様注意スヘシ

第十一條 車輛及附屬具ハ常ニ清潔ナラシムヘシ

第十二條 乘客ニ對シテハ丁寧親切ヲ旨トシ荷ヲ粗暴ケ間敷行爲アルヘカラス

第十三條 自己ノ認可證及標識アル提灯ヲ他人ニ賣買讓渡及貸與スルヲ許サス

第十四條 十三歳以上ノ男女一人以上乗車セシムルヲ許サス

第十五條 賃錢ハ別ニ定ル所ノ規定ニ從フヘシ

第十六條 五月三十日ヲ以テ管口軍政署ノ指定スル場所ニ集合シ車輛ノ

検査及健康診断ヲ受クルモノトス

第十七條 人力車輓子ハ都合上營業ヲ廢止スル場合ニ於テハ管口軍政署ニ其ノ理由ヲ届出テ認可證ヲ返納スヘシ

附則

第十九條 公私設人力車駐車場停車場中ノ規定ハ更ニ之ヲ定ム

第二十條 本則及附則ニ違反シタルモノハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ營業停止若ハ禁止ヲ命スルコトアルヘシ

人力車輓業認可證標識形

(圖形略ス)

●馬車營業取締規則

管口軍政署制定
發令年月日不詳

第一條 本則ニ於テ馬車ト稱スルハ支那形馬車ニシテ人ノ乘車スルモノヲ指ス

第二條 馬車營業ヲ爲サムトスルモノハ取者ノ住所氏名年齢並營業ニ用ユル車輛數及馬匹數ヲ記シタル營業許可願書ヲ管口軍政署ニ出シ營業認可證ヲ受クヘシ

馬車營業主カ馬車數ヲ增加セムトスルトキハ亦之ニ準ス

第三條 管口軍政署ハ其ノ取者車輛及馬匹ノ検査ヲ行ヒ認可證ヲ與フ

第四條 馬車一臺ニ必ス取者一名以上ヲ附スヘシ

第五條 取者ハ馬車ヲシテ公私設駐車場以外ノ場所ニ停車又ハ佇立スルヲ許サス

第六條 取者ハ常ニ振鈴ヲ携帯シ車輛ノ前面日覆ノ下部ニ營業認可證ヲ掛ケ車中ニ提灯燭燭及「マツチ」ヲ準備シ置クヘシ

第七條 夜間ハ馬車ノ運轉中ト停車中トヲ論セス燈火ヲ點スヘキモノトス

第八條 提灯ノ表面ニハ認可證ノ番號ヲ朱記スヘシ

第九條 人馬ノ交通頻繁ナル街路ヲ行進スルトキハ少シク徐行シ振鈴ヲ以テ警戒ノ信號ヲナシ公衆ニ危害ヲ及ボササル様注意スヘシ

第十條 車輛ノ内外及附屬具ハ常ニ清潔ナラシメ馬匹ニ對シテハ手入法ト備付ニ注意シ且之ヲ愛撫スヘシ

第十一條 乘客ニ對シテハ常ニ丁寧親切ヲ旨トシ荷ヲ粗暴ケ間敷行爲アルヘカラス

第十二條 三人以上同時ニ乗車セシムルコトヲ許サス但シ十三歳未滿ノ男女ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 自己ノ認可證及標識アル提灯ヲ他人ニ賣買讓渡及貸與スルコトヲ許サス

第十四條 賃錢ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ從フヘシ

第十五條 毎月三十日ヲ以テ管口軍政署ノ指定スル場所ニ集合シ車輛及馬匹ノ検査及取者ノ健康診断ヲ受クルモノトス

第十六條 削除

第十七條 都合上營業ヲ廢止スル場合ニ於テハ管口軍政署ニ其ノ理由ヲ届出テ認可證ヲ返納スヘシ

第十八條 公私設馬車駐車場停車場中ノ規定ハ更ニ之ヲ定ム

第七 牛莊領事館

第十九條 本則及附則ニ違反シタルモノハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ營業停止若ハ禁止ヲ命スルコトアルヘシ

馬車營業認可證標識形

(圖形略ス)

●警察犯處罰令

明治二十二年十月二日
館令第二號

警察犯處罰令

第一條 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一 當領事館管轄區域内ニ新ニ居住シ又ハ居住所ヲ轉シ三日以内ニ其ノ届出ヲ爲ササル者

二 他人ヲ容泊同居セシメ又ハ其ノ出發若ハ轉居後二日以内ニ其ノ届出ヲ爲ササル者

三 無届又ハ免許ヲ得シテ開設シ若ハ營業ヲ爲シタル者

四 原籍、住所、氏名、年齢、身分、職業ヲ詐稱シ居シタル者

五 官職、位階、勳章、學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾徽章ヲ僭用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者

六 一定ノ住所又ハ生業ナクシテ諸方ヲ徘徊スル者

七 故ナク居住又ハ看守セサル邸宅建造物若ハ船内ニ立入りタル者

八 故ナク而會ヲ強請シ又ハ強強威迫ノ所爲ヲ爲シタル者

九 職務上必要アルノ外銃器、刀劍、仕込杖ノ類ヲ携帯スル者但シ銃器ヲ爲ス場合ニ於テ職務ヲ携帯スルハ此ノ限ニ在ラス

十 濫ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物品入場券等ノ配付

第七 牛莊領事館

- 十一 合力、寄捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者
- 十二 新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者
- 十三 申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者
- 十四 乞丐ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 十五 密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒介者ハ容止ヲ爲シタル者
- 十六 新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虚偽ノ廣告ヲ爲シ利ヲ圖リタル者
- 十七 人ヲ誑惑セシムヘキ流言、浮説又ハ虚報ヲ爲シタル者
- 十八 妄ニ吉凶、禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ若ハ守札ノ類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシメタル者
- 十九 病者ニ對シテ禁厭、祈禱符呪等ヲ爲シ又ハ神符神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者
- 二十 淫ニ催進術ヲ施シタル者
- 二十一 許可ヲ得スシテ毒藥、劇藥ヲ販賣シタル者
- 二十二 自己ノ占有ノ場所ニ老幼不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知りテ連ニ警察官吏ニ申告セサル者
- 前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者
- 二十三 死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋、火葬ヲ爲シタル者
- 二十四 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋、火葬ヲ爲シタル者

- 二十五 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隠匿シ又ハ他物ニ紛ハレテ隠匿シタル者
- 二十六 許可ヲ得スシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解體シ又ハ之ヲ保存ヲ爲シタル者
- 二十七 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者
- 二十八 他人ノ身體、物件又ハ之ニ毒ヲ及スヘキ場所ニ對シ物件ヲ抛投シ又ハ放射シタル者
- 二十九 淫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ糞穢シ又ハ之ヲ取除ノ義務ヲ怠リタル者
- 三十 炮糞、洗滌、剥皮等ヲ要セスシテ其ノ喰食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者
- 三十一 傳染病預防ニ關シ公務員ノ命令ニ従ハサル者
- 三十二 一定ノ飲食物ニ他食ヲ混和シ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 三十三 不潔又ハ腐敗其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ販賣シ若ハ餐料ノ用ニ供シタル者
- 三十四 故ナク官署ノ召喚ニ應セス又ハ定期ニ出頭セサル者
- 三十五 開業醫師産産故ナク病者又ハ妊婦産婦ノ招キニ應セサル者
- 三十六 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ背セサル者
- 三十七 神祠佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚損シタル者
- 三十八 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 三十九 祭事祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 四十 淫ニ他人ノ標燈又ハ社寺道路公園其ノ他公衆用ノ常燈ヲ消シタル者

第七 牛莊領事館

- 四十一 淫ニ他人ノ家屋其ノ他工作場ヲ汚損シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、寶號家札其ノ他標標ヲ汚損シ若ハ撤去シタル者
- 四十二 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタル者
- 四十三 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ背セスシテ其ノ現場ニ立入り若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求メヲ受ケタルニ拘ラス之ニ應セサル者
- 四十四 劇場密席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者
- 四十五 淫ニ他人ノ身邊ニ立寄り又ハ追隨シタル者
- 四十六 許可ヲ得スシテ火藥類其ノ他爆發スヘキ物件ヲ市街ニ於テ運搬シ又ハ貯藏シタル者
- 四十七 許可ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
- 四十八 石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ怠ニシタル者
- 四十九 家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ原野ニ於テ淫ニ火ヲ焚キタル者
- 五十 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逸走セシメタル者
- 五十一 他人ノ田野園圃ニ於テ菜果ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
- 五十二 公園ノ規定ヲ犯シタル者
- 五十三 使用人、召使、勞役者等ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ク又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者
- 五十四 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者

- 五十五 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ田圃、環境シ又ハ臀部、股部ヲ露シ其ノ他醜態ヲ爲シタル者
- 五十六 露脚、露腕ノ儀及男子ニシテ帽子ヲ着セス道路又ハ公園ヲ徘徊シタル者
- 五十七 夜間十二時後歌舞、音曲ヲ爲シ其ノ他喧嘩スル等他人ノ妨害ト爲ルヘキ行爲アリタル者及是等ノ行爲アリタル旅人宿、料理屋、飲食店ノ營業主又ハ管理人
- 五十八 精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者
- 五十九 官公署ノ標示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ標示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル標標ヲ汚損シ若ハ撤去シタル者
- 六十 出入ヲ禁止シタル場所ニ淫ニ出入シタル者
- 六十一 路上ニ於テ賭博ニ類スル行爲ヲ爲シタル者
- 六十二 官署ノ督促ヲ受ケ邸宅又ハ道路ノ掃除ヲ爲ササル者
- 六十三 街路ニ於テ屎尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 六十四 街路ニ於テ夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅セシメタル者
- 六十五 許可ヲ得スシテ路傍ニ小屋掛ヲ爲シ又ハ露店等ヲ出シタル者
- 六十六 淫ニ銃砲ヲ發射シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ弄シタル者
- 六十七 所有又ハ占有ニ屬セサル地ヘ淫ニ家屋、櫓、杭柱等ヲ設ケ又ハ軒檣ヲ出シタル者
- 六十八 淫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ使鞭シ又ハ驚過セシメタル者
- 六十九 淫ニ他人ノ繫キタル舟艇、牛馬其他ノ獸類ヲ釋放シタル者
- 七十 淫ニ道路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者
- 七十一 河川、流渠又ハ水路ノ疏通ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 七十二 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧嘩シ橫臥シ又ハ泥酔シタル者

第七 牛莊領事館

ハスト、發疹瘰癧、同滿七日間

第三條 傳染病預防規則第九條ニ依リ家宅船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルハ日出後日没前ニ於テハ其ノ戶主首長管理人等ニ示スヘシ
證票左ノ如キ幅二寸白地ニ黒字

第四條 屍體ヲ運搬スルトキハ必ス消毒藥ヲ撒布シ棺内ニ密封シ方一尺ノ赤旗ヲ立ツヘシ

第五條 第六條ニ依ル衛生組合ハ左ノ役員ヲ置ク
一 衛生組合長
二 幹事
三 委員

衛生組合ハ規約ヲ設ケ認可ヲ經ヘシ

●汚物掃除規則 營口軍政署制定 發令年月日不詳

汚物掃除規則

第一條 該規則ニ依リ掃除セラルル汚物トハ塵芥汚泥汚水及屎尿等ヲ謂フ
第二條 土地ノ使用者又ハ所有者ハ其ノ地域内ノ各汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スヘシ

前項ノ義務者該地域内ノ清潔ヲ保持スルニ必要ナル下水工事ヲナスヘシ

第三條 家屋ノ所有者又ハ使用者大小便所ヲ設ケ板又ハ土塀ノ類ヲ以テ周圍ヲ圍ヒ雨露ヲ使クニ足ル屋蓋ヲ施シ内部ニ便器ヲ備ヘ屎尿ハ適當ノ場所ニ運搬シ絶ヘス清潔ヲ保持スヘシ

第四條 掃除義務者ハ掃除シタル塵芥ヲ集積スル爲メ容器ヲ備フヘシ

第五條 軍政署ハ掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ヲ一定ノ場所ニ運搬ノ上之ヲ燒却シ若ハ埋没ス但シ糞尿ハ土地ノ習慣ニ依リ掃除者ニ處分セシムルコトヲ得ルモ臭氣ノ飛散スヘキ容器ヲ以テ運搬スルコトヲ得ス

第六條 汚水ハ適當ノ方法ニ依リ掃除義務者ニ於テ排池又ハ放棄スヘシ
第七條 軍政署ニ衛生團ヲ設ケ其ノ勤務ノ方法及人員等ハ別ニ之ヲ定ム
第八條 本規則ニ依リ私人ニテ履行シ其ノ費用ノ全部ヲ徴收ス

●清潔方法施行手續 營口軍政署制定 發令年月日不詳

清潔方法施行手續

第一條 傳染病預防ノ爲施行スル清潔方法ハ左ノ手續ニ依リ施行スルモノトス

第一項 家屋内ノ清潔方法

一 室内ハ器具ヲ取放シ窓戶ヲ閉キ扉扉長持戸欄其ノ他移轉シ得ヘキ物ハ一應取除キ限ナク掃除シ塵埃等ハ日光ニ曝シ天井等ノ煤塵ヲ拂ヒ床上ノ塵芥ヲ除去スヘシ

二 土間及床下ハ塵芥ヲ掃除シ卑濕ナルトキハ石灰又ハ「デシ」フエクトル」或ハ昇来水ヲ撒布シ又ハ乾燥シタル土砂ヲ填補シ且空氣ノ流通ヲ計ルヘシ

三 糞所流シ浴室流シハ清潔ニ掃除洗滌スヘシ但シ破損又ハ腐朽シタル箇所ハ之ヲ修理スヘシ

四 糞所流シ浴室流シニ對シ消毒方法施行ノ必要アリト認ムルトキハ掃除洗滌ニ先チ石灰又ハ石灰乳ヲ撒布シ消毒方法ヲ施行スヘシ
第二項 井戸ノ清潔方法

テ直接ニカ清潔方法ヲ施行スヘシ

●飲食物及用器具取締規則 營口軍政署制定 發令年月日不詳

飲食物及用器具取締規則

第一條 營業者ハ飲食物及用器具ヲ鉛又ハ百分中鉛十分以上ヲ含ム合金ヲ以テ製造シ又ハ作製スルコトヲ得ス
用器具ノ飲食物ニ接觸スル部分ハ百分中鉛五分以上ヲ含ム合金ヲ鍍布スルコトヲ得ス

第二條 營業者ハ砒毒又ハ他種毒ヲ施シタル飲食用器具ニシテ各百分中鉛四分ヲ含ム水ヲ容レ三十分間煮沸スル其ノ液中ニ砒毒又ハ鉛ヲ溶出スルモノヲ製造若ハ修繕スルコトヲ得ス

第三條 銅又ハ其ノ合金ヲ以テ製造シタル飲食用器具ノ飲食物ト接觸スル部分ニシテ鍍金ノ鍍銀シタルモノハ使用スルコトヲ得ス

第四條 飲食物ノ調味料トシテ「サツカリ」其ノ他之ニ類スル化學的製品ニシテ含水炭素ニ非サルモノヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 飲食水雪及蒸餾水常水ヲ販賣スル營業者ハ官廳ノ許可ヲ受クヘシ請賣業者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 飲用水雪ノ融解水ハ無色透明ニシテ臭味ナク又氷雜物アルモ僅微ニ過クヘカラス蒸餾水亦之ニ準ス

融解水百分中「コロイド」量二分、硝酸ノ量一分、アンモニヤノ量〇〇五分、過錳酸加里消量量三分、亞硝酸ハ酸除テ過クヘカラス蒸餾水亦之ニ準ス

常水、濾過水、煮沸水、河水井水ノ類ト雖官廳ニ於テ試驗ノ結果不真ト認メタルモノハ販賣スルコトヲ得ス

第七 牛莊領事館

第二條 道路橋梁公設ノ下水、溝渠、井戸、便所、茅溜等軍政署衛生係ニ於

之ヲ修理スヘシ

第一項 下水流渠ノ清潔方法
一 下水流渠ハ上流ヨリ順次浚深シ其ノ疏通ヲ計ルヘシ又浚深シタル汚泥等ハ一定ノ場所ニ取去リ路傍ニ堆積若ハ散逸セシムヘカラス
二 下水流渠其ノ他汚溜等破損ノ箇所アリテ汚水溢流ノ虞アルモノハ之ヲ修理スヘシ

第四項 便所ノ清潔方法
一 便所内ハ限ナク掃除シ柱、踏板、腰板等ハ勿論其ノ他手足ノ觸ルル箇所ハ拭淨又ハ洗滌スヘシ
二 便所附屬ノ手水鉢、柄杓、手布等ハ洗滌スヘシ
三 糞池尿池ノ周邊ハ充分ニ掃除シ且糞池ハ勿論其ノ周邊ノ構造粗惡ナルカ又ハ破損ノ箇所アリテ汚液中ニ滲透ノ虞アルモノハ改造又ハ修理スルカ若ハ其ノ他之ヲ豫防スルノ設備ヲナスヘシ
四 糞池及尿池ノ周邊等ニ對シ消毒方法施行ノ必要アリト認ムルトキハ掃除ニ先チ石灰又ハ石灰乳ヲ撒布シ消毒方法ヲ施行スヘシ
第五項 下水流渠ノ清潔方法
一 下水流渠ハ上流ヨリ順次浚深シ其ノ疏通ヲ計ルヘシ又浚深シタル汚泥等ハ一定ノ場所ニ取去リ路傍ニ堆積若ハ散逸セシムヘカラス
二 下水流渠其ノ他汚溜等破損ノ箇所アリテ汚水溢流ノ虞アルモノハ之ヲ修理スヘシ

第七 牛 莊 領 事 館

第七條 清涼飲料水製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ官廳ノ許可ヲ受クヘシ

清涼飲料水トハ「ラムネ」「リモナー」「果實水」「薄荷水」及「桂皮水」ノ類ニ屬スル水及其ノ他炭酸含有ノ飲料ヲ指ス

第八條 清涼飲料水製造營業者ハ其ノ製造又ハ貯藏ニ「サツカリ」有テ芳香物又ハ防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ス

第九條 左ノ各項ノ一ニ該當スル清涼飲料水ハ之ヲ陳列シ貯藏シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

一 酒濁又ハ變敗シタルモノ

二 沈澱物アルモノ

三 遊離鹼ヲ含有スルモノ

四 砒素、安母尼亞、鉛、錫ヲ含有スルモノ

五 テール色素ヲ含有スルモノ

其ノ他本則ニ於テ使用ヲ禁シタル物質ヲ混入スルモノ

第十條 左ニ掲ケルモノハ飲食物ノ着色料ト爲スコトヲ得ス

一 砒素、バリウム、「カトミニウム」、「コロム」、「水銀」、「錫」、「アンモニウム」、「ウラニウム」、「亞鉛酸」、「クワレ酸」、「チニトロクレゾール」、「コチルフィン」ヲ含有スルモノ

二 硫酸バリウム、硫化カドミウム、朱酸化錫、ムウシ、ニ、酸化亞鉛、硫化亞鉛、錫、鉛及其ノ他ノ合金屬ニシテ固有ノ光澤ヲ有スルモノヲ含有スルモノ

第十一條 料理屋旅館飲食店露店等ニ陳列シテ販賣シ又ハ行商スル飲食物ニハ總テ硝子又ハ布巾類ヲ以テ適宜覆蓋ラセザルコトヲ得ヘシ
前項ノ設備ナキモノハ物品ノ販賣又ハ使用ヲ禁止若ハ停止ス

第十二條 腐敗ニ傾キタル飲食物ハ之ヲ販賣シ又ハ貯藏シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

第十三條 以上規定スルモノノ外ト雖官廳又ハ當該吏員ニ於テ検査若ハ試験ノ結果衛生上危害ヲ生スル虞アルモノハ其ノ製造採取販賣及又ハ使用ヲ禁止シ又ハ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトアルヘシ

第十四條 本則ノ定ムル所ニ依リ検査若ハ試験ノ結果不良ト認メタル物品ハ其ノ所有者又ハ所持者ヲシテ物品ヲ廢棄セシメ又ハ吏員ヲシテ直接ニ之ヲ廢棄セシメ其ノ他必要ノ處分ヲ爲スヘシ

第十五條 官廳ハ吏員ヲシテ飲食物及其ノ用器具ヲ販賣スル店舖露店旅館行商等ヲ検査セシム此ノ場合ニ於テ吏員ハ普通營業時間又ハ營業ノ爲開カレル間ニ限り物品ヲ製造シ採取シ陳列シ貯藏シ若ハ携帶スル場所ニ立入ルコトヲ得

第十六條 吏員ハ検査ニ際シ必要ト認メタルトキハ試験材料ニ限り無償ニテ物品ヲ收受スルコトヲ得

● 畜犬取締規則

禁口軍政廳制定
發令年月日不詳

畜犬取締規則

第一條 畜犬ヲ飼養管理スル者ハ此ノ規則ニ依リ畜犬ノ保護ヲ爲スヘシ

第二條 畜犬ノ保護ハ左ノ方法ニ依ルヘシ

一 畜犬ハ頸ニ金屬製又ハ皮革製ノ首環ヲ銜メ更ニ長サ十尺以内ノ索狀又ハ鎖ニテ繋キ出入ノ通行人ニ接近セサル様留メスヘシ但シ首環及索鎖鎖ハ破損又ハ鋭切セサルモノヲ用フヘシ

二 特ニ性質善良ニシテ能ク人ニ馴レ何物ヲ見ルモ呼聲狂騒咬傷等ノ惡癖ナキモノハ緊留セサルモ妨ナシ

三 性質野惡ニシテ狂騒又ハ人畜ニ害ヲ與ラシムルモノト認メタルモノ及前條ノ保護ヲ受ケサル野犬ハ本署ニ於テ之ヲ撲殺ス

四 畜犬ヲ飼養管理スル者ニシテ前條ノ保護手續ヲ爲サズ又ハ野犬ヲ自家ノ内外ニ棲居セシムル者ハ罰金、拘留ニ處スルコトアルヘシ

第七 牛 莊 領 事 館

第八 安東警務署

●警務署事務開始 明治三十九年五月二十六日 告示第一號

第九 安東領事館

●關東總督府及安東縣軍政署發布ノ規則中有効ノ件

從來關東總督府及安東縣軍政署ヨリ發布セラレタル諸規則ノ專ラ軍事ニ關係アルモノヲ除キ帝國ノ法律命令ト抵觸若ハ重複セサル限り來ル十月一日ヨリ當館館令ト看做シ當館管轄區域内ニ於テ有效ノモノトス

●安東縣軍政官所管事務ノ内管掌ノ件 明治三十九年十月二日 告示第四號

安東縣軍政官所管事務ノ内專ラ軍事ニ關係アルモノヲ除ク外總テ本官ノ管掌ニ屬シ本日事務ノ引繼ヲ了セリ

●身分ニ關スル事務取扱 明治三十九年八月五日 館令第一號

明治三十一年六月法律第十二條戶籍法ニヨル身分ニ關スル届出事務ハ自今當領事ニ於テ之ヲ取扱フ

●商業登記開始 明治三十九年八月五日 告示第一號

今般當館ニ於テ商業登記ヲ開始スルコトニナリタルニ付テハ已ニ當館管轄内ニ於テ設立セラレ居ル商事會社ハ勿論出張所其ノ他ノ名稱ヲ以テ營業スル者ハ其ノ名義ノ如何ニ關セズ荷モ支店タル事實アルニ於テハ支店登記ヲ受クヘキモノトノ當局者ノ見解ナルヲ以テ既設ノ者ハ此ノ際速ニ以上ノ登記申請ヲ爲スヘク尙今後設立スルモノニ付テモ右様心得ヘシ道

第九 安東領事館

テ登録稅ハ明治三十九年八月勅令第二百十九號ノ規定ニ據ル

●行政委員會役所ヲ經由スヘキ願届

居留民ヨリ當館ニ差出スヘキ左記願届ハ自今行政委員會役所ヲ經由スヘキ

- 一 諸營業ニ關スル願届
- 一 身分ニ關スル願届
- 一 居住ニ關スル願届
- 一 公有財產貸下其ノ他ニ關スル願届
- 一 家屋建築申請ニ關スル願届
- 一 埋火葬ニ關スル願届

●安東居留民團ニ關スル細則 明治三十九年十月五日 館令特第一號

- 第一章 居留民會
- 第一條 六箇月以來毎月課金五圓以上ヲ納ムル者ヲ以テ居留民會議員トス
- 第二條 前條課金ハ營業課金及隨遊課金ヲ謂フ
- 第三條 行政委員會ハ毎年十二月三十一日ヲ期トシ居留民會議員タル實格ヲ有スル者ヲ調査シ二箇月以内ニ議員名簿ヲ調製スヘシ但レ第一回ノ議員名簿ハ二月二十八日ヲ期シ十日以内ニ之ヲ調製スヘシ
- 第四條 居留民會議員ノ選舉ハ匿名投票ヲ以テシ出席議員ノ投票ノ過中

第九 安東領事館

數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上之ヲ議長ニ差出スヘシ

第五條 投票ノ過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ノ投票ヲ得タルモ

ノ二名ニ就キ決選投票ヲ行ヒ多數ヲ得タルモノヲ以テ當選人トス票數

相同シキトキハ年長者ヲ取り年輪相同シキトキハ議長自ラ抽籤シテ其

ノ當選ヲ定ム

第六條 議員投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名ヲ議長ニ申出テ議長ハ議員

名簿ニ照シ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ但シ投票函ハ投票ヲ

終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス

第七條 當選シタル議長及假議長ノ氏名ハ之ヲ領事ニ報告スヘシ

第二章 行政委員會

第八條 行政委員ノ員數ハ七名トシ豫備行政委員ノ員數ハ三名トス

第九條 行政委員及豫備行政委員ノ選舉ハ匿名連記投票ヲ以テ同時ニ之

ヲ行フ

第四條第二項及第六條ノ規定ハ本條ニ之ヲ準用ス

第十條 行政委員及豫備行政委員ノ選舉ハ各投票ヲ通算シテ有效投票ノ

最多數ヲ得タル者ヨリ順次ニ定數ノ行政委員ヲ定メ以下順次ニ定數ノ

豫備行政委員ヲ定ム

領事ハ其ノ指名シタル者二名ヲ選舉ニ立會ハシムヘシ

第五條第二項ノ規定ハ本條ニ之ヲ準用ス

第十一條 前條ニ依リ定メラレタル定數ノ行政委員ニシテ其ノ過半數帝

國臣民ヲサレトキハ居留民會議長ハ帝國臣民ヲ過半數ニ達セシムル

カ爲帝國臣民以外ノ行政委員當選者中其ノ得票數最少者ヨリ順次

之ヲ豫備行政委員中ニ繰入レ而シテ豫備行政委員ニ當選シタル帝國臣

民トス

第十九條 行政委員會組織セラルトキハ該二議長、議長代理者及會

計主任ヲ選舉スヘシ

前項ノ選舉ニ關シテハ居留民會議長ノ選舉ニ關スル規定ヲ準用ス居留

民團法施行規則第三十四條第二項假議長ノ選舉ニ付テモ亦同シ

以上各當選者ノ氏名ハ之ヲ領事ニ報告シ會計主任ノ當選ニ付テハ領事

ノ認可ヲ受ケヘシ若シ領事ニ於テ之ヲ認可セザルトキハ更ニ選舉スル

モノトス

第二十條 行政委員會ハ四名以上ノ委員出席スルニ非サレハ會議ヲ開ク

コトヲ得ス但シ臨時緊急ヲ要スル事項ニシテ定足數ノ出席ヲ待テニ暇

ナキ場合ニ領事ノ認可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

行政委員引續キタル事故又ハ旅行ノ爲一時離任定足數ニ滿タザルトキ

ハ領事ハ豫備行政委員ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

前項行政委員ハ離任ノ事由終リタルトキ當然復任シ補選委員ハ豫備行

政委員ニ復ス

第二十一條 前條補選ノ場合ニハ第十六條第十七條ノ規定ニ準シ其ノ順

位ヲ定ム

第三章 財務

第二十二條 豫算ヲ居留民會ニ提出スルトキハ併セテ居留民團事務報告

書及財産明細表ヲ提出スヘシ

第二十三條 出納ハ毎年六月九月十二月三月ノ四回ニ檢査ヲ爲スヘシ

前項ノ檢査ハ居留民會ニ於テ選舉シタル二名以上ノ委員之ヲ行フ

前項ノ選舉ニ關シテハ居留民會議長ノ選舉ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十四條 出納閉鎖ハ年度經過後三箇月ヲ以テ期限トス

第九 安東領事館

民中其ノ得票數最多者ヨリ順次之ヲ行政委員中ニ繰入シ以テ帝國

臣民過半數ニ達スルニ及ヒテ止ムヘシ

前項ニ依リ豫備行政委員ニ編入セザレタル帝國臣民以外ノ行政委員當

選者ハ其ノ得票數ノ順次ニ從ヒテ之ヲ豫備行政委員中ノ首位ニ置クヘ

シ

第十二條 投票ニ記載ノ人員十名ヲ超エ又ハ十名ニ滿タザルトアルモ

其ノ投票ヲ無効トセス其ノ十名ヲ超ユルモノハ末尾ニ記載シタル人名

ヲ順次ニ棄却スヘシ

第十三條 投票ノ受理效力ニ關シ異議アル者ハ該二領事ニ申立テ其ノ

決定ヲ求ムルコトヲ得

第十四條 行政委員及豫備行政委員選舉ヲ終リタルトキハ居留民會議長

ハ其ノ氏名及得票數ヲ具シ領事ニ報告シ認可ヲ受クヘシ

第十五條 居留民團法施行規則第三十九條第三項ノ補缺選舉ニハ行政委

員及豫備行政委員ノ選舉ニ關スル規定ヲ準用ス

第十六條 行政委員中閣員ヲ生シ豫備行政委員ヲ以テ之ヲ補充スル場

合ニ於テ其ノ順序ハ行政委員及豫備行政委員ノ選舉ニ於ケル得票ノ順

序ニ依ル但シ其ノ票數相等シキモノハ第五條第二項ノ規定ニ準シ之ヲ

定ム

第十七條 前條ノ規定ニ依リ行政委員ノ補充ヲ爲ストモ行政委員ノ過中

數ヲ帝國臣民ヲサレトキニ至ルハキ場合ニ限リ領事ハ第十條ノ規定ニ準

シテ其ノ順位ヲ定ム

第十八條 行政委員ノ選舉アリタル後領事ノ認可ヲ得ザル者アルカ爲定

數ノ行政委員ヲ得ルコト能ハサル場合ニ豫備行政委員ヲ以テ行政委員

ヲ補充スルノ順序ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

決算ハ出納閉鎖後一箇月以内ニ報告額ヲ添ヘ會計主任ヨリ之ヲ行政委

員會ニ提出スヘシ

行政委員會ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ次ノ居留民會通常會ニ報告スヘシ

第二十五條 行政委員會ハ決算報告及之ニ關スル居留民會ノ議決ヲ領事

ニ報告シ且其ノ要領ヲ公告スヘシ

第二十六條 豫算ノ調整ハ別紙ノ表式ニ依ルヘシ

第二十七條 在安東居留民行政委員會ノ財産及負債ハ之ヲ居留民團ニ引

繼クヘシ

(様式略ス)

●安東商業會議所規則 明治卅七年五月五日 館令第二十號

安東商業會議所規則

第一條 安東商業會議所ハ安東居留民團區域内ニ在留スル帝國臣民ニ依

リ公選セラルタル議員ヲ以テ組織ス

第二條 本會議所ノ事務權限左ノ如シ

一 商工業ノ發達ヲ圖ルニ必要ナル方案ヲ調査スルコト

二 商工業ニ關スル規則ノ制定改廢施行ニ關シ意見ヲ行政廳ニ開申シ

及商工業ノ利害ニ關スル意見ヲ表示スルコト

三 商工業ノ事項ニ關シ行政廳ノ諮問ニ應ズルコト

四 商工業ノ狀況及統計ヲ調査發表スルコト

五 官廳ノ命令又ハ商工業者ノ奏請ニ依リ商工業ニ關スル事項ヲ調査

シ又ハ商品ノ産地價格ヲ説明スルコト

六 官廳ノ命ニ依リ商工業ニ關スル鑑定又ハ參考人ヲ推選スルコト

七 關係人ノ請求ニ依リ商工業ニ關スル紛議ヲ仲裁スルコト

第九 安東領事館

- 八 領事館ノ認可ヲ受ケ商工業ニ關スル營造物ヲ設立シ又ハ管理シ其ノ他商工業ノ發達ヲ圖ルニ必要ナル施設ヲ爲スコト
- 第三條 本會議所議員ノ定數ハ十五名トス
領事ハ別ニ三名以内ノ特別議員ヲ命スルコトアルヘシ
安東居留民團ニ安東居留民團課金賦課規則第九條第十二等以上ノ課金ヲ納付スルモノハ議員選舉權及被選舉權ヲ有ス
特別議員ハ年齡二十五歳以上ノ帝國臣民タル男子ニシテ商工業ニ關スル學術技術又ハ經驗アル者タルコトヲ要ス
- 第四條 議員ノ任期ハ二箇年トス
- 第五條 本會議所ニ左ノ役員ヲ置ク
會頭一名副會頭一名
會頭ハ本會議所事務ヲ統轄擔任シ會議ノ議長トナル
副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキハ其ノ代理トナル
- 第六條 會頭副會頭ハ議員ニ於テ互選シ領事ノ認可ヲ受クヘシ會頭副會頭ノ任期ハ二箇年トス
- 第七條 本會議所ノ經費ハ議員ノ選舉權ヲ有スルモノニ於テ之ヲ負擔ス經費ノ豫算ハ領事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第八條 領事ハ本會議所創立委員八名ヲ指定ス
- 第九條 創立委員ハ本會議所事務ヲ執行ニ必要ナル細則ヲ定テ以テ之ヲ領事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十條 創立委員ノ任務ハ議員及會頭副會頭ノ選舉ヲ以テ終ル
- 第十一條 本則ハ明治四十年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

安東小學校職員俸給支給規則 明治三十九年二月三日 館令第二號

- 安東尋常高等小學校職員俸給支給規則
- 第一條 安東尋常高等小學校職員ノ俸給ハ毎月二十五日之ヲ支給シ休日ニ當ルトキハ順延トス
- 第二條 休職退職又ハ死亡ノトキハ當月分俸給ノ全額ヲ支給ス
- 第三條 新任者ノ俸給ハ就職ノ日ヨリ増俸減俸ノトキハ發令ノ翌日ヨリ日割ヲ以テ支給ス
- 第四條 私事ノ故障ニヨリ引續キ執務セサルコト三十日ニ達スル者ハ以後俸給ノ中額ヲ減シ尙二十日ヲ越ユルトキハ全額ヲ給セス但シ休職又ハ忌引ハ減俸ノ限ニ在ラス
- 第五條 病氣ノ爲引續キ執務セサルコト九十日ニ達スル者ハ以後俸給ノ中額ヲ減シ尙六十日ヲ越ユルトキハ全額ヲ給セス但シ公務ノ爲傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 前二條ノ事故相續テ起リ引續キ執務セサル者ハ第五條ノ例ニ據ル
- 第七條 前三條ニヨリ減俸ノ者退職又ハ死亡シタルトキハ其ノ減俸ニ係ル當月分ノ全額ヲ支給ス
- 第八條 休職ヲ命セラレタル者ハ其ノ翌月ヨリ休職期間中休職當時ノ月俸額三分ノ一ヲ支給ス但シ刑事事件ニ關シ官廳若ハ官費セラレタルキハ支給ノ限ニ在ラス
- 第九條 戰時若ハ本國ニ際シ陸海軍ニ召取セラレ休職トナリタル者ニシテ陸海軍ニ於テ受ケル俸給ノ額召取當時ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ召取ノ翌月ヨリ其ノ不足額ヲ支給ス
- 第十條 休職者又ハ退職者事務引繼ノ爲特ニ命テ受ケ職務ニ從事スルトキハ其ノ期間從事前ノ俸給額ニ依リ日割ヲ以テ支給ス但シ第二條ニ據

ル支給ヲ妨ケス

第十一條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上發位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ツルモノトス
日割計算ノ法ハ層ニ據ル
附則
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

罰金科料ノ金額及拘留ノ刑期改正 明治三十九年五月八日 館令第九號

從來發布シタル當館館令中罰金又ハ科料又ハ拘留ノ刑ハ罰金ハ二十圓以上五十圓未滿科料ハ十圓以上二十圓未滿拘留ハ一日以上三十日未滿ニ改メ
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

營業取締規則 明治三十九年五月十日 館令第三號

- 營業取締規則左ノ通相定ム
- 第一條 左ノ營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ其ノ原籍、住所、氏名、商號又ハ營業名、營業ノ種類、營業ノ場所其ノ他業體ニ應シ必要ノ事項ヲ記載シ警察署ヲ經由シテ領事館ニ出願シ許可ヲ受クヘシ
- 一 新聞紙、雜誌其ノ他出版物ノ發行
- 二 電氣、瓦斯、汽機、汽機又ハ石油發動機ヲ使用スル營業
- 三 銃器、火藥其ノ他爆發物ノ製造業、輸出入業及販賣業
- 四 市内鐵道營業
- 五 通關業

第九 安東領事館

- 六 石油輸出入又ハ販賣業
- 七 煉瓦又ハ瓦製造業
- 八 木材賣買營業
- 九 化成場
- 十 屠獸場
- 十一 私立病院設立
- 十二 醫術開業
- 十三 藥劑師開業
- 十四 獸醫開業
- 十五 產婆業
- 十六 藥劑商又ハ製藥業
- 十七 賣藥製造業及販賣業
- 十八 賣藥部外賣製藥業
- 十九 市場開設
- 二十 勸商場又ハ商標陳列所
- 二十一 牧畜業
- 前項ニ掲ケタル營業ヲ廢止シタルトキハ三日以内ニ警察署ヲ經由シテ領事館ニ届出ツヘシ、許可證又ハ鑑札ハ廢棄し消滅スヘシ
- 第二條 左ノ營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ其ノ原籍、住所、氏名、商號又ハ營業名、營業ノ種類、營業ノ場所其ノ他業體ニ應シ必要ノ事項ヲ記載シテ警察署ニ出願シ許可ヲ受クヘシ
- 一 運送又ハ河清業
- 二 渡船又ハ舢舨業
- 三 曳船業

第九 安東領事館

- 四 水先案内業
- 五 潜水業
- 六 水上行商
- 七 給水業
- 八 印刷影刻業
- 九 印刷業
- 十 質屋業
- 十一 古物商
- 十二 鑄物製造又ハ鍛冶職
- 十三 硝子製造業
- 十四 石灰製造業
- 十五 摺附木製造業
- 十六 煙火製造業
- 十七 劇場、寄席開設
- 十八 諸興行
- 十九 觀物場、遊覽場、遊技場
- 二十 乘合馬車營業
- 二十一 人力車營業
- 二十二 代書業
- 二十三 雇入口入業其ノ他周旋業
- 二十四 鹹治、灸治、按摩業
- 二十五 製氷業及氷雪貯藏又ハ販賣業
- 二十六 清涼飲料水製造業
- 二十七 牛乳搾取又ハ販賣業

- 二十八 乳製品製造業
 - 二十九 罐詰製造業
 - 三十 獸肉販賣業
 - 三十一 狩獵業
 - 三十二 掃除業
 - 三十三 祝儀、古賜、古紙營業
 - 三十四 湯屋業
 - 三十五 理髮業
 - 三十六 宿屋又ハ下宿屋業
 - 三十七 料理店及飲食店營業
 - 三十八 貸席營業
 - 三十九 藝妓、娼妓、酌婦、仲居營業
 - 四十 俳優、相撲、遊藝師匠及遊藝營業
- 前項ニ掲ケタル營業ヲ廢止シタルトキハ三日以内ニ警察署ニ届出ツヘシ許可證又ハ鑑札ハ廢業届書ニ添附スヘシ
- 第三條 前二條ニ掲ケタル以外ノ營業ヲ爲サントスル者ハ其ノ原籍住所、氏名、商號又ハ營業名、營業ノ種類、營業ノ場所等ヲ記載シテ安東領事館團役所ニ届出ツヘシ廢業シタルトキ亦同シ
- 第四條 營業者ハ其ノ營業ニ關シテ命令セラレタル事項ヲ遵守スヘシ
- 第五條 警察署長ハ公安、風俗又ハ衛生上必要ト認ムルトキハ營業場ニ隨檢スルコトアルヘシ
- 第六條 警察署長ハ販賣又ハ營業ノ用ニ供スル飲食物、飲食器具、製氷具其ノ他ノ物品ニシテ衛生上危害ヲ生スル虞アリト認ムルトキハ其ノ製造、販賣、授受若ハ使用ヲ停止又ハ禁止シ若ハ其ノ物品ヲ廢棄セシムル

等必要ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

第七條 營業ニ關シ公安、風俗又ハ衛生ヲ害シ又ハ害セムトスル虞アルトキハ其ノ營業ヲ停止又ハ禁止シ若ハ營業ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第八條 本規則又ハ本規則ニ基ク命令若ハ處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス但シ別ニ罰則ヲ定メタルモノハ其ノ罰則ニ依ル

第九條 本規則ハ明治四十二年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 本規則施行以前ニ發布シタル營業ニ關スル規則ハ本規則ト抵触セサル限リ其ノ效力ヲ有ス

第十一條 本規則施行以前許可ヲ得タル營業ニ付テハ更ニ本規則ニ依ル營業願又ハ營業届ヲ要セス

第十二條 明治三十九年七月一日ヨリ施行ノ安東縣軍政署管内居住民營業取締規則ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

- 一 人力車營業取締規則
- 一 理髮營業人心得
- 一 湯屋營業取締規則
- 一 藥品營業取締規則
- 一 牛乳營業取締規則
- 一 雇入口入營業取締規則
- 一 演劇興行取締規則
- 一 土木建築論賣營業取締規則
- 一 獸骨營業取締規則

第九 安東領事館

- 一 銃器賣買營業取締規則
- 一 市内鐵道營業取締規則
- 一 市場區内營業取締規則
- 一 宿屋營業取締規則
- 一 料理店、飲食店取締規則
- 一 貸席營業取締規則
- 一 特種婦女取締規則
- 一 渡船營業取締規則
- 一 通關營業取締規則
- 一 石油取締規則
- 一 屠獸及獸肉取締規則
- 一 代書業取締規則
- 一 古物商取締規則
- 一 獸肉販賣取締規則

●宿屋營業取締規則 明治三十九年十二月十五日 附令第六號

宿屋營業取締規則別冊ノ通改正ス (別冊) 宿屋營業取締規則

第一章 通則

- 第一條 本則ニ於テ宿屋ト稱スルハ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス
- 第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ警察署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ其ノ支店ヲ設クルトキ若ハ第二條第三條第四條ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 一 族籍住所氏名年齢屋號アルモノハ屋號

第九 東安領事館

- 二 營業ノ場所
- 三 營業ノ種類
- 四 營業用家屋圖面(平面圖)ニシテ客室ノ間取坪數階子ノ幅便所ノ位置等ヲ記スルヲ要ス
- 第三條 營業者自ラ其ノ營業ヲ管理スル能ハサルトキハ管理人ヲ定メ警察官署ニ届出ツヘシ
- 第四條 族籍住所氏名屋號等ニ異動ヲ生シ又ハ休業廢業死亡及行跡不明ノ時若ハ後見人管理人ヲ變更シタルトキハ三日以内ニ警察官署ニ届出ツヘシ
- 第五條 後見人ニ依リテ營業許可ヲ願出テ又ハ後見人ノ變更ヲ届出ツルニハ其ノ後見人ニ關シ市區町村長ノ證明書ヲ添附スヘシ
- 第六條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ營業者又ハ管理人後見人タルヲ得ス
 - 一 後見人ナキ未成年者癡癲者白痴者
 - 二 保佐人ナキ準禁治產者
 - 三 財産ニ關スル罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ保護觀察ニ關スル罪ヲ犯シタル者
 - 四 第七條ニ依リテ營業禁止ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ滿一年ヲ經過セサル者
- 第七條 宿屋營業者ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル者ハ領事ハ警察官署ニシテ營業ノ禁止又ハ停止ヲ命セシムルコトアルヘシ
 - 一 前條第一號乃至第三號ニ該當スル者
 - 二 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ所爲アリト認ムル者
 - 三 他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認ムル者

- 四 本利ヲ遵守セヌ又ハ宿泊人ニ對シ不正ノ所業アリト認ムル者
- 第八條 宿屋營業者ハ同一家屋內ニ於テ貨席茶屋藝妓料理屋飲食店及雇入口ノ營業ヲ營業スルコトヲ得ス
- 第九條 營業用家屋ニシテ危險又ハ衛生上必要ト認ムルトキハ警察官署ハ相當ノ設備ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十條 相續ニヨリ宿屋營業ヲ繼承セムトスル者ハ相續確定ノ日ヨリ十日以内ニ第二條第一號第二號ノ事項ヲ具シ警察官署ニ願出テ認可ヲ受ケヘシ相續不確實ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ管理人ノ選定ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十一條 雇人ヲ雇入レ又ハ家族雇人ニアラサル者ヲ營業ニ關與セシムルトキハ其ノ族籍住所氏名年齡其前ノ職業經歷ヲ記載シ三日以内ニ警察官署ニ届出ツヘシ
- 第十二條 營業者ハ宿泊料又ハ座敷料膳料等ヲ定メ警察官署ニ届出ツヘシ其ノ定額ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 宿泊料其ノ他宿泊人ニ必要ナル事項ハ客室ニ掲示スヘシ
- 宿泊料ニ等別アルモノハ豫メ宿泊人ノ選定ヲ求ムヘシ
- 第十三條 營業用家屋ハ其ノ内外中間ハ清潔ニ掃除シ器具食器等ハ清潔ノモノヲ用ユヘシ
- 結核病瘧疾及傳染性疾患アル者ヲシテ客ニ供スル飲食物若ハ客室ノ取扱ヲナシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス
- 營業者其ノ疾患ニ罹ルトキ亦之ニ準ス
- 便所其ノ他不潔ノ場所ニ對シテハ毎月三回以上ノ消毒ノ清潔法ヲ施行スヘシ

- 第十四條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル處ニ設ケ寢及周圍ハ不潔遺棄ノ材料ヲ以テ構造シ大小便所各二箇所以上ヲ設ケヘシ
- 第十五條 營業者ハ正當ノ事由ナクシテ宿泊人ヲ拒絕スヘカラス
- 第十六條 不正ノ手段ヲ以テ客人ニ對シ金錢ヲ請求シ又ハ浪費セシムヘカラス
- 第十七條 雇人ヲシテ客引ヲサシメムトスルトキハ其ノ者ノ原籍氏名年齢等ヲ警察官署ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ警察官署ノ指示スル事項ヲ遵守スヘシ
- 不正ノ手段ヲ以テ客引ヲ爲サシムヘカラス
- 第十八條 宿泊人ノ承諾ナクシテ濫ニ他人ヲ客室内ニ入ラシムヘカラス
- 第十九條 不正ノ手段ヲ以テ宿泊人ヲ滞在セシメ若ハ面會ヲ求ムル者アルニ當リ故ナク之ヲ執次ヲナサヌ又ハ宿泊人ヲ隱蔽スル等ノ所爲アルヘカラス
- 第二十條 宿泊料ノ抵償其ノ他名義ノ如何ニ拘ラス宿泊人ヨリ物品ヲ受領シ又ハ賃入賃却等ノ依頼ヲ受ケタルトキハ警察官署ニ届出ツヘシ
- 第二十一條 宿泊人疾病ニ罹リタルトキハ醫藥食物等其ノ需ニ應ジ懇切ニ取扱フヘシ
- 第二十二條 宿泊人變死傷又ハ所持品盜難紛失等アリタル場合ハ速ニ警察官署ニ届出ツヘシ
- 第二十三條 宿泊人ニシテ身分不相應ノ金品ヲ所持シ又ハ舉動不審ト認ムル者アルトキハ直ニ警察官署ニ申告スヘシ
- 第二十四條 許可ヲ得タル後正當ノ事由ナクシテ二箇月以上開業セヌ又ハ開業後四箇月以上休業シタルトキハ許可ノ效ヲ失フヘシ
- 第二十五條 營業者ハ第一號様式ノ看板ヲ店頭又ハ門口ニ掲出スヘシ但

第九 東安領事館

- シ夜間ハ標燈ヲ以テ之ヲ代フヘシ
- 第二十六條 營業者ハ警察官署カ取締上臨時ニ發スル命令ヲ遵守スヘシ
- 第二十七條 營業者ハ家族同居人又ハ雇人ヲ監督シ其ノ責任ヲ負ヘシ
- 營業者カ法定代理人管理人ニ依リテ營業ヲ爲ストキハ法定代理人管理人其ノ責任ヲ負ヘシ
- 第二十八條 各營業者間ニ於テ合意上各組合ヲ設ケムトスルトキハ警察官署ニ届出テ認可ヲ受ケヘシ其ノ變更セムトスル場合亦同シ
- 組合規約ハ認可後ト雖不都合ノ廉アリト認ムル場合ハ取消又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ
- 第二章 旅人宿
- 第二十九條 旅人宿トハ主トシテ一定ノ宿泊料ヲ受ケテ人ヲ宿泊セシムルモノニシテ營業用ノ家屋ハ左ノ制限ニ依ルヘシ
 - 一 各室ノ總坪數二十五坪以上
 - 二 客室ハ充分光線ヲ取リ且空氣ヲ疎通セシムルニ適當ナル裝置ヲナスヘシ
 - 三 各室ノ境界ハ壁又ハ襖板ヲ用ヒ且室内ニハ錠前ヲ附シタル押入又ハ口欄ヲ設ケヘシ但シ錠前ハ各其ノ鍵ヲ異ニスヘシ
 - 四 二階ヲ設ケルモノハ幅員四尺以上ノ階段ニ階以上ヲ設ケヘシ但シ階段ニハ手摺ヲ設ケヘシ
- 第三十條 客室ニハ其ノ入口ニ番號ヲ標記スヘシ
- 第三十一條 客室ハ室毎ニ定員ヲ定メ其ノ割合ハ一人ニ付一坪半ヲ下ルヘカラス但シ同伴者ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第三十二條 同伴者ニアラサル客人ハ雙方ノ承諾ナキ者ヲ同室ニ宿泊セシムヘカラス

第三十三條 營業者ハ第二號様式ニ從テ宿泊人名簿ヲ調製シ紙數ヲ記シ警察官署ノ檢印ヲ受ケ使用ヲ終リタル後一箇年間保存スヘシ

第三十四條 宿泊人名簿ハ餘白ヲ置カス宿泊人ノ發着毎ニ記入シ若シ誤寫等アルモ其ノ紙葉ヲ除却スヘカラス多數一團ノ軍隊又ハ學生及家族攜帶者ノ宿泊ニ就テハ其ノ隊名引率者ノ所屬官公職氏名及家族攜帶者ノ族籍身分職業氏名年齢並各其ノ引率同伴ノ人員ヲ記載シ又ハ官公ノ職務ヲ帶ヒ宿泊スル者ハ其ノ所屬官公職氏名ノミヲ記スルモ妨ケナシ

第三十五條 宿泊人ノ發着ハ第三號様式ニヨリ届書一枚ニ一人ヲ限リ記入シ當日午後十二時迄ニ其ノ以後ハ翌日午前九時迄ニ警察官署ニ届出ツヘシ但シ届書ハ前條第二項ヲ適用ス

第三章 下宿

第三十六條 下宿トハ月定メノ食料座敷料等ヲ受ケテ人ヲ寄宿セシムルモノニシテ營業用客室ノ總坪數十坪以上ノモノニ限ル

第三十七條 第二十九條第二號乃至第四號第三十條第三十二條乃至第三十四條第一項第三十五條ノ規定ハ下宿ニモ亦之ヲ適用ス

第三十八條 下宿ハ一坪半ニ二人ノ割合ヲ超エテ寄宿セシムルコトヲ得ス

第三十九條 下宿營業者ハ下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル名札ヲ門口ニ掲出スヘシ

第四十條 下宿人外泊三日ニ及其ノ行衛不明ナルトキハ二十四時間内ニ警察官署ニ届出ツヘシ

第四章 木賃宿

第四十一條 木賃宿營業地ハ別ニ之ヲ指定ス

第四十二條 木賃宿トハ賄ヲ爲サス木賃其ノ他ノ雜費ヲ受ケテ人ヲ宿泊セシムルモノニシテ一坪ニ付三人ノ割合ヲ超エテ宿泊セシムルコトヲ得ス

第四十三條 本則第二十九條第二項第四項第三十三條乃至第三十五條ノ規定ハ木賃宿ニモ亦之ヲ適用ス但シ滞在在外泊シタルトキハ其ノ旨宿泊人名簿ニ記入シ置クヘシ

第五章 罰則

第四十四條 本則第二條第三條第四條第十條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十五條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十二條第四十三條ニ違背シ又ハ第七條ノ營業停止ノ命令及第九條第二十六條ノ命令ニ從ハサルモノハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第四十五條 從來ノ宿屋營業者ハ明治四十年三月末日迄ヲ限リ料理屋ノ營業ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 從來ノ宿屋營業者ハ本年十二月十日限リ本則第二條第四條ノ圖面ヲ警察官署ニ提出スヘシ

第四十七條 本則ノ家屋構造制限ニ適合セサルモノハ明治四十年六月末日迄本則ニ依リ構造ヲ改ムヘシ

(様式略ス)

●料理屋飲食店取締規則 明治三十九年七月廿六日 勅令第七號

料理屋飲食店取締規則別冊ノ通改正ス

(別冊) 料理屋飲食店取締規則

第一條 料理屋及飲食店營業者ヲササムトスル者ハ左ノ各號ヲ具シ警察官署ニ届出テ許可ヲ受ケヘシ其ノ支店ヲ設ケムトスルトキ若ハ第二號第三號第四號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 族籍住所氏名年齢及居號

二 營業ノ場所

三 營業ノ種類

四 營業用家屋ノ平面圖

「客間居間出入口窓通路階段ノ位置及幅員等ヲ詳記スヘシ」

第二條 料理屋ニハ仲居下婢ヲ置キ又ハ藝妓及雜妓ヲ招聘シ客席ニ侍ラシムルヲ得又飲食店ニハ下婢三名以内ヲ置クノ外藝妓及雜妓ヲ招聘シ客席ニ侍ラシムヘカラス料理屋又ハ飲食店ニ於テハ仲居及下婢ヲシテ客席ニ於テ歌舞音曲ヲナサシムヘカラス

第三條 營業者自ラ其ノ營業ヲ管理セサルトキハ管理人或ハ後見人ヲ定メ警察官署ニ届出ツヘシ管理人又ハ後見人ハ必ス營業家屋内ニ居住スヘキモノトス

第四條 營業者族籍住所氏名居號等ニ異動ヲ生シ又ハ休業廢業死亡及行衛不明ノトキ若ハ後見人管理人ヲ變更シタルトキハ三日以内ニ警察官署ニ届出ツヘシ

第五條 後見人ニ依リテ營業許可ヲ願出テ又ハ後見人ノ變更ヲ届出ツルニハ其ノ後見人ニ關シ市町村長ノ證明書ヲ添附スヘシ

第六條 左記各號ノ一ニ該ル者ハ營業者及管理人若ハ後見人タルヲ得ス

一 後見人ナキ未成年者監護者自犯者

二 保佐人ナキ準禁治産者

三 財産ニ關スル罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ懲罰表淫ニ關スル罪ヲ犯シタル者

四 第七條ニ依リ營業禁止ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ滿一年ヲ経過セサル者

第七條 料理屋飲食店營業者ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル者ハ領事ハ警察官署ヲシテ營業ノ禁止又ハ停止ヲ命スルコトアルヘシ

一 前條第一號乃至第三號ニ該當スル者

二 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ事實アリト認ムル者

三 他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認ムル者

四 本則ヲ遵守セズ又ハ客ニ對シ不正ノ所業アリト認ムル者

第八條 營業用家屋ニシテ危險又ハ衛生上必要ト認ムルトキハ相當ノ設備ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 相續ニ依リ營業ヲ繼承セムトスル者ハ相續確定ノ日ヨリ十日以内ニ第一號第二號ノ事項ヲ具シ警察官署ニ届出テ許可ヲ受ケヘシ

相續不確實ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ管理人ノ選定ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 仲居下婢以前ノ雇人ヲ雇入レタルトキハ其ノ族籍住所氏名年齢並從前ノ職業經歷ヲ記載シ三日以内ニ警察官署ニ届出ツヘシ其ノ解雇シタルトキ亦同シ

第十一條 料理屋及飲食店營業者ハ同一家屋内ニ於テ他ノ營業ヲ營業シ又ハ客ヲ宿泊セシムヘカラス

第九 安東領事館

- 第十二條 許可ヲ得タル後正當ノ事由ナクシテ二箇月以上開業セス又ハ開業後四箇月以上休業シタルトキハ許可ノ效力失フヘシ
- 第十三條 營業者ハ結核病癩病及傳染性疾患アル者ヲシテ客ニ供スル飲食物若ハ容器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ取扱ヲ爲ス場所ニ立入ラシムルコトヲ得ズ營業者其ノ疾患ニ罹ルトキ亦之ニ準ス
- 第十四條 警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ前條飲食物ノ取扱者ニ對シ醫師ノ健康證明書ヲ發給者ニ提出セシムルコトアルヘシ
- 第十五條 營業用家屋ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 客室ハ空氣ノ流通セシムルニ適當ナル裝置ヲナスヘシ
 - 二 客室ノ境界ハ壁又ハ襖板戸ヲ用ヒ自由ニ開閉シ得サル裝置ヲナスヘシ
 - 三 二階二間以上ヲ有スル者ハ階段二箇若ハ其ノ以上ヲ設クヘシ但シ階段ニハ手摺ヲ附シ幅三尺以上トス
 - 四 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル處ニ設ケ壁及周圍ハ不透透質ノ材料ヲ以テ構造スヘシ
- 第十六條 營業者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ
 - 一 雇人其ノ他ノ者ニシテ客引ヲナサシムヘカラス
 - 二 飲食料ノ抵償トシテ客ノ所持品ヲ受取ラムトスルトキ又ハ客ノ依頼ニ依リ所持品ヲ入質又ハ質取セムトスルトキハ其ノ旨警察官署ニ届出ツヘシ
 - 三 客室或客ニ供スル飲食器具及廢物煙草盆等一切ノ器具ハ常に清潔ナラシムヘシ
 - 四 家屋ノ内外ハ常に清潔ニシ殊ニ便所其ノ他不潔ノ場所ニ對シテハ毎月三回以上消毒の清潔法ヲ施行スヘシ

- 五 不當ノ代料ヲ請求シ又ハ需メナキ飲食物ヲ供スヘカラス
- 六 身分不相應ノ金銀ヲ浪費シ又ハ舉動不審ト認ムル者アルトキハ直ニ警察官署ニ申告スヘシ
- 第十七條 營業者ハ第一號様式ノ看板ヲ店頭又ハ門口ニ掲出スヘシ但シ夜間ハ標燈ヲ以テ之ニ代フヘシ
- 第十八條 營業者ハ警察官署ヲ取締上臨時ニ發スル命令ヲ遵守スヘシ
- 第十九條 營業上三關シテハ家族同居者及雇人ノ所爲ト雖營業者又ハ管理人其ノ責任ニ任ス
- 第二十條 各營業者合意ノ上其ノ組合ヲ設ケムトスルトキハ警察官署ノ認可ヲ受クヘシ其ノ變更セムトスル場合亦同シ組合規約ハ認可後ト雖取消又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ
- 第二十一條 本則第一條第二條第三條第四條第九條第十條第十一條第十三條第十六條第十七條ニ違背シタル者及第七條ノ停止命令又ハ第八條第十四條第十八條ノ命令ニ違フ者ハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 附則
 - 第二十二條 從來ノ營業者ニシテ本則第十五條ノ規定ニ適合セサルモノハ明治四十年六月末日迄本則ニ依リ構造スヘシ
 - 第二十三條 從來舊遊園地ニアル貸席營業者ニシテ今般料理屋ニ轉業スルモノハ明治四十年六月末日迄甲種發給及乙種發給ヲ寄寓セシムルコトヲ得
 - 第二十四條 從來ノ營業者ハ本年十二月十日限リ本則第一條第四條ノ間面ヲ警察官署ニ差出スヘシ

●貸席取締規則

明治三十九年十二月三十日 館令 第八號

貸席營業取締規則別冊ノ通改正ス

(別冊) 貸席營業取締規則

- 第一條 貸席ノ營業ハ指定地域内ニ限ルモノトス
 - 第二條 貸席營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ警察官署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ第二號第三號ニ異動ヲ生シ又ハ支店ヲ設ケムトスルトキ亦同シ
 - 一 族籍住所氏名年齢
 - 一 營業ノ場所
 - 一 營業用家屋ノ圖面(間取坪數及階段ノ幅員箇數位置) (位置及客室間ノ區分ヲ記スルヲ要ス)
 - 一 樓名又ハ屋號
 - 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ貸席營業者タルコトヲ得ズ
 - 一 法定代理人ナキ未成年者及癡癩者白痴者
 - 二 幼者ヲ略取誘拐スル罪及猥褻姦淫強姦盜許欺取財殺傷ノ罪ヲ犯シタル者
 - 三 第四條ニ依リ營業ヲ禁止セラレタル者ニシテ一箇年ヲ經過セサル者
 - 四 素行不良ノ者
- 第四條 左ノ場合ニ於テハ領事ハ取締上警察官署ヲシテ營業ノ禁止又ハ停止ヲナサシム
- 一 前條第一號第二號第四號ニ該當スル事實ノ生シタルトキ
 - 二 本則ニ違背シ尙本則ヲ遵守シ能ハスト認メタルトキ又ハ特種婦女

第九 安東領事館

取締規則ニ依リ處罰セラレヘキ行為アリタルトキ

- 三 他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認メタルトキ
- 四 公安ヲ害スヘキ行為アリト認メタルトキ
- 五 本則命令又ハ警察官署ノ命令ニ從ハサルトキ
- 第五條 營業用家屋ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 客室ハ空氣ノ流通ヲ能クシ道路ヨリ見透シ得サル裝置ヲナスヘシ
 - 二 二階又ハ三階建ニカカレモノハ必ス各階ニ二箇以上ノ階段ヲ設クヘシ
 - 三 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ壁及其ノ周圍ハ不透透質ノ材料ヲ以テ築造シ必ス客用大小便所各二箇以上ヲ設クヘシ
 - 第六條 營業家屋ハ使用前警察官署ノ検査ヲ受クヘシ
 - 第七條 營業用家屋ニシテ危險其ノ他衛生上若ハ風俗上必要ト認ムルトキハ之ヲ改築又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ
 - 第八條 營業者ニシテ未成年及癡癩白痴者ナルトキ又ハ自リ其ノ營業ヲ管理セス若ハ事故ノ爲管理スル能ハサルニ至リタルトキハ管理人ヲ定メ警察官署ニ届出ツヘシ
 - 第三條第二號第三號第四號ニ該當スル者ハ管理人タルコトヲ得ス
 - 第九條 雇人ヲ雇入レ又ハ家族雇人ニアラサル者ヲ營業ニ關與セシムルトキハ其ノ者ノ本籍住所氏名年齢從前ノ職業ヲ記載シ二日以内ニ警察官署ニ届出ツヘシ
 - 第三條第二號第三號第四號ニ該當スル者ハ雇人トシテ雇入レ又ハ營業ニ關與セシムルコトヲ得ス
 - 第十條 左ノ場合ニ於テハ事實ノ發生シタル日ヨリ五日以内ニ第一號ハ家族ヨリ第二號第三號ハ本人ヨリ第四號第五號第六號ハ本人又ハ法定

第九 安東領事館

- 代理人若ハ管理人ヨリ警察官署ニ届出ツヘシ
- 一 營業者死亡又ハ逃走シタルトキ
- 二 改氏名又ハ屋號ヲ變更シタルトキ
- 三 開業廢業休業就業シタルトキ
- 四 寄寓特種婦女ノ逃亡轉居又ハ死亡シタルトキ
- 五 法定代理人及管理人改氏名又ハ其ノ異動アリタルトキ
- 六 雇人ノ解雇又ハ家族雇人以外ノ營業關與者ノ關與ヲ罷メタルトキ
- 第十一條 登錄ヲ拒マレタル者及禁止停止セラレタル者及親屬知照ト雖警察官署ノ許可ナクシテ寄寓セシムルコトヲ得ス
- 第十二條 營業ノ許可ヲ得タル後正當ノ理由ナクシテ二箇月以上開業セズ四箇月以上休業シタルトキハ許可ノ效力失フモノトス
- 第十三條 營業者ハ第一號様式ノ遊客帳ヲ調製遊客アル毎ニ記入シ及第二號様式ノ看板ヲ門口ニ掲出シ夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ
- 第十四條 警察官署ノ檢印ヲ受ケ使用後一箇年間保存スヘシ
- 第十五條 營業者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ
 - 一 客ノ需ナキ飲食物ヲ出ササルコト
 - 二 店頭若ハ往來ニ於テ通行人ニ遊興ヲ勸メ又ハ車夫其ノ他ノ者ト謀リ客ヲ誘引シ及他ノ方法ヲ以テ遊興ノ勸誘ヲ爲ササルコト
 - 三 婦女子又ハ未成年ノ男女學校ノ徽章ヲ著ケタル學生生徒又ハ組織者ヨリ遊興拒絶ノ依頼アリタル者ニ遊興ヲ爲サシメサルコト
 - 四 遊客ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ之ヲ拒メ又ハ隱蔽セサルコト
 - 五 遊興費ノ抵償トシテ客ノ衣類携帶品ヲ私ニ收受シ又ハ質入賣却等ノ周旋ヲナササルコト
 - 六 乙種藝妓附屬ヲ通行人ノ容易ニ目ニ觸ルル場所ニ列座セシメ又ハ

- 醜態ヲナサシメサルコト
- 七 遊客中金錢ヲ浪費シ又ハ身分不相應ノ金錢物品ヲ所持シ又ハ暴動不審ノ者アルトキハ直ニ警察官署ニ申告スルコト
- 八 乙種藝妓及附屬ヲシテ特種婦女取締規則並健康診斷規則ニ背カサル様注意セシムルコト
- 九 特種婦女ニ對シ貸費ヲ支出セシメ其ノ他寄附ノ處爲ナササルコト
- 十 乙種藝妓及雜技附屬ノ貸金及所得金ニ對シ帳簿ヲ製シ置キ收支ヲ明確ナラシムルコト
- 十一 結核病瘰癧及傳染性疾患アル者ヲシテ客ニ供スル飲食物若ハ容器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲シ又場所ニ立入りシムルコトヲ得ス
- 營業者ハ其ノ疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ス
- 第十五條 營業者ハ警察官署ヨリ取締上ニ關シ臨時ニ發シタル命令アリタルトキハ之ヲ遵守スヘシ
- 第十六條 營業者及管理人ハ家族同居者雇人其ノ他營業ニ關スル者ヲ監督シ本則ヲ遵守セシムヘシ
- 第十七條 貸席營業者ハ組合ヲ設ケ規定ヲ定メ警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ其ノ改正變更ヲ要スルトキ亦同シ但シ組合ニ加入セサル者ハ營業者爲スコトヲ得ス
- 第十八條 組合ハ貸席營業者中ヨリ取締一名選出シ警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ但シ認可後不適當ト認ムルトキハ其ノ認可ヲ取消シ再選スルコトアルヘシ
- 第十九條 組合取締ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

第九 安東領事館

- 一 貸席及貸席内特種婦女ニ對シ其ノ取締規則及警察官署ノ命令ヲ告知スルコト
- 二 貸席内特種婦女健康診斷場ニ出テ特種婦女ノ取締ヲナスコト
- 三 本則規定ノ外警察官署ノ命令ヲ遵守スルコト
- 四 貸席及貸席内特種婦女ノ雇人ニ加印スルコト若シ加印シ難キ事出アル者ハ其ノ旨警察官署ニ具申スヘシ
- 五 乙種藝妓及雜技附屬ニ對シ精神修養ノ方法ヲ講シ可成進ニ他ノ正業ニ就カシムルニカムルコト
- 六 貸席及貸席内特種婦女ノ名簿ヲ備ヘ置キ異動アル毎ニ之ヲ整理シ置クコト
- 第二十條 本則第二條第六條第八條第一項第九條第十條第十一條第十三條第十四條第十五條第十六條第十九條ニ違背シタル者及第四條ノ停止命令並第七條ノ命令ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 附則
 - 第二十一條 從來ノ營業用家屋ニシテ本則第五條ニ適合セサルモノハ明治四十年六月末日マテ本則ニ依リ構造ヲ改ムヘシ
 - 第二十二條 從來ノ營業者ニシテ本則第八條第九條ノ規定ニヨリ届出ヲ要スヘキモノハ本則施行ノ日ヨリ十日以内ニ警察官署ニ届出ツヘシ
 - 第二十三條 從來營業者ハ本年十二月末日マテニ營業用家屋平面圖ヲ警察官署ニ差出スヘシ

- 特種婦女取締規則別冊ノ通改正ス但シ本令施行ノ際現ニ貸席ニ於ケル藝妓ニシテ別ニ申請ヲ爲ササル者ハ乙種藝妓ト認メ特種婦女名簿ニ登錄セラルルモノトス
- (別冊) 特種婦女取締規則
 - 第一條 特種婦女トハ甲種藝妓乙種藝妓雜技附屬及貸席料理店飲食店アル仲居下婢ヲ謂フ
 - 第二條 甲種藝妓ハ滿十六年以上雜技ハ十六年未滿乙種藝妓及附屬ハ滿十八年以上トス但シ甲種藝妓ハ十六年未滿ト雖警察官署ニ於テ許可スルコトアルヘシ
 - 第三條 特種婦女タラムトスル者ハ特種婦女名簿ニ登錄ヲ受ケ其ノ認可ヲ受クヘシ
 - 特種婦女名簿ハ安東日本領事館警察官署ニ備付ケルモノトス
 - 第四條 特種婦女名簿ニ登錄セラレタル者ハ取締上警察官署ノ監督ヲ受クヘシ
 - 第五條 警察官署ハ特種婦女名簿ノ登錄ヲ拒ムコトヲ得
 - 第六條 領事ハ取締上必要ノ場合ニハ警察官署ヲシテ特種婦女ノ職業ヲ停止シ又ハ禁止セシム
 - 第七條 特種婦女名簿ノ登錄ハ特種婦女タラムトスル者自ラ警察官署ニ出頭シ左ノ事項ヲ具シ書面ヲ以テ之ヲ申請スヘシ
 - 一 特種婦女ノ種別及特種婦女タルノ理由
 - 二 族籍氏名年齢
 - 三 同一月籍内ニアル最近尊族親族親ナキトキハ戸主ノ承諾書
 - 四 未成年者ナルトキハ左ノ順位ニヨリ前項ノ外最近尊族親又ハ戸主ノ承諾書

●特種婦女取締規則

明治三十八年 明令第九號 改正(四〇號令三號)

第九 安東領事館

第九 安東領事館

- 一 實父 二 實母 三 實祖父 四 實祖母 五 實家ノ月主
- 六 特種婦女健康診断ナラスヘキ場所及職業名
- 七 他地方ニアリテ藝妓タリシ事實及開業年月日場所
- 八 雇主ノ契約書
- 九 戸籍謄本(第四項ノ場合ハ實家ノ戸籍謄本ヲモ要ス)
- 十 承諾書(與ヘタル者印證明)
- 十一 健康診断書
- 十二 職業年限(年限ヲ定メサル者ハ此ノ限ニ在ラス又年限ハ滿三年ヲ超ユルコトヲ得ス)
- 第十三條 甲種藝妓離職ニアリテハ前條第十號住居下婢ニアリテハ前條第三號第四號第六號第八號第九號第十號ヲ適用セス
- 第十四條 左ノ各項ニ該當スル者ハ乙種藝妓及酌婦タルコトヲ得ス
 - 一 配偶者アル者
 - 二 疾患其ノ他健康上職業ヲ爲スニ堪ヘスト診斷シタル者
 - 三 他人ニ誘惑セラレタル疑アルモノ又ハ第七條第三號第四號ニ掲グル事項ニ付事實上疑アリト認ムル者
 - 四 妊娠中ノ者
- 第十五條 乙種藝妓酌婦ハ指定地域内貸席ノ外居住又ハ職業ヲ爲スコトヲ得ス
- 第十六條 乙種藝妓及酌婦ハ警察官署ノ許可ヲ受クルニアラサレハ指定地域外ニ出テ若ハ宿泊スルコトヲ得ス
- 第十七條 罰則
- 第十八條 甲種藝妓及離職ハ警察官署ノ許可ヲ得タルトキノ外他ニ宿泊スルコトヲ得ス

宿屋ニ於テ客ノ招キニ應ジタルトキハ歌舞音曲ヲナスコトヲ得ス

- 第十三條 乙種藝妓及酌婦ハ特種婦女健康診断規則ニ依リ診斷ヲ受ケヘシ但シ甲種藝妓住居下婢ハ臨時同則ニ依リ健康診断ヲ受ケシムルコトアルヘシ
- 第十四條 特種婦女ハ取締上警察官署ノ臨時ニ發スル特別ノ命令ヲ遵守スヘシ
- 第十五條 特種婦女健康診断ニ依リ職業ニ堪ヘサル疾病又ハ傳染性疾患アル者ト認メラレタルトキハ全治ノ上更ニ健康診断ヲ受ケルニ依リテハ職業ヲナスコトヲ得ス
- 第十六條 特種婦女一時休業セムトスルトキハ其ノ旨警察官署ニ届出テ登錄シテ假病シ置キ就業ノトキ其ノ下付ヲ受ケヘシ
- 第十七條 特種婦女名簿削除ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テスヘシ前項ノ申請ハ自ラ警察官署ニ出頭シテ之ヲナスニアラサレハ受理セサルモノトス但シ正當ノ理由アルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十八條 特種婦女名簿ノ登錄ヲ受ケタル後族籍氏名若ハ職業名ヲ改メ又ハ職業場所及居住ノ場所ヲ變更シタルトキハ即日警察官署ニ出頭シ名簿ノ訂正ヲ申請スヘシ
- 第十九條 名簿削除申請ヲ受理シタルトキハ直ニ名簿ヲ削除スルモノトス
- 第二十條 特種婦女名簿削除申請ニ關シテハ何人ト雖妨害スルコトヲ得ス
- 第二十一條 特種婦女通信面會文書ノ附屬物件ノ所持購買其ノ他ノ自由ヲ妨害セラレタルトキハ其ノ旨警察官署ニ届出ツヘシ
- 第二十二條 特種婦女職業中ハ必ス登錄證ヲ携帯スヘシ

罰則

- 第二十三條 左ノ各項ニ該當スル者ハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 - 一 虚偽ノ事項ヲ具シ特種婦女名簿ノ登錄ヲ申請シタル者
 - 二 指定地域貸席外ニ於テ乙種藝妓及酌婦職業ヲナシメタル者
 - 三 罰則
 - 四 本人ノ意ニ反シテ強テ特種婦女名簿登錄申請又ハ登録削除申請ヲ爲サシメタル者
 - 五 特種婦女名簿削除申請ニ關シテ第二十條ニ違背シタル者
 - 六 特種婦女ノ通信面會文書ノ附屬物件ノ所持購買其ノ他ノ自由ヲ妨害シタル者
 - 七 第十五條ニ違背シタル特種婦女及第十五條ニ依リ職業ニ就クコトヲ得サル特種婦女チシテ強テ職業ニ就カシメタル者
 - 八 第六條ノ停止命令ニ違背シタル特種婦女チシテ強テ職業ニ就カシメタル者
 - 九 特種婦女名簿ニ登錄ヲ受ケシテ其ノ職業ヲナシタル者又ハ爲サシメタル者
 - 十 本則第十條第十一條第十二條第十四條第十六條第十八條第二十二條ニ違背シタル者

●特種婦女健康診断規則

明治三十二年七月二十六日 明令 第十號

特種婦女健康診断規則別冊ノ通改正ス

(別冊) 特種婦女健康診断規則

第一條 特種婦女健康診断ハ警察官署ノ指揮監督ヲ受ケ醫院ニ於テ行

第九 安東領事館

フモノトス

- 第二條 乙種藝妓及酌婦ハ毎週一回登錄證ヲ携帶醫院ニ出頭シ健康診断ヲ受ケヘシ
- 第三條 臨時健康診断ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ行フモノトス
 - 一 乙種藝妓及酌婦特種婦女名簿ニ登錄ヲ申請スルトキ
 - 二 職業停止及休業中ノ者職業ニ就カムトスルトキ
 - 三 定期検査ヲ受ケザリシ乙種藝妓及酌婦其ノ職業ニ就カムトスルキ
- 第四條 甲種藝妓住居下婢ニ對シテ特種婦女取締規則第十三條但書ノ場合ニ於テハ乙種藝妓酌婦等傳染性疾患ニ罹リタルコトヲ自覺シ診斷ヲ届出ナタルトキ
- 第五條 以上ノ外特種婦女ニ對シテ必要ト認メタルトキ
- 第六條 指定地域貸席内ニアル乙種藝妓及酌婦ハ休業中ト雖定日ノ健康診断ヲ受ケヘシ
- 第七條 事故ノ爲定日醫院ニ出頭健康診断ヲ受ケル能ハサル乙種藝妓及酌婦ハ其ノ事由ヲ具シ當日午前九時迄ニ醫院ニ届出ツヘシ
- 第八條 本則第三條第二項第三項ノ場合ニ於テハ健康證明書ヲ受ケ警察官署ニ差出スヘシ
- 第九條 健康診断ニ依リ職業ニ堪ヘサル疾病又ハ他人ニ接觸シ傳染ノ虞アリト認メタルトキハ即日醫院ニ入院セシム
- 第十條 本則第二條第四條第五條第六條第七條及第七條ノ入院ヲ肯セザリシ者ハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●人力車營業取締規則 明治三十八年四月二日 安東縣軍政署令

人力車營業取締規則

- 第一條 人力車營業ヲ爲サムトスル者ハ營業規則第一條ニ依ルノ外更ニ本規則ニ據リ營業場所其ノ他軍政署ニ於テ時々指定ノ事項ヲ詳記シ營業願書ニ略歴書ヲ添ヘ軍政署ニ出願許可ヲ受クヘシ
- 場所トハ軍政署ノ指定シタル公設人力車停車場若ハ認可ヲ得タル私設人力車停車場ヲ謂フ
- 第二條 人力車營業トハ自ラ車ヲ轆キ又ハ轆子ヲ置キテ營業スルモノヲ謂フ
- 第三條 轆子ヲシテ營業ヲナサムトスルモノハ第一條ニ準シ願出テ一人ニ付轆札一箇ヲ受クヘシ
- 第四條 左ノ場合ニ於テハ其ノ旨届出テ書換又ハ再被ヲ請フヘシ
 - 一 轆札一面ニ移動ヲ生シタルトキ
 - 二 文字不分明ニ至リタルトキ
 - 三 遺失毀損シタルトキ
- 第五條 左ニ該當スル者ハ營業ヲナスコトヲ許サス
 - 一 十七歳ニ滿タサル者又ハ身體強壯ナラサル者
 - 二 知覺精神不充分ノ者
 - 三 市内ノ地理不充分ノ者
 - 四 醉狂又ハ暴行ノ癖アル者
 - 五 強盜強姦又ハ幼者ヲ辱取墮拒スル罪ヲ犯シタル者
- 第六條 就業者ハ左ノ制限ニ從フモノトス
 - 一 公設若ハ私設人力車停車場ニ於テ就業スルコト

- 二 著服ハ法被股引又ハ牛股引
- 三 冠リ物ハ帽子又ハ笠
- 四 雨具ハ纏引又ハ桐油製若ハ羅紗
- 第七條 人力車ノ賃錢ハ營業ノ場所ニ揭示スヘシ
- 第八條 左ニ記載ノモノハ乗載スヘカリス但シ軍政署憲兵ノ命シタルモノ又ハ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在リス
 - 一 七種傳染病者
 - 二 汚穢物其ノ他車ヲ汚損シ又ハ惡臭ヲ留ムル物品
- 第九條 客ヨリ求メアリタルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス但シ暴行者及瘋癲人ハ此ノ限ニ在リス
- 第十條 本則ニ違背セル者ハ犯情ノ程度ニ據リ二十錢以上二圓以下ノ料ニ處ス

●安東縣出入船舶取締規則 明治三十八年 安東縣軍政署令

- 第一條 安東縣ニ出入スル船舶ハ安東縣兵站司令官ノ指定場所ニ限リ其ノ乗客及船員ノ乗降ヲ爲サシメ又ハ其ノ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得但シ出入港ノ際ハ船長又ハ取扱者ヨリ別紙書式ニ準シ届書ヲ提出スヘシ
- 第二條 安東縣ニ出入スル船舶ハ検査ヲ受ケルニアテサレハ其ノ乗客及船員ヲ乗降セシメ又ハ其ノ貨物ノ積卸ヲナスコトヲ得ス
- 第三條 安東縣ニ出入スル船舶ノ船長又ハ取扱者ハ入港乗客ノ原籍氏名年齢職業資産渡航ノ目的及出港乗客ノ渡航先ヲ記載シテ届出ツヘシ
- 第四條 安東縣ヲ出港スル船舶ハ警察官吏ノ乗船證明ナキ乗客ヲ乗船セ

シムルコトヲ得ス

- 第五條 貨物ヲ安東縣ヨリ輸出シ又同地ニ輸入セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル輸出申付書ヲ船長若ハ取扱者ヨリ警察官吏ニ提出シ輸出又ハ揚陸許可ヲ受クヘシ
 - 一 貨物ノ品目、數量、原價、發送地又ハ仕向港名
 - 二 荷受人、荷受人
- 第六條 安東縣兵站司令官ハ警察官吏ヲシテ船舶ヲ臨檢セシメ必要ト認ムル場合ハ臨檢官吏ヲシテ乗客及船員ノ乗降若ハ貨物ノ積卸ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第七條 第一條第二條ニ違犯シタル船舶ノ船長又ハ取扱者ハ銀十圓ノ罰金ニ處ス
- 第八條 左ノ諸項ニ該當スル者ハ銀二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 第三條ノ届出ヲ怠リタル者
 - 二 第四條ニ違犯シタル船舶ノ船長又ハ取扱者
 - 三 第五條第六條ニ違犯シタル者及船舶ノ船長又ハ取扱者
- 第九條 此ノ規則ハ發布ノ日ヨリ施行ス
- 第十條 此ノ規則發布ト同時ニ漢ニ發布シタル貨物輸出入規則及船舶輸出入規則ヲ廢止ス

●渡船營業取締規則 明治三十八年四月二日 館令第四號

- 渡船營業取締規則別冊ノ通相定ム
- (別冊) 渡船營業取締規則
- 第一條 渡船營業ヲナサムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ領事ニ願出テ許可

ヲ受クヘシ

- 一 營業者ノ本籍住所氏名年齢及商號但シ法人ノ營業ニ係ルトキハ社名定款其ノ代表者ノ本籍住所氏名年齢
- 二 營業所ノ位置
- 三 發着地及寄船地名
- 四 營業ノ目的(旅客又ハ貨物ノ區別)
- 五 資本ノ金額但シ法人ナルトキハ其ノ拂込金額ヲ記載スヘシ
- 六 營業用船舶ノ種類及艘數
- 本條第一號第二號ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ届出テ第三號乃至第六號ノ事項ヲ變更セシムルコトキハ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 營業用ノ船舶ハ左ノ各項ニ適合スルヲ要ス
 - 一 構構ヲ以テ運轉スル船舶ニ在リテハ其ノ構造堅牢ニシテ必要ナル器具ノ完備スルモノ
 - 二 蒸氣機關又ハ石油發動機ニヨリ運轉スル船舶ニ在リテハ船體所在ノ地ノ海事局又ハ相當官署ノ検査ニ合格シタルモノニシテ且六馬力以上ノ公證明ヲ有スルモノ
 - 第三條 構構ヲ以テ運轉スル船舶ニ在リテハ乗組員水夫三名以上汽船ニ在リテハ船長機關手火夫助手並荷客取扱人各一名以上又石油發動機船ニ在リテハ船長機關手助手及荷客取扱人各一名以上ヲ乗込マシムヘシ
 - 第四條 營業者ハ業務開始以前ニ保證金トシテ金千圓又ハ之ニ相當スル有價證券ヲ領事ニ供托スヘシ
 - 第五條 前項保證金ニ欠缺ヲ生シタルトキハ十日以内ニ之ヲ補充スヘシ
 - 第六條 營業ニ使用スル船舶ハ使用前其ノ構造噸數(構構ヲ以テ運轉スル船舶ニ在リテハ船長サ)乗客定員並貨物積載高ヲ記シ警察官吏ニ届

第九 安東領事館

出テ検査證ヲ受ケ且爾後毎年三月七月ノ兩度検査ヲ受ケヘシ其ノ検査

ヲ受ケサル船舶ハ營業上使川スヘカラス

第六條 検査證アル船舶ト雖被損汚敗セルモノト認メタルトキハ警察官

署ニ於テ修繕ヲ命ジ若ハ其ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第七條 營業者ハ乘降場ノ附近ニ事務所ヲ設ケ乗客ノ便利ヲ圖ルヘシ

事務所ノ位置ハ警察官署ノ認可ヲ受ケヘシ

第八條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 客引ヲ出シ又ハ群衆ノ手段ヲ以テ乗客ヲ誘引スヘカラス

二 制限外ノ乗客又ハ荷物ヲ搭載スヘカラス

三 客室内ニハ手荷物ノ外貨物ヲ運載スヘカラス

四 警察官署ノ認可ヲ經タル一定ノ時間毎ニハ乗客ノ數定員ニ滿タス

ト雖直ニ出船スヘキコト

五 貨物輸送ヲ目的トスル船舶内ニ旅客ヲ搭載スヘカラス

六 名義ノ何タルヲ問ハズ指定以外ノ貨物ヲ請求スヘカラス

七 營業中船舶ニハ常ニ標旗ヲ掲ケ夜中ハ標燈ヲ用ユヘキコト但シ其

ノ標章ハ豫メ警察官署ニ届出ツルヲ要ス

八 船舶内待合所及上陸地附近ハ常ニ清潔ニ掃除スヘキコト

九 荷客取扱人ニハ認識シ易キ徽章ヲ表示セシムルコト

第十條 貨物取扱時間ハ警察官署ニ届出テ認可ヲ受ケヘシ

認可シタル貨物ト雖警察官署ニ於テ必要ト認メタルトキハ其ノ變更ヲ命

スルコトアルヘシ

第十一條 渡船場ニハ貨物表ヲ揭示シ且警察官署ノ指示ニ從ヒ水量標ヲ設

クヘシ

第十二條 警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ發船時刻及其ノ順序ヲ指

示シ又ハ船内階上ノ設備ヲ命ジ若ハ一時停船セシムルコトアルヘシ

第十三條 本令若ハ本令ニ基キ發シタル命令ニ違反シ又ハ公益上必要ヲ

リト認ムルトキハ領事ハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

第十四條 第一條第三條第七條第八條第九條ニ違反シ又ハ第六條第十二

條ニ基キ命令ニ違反シタルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十五條 家族又ハ雇入ノ所爲ト雖營業者其ノ責任ニシテハ營業者法人

ナルトキハ代表者ニ於テ本令ノ責任スルモノトス

第十六條 捕獲ヲ以テ運轉スル船舶二艘以下ヲ以テ營業スル者及安東新

義州以外ノ渡船ニ就テハ當分ノ内本令第四條第七條ヲ適用セス

附則

第十七條 本令ハ冬期結氷ノ間渡江營業ヲナス者及其ノ運具ニ之ヲ準用

ス

第十八條 從來ノ營業者ニシテ引續キ營業セムトスル者ハ本令發布後二

週間以内ニ本令ノ手續ヲ爲ササレハ廢業シタルモノト認ム

●船務營業取締規則

明治三十二年九月六日 館令第九號

船務營業取締規則別册ノ通相定ム

(別册) 船務營業取締規則

第一條 明治四十年館令第四號渡船營業取締規則ヲ廢止スルニ準用ス但

シ同規則第四條第七條第十六條ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 運送又ハ回清業者ニシテ船舶ヲ使用シ本船ト陸地トノ間ニ荷物

又ハ乗客ノ運搬ヲ取扱フ者ハ本令ニ於テハ之ヲ船務營業ト看做ス

第三條 船務營業者ハ本令施行後一週以内ニ明治四十二年館令第三號營

業取締規則ニ據リ營業出願ノ手續ヲナスヘシ

第四條 船務營業者ハ本令施行後二週間以内ニ組合ヲ組織シ組長副組長

ヲ選定シテ警察署ノ認可ヲ受ケヘシ組合ニ加入セザル者ハ營業者タル

コトヲ得ス

第四條 船務營業組合ハ規約ヲ定メ警察署ノ認可ヲ受ケヘシ

前項ノ規約ニ於テハ左ノ事項ヲ規定スルヲ要ス

一 組合ノ組織

二 組合ノ維持方法

三 貨客取扱方法

四 貨客運搬資金

五 其ノ他營業上必要ナル事項

附則

第五條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●質屋營業取締規則 明治三十二年二月十日 館令第一號

質屋營業取締規則左ノ通相定ム

質屋營業取締規則

第一條 質屋營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願

出テ許可ヲ受ケヘシ其ノ支店又ハ出張所ヲ設ケムトスルトキ亦同シ

一 營業所

二 營業者ノ本籍、住所、族稱、氏名、生年月日

三 共同營業ニ在リテハ其ノ主任者及共同者ノ本籍、住所、族稱、氏名、

生年月日並出資額

四 屋號又ハ商號

五 資本金額

支店又ハ出張所ニ於テハ管理人ヲ設ケ其ノ本籍、住所、族稱、氏名、生年

第九 安東領事館

月日拉本店ノ所在地及其ノ屋號又ハ商號

前項ノ事項中變更ヲ生シタルトキハ三日以内ニ届出ツヘシ但シ營業所

其資本金額ノ變更ニ付テハ願出テ許可ヲ受ケルコトヲ要ス

第二條 質屋營業者ハ領事ノ認可ヲ受ケ組合ヲ設ケルコトヲ得其ノ契約

ハ領事ノ認可ヲ受ケヘシ

領事ニ於テ取締上必要ト認ムルトキハ組合規約ノ改正又ハ役員ノ改選

ヲ命スルコトアルヘシ

第三條 質屋營業者ハ其ノ店舗外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 質屋營業者ハ店頭ニ標札ヲ掲ケ且左ノ事項ヲ其ノ店舗内ノ見馬

キ場所ニ揭示スヘシ

一 利子ノ歩合

一 流質期限

一 貨物ノ運搬ニ係リタルトキノ處辨方

一 貨物出入時間

第五條 質屋營業者ハ質置主ノ買入物件ニ對スル權利確證ノ上質契約ヲ

締結スヘシ若シ不正品ノ嫌疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第六條 質屋營業者ハ住所氏名不詳ノ者ノ物品ヲ質契約ノ目的トナスコ

トヲ得ス但シ住所氏名不詳ナル者ノ保證又ハ警察官ノ許可アリタルト

キハ此ノ限ニ在ラス

第七條 質屋營業者ハ一定ノ額額ヲ備ヘ質契約ニ關スル事項ヲ詳記スヘ

シ

質屋營業者ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ

第八條 質屋營業者ハ通帳ノ帳簿及通帳ノ格式ハ別ニ之ヲ定ム

第九條 質屋營業者ハ其ノ管理ノ注意ヲ以テ貨物ヲ保管シ轉賣後

第九 安東領事館

用収益者ハ貸付ナスコトヲ得ス

第九條 實業主ハ流賃期限内何時ニテモ元利金ヲ辨濟シテ其ノ貨物ヲ受戻スコトヲ得

第十條 質屋營業者ハ質札又ハ通帳持受人ノ請求ニ應シ其ノ貨物ヲ返還スルコトヲ得

第十一條 質屋營業者ハ流賃期限經過後自由ニ其ノ貨物ヲ處分スルコトヲ得

第十二條 領事ニ於テ必要ト認ムルトキハ警察官チシテ質屋營業所其ノ倉庫又ハ貨物ヲ設置セリト認ムル場所ニ臨檢セシメ若ハ營業ニ關スル帳簿ヲ檢閲セシムルコトアルヘシ

第十三條 傳染病汚染ノ虞アル物件ハ消毒ノ後ニアラサレハ質屋營業者ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第十四條 警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ賊物品圖書ヲ發スルコトアルヘシ

第十五條 貨物ニシテ遺失物若ハ賊物ナルトキハ警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付ス被害者知レサルトキハ二箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

第十六條 質屋營業者ハ帳簿閉鎖ノ日ヨリ起算シ三箇年間其ノ營業ニ關ルモノト看做ス

質屋營業取締規則中ノ標札其他ノ様式

明治四十三年館令第一號質屋營業取締規則第四條ノ標札及第七條ノ帳簿様式ハ略ス

● 雇人口入營業取締規則 明治三十九年七月一日 安東縣軍政署令

第一條 本則ニ於テ雇人口入業ト稱スルハ名稱ノ如何ニ拘ラズ手數料ヲ受ケ雇傭人ノ周旋ヲ爲ス業トセル者ヲ謂フ

第二條 雇人口入業ヲ爲サントスル者ハ本則ニ據ルノ外安東縣軍政署管内居住民營業取締規則ニ據ルモノトス

第三條 業務辦理ノ爲手代又ハ雇人ヲ使用スル營業者ニシテ其ノ雇入又ハ解雇ヲ爲シタルトキハ原籍氏名年齢ヲ記シ經歷書及戶籍謄本ヲ添ヘ三日以内ニ安東縣軍政署ヘ届出ツヘシ

第四條 左ニ掲ケル者ハ雇人口入業ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 未成年又ハ白痴癡癲盲啞ニシテ後見人ナキ者
二 婦ニシテ夫ノ承諾ナキ者
三 強盜詐欺取財贓品功者略取誘拐又ハ遺棄賭博竊其ノ他破廉耻罪ニ據リ處刑セラレ滿期後三箇年ヲ經過セサル者
四 三回以上本則ニ違反シテ拘留又ハ罰金ニ處セラレタル者
五 第三項第四項ニ記載ノ者ト居テ同スル者就財產共通ノ者
六 前各項ニ觸レサルモ平素品行不真ト認ムル者

第九 安東領事館

スル帳簿ヲ保存スルコトヲ要ス

若シ前項ノ期間内ニ之ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受ケヘシ

第十七條 休業又ハ廢業ヲ爲サントスルトキハ其ノ休業又ハ廢業前二届出ツヘシ但シ休業ニアリテハ其ノ期間ヲ表示スルコトヲ要ス

第十八條 質屋營業者ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スルトキハ領事ハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一 公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊スノ行爲アリト認メタルトキ

二 本則ニヨリ處罰セラレ尙改悛ノ狀ナシト認メタルトキ

許可ヲ取消サレタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理人又ハ管理人タルコトヲ得ス營業停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間内亦同シ

第十九條 質屋營業者廢業、休業シ若ハ營業ノ許可ヲ取消サレタルトキト雖其ノ以前ニ締結シタル質屋契約及其ノ目的物ニ付テハ尙本則ヲ適用ス營業停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間内亦同シ

第二十條 領事ハ取締ノ必要上質屋營業者ニ對シ特ニ命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 本則ニ基テ命令若ハ處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則 本則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本則施行ノ際許可ヲ經テ現ニ質屋營業ヲ爲ス者ハ本則ニ依リ許可ヲ得タルモノト看做ス

人タルコトヲ得ス

第六條 營業者ハ左ニ掲ケル者ノ口入ヲ爲スヘカラス

一 十八歳未満ノ者ニシテ親族若ハ後見人ノ承諾ナキ者

二 婦ニシテ夫ノ承諾ナキ者

三 舊妓附婦ニ在テハ父母若シ之レ在ラザルトキ又ハ意志ヲ表示スルコト能ハサルトキハ最近雇傭ノ承諾書及承諾書ノ印鑑證明書但シ戶主ノ承諾書ヲ以テ之ニ換フルコトヲ得

四 安東縣軍政署管内居住民ニアラサル者

第七條 營業者ニ於テ給銀ノ多寡ヲ定メ雙方ニ對稱スル等ノコトヲ爲スヘカラス

第八條 街路及船車發着ノ場所又ハ各家ニ人ヲ出シ或ハ自ラ出テ雇人タルヘキ者ノ手引ヲナスヘカラス

第九條 雇人口入手數料ハ雇主及雇人雙方平分シテ之ヲ負擔スヘシ

第十條 雇人口入業者カ領收スル手數料金高ハ雇人ノ受ケヘキ一箇月給料額十分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第十一條 雇人口入營業者ハ其ノ受取ルヘキ手數料ヲ定メ店內見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十二條 營業者ハ口入ヘキ雇人ヲ宿泊セシムルコトヲ得ス

第十三條 營業者ハ雇主委託簿及雇人口入簿ヲ製シ整理且明瞭ニ記載スヘシ但シ其ノ帳簿ハ新調ノトキ紙數ヲ記シ安東縣軍政署ノ檢印ヲ受ケ

第十四條 安東縣軍政署ニ於テ必要ト認ムルトキハ營業者ノ業務及帳簿ヲ臨時點檢スルコトアルヘシ

第十五條 本則第三條乃至第十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ五日以下ノ

第九 安東領事館

拘留又ハ二十五以下ノ罰銀ニ處ス
第十六條 故意ヲ以テ帳簿ノ記載ヲ忘リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ前條ニ同シ

第十七條 本則ハ明治三十九年七月一日ヨリ施行ス

●湯屋營業取締規則 明治三十八年七月一日 安東縣軍政署令

湯屋營業取締規則

- 第一條 湯屋營業ヲササムトスル者ハ安東縣營業取締規則ニ依ルノ外更ニ本規則ニ據ルヘキモノトス且出願ニ際シテハ原籍族籍氏名住所年齢營業ノ場所及構造ノ使用費並左ノ事項ヲ詳記スヘシ其ノ改造場所ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ
 - 一 浴湯及燃料ノ種類
 - 二 湯錢ノ額
- 第二條 浴場ノ構造落成シタルトキハ安東縣兵站司令部軍政事務所ニ届出テ検査ヲ受ケヘシ検査済ノ認許ヲ受ケルニアラサレハ營業開始スルコトヲ得ス
- 第三條 五日以上休業スルトキハ安東縣兵站司令部軍政事務所ニ届出ツヘシ
- 第四條 正當ノ事由ナクシテ左ノ事項ノ一ニ觸ルル者ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ
 - 一 免許ノ日ヨリ十日以内ニ建設ニ着手セザルトキ
 - 二 天災ニ依リ營業所滅失又ハ破壊シ二十日以内ニ再建セザルトキ
 - 三 休業三十日以上ニ及ヒタルトキ

1110

四 晝間店頭ニハ營業者ノ商號ヲ記シタル看板(縦三尺以上横七寸以上)ヲ夜間ハ標燈ヲ掲ケヘシ

第五條 湯錢額ハ場内見易キ所ニ揭示スヘシ

第六條 前日用ヒタル湯水又ハ汚水ヲ使用ニ供スヘカラス

第七條 男女混浴セシムヘカラス但シ十歳未満ノ小兒ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 浴客ノ衣類及携帶品ハ看守ヲナスヘシ

第九條 營業時間ハ日出ヨリ午後十一時限リトシ但シ烈風ノ節ハ時間ニ拘ラス焚火停止ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 消炭及灰ハ一定ノ場所ヲ設ケ投棄スヘシ但シ二十四時間ヲ経過シ火氣消散シタル後ニアラサレハ棄ツヘカラス

第十一條 浴場ノ破損ヲ生シタルトキハ速ニ修理ヲ加フヘシ但シ一部ノ修理ニ係ルトキハ落成後安東縣兵站司令部軍政事務所ニ届出テ検査ヲ受ケヘシ

第十二條 浴場ノ出入口ニハ男女ヲ異ニシ其ノ戸障子ハ外部ヨリ見透シ得サル如ク設備スヘシ

第十三條 場内ニハ衣類及下足其ノ他携帶品ヲ保管シ得ヘキ器具ヲ備フヘシ

第十四條 男女浴場ノ境界ハ高サ六尺以上ニシテ見透シ得サル圍柵ヲ設ケヘシ

第十五條 浴槽ハ男女各別ニ之ヲ設ケ且流シ湯及天井ノ中央ニハ湯氣遮ヲ設ケヘシ

第十六條 流シ湯ニハ水槽ヲ設ケヘシ但シ浴用ニ供シタル汚水ハ停滯ナク屋外ニ流下セシムル裝置ヲナスヘシ

附則

第十七條 此ノ規則ハ明治三十八年十月一日ヨリ施行ス
第十八條 明治三十七年湯屋營業取締規則ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ廢止ス

●古物商取締規則 明治三十八年十月七日 館令第八號

古物商取締規則別冊ノ通相定ム(別冊) 古物商取締規則

- 第一條 古物商ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ記シ警察署ニ送付シ許可ヲ受ケヘシ
 - 一 族籍、住所、氏名、生年月日並從前ノ職業
 - 一 營業物品ノ種類
 - 一 營業場所又ハ所在地
- 第二條 營業物品ノ種類ヲ増減變更セムトスルトキハ其ノ種類ヲ記シ警察署ニ届出ツヘシ
- 第三條 營業管理人ヲ置カムトスル者ハ管理人ノ族籍、住所、氏名、生年月日、從前ノ職業及管理スヘキ營業場所ヲ記シ警察署ニ届出ツヘシ 管理人ノ族籍、住所、氏名ニ異動アリタルトキハ五日以内ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ
- 第四條 營業者ハ第一號様式ニ依リ看板ヲ調製シ營業所又ハ店舗内見易キ場所ニ掲出スヘシ
- 第五條 營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製シ第二號乃至第四號様式ニ依リ物品ノ種類、品質、模様、員數、代價、番號、年月日並買賣交換等ニ關スル事由ヲ詳記シ其ノ出入ヲ明ニスヘシ
 - 一 物品買入、讓受、明細帳
 - 一 物品賣拂、讓渡、明細帳

第九 安東領事館

一 物品販賣明細帳

第六條 帳簿ハ新調若ハ變換ノ都度紙數ヲ記シ警察署ニ送付シ檢印ヲ受ケヘシ

第七條 品隔寫書ハ番號ヲ追テ順序整理シ置クヘシ

第八條 營業者行商又ハ露店販賣ヲ受ケムトスルトキハ願書ニ其ノ者ノ族籍、氏名、生年月日ヲ記シ鑑札用木札ヲ添ヘ所轄警察署ニ送付シ檢印ヲ受ケヘシ

鑑札用記載ノ事項ニ異動ヲ生シ又ハ鑑札ヲ毀損シ失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ第一項ノ手續ニ依リ五日以内ニ更正又ハ新規鑑札ニ檢印ヲ受ケヘシ

營業者行商又ハ露店販賣シタルトキハ五日以内ニ警察署ニ鑑札ヲ添ヘ届出ツヘシ

第九條 營業ノ廢止營業場所又ハ店舗ノ閉鎖、移轉、營業者及後見人ノ終了ハ五日以内ニ警察署ニ届出ツヘシ後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ警察署ニ届出ツヘシ但シ死亡者非主ナルトキハ死亡者ハ主ヨリ届出ツヘシ

後見人ニ因リ營業ノ免許ヲ届出テ又ハ後見人ノ變更ヲ届出テムトスルトキハ其ノ後見人ニ關スル原籍市町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第十條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ理由ヲ説明シ警察署ニ届出ツヘシ

第十一條 古物ノ市場開設セムトスル者ハ規約書ヲ添ヘ警察署ノ認可ヲ受ケヘシ規約書ノ加除訂正ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

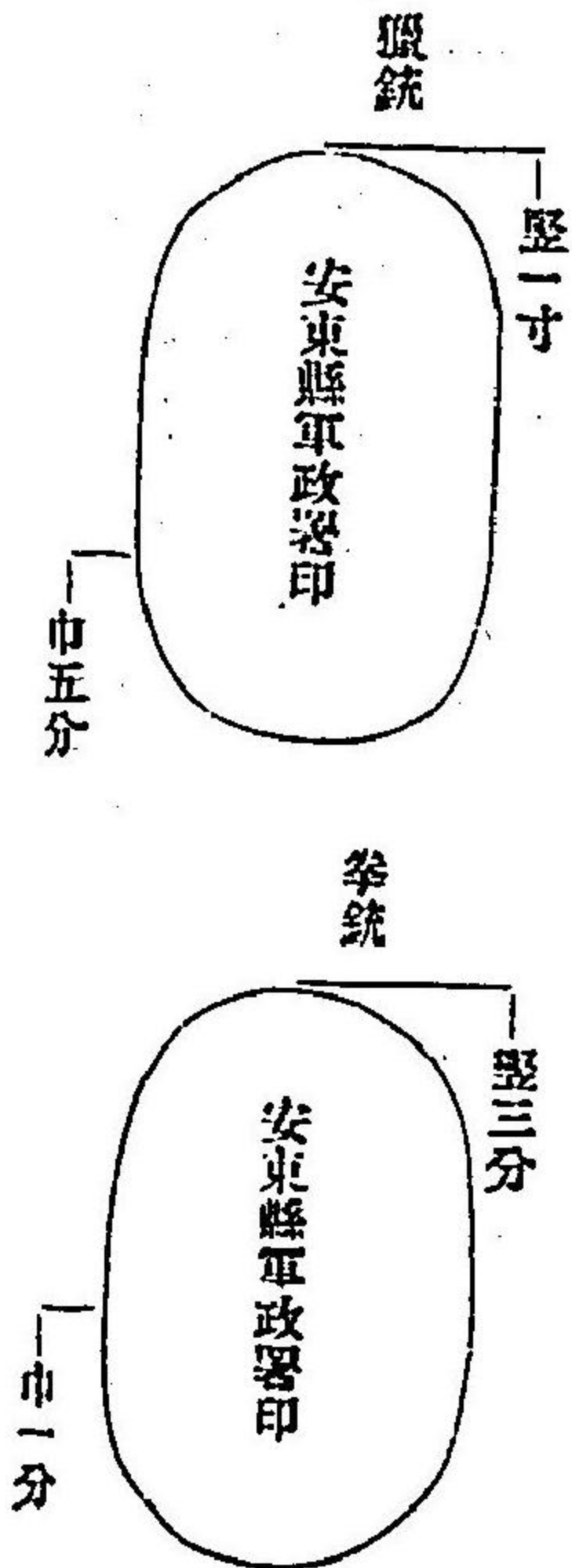
第十二條 古物販賣ヲ爲サムトスル者ハ豫メ其ノ日時並場所ヲ警察署又ハ派出所ニ届出ツヘシ

第九 安東領事館

第十三條 古物商ハ露店ニ途上其ノ他公ノ場所ニ於テ古物商ニ非サル者ヨリ古物ヲ買取り譲受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス
第十四條 古物商ハ行商ニ依リ又ハ露店、市場ニ於テ刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ヲ賣買交換スルコトヲ得ス
第十五條 營業者組合ヲ設ケムトスルトキハ組合員ノ氏名ヲ記シ組合規約書ヲ添ヘ警察署ニ届出テ認可ヲ受ケヘシ其ノ規約事項ヲ變更増減セムトスルトキ亦同シ
第十六條 第二條乃至第十四條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス(様式略ス)

銃器賣買營業取締規則 明治三十七年七月一日 安東縣軍政署令

第一條 銃器賣買營業トハ獵銃銃銃及其ノ附屬品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ業トスル者ヲ指フ
第二條 銃器賣買營業者ハ本則ニ據ルノ外安東縣軍政署管内居住民營業取締規則ニ據ル者トス
第三條 銃器賣買營業者ノ販賣スル銃器ハ左ノ烙印ヲ刻シタルモノナルコトヲ要ス



第四條 銃器及其ノ附屬品ヲ購入セムトスル者ハ安東縣軍政署ノ證明書ヲ營業者ニ示スヘシ
第五條 銃器ヲ購入セムトスル者ハ營業者ニ對シ銃器ヲ所持セザルコトヲ立證スルコトヲ要ス
第六條 營業者ハ毎月買受ケタル銃器及火藥ノ種類數量ヲ記シ(報告アレハ之ヲ添ヘ)翌月十日迄ニ安東縣軍政署ニ届出シヘシ
第七條 銃器賣買營業者ハ其ノ營業ニ關スル一切ノ帳簿ヲ備ヘ購入人名種類數量用途ヲ記入シ且フ旬報ヲ以テ安東縣軍政署ヘ報告スルコトヲ要ス
第八條 安東縣軍政署ニ於テ銃器火藥ノ検査ヲ必要ト認ムルトキハ營業者タル者トシテ同ハス臨時之ヲ検査スルコトアルヘシ
第九條 銃器賣買營業者力購入者ニ火藥ヲ販賣セムトスルトキハ一回ニ付火藥三百發彈藥五百發ヲ超ユルコトヲ得ス
第十條 營業者ニ非サル者相互ニ所有ノ銃器及其ノ附屬品ヲ買受ケ又ハ譲受ケムトスルトキハ其ノ旨趣種類及數量ヲ記シタル帳簿ニ雙方連署シテ安東縣軍政署ノ許可ヲ受ケヘシ
第十一條 銃器賣買營業者ハ其ノ賣渡證書ヲ取リ置クヘシ
第十二條 銃器賣買營業者ハ安東縣軍政署ノ許可ヲ得ルニ非サレハ銃器火藥ノ輸入ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 火藥ハ安東縣軍政署ノ許可ヲ得ルニ非サレハ日出前日没後ニ於テ賣買運搬其ノ他荷送等ヲ爲スヘカラス
第十三條 營業者ハ火藥三百發管導火管五百箇迄ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得
第十四條 營業者ハ前項制限ノ外火藥十貫目割發火藥一貫目管導火管一萬箇マテハ安東縣軍政署ノ許可ヲ受ケ倉庫ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得其ノ數量ヲ超ユルトキハ火藥庫ノ外ニ之ヲ貯藏スルコトヲ許サス火藥五百貫目以上割發火藥五十貫目以上ハ火藥庫ト雖之ヲ貯藏スルコトヲ許サス
第十五條 火藥庫一庫内ニ貯藏スルトキハ其ノ種類毎ニ不燃質物ヲ以テ之ヲ區別スヘシ
第十六條 火藥庫ヲ建設セムトスル者ハ其ノ位置或建設ノ方法及近傍地圖ヲ添ヘ安東縣軍政署ヘ願出テ其ノ許可ヲ受ケヘシ
第十七條 火藥庫ハ社寺公園家屋火ヲ取扱フ場所宅地國道縣道鐵道電信柱汽船ノ通スヘキ河湖及他ノ火藥庫境界トノ中間ニ五十間以上ノ距離ヲ有スヘシ
第十八條 火藥庫ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ
一 建物ハ石造煉瓦造又ハ土蔵ヲ以テ堅牢ニ工作シ家根ハ量輕ノ不燃質物ヲ以テ之ヲ覆フヘシ
二 建物ノ内部ハ鐵釘石瓦ヲ露サス又窓ニハ透明ノ硝子ヲ用ウヘカラス
三 避雷針ヲ設ケ庫外ノ周圍ニ二間以上ヲ隔テテ高サ六尺以上ノ牆壁又ハ土塊ヲ築クコト
四 火藥庫ノ入口ニ火藥庫ト書シタル標木(曲尺六尺以上ニシテ五角以上ノモノ)ヲ建ツヘシ

第九 安東領事館

第十八條 火藥庫ノ構造落成シタルトキハ安東縣軍政署ノ検査ヲ受ケ證明書ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
第十九條 火藥庫ヨリ十四間以内ノ地ニ材木草株其ノ他燃質物ヲ蓄積スヘカラス又五十間以内ニ於テ火ヲ取扱フ建築物ヲ設ケ若ハ瓦斯ノ傳導管ヲ施シ若ハ發火質ノ物品ヲ蓄積スヘカラス
第二十條 五貫目以上ノ火藥ヲ運搬セムトスルトキハ其ノ種類數量運搬ノ日時場所及水陸道路ノ名稱ヲ記シ安東縣軍政署ノ許可ヲ受ケ之ヲ携帶シ運搬等ラハ直ニ之ヲ返納スヘシ
第二十一條 五貫目以上ノ火藥ヲ運搬スルトキハ鐵釘鐵線ヲ用フザル木器亞鉛器若ハ銅器ニ入レ其ノ外部ハ篷包若ハ瀝布ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗(階階ニハ曲尺縱二尺横二尺五寸水路ノ小船ニハ曲尺縱三尺五寸横五尺)ヲ懸テ運搬人ヲ附スヘシ
第二十二條 火藥ヲ運搬スルニハ火氣ニ注意シ沐浴ノトキハ安全ナル場所ヲ獲ヒ看守人ヲ附スヘシ
第二十三條 私ニ銃器火藥ヲ賣買シ又ハ私ニ火藥庫ヲ建設シタル者ハ百圓以下ノ罰銀ニ處シ又ハ營業ヲ停止シ若ハ禁止シ情狀重キ者ハ關東總督府管外ニ退去ヲ命スルコトアルヘシ
第二十四條 本則第三條第四條第五條第十條第十一條第十五條第十六條第十七條ノ規定ニ違反シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ百圓以下ノ罰銀ニ處ス
第二十五條 本則第八條ノ検査ヲ拒ミ又ハ第九條第十三條第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ五日以下ノ拘留又ハ五十圓以下ノ罰銀ニ處ス
第二十六條 本則第六條第七條第十二條第十四條第十九條第二十條第二

第九 安東領事館

十一條 第二十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ三日以下ノ拘留又ハ二十五圓以下ノ罰銀ニ處ス

附則

第二十七條 本則ハ明治三十九年七月一日ヨリ施行ス

銃砲火藥類取締ニ關スル制限

明治四十二年八月二十五日 館令第十二號

營業者タルト否トテ問ハス銃砲火藥刀劍類ヲ賣渡シ交換シ貸與シ讓與セムトスル者ハ其ノ事由、種類、數量ヲ記シ雙方連署警察官署ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ

本令ニ違フ者ハ十日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

射的的遊藝營業ノ件

明治四十二年五月廿五日 館令第一號

射的ノ方法ヲ用ヰル遊藝營業ハ明治四十一年四月三十日ヲ限リ安東新市街指定地域内ヲ除ク外當館管内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ禁止ス
本令ニ違反シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

寄附金品募集取締規則

明治四十二年二月廿五日 館令第二號

寄附金品募集取締規則別冊ノ通定ム
(別冊) 寄附金品募集取締規則

第一條 名義ノ何タルヲ問ハス各戶ニ就キ金員ノ寄附ヲ勸誘シ又ハ金員ヲ勸募スル目的ヲ以テ會員ヲ募集セムトスル者ハ左ノ各號ヲ具シ警察

官署ヲ經テ領事ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ第二號第三號第四號第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 族籍、住所、氏名、年齢、職業
(團體ニ在リテハ其ノ名稱事務所在地代表者ノ氏名ヲ記シ定款若ハ規則書ヲ添付ス可シ)

二 募集ノ目的及方法
三 募集ノ區域及期間
四 募集金品ノ總額及收支ノ豫算
五 募集金品ノ處分方法

第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル者他人ヲシテ其ノ募集ニ從事セシムトスル時ハ左ノ事項ヲ具シ警察官署ヲ經テ領事ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ
一 募集從事者ノ族籍住所氏名年齢職業
二 募集從事者ノ擔當區域

第三條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ警察官署ヲ經テ領事ニ願出ツヘシ
一 募集人又ハ募集從事者ノ族籍、住所、氏名、職業ニ異動ヲ生シタルトキ
二 募集中止シタルトキ
三 第二條ノ募集從事者ヲ廢シタルトキ

第四條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ寄附書帳及收支明細簿ヲ調製シ寄附書帳ニハ寄附者ノ住所、氏名及其ノ寄附金品額ヲ記載シ收支明細簿ニハ寄附金品ノ收支ヲ詳記スヘシ

第五條 募集ニ從事スル者ハ常ニ寄附書帳許可證及寄附人名簿ヲ携帯シ該名簿ニハ寄附者ノ住所、氏名及其ノ寄附金品額ヲ記載スヘシ

第六條 警察官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ寄附金品及帳簿ノ檢閲ヲナスコトアルヘシ

第六條 代書人ハ書帳ヲ作製スルニハ字體ヲ明確ニ記載シ且舊ニ關スルモノヲ除クノ外末尾ノ欄外ニ署名捺印スヘシ

第七條 警察官更カ營業所ニ臨檢シ代書事件簿ノ檢閲ヲ爲ス場合ニ營業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 代書事件簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察署ノ認可ヲ受ケヘシ

第九條 代書人ハ訴訟ノ救済及鑑定ヲ爲シ又他人ノ訴訟行為ニ關係シ若ハ訴訟事件ノ取次ヲ爲スヘカラス

第十條 代書人ハ其ノ業務上ニ關シ家族又ハ雇人ノ爲シタル所爲ト雖其ノ責任ニスヘシ

第十一條 代書人ハ訴訟事件ニ關シ當事者雙方ヨリ依頼ヲ受ケ代書ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 代書人ハ依頼者ノ意思ニ反スル書帳ヲ作製スヘカラス

第十三條 代書人ハ官公吏ノ訊問ニ對スル外其ノ業務上知得シタルコトヲ他人ニ漏洩スヘカラス

第十四條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ警察署ニ願出ツヘシ
一 營業場所ヲ變更シタルトキ
一 廢業シタルトキ
一 改氏名ノトキ

第十五條 本則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
前項ノ外業務上ニ關シ不正ノ行為アリト認メタルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

(格式略ス)

演劇興行取締規則

明治三十九年七月一日 安東廳軍政要令

第七條 募集ニ從事スル者ハ強テ勸誘ヲ爲スヘカラス

第八條 募集ノ許可ヲ取消サレタル場合ニ於テハ既ニ收納シタル金品ハ三日以内ニ各寄附者ニ還付スヘシ

第九條 募集金品ノ處分終了シタルトキハ其ノ願未及收支ノ決算等速ニ各寄附者ニ通知スヘシ

第十條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ領事ハ其ノ募集ヲ停止シ又ハ許可ヲ認可ヲ取消スコトアルヘシ
一 本則ニ違背シタルトキ
二 募集ノ目的ニ反スルノ行為アリト認ムルトキ
三 公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキ

第十一條 本則ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

代書業取締規則

明治三十九年五月廿五日 館令第六號

代書業取締規則左ノ通相定ム

第一條 代書業ヲ爲サムトスル者ハ原籍住所氏名生年月日及營業場所ヲ記シ警察署ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ

第二條 代書業ノ許可ヲ得タル者ハ代書料ノ額ヲ定メ警察署ニ願出テ認可ヲ受ケヘシ

第三條 代書料ハ營業所内見易キ場所ニ掲示シ置クヘシ

第四條 代書人ハ名義ノ如何ニ拘ラス代書料ノ外報酬ヲ請求スヘカラス

第九 安東領事館

第十一條 第二十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ三日以下ノ拘留又ハ二十五圓以下ノ罰銀ニ處ス

附則

第二十七條 本則ハ明治三十九年七月一日ヨリ施行ス

銃砲火藥類取締ニ關スル制限

明治四十二年八月二十五日 館令第十二號

營業者タルト否トテ問ハス銃砲火藥刀劍類ヲ賣渡シ交換シ貸與シ讓與セムトスル者ハ其ノ事由、種類、數量ヲ記シ雙方連署警察官署ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ

本令ニ違フ者ハ十日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

射的的遊藝營業ノ件

明治四十二年五月廿五日 館令第一號

射的ノ方法ヲ用ヰル遊藝營業ハ明治四十一年四月三十日ヲ限リ安東新市街指定地域内ヲ除ク外當館管内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ禁止ス
本令ニ違反シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

寄附金品募集取締規則

明治四十二年二月廿五日 館令第二號

寄附金品募集取締規則別冊ノ通定ム
(別冊) 寄附金品募集取締規則

第一條 名義ノ何タルヲ問ハス各戶ニ就キ金員ノ寄附ヲ勸誘シ又ハ金員ヲ勸募スル目的ヲ以テ會員ヲ募集セムトスル者ハ左ノ各號ヲ具シ警察

第九 安東領事館

演劇興行取締規則

第一章 通則

- 第一條 演劇興行トハ劇場タルト寄席タルトヲ問ハス俳優又ハ藝人ノ技藝ヲ演シ衆庶ノ觀覽ヲ供スル公開ノ場所ヲ謂フ
- 第二條 演劇興行者ハ本則ニ據ルノ外安東縣軍政署管内居住民營業取締規則ニ據ルモノトス
- 第三條 演劇興行者ハ本則ニ據ルノ外安東縣軍政署管内居住民營業取締規則第七條所定ノ願書項目ニ左ノ二項ヲ附加スルコトヲ要ス
 - 一 演技ニアリテハ其ノ脚本演藝ニアリテハ其ノ種別(露談ト色物トノ區別)
 - 二 興行ノ設備興行日數時間及番附木戸錢席料觀客定員
- 第四條 興行日數ハ天候其ノ他ノ事由ニヨリ順延又ハ伸長ヲ願出スルコトヲ得
- 第五條 猥褻其ノ他風俗ニ害アリト認ムルトキハ監檢官吏ニ於テ之ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第六條 何等ノ名義ニ拘ラス抽籤等ヲ以テ客ニ物品ヲ與フル所爲ヲナスヘカラス
- 第二章 興行者
- 第七條 技藝人ノ休息所ニ客ヲ入レ若ハ技藝人ヲ客席ニ入ラシムヘカラス
- 第八條 木戸錢席料等ハ場外ノ見易キ所ニ揭示スヘシ
- 第九條 興行時間ハ日出ヨリ午後十二時迄ノ内十時間以内トス
- 第十條 興行中ハ席内ヲ清潔ニシ便所ニハ常ニ手水ヲ置キ一日一回以上防臭劑ヲ撒布シ糞尿ヲ停滯セシムヘカラス

第十一條 興行者ハ毎日銀五圓ヲ安東縣軍政署ニ納ムルコトヲ要ス但シ興行ノ種類ニ從ヒ時々之ヲ増減スルコトアルヘシ

第三章 遊藝科者

- 第十二條 左ニ掲ケル者ハ俳優及藝人タルコトヲ得ス
 - 一 白痴、癡癡、瘖啞ニシテ後見人ナキ者
 - 二 婦ニシテ夫ノ承諾ヲナキ者
 - 三 強盜其ノ他破廉罪ニ依リ處刑セラレ刑期滿限後三年ヲ經過セサル者
 - 四 本則ニ依リ三回以上處罰セラレ二年ヲ經過セサル者
- 第十三條 當地ニ於テ遊藝科者ハ毎月銀二圓ヲ安東縣軍政署ニ納ムルコトヲ要ス但シ十五歳未満ノ者ハ銀一圓トス

第四章 觀客ノ心得

- 第十四條 演劇中左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ退場ヲ命ス但シ制止ヲ肯セサル場合ニ限ル
 - 一 放談高語喧嘩ヲ爲シ其ノ他他人ノ妨害ヲ爲ス行爲アル者
 - 二 租襦袢履履冠其ノ他之ニ類スル不體裁ノ所爲アル者

第五章 罰則

- 第十五條 本則第四條ノ順延又ハ伸長ノ願出ヲ爲サスシテ興行者爲シタル者及第五條ノ停止命令ニ抗拒シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ五十圓以上ノ罰銀ニ處ス
- 第十六條 本則第六條乃至第十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ五日以下ノ拘留又ハ二十五圓以下ノ罰銀ニ處ス
- 第十七條 本則ハ明治三十九年七月一日ヨリ施行ス
- 第十八條 明治三十八年五月九日ヨリ施行セシ諸興行取締規則ハ本則施行ス

行ノヨリ之ヲ廢ス

●石油取締規則

明治三十九年五月八日 館令第二十一號

石油取締規則左ノ相定ム

石油取締規則

- 第一條 石油販賣營業ヲ爲サムトスル者ハ左記事項ヲ具シ警察官署ニ届出ツヘシ
 - 一 本籍、住所、氏名、年齢但シ法人ニ係ルトキハ社名定款其ノ代表者ノ本籍、住所、氏名、年齢
 - 二 營業所ノ位置
 - 三 石油ノ種類數量
 - 四 貯藏方法
- 前項第一號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ第二號乃至第四號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 第二條 石油ヲ分テ二種トス「アーベル」閉塞發煙試驗器ヲ用ヒ七百六十「ミリメートル」ノ氣壓ニ於テ攝氏二十一 未滿ノ溫度ニテ發煙スルモノヲ第一種トシ二十一度以上ノ溫度ニ達セザレハ發煙セザルモノヲ第二種トス
- 第三條 點燈用ニ供スルハ第二種ノ石油ニ限ル第一種ノ石油ハ醫藥製藥調劑及物理化學工藝上ニ於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用フルコトヲ得ス
- 第四條 第一種ノ石油ハ精製者及卸賣商ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第二種ノ石油ニ限リ販賣スルコトヲ得ルモノトス
- 第五條 石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油五斗以内第二種ノ石油三十斗以内トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ限ルヘシ

第九 安東領事館

第六條 前條制限以上ノ石油貯藏場ハ警察官署ノ指定シタル土地ニアルサレハ建設スルコトヲ得ス

第七條 石油貯藏場ヲ建設セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ警察官署ヲ經テ領事ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

- 一 原籍、住所、氏名、年齢但シ法人ニ係ルトキハ社名定款其ノ代表者ノ本籍、住所、氏名、年齢
 - 二 營業所ノ位置
 - 三 石油ノ種類數量
 - 四 建設地ノ地名番號
 - 五 四隣ノ距離及其ノ附近ノ界圍
 - 六 建物ノ構造仕樣書及其ノ圖面
 - 七 工事落成期日
- 前項第一號第二號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ第五號第七號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ若ハ既設建設物ヲ改築材質變更修繕セムトスルトキ亦同シ
- 第八條 第一種ノ石油五石以上第二種ノ石油二十石以上ノ貯藏場ハ左ノ構造制限ニ據ルヘシ
- 一 貯藏場ノ周圍ハ五間以上ノ空地ヲ存シ其ノ空地界ニ不燃質物ヲ以テ高さ六尺以上ノ障壁ヲ設ケルコト
 - 二 建物ハ石造又ハ煉瓦造ト爲シ其ノ屋上ハ瓦、石板、金屬ヲ以テ其ノ内部ノ燃質物ハ總テ金屬又ハ不燃質ノ材料ヲ以テ覆ヒ軒ノ高さハ十尺以上ト爲スコト
 - 三 窓ハ天窓ト爲シ若ハ四壁高サ八尺以上ニ設ケ適當ノ防火戸ヲ備フルコト

第九 安東領事館

- 四 地盤ハ其ノ百分ノ一以上ノ勾配ニシテ不透透質不燃質ノ材料ヲ以テ堅牢ニ構造シ不透透質不燃質ノ油溜ニ通スル装置ヲ爲スコト
- 五 建物ニハ適當ノ採光及換氣ノ方法ヲ施スコト
- 第九條 第一種ノ石油五斗以上五石未満第二種ノ石油三石以上貳拾石未満ノ貯藏場ハ左ノ構造制限ニ據ルヘシ
 - 一 建物ハ石造又ハ煉瓦造ト爲シ天井裏ハ適當ナル防火構造トナスコト
 - 二 地盤ハ不透透質ノ材料ヲ以テ堅牢ニ構造スルコト
 - 第十條 工事落成シタルトキハ警察官署ニ届出テ検査ヲ受クヘシ
 - 第十一條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ警察官署ニ届出ツヘシ
 - 一 休場者ハ廢場シタルトキ
 - 二 工事ニ著手シタルトキ
 - 三 建設者死亡シ又ハ所在不明ト爲リタルトキ
 - 第十二條 貯藏場ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人連署三日以内ニ警察官署ニ届出ツヘシ
 - 前項ニ依リ届出タル讓受人ハ建設者ト看做ス
 - 第十三條 建物及地盤ニシテ破損朽腐シ其ノ他危險ヲ及ボスノ虞アリト認ムルトキハ除害ノ裝置ヲ命シ若ハ其ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ
 - 第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
 - 一 建設ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ工事ニ著手セザルトキ
 - 二 落成期日ヲ經過シ仍落成セザルトキ
 - 三 六箇月以上休場シタルトキ

- 四 建設者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキ
- 第十五條 貯藏場ニハ其ノ名稱及建設者ノ住所氏名ヲ記シタル標札(幅七寸)ヲ見易キ所ニ掲出スヘシ
- 第十六條 貯藏場ニ於テハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ
 - 一 日出ヨリ日没迄ノ外石油ノ取扱ヲ爲スヘカラサルコト
 - 二 裸火ヲ使用シ喫煙スヘカラサルコト
 - 前項裸火使用及喫煙禁止ノ規定ハ出入口ノ見易キ場所ニ掲示スヘシ
 - 第十七條 貯藏場ハ運搬ニ供スル容器ハ總テ金屬製ノモノニ限ルヘシ
 - 第十八條 石油ハ積卸ニ必要ナル時間ノ外貯藏場外ニ置クヘカラス
 - 第十九條 營業者及建設者ハ家族履入ノ所爲ト雖其ノ責任ス
 - 第二十條 營業者及建設者ハ警察官署ヨリ發シタル臨時ノ命令ヲ遵守スヘシ
 - 第二十一條 本則ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 附則
 - 第二十二條 從來ノ營業者ニシテ引續キ營業セムル者ハ本令ノ施行後七日以内ニ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ
 - 第二十三條 從來ノ貯藏場ニシテ本則第七條第八條ノ制限ニ抵觸スルモノハ明治四十一年六月末日迄ニ改造スヘシ但シ警察官署ノ許可ヲ得タルトキハ之ヲ延期スルコトヲ得
 - 第二十四條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●道路取締規則

明治三十二年二月七日 館令第一號

道路取締規則別冊ノ通相定ム

(別冊) 道路取締規則

第一章 通則

- 第一條 本則ニ於テ道路ト稱スルハ安東縣新市街ニ於ケル公設私設ヲ問ハス公衆ノ通行スヘキ道路橋梁及道路ニ沿フタル濠渠ヲ謂フ
- 第二條 領事ハ警察官署ヲシテ本則ノ制限内ニアルモノ及本則ニ依リ許可ヲ爲シタル者ト雖危險又ハ通行上支障アリト認ムルトキハ之ヲ除去停止若ハ危險豫防ノ裝置ヲ命シ又ハ許可ヲ取消シタルコトアルヘシ
- 第二章 安寧
- 第三條 道路ニ軒樞若板標燈物ヲ日除諸車商品等ヲ出スヘカラス但シ左ノ制限ニ從フモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 看板標燈物ハ地盤ヲ距ル高サ六尺以上一尺五寸以内
 - 一 日除ハ支柱ヲ用ヒス綿布類ヲ垂下スルモノニ限リ三尺以内
- 第四條 道路ヲ使用セムトスル者ハ領事ニ届出テ許可ヲ受クヘシ但シ左ノ各項ニ係ルモノハ期限ヲ定メ警察官署ニ届出テ許可ヲ受クヘシ
 - 一 第三條第三項以外ノ日除ヲ設ケルコト
 - 二 工事ノ爲メ竹木土石類ヲ置キ又ハ板圍繩張足代等ヲ設ケルコト
 - 三 道路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ道路ヲ覆蓋スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スルコト
- 四 荷造荷積店等ヲ爲スコト
- 五 露店床店覆資張等ヲ設ケルコト
- 六 神佛祭儀祝典諸興行等ノ爲メ旗幟舞臺其ノ他飾物ヲ設ケルコト
- 七 前各項ノ外一時道路ヲ使用スルコト
- 第五條 許可ヲ得テ道路ヲ掘鑿シ又ハ竹木土石其ノ他ノ物件ヲ置キタルトキハ危險豫防ノ裝置ヲ爲シ且夜間ハ標燈ヲ點スヘシ但シ掘鑿シタル

第九 安東領事館

- 場合ニ於テ其ノ使用ヲ了ヘタルトキハ直ニ原形ニ復スヘシ
- 第六條 道路ニ沿ヒタル軒樞ニハ軒樞及壁體ヲ設ケヘシ其ノ壁體ハ家庭ニ附者スヘキモノトス
- 第七條 道路ニ沿ヒタル場所ニ竹木其ノ他ノ物件ヲ立テ置クトキハ鐵釘又ハ強靱ナル繩索其ノ他堅牢ナル方法ヲ以テ之ヲ固執シ斷炭其ノ他ノ物品ヲ堆積スルトキハ危險豫防ノ裝置ヲ爲スヘシ
- 第八條 道路又ハ道路ニ沿ヒタル場所ニ於テ建設物及樹木等崩壞若ハ傾倒ノ虞アルトキハ速ニ修理若ハ撤去スヘシ
- 第九條 道路又ハ道路ニ沿ヒタル建物ヲ撤去若ハ修繕スルトキハ木材瓦石等ノ墜落又ハ塵埃ノ飛散ヲ豫防スヘシ
- 第十條 漏出墜落又ハ飛散ノ虞アル物品ヲ運搬スルトキハ適當ノ裝置ヲ爲シ竹木其ノ他ノ物件ニシテ尖リタルモノヲ運搬スルトキハ其ノ末端ヲ纏束又ハ包裹スヘシ
- 第十一條 運搬中ノ建物若ハ長大ノ物件ヲ夜間道路ニ停メ置クトキハ路傍ニ片寄セ且標燈ヲ點スヘシ
- 第十二條 牛馬諸車等ヲ運搬ニ伴メ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
- 第十三條 道路ニ布設シタル軌道ニ竹木瓦礫等ヲ置キ行車ノ妨害ヲ爲スヘカラス
- 第十四條 道路ニ於テ作業ヲ爲スヘカラス但シ行路營業者ニシテ警察官署ノ許可ヲ得タル場所ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十五條 道路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ吹矢投石其ノ他危險ノ行ヲ爲スヘカラス
- 第十六條 道路ニ於テ濫ニ焚火ヲナスヘカラス
- 第十七條 道路ニ佇立シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十八條 警察官署ノ許可ヲ得ズシテ道路ニ於テ演藝其ノ他人寄セテ爲シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十九條 電線ノ架設シアル道路ニ於テ紙屑ヲ揚クヘカラス

第二十條 制止ヲ肯セスシテ遊戯ヲ爲シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第二十一條 四歳未満ノ小兒ヲ道路ニ獨歩セシムヘカラス

第二十二條 道路ニ於テ獸類ヲ使喚シ又ハ驚逸セシム若ハ保管ヲ要スヘキ獸類ヲ放逸セシムヘカラス

第二十三條 道路ノ雜物又ハ樹木ニ牛馬ヲ繫クヘカラス

第三章 通行

第二十四條 軍隊學生生徒ノ隊伍儀仗儀等ニ行進ヒタルトキハ避讓スヘシ

郵便用消防用ノ車馬ニ行進ヒタルトキ亦同シ

第二十五條 道路ハ左側ヲ通行スヘシ

第二十六條 街角橋上又ハ坂路ヲ行車スルトキハ徐行シ右折ノ場合ハ大廻リナシ左折ノ場合ハ小廻リヲ爲スヘシ

第二十七條 道路ニ於テ警察官吏ノ舉手アリタルトキハ一時進行ヲ止ムヘシ

第二十八條 清國大車ハ道路ニ牽キ入ルヘカラス但シ警察官署ノ許可ヲ得タル場所ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 通行禁止ノ榜示アル場所ヲ通行スヘカラス但シ警察官署ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 畜ニ車馬ヲ疾驅シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十一條 夜中燈火ナクシテ牛馬諸車ヲ進行セシムヘカラス

第三十二條 踏車ハ後押ノミニテ之ヲ進行スヘカラス但シ小兒車及清國

一 輪車ハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條 踏車ハ二輛以上ヲ並行シ又ハ競争スヘカラス

第三十四條 制止ヲ肯セスシテ出火場其ノ他雜沓ノ地ニ牛馬諸車ヲ繋キ入ルヘカラス

第四章 風紀

第三十五條 制札橋樑其ノ他道路ノ雜物ヲ毀棄汚損シ又ハ之ニ樂書紙紙等ヲ爲スヘカラス

第三十六條 道路ノ樹木ヲ損シ又ハ街燈若ハ標燈ヲ消スヘカラス

第三十七條 道路又ハ道路ニ沿ヒタル場所ニ於テ喧嘩シ又ハ傾臥スヘカラス

第三十八條 道路ニ於テ制止ヲ肯セス放歌シ又ハ高聲ヲ發スヘカラス

第三十九條 道路又ハ道路ニ沿ヒタル場所ニ於テ公安又ハ風俗ヲ害スヘキ粉裝ヲ爲シ又ハ許可ヲ得タル場所ヲ除ク外看板廣告等ヲ出スヘカラス

第四十條 道路又ハ道路ニ面シタル場所ニ於テ袒裼裸體シ若ハ醜態ヲ爲シ其ノ醜態ヲ爲スヘカラス

第四十一條 道路ニ沿ヒタル場所ノ便所ハ其ノ内部ヲ道路ヨリ見達シ得サル様裝置ヲ爲スヘシ

第五章 清潔

第四十二條 道路ハ常ニ掃除ヲ爲スヘシ

第四十三條 糞糞ハ時々掃除シ往來ノ妨害ト爲ラサル場所ニ投棄スヘシ

第四十四條 下水ハ其擔者ニ於テ時々清潔シ淤泥糞芥ヲ停溜セシムヘカラス

第四十五條 前三條ノ履行ハ左ノ各款ニ依リ之ヲ行ハルヘシ

一 道路ノ掃除ハ兩側居住人アルトキハ其ノ居住人ノ之ヲ分擔シ若シ兩側空屋又ハ空地ナルトキハ其ノ所有主又ハ管理人之ヲ分擔スヘシ又片側ノミ居住人アルトキハ其ノ居住人之ヲ負擔スヘシ

二 下水ノ浚深ハ其ノ放流者ニ於テ各自又ハ共同負擔スヘシ

第四十六條 道路ニ瓦礫塵芥糞尿ノ死屍其ノ他汚穢物ヲ投棄スヘカラス

第四十七條 溝渠ノ塵芥淤泥汚水等ヲ道路ニ撒布シ又ハ留メ置クヘカラス

第四十八條 道路ニ於テ敷物懸其ノ他物品ノ塵埃ヲ掃フヘカラス但シ夜間通行稀ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條 道路又ハ道路ニ面シタル場所ニ於テ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第六章 罰則

第五十條 本則ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十一條 本則施行以前ハ施設ニ係ル軒標標旗標燈看板物干ニシテ本則第三條ノ制限ニ抵触スルモノハ明治四十年六月末日迄ニ之ヲ改造又ハ撤去スヘシ

第五十二條 本則第六條ノ軒通及堅固ナキモノハ明治四十年六月末日迄ニ之ヲ設ケヘシ

●警察犯處罰令 明治十七年五月五日 館令 第十號

警察犯處罰令 明治十七年五月五日 館令 第十號

第一條 左ノ各款ノ一ニ該當スル者ハ三十日未満ノ拘留ニ處ス

一 故ナク人ノ居住者ハ看守セサル邸宅廳室等又ハ船内ニ潛伏シタル者

二 密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ廣告者ハ容止ヲ爲シタル者

三 一定ノ住居又ハ生業ヲシテ諸方ニ徘徊スル者

四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者

第二條 左ノ各款ノ一ニ該當スル者ハ三十日未満ノ拘留又ハ二十圓未満ノ科料ニ處ス

一 合力喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品購買ヲ求メタル者

二 乞巧ヲ爲シ又ハ爲サンメタル者

三 派ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ物品入場券等ヲ配付シタル者

四 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ誘札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配者ハ金品ヲ強請シタル者

五 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者

六 新聞紙雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者

七 新聞紙雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者

八 申込ナキ新聞雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者

九 祭事祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者

十 自己占有ノ場所内ニ老幼不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍死胎アルコトヲ知りテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者

第九 安東領事館

- 前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者
- 十一 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧嘩シ横臥シ又ハ泥酔シテ徘徊シタル者
- 十二 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 十三 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者
- 十四 劇場寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者
- 十五 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ背セズ混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者
- 十六 人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虚報ヲ爲シタル者
- 十七 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシメタル者
- 十八 病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者
- 十九 濫ニ催眠術ヲ施シタル者
- 二十 官職、位記、勳爵、學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ借用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者
- 二十一 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ背セサル者
- 二十二 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者
- 二十三 河川溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨ケヘキ行爲ヲ爲シタル者

- 二十四 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者
- 二十五 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者
- 二十六 官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ設置ニ係ル榜標ヲ汚穢シ若ハ撤去シタル者
- 二十七 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ背セシメテ其ノ現場ニ立入り若ハ其ノ場所ヨリ退去セズ又ハ官吏ヨリ援助ノ求テ受ケケタルニ拘ラス傍觀シテ之ニ應セサル者
- 二十八 濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者
- 二十九 他人ノ田野園圃ニ於テ桑果ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
- 三十 使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ罰鍰ノ取扱ヲ爲シタル者
- 三十一 濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者
- 三十二 他人ノ身體物件又ハ之ニ害ヲ及ボスヘキ場所ニ對シ物件ヲ抛擲シ又ハ放射シタル者
- 三十三 神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物件ヲ汚瀆シタル者
- 三十四 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛シク藏匿シタル者
- 三十五 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 三十六 不熟ノ果物腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者
- 三十七 濫ニ他人ノ緊ナキ馬牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者
- 三十八 許可ナクシテ工場ニ使用スル蒸氣機、鍋爐、火爐ヲ建設又ハ修理シタル者

第三條

- 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未満ノ料料ニ處ス
- 一 許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之カ保存ヲ爲シタル者
- 二 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ袒裼、裸體シ又ハ臀部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者
- 三 街路ニ於テ尿尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 四 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セムトスル家屋其ノ他ノ建造物ノ修理ヲ爲ササル者
- 五 濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇毒スヘキ物品ヲ玩ヒタル者
- 六 家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ケ者
- 七 石灰其ノ他ノ自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ怠ニシタル者
- 八 官署ノ命令ヲ受ケテ烟筒ノ掃除ヲ爲ササル者
- 九 開業ノ醫師、産婆故ナク病者又ハ妊婦、産婦ノ招ニ應セサル者
- 十 故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者
- 十一 炮煮、洗滌、剥皮等ヲ要セス其ノ備食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆盪ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者
- 十二 濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之カ取除義務ヲ怠リタル者
- 十三 監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ過リ屋外ニ徘徊セシメタル者
- 十四 濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ喚シ又ハ驚逸セシメタル者
- 十五 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逸走セシメタル者
- 十六 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者

第九 安東領事館

者

- 十七 濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚瀆シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、寶號家札其ノ他榜標ノ類ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者
- 十八 橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
- 十九 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬諸車ヲ乘入レタル者
- 二十 宿屋又ハ下宿屋ニ於テ氏名ヲ詐稱シタル者
- 二十一 路上ニ於テ賭博ニ類スル行爲ヲ爲シタル者
- 二十二 瓦礫ヲ道路、家屋、汽車、園圃ニ投擲シタル者
- 二十三 許可ナクシテ人ノ死屍ヲ埋葬シ又ハ改葬シタル者
- 第四條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十八年十月一日施行安東縣警察規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●安東消防團規程 明治四十二年八月廿日 告示第七號

安東消防團規程ノ通稱定ム

- 第一條 水火災警戒防禦ノ爲安東市街ニ消防團ヲ設置ス
- 第二條 消防團ハ團長一人班長四人消防手四十人ヲ以テ組織ス
- 第三條 團長ハ警察官ノ命ヲ受ケ班長以下ノ指揮監督ニ任シ班長消防手ヲ掌理ス

第九 安東領事館

- 第十一條 前條處方箋中ノ藥品缺乏スルトキハ當該醫師ノ指揮ヲ受ケハシ藥劑師隨意ニ省略シ又ハ代用品ヲ用ユルコトヲ得ス
- 第十二條 藥劑師ニ非ラサル藥劑業者ハ藥劑ヲ調合シ若ハ其ノ原料ヲ稀釋シテ販賣授受スルコトヲ得ス
- 第十三條 藥品販賣者並藥品取扱者ハ帳簿ヲ設ケテ藥品ノ受拂ヲ記載シ受拂ニ關スル證據書類ハ保存スヘシ
- 第十四條 藥品業者藥劑ヲ販賣シ又ハ賣藥受買ヲナスハ營業ト看做サス
- 第十五條 賣藥請賣營業ニ從事セムトスル者ハ營業願出ノ際請賣スヘキ賣藥名ヲ記載シ且其ノ賣藥各一品宛チ願書ニ添附シテ提出スヘシ
- 第十六條 本則ニ違反シタル者ハ安東縣營業取締規則第十六條ノ規定ニ據テ處罰スルノ外銀十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 此ノ規則ハ明治三十八年十月一日ヨリ施行ス

●汚物掃除規則 明治三十八年九月九日 館令第五號

汚物掃除規則別冊ノ通之ヲ定ム

- (別冊) 汚物掃除規則
- 第一條 本則ニ依リ掃除スヘキ汚物ハ塵芥汚泥汚水及尿管トス
- 第二條 土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ其ノ地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スヘシ
- 第三條 建築物ノ所有者ハ其ノ建築物ノ在ル土地ノ清潔保持ノ爲必要ナル溝渠ヲ築造修繕スヘシ
- 第四條 建築物ナキ土地ノ所有者又ハ使用者ハ其ノ土地ノ清潔保持ノ爲必要ナル

- 溝渠ヲ築造修繕スヘシ
- 前項ノ溝渠ヲ新設改造又ハ増設セムトスルトキハ其ノ築造方法ヲ詳細シテ圖面ヲ添ヘ警察官署ニ届出テ認可ヲ受ケヘシ
- 第三條 前條第三項ノ認可ヲ得タル後其ノ築造竣工シタルトキハ警察官署ニ届出テ検査ヲ受ケヘシ
- 第四條 第二條ノ溝渠ハ左ノ構造制限ニ從フヘシ
 - 一 溝渠ハ石、煉瓦又ハ陶器等不滲透質ノ材料又ハ厚板(厚サ一寸以上)ヲ以テ構造スルコト
 - 二 幅及深サハ水量ニ應ジテ構造シ且適當ノ勾配ヲ附シ汚水ノ疎通ニ便ナラシムルコト
- 第五條 溝渠ノ汚水ハ之ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排洩スヘシ
- 警察官署ハ土地ノ状況ニ依リ前項ニ拘ラス別段ノ施設ヲ許可スルコトヲ得
- 警察官署ハ汚水ノ性質ニ依リ公共溝渠ニ排洩セシムヘカリスト認ムルトキハ適當ノ施設ヲ爲サシムヘシ
- 第六條 左ニ掲ケル汚水ハ掃除義務者ニ於テ本條所定ノ方法ニ依リ處理スルコトニ排洩スヘカラス
 - 一 劇毒性ノ物質ヲ含有スルモノ
 - 二 甚シキ臭氣ヲ發スルモノ
 - 三 多量ノ沈澱物ヲ混スルモノ
 - 四 屍體解剖ニ因リ生シタルモノ
 - 五 外科手術ニ因リ生シタルモノ
 - 六 屍體汚濁ニ因リ生シタルモノ
 - 七 前各條ノ外警察官署ニ於テ有害ト認メタルモノ前項第一號第二號

第九 安東領事館

- 第四號第五號第六號ノ汚水ハ警察官署ノ承認ヲ得タル場所ニ排洩スヘシ但シ除害法又ハ種類分益ニ關シ警察官署ノ承認ヲ得タル者ハ直ニ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排洩スルコトヲ得
- 第三號ノ汚水ハ在安東居留民行政委員會ノ設置ノ汚泥取扱場ニ搬出スヘシ但シ沈澱物ヲ濾過シタルモノハ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排洩スルコトヲ得
- 第七號ノ汚水ハ警察官署ノ指定シタル方法ニ依リ處理スヘシ
- 第七條 土地ノ状況ニ依リ汚水ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排洩シ難キトキハ警察官署ノ許可ヲ得テ汚水ヲ貯留スルコトヲ得
- 汚水溜ハ不滲透質ノ材料又ハ厚板(厚サ一寸以上)ヲ以テ構造シ且適當ノ覆蓋ヲ設ケヘシ但シ厚板ヲ以テ構造シタルトキハ其ノ内外ニ「コー」ルター「ラ」塗布スヘシ
- 汚水溜ノ汚水ハ充溢セザル様様ニ取り公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排洩スヘシ
- 第八條 掃除義務者ハ覆蓋アル容器ヲ備ヘ掃除シタル際其ノ容器ニ蒐集スヘシ汚泥ハ之ヲ適當ノ容器ニ蒐集スヘシ
- 第九條 前條ノ容器ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 容器ハ陶器金屬製又ハ木製ニシテ汚物漏洩セザルモノナルコト
 - 二 容器ハ土地ニ定著セシメサルコト
- 第十條 便所ヲ建設セムトスル者ハ其ノ位置及構造方法ヲ詳細シテ圖面ヲ添ヘ警察官署ニ届出テ認可ヲ受ケヘシ其ノ他改造變更セムトスルトキ亦同シ
- 前項ノ工事竣工シタルトキハ其ノ使用前警察官署ノ検査ヲ受ケヘシ

- 第十一條 便所ノ位置及構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ但シ特殊ノ設置ニシテ周邊ノ土地ヲ汚ス虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラズ
 - 一 飲料井戸ヲ距ルコト三間以上
 - 二 地盤ヨリ三寸以上ヲ高クスルコト
 - 三 尿尿室ノ内外ニ油類ヲ施シタル製其ノ他不滲透質ノ材料ヲ以テ構造スルコト
 - 四 尿尿室ノ周圍ハ漏斗狀ニシテ厚サ三寸以上ノ「セメント」モルタル「コンクリート」敷ト爲ス
- 第十二條 公共溝渠ニ沿フタル土地ニ於テ公共溝渠ニ害ヲ及ボスヘキ虞アル行為ヲ爲ス者ハ其ノ害ヲ預防スル爲必要ナル施設ヲ爲スヘシ
- 第十三條 在安東居留民行政委員會ハ掃除義務者ノ蒐集シタル汚物及尿尿ヲ搬出處分スヘシ
- 第十四條 在安東居留民行政委員會ハ別段ノ義務者アル場所ヲ除クノ外其ノ全區域ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スヘシ
- 第十五條 在安東居留民行政委員會ハ溝渠ノ汚水ヲ排洩スル爲必要ナル公共溝渠ヲ築造修繕スヘシ
- 第十六條 在安東居留民行政委員會ハ公共便所ヲ築造修繕スヘシ
- 第十七條 在安東居留民行政委員會ハ適當ノ場所ニ汚物堆積場及尿尿溜置場ヲ設備スヘシ
- 第十八條 前條ノ設備ニ關シテハ警察官署ノ承認ヲ受ケヘシ
- 第十九條 在安東居留民行政委員會ハ汚物掃除ノ施行及其ノ實況ヲ監視セシムル爲掃除監視人ヲ置クヘシ
- 第二十條 在安東居留民行政委員會ハ前條ノ義務ヲ履行スル爲掃察施設

第九 安東領事館

ニ要スル費用ヲ賦課徴收スルコトヲ得

第二十一條 警察官署ハ本則ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セ
スハ之ヲ履行スルモ充分ナラズト認ムルトキハ在安東居留民行政委
員會ヲシテ之ヲ代行シテ履行スルコトヲ得

前項ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルトキハ實費ヲ詳細シタル告知書ヲ交
付スヘシ

第二十二條 在安東居留民行政委員會ハ領事ノ認可ヲ經テ本則ノ施行ニ
關スル細則及監視員職務章程ヲ規定スルコトヲ得

第二十三條 本則ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ警察官署ノ指定シ
タル期間ニ履行セサル者ハ科料ニ處ス

第二十四條 本則第二條第四項第三條第十條ニ違背シタル者又ハ公共溝
渠ニ塵芥土石ヲ投棄シタル者若ハ尿尿ヲ注流シタル者ハ拘留又ハ科料
ニ處ス

附則

第二十五條 本則ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六條 新市街以外ノ居留者ニ對シテハ狀況ニ依リ本則ノ施行ヲ延
期スルコトヲ得

第二十七條 本則第二條第二項第三項第四條第七條ノ制限ニ抵觸又ハ未
タ其ノ設備ヲ爲ササル者ハ公共溝渠ノ完成シタル地點ニ接觸シタル者
ニ限リ明治四十年十一月十五日迄ニ之ヲ築造又ハ改造修繕シ其ノ他ハ
公共溝渠ノ完成ニ伴ヒ六箇月以内ニ築造又ハ改造修繕スヘシ

第二十八條 第十一條第十二條ノ制限ニ抵觸又ハ未タ其ノ設備ヲ爲ササ
ル者ハ明治四十年十一月十五日迄ニ之ヲ築造又ハ改造スヘシ

● 清潔法施行規則 明治四十年四月二十日 館令第六號

清潔法施行規則左ノ通り相定ム

清潔法施行規則

傳染病預防ノ爲領事ニ於テ必要ト認ムル時期及場所ニ於テハ左ノ程度
ニ依リ清潔法ヲ施行スヘシ

一 邸地及家屋ノ内外ヲ清潔ニ掃除スルコト

二 警察官署ニ於テ指示シタル家屋ハ懸、器具、什器等ヲ取出シ日光ニ
曝シ床下ハ成ルヘク床板ヲ取り外シタル上掃除スルコト

三 浸潤セル床下ハ通氣ヲ充分ナラシムルコト但シ浸潤甚シキトキハ
乾燥セル土砂又ハ石炭屑ヲ撒布スルコト

四 警察官署ニ於テ指示シタル井戸ハ之ヲ浚渫スルコト

五 井戸側、井戸流、糞所流ヲ掃除シ破損ノ箇所アルトキハ修繕ヲ加フ
ルコト

六 便所汚濁等ヲ掃除シ破損ノ箇所アルトキハ修繕ヲ加フルコト

七 前各項ノ施行ニ依リ生シタル塵芥汚泥ノ處置ハ警察官署ノ指示
ニ從フコト

八 前各項ノ外警察官署ニ於テ指示シタル事項ヲ行フコト

● 傳染病預防規則 明治四十年七月一日 安東縣軍政署令

第一條 本則ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、腸炎、霍亂、傷寒、鼠疫、
猩紅熱、實布痘、霍亂、梅毒、白喉、百日咳、及流行性腦脊髄膜炎
再歸熱、ウイルス病其ノ他此等諸病ノ疑似症ヲ云フ

● 立入ルコトヲ得

第十一條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ居住民ニ傳染病預防委
員ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 傳染病預防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ
施行ス

一 傳染病患者ノ有無ヲ檢査スルコト

二 市街村落ノ全部又ハ一部ノ交通ヲ遮断スルコト

三 祭禮供養興行集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限若ハ禁止スル
コト

四 古著、舊雜、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ又ハ之
ヲ廢棄スルコト

五 傳染病傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販賣授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ
廢棄スルコト

第十三條 左ノ諸費ハ安東縣軍政署之ヲ負擔ス

一 豫防委員ヲ置クトキハ之ニ關スル諸費

二 清潔法消毒方法ニ關スル諸費

三 種痘ニ關スル諸費

四 避病院隔離所ニ要スル諸費

五 貧困ノ患者或死者ニ關スル諸費

六 檢疫ニ關スル諸費

第十四條 本則ニ基キ當該委員ノ指示會合シタル事項ヲ履行セサル者ハ
二十五圓以下ノ罰銀ニ處ス

第十五條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ屍體ヲ檢査シタル後六時間
以内ニ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ轉届届ヲ爲シタルトキハ百圓以下ノ罰

第二條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ屍體ヲ檢査シタルトキハ其ノ家
人ニ豫防上ノ注意消毒法ヲ指示シ且直ニ安東縣軍政署ニ届出フヘシ其
ノ轉届ノ場合亦同シ

第三條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速
ニ醫師ノ診斷ヲ檢査ヲ受テ安東縣軍政署ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ其ノ家主又ハ之ニ代ルヘキ者又ハ私
ノ法人其ノ他ノ社團又ハ財團等ニアリテハ取締役業務執行社員理事其
ノ他此等ノ代表者トス

第四條 傳染病患者アリタル家ニ於テハ醫師又ハ當該委員ノ指定ニ從ヒ
清潔方法及消毒法ヲ行フ

當該委員ハ豫防上必要ト認ムルトキハ其ノ近隣ノ家又ハ他家ト交通ヲ
爲シタル家ニモ清潔方法及消毒法ヲ施行セシム

第五條 傳染病患者ノ病性及其ノ土地ノ狀況ニ依リ避病院又ハ隔離所ニ
入ラシメ患者ハ交通遮断ヲ爲シ尙健康者ヲ隔離スルノ必要アルトキハ
一定時日間其ノ他家又ハ其ノ隔離所ニ於テ隔離スルモノトス

第六條 前項避病院又ハ隔離所ナキ地ニアリテハ自宅治療ヲ許可スルコ
トアルヘシ此ノ場合ハ一定時日間隔離病舎トシテ取扱フモノトス

第七條 傳染病患者アリタル家屋ノ消毒ハ安東縣軍政署之ヲ行フ

第八條 傳染病患者及其ノ屍體ハ當該委員ノ許可ヲ經ルニアラサレハ他ニ
移スコトヲ得ス

第九條 傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該委員ノ許可ヲ受
クルニアラサレハ使用授受遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十條 傳染病預防上必要ト認ムルトキハ當該委員ハ其ノ事由ヲ家主取
締業務執行社員理事其ノ他此等ノ代表者ニ告知シ家宅其ノ他ノ場所

第九 安東領事館

第九 安東領事館

銀ニ處ス

第十六條 第三條第八條第九條第十條ニ違反シタル者交通遮斷ヲ犯シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第二條ノ届出ヲ爲サシメス者ハ其ノ届出ヲ妨ケタル者ハ二十五圓以下ノ罰銀ニ處ス

附則

第十七條 本則ハ明治三十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
安東縣傳染病豫防規定ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢ス

●傳染病患者發生轉歸報告様式 明治三十九年五月五日
安東縣軍政署制定
醫師傳染病患者ヲ診察セシ際ハ別紙様式ニ從ヒ即報スヘシ
(様式)

傳染病患者發生及轉歸報告

患者及死者ノ本籍及現在地職業

氏名

生年月日

一 病名 何々

一 發見ノ場所

一 傳染ノ系統

一 發病年月日時及其ノ場所

一 初診年月日時

一 診斷年月日時

一 治療ノ場所(病院又ハ自宅ノ類)

一 轉歸年月日時

報告日時ノ經過シタルモノハ其ノ理由實扶の里亞患者ノ報告ニ對

一五〇

シテハ血清治療ノ有無天然痘患者ニ對シテハ接種ノ度數筆記入ヲ要ス
右及報告候也
年 月 日 時 主治醫住所 氏名 印

軍政署宛

●傳染病豫防救治從事者手當金支給規則

明治三十九年五月五日
安東縣軍政署令

傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金支給規則

第一條 傳染病ノ豫防救治ニ從事スル者病醫ニ感傷シ又ハ之ニ原因レテ死亡シタルトキハ本則ニ據リ一時限リ手當金ヲ給ス

第二條 手當金ノ支給ヲ受ケタル者ハ遺病院又ハ隔離所ヲ開設シ其ノ職員タルコトヲ命セラレ救治ニ從事シタル者又ハ傳染病豫防ニ從事シ直接該病者ヲ取扱ヒタル者ニ限ル但シ臨時備役人夫ニハ支給ノ限ニ在リ

第三條 手當金ハ左ノ二種トス

一 甲 療料

二 遺族扶助料

第四條 病醫ニ感傷シタル者ノ治療ハ安東縣軍政署ノ指定スル病院ニ入院セシメ官費トス感傷者死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ甲療料及遺族扶助料ヲ給シ遺族ナキ者ニハ葬儀ヲ行フ者ニ甲療料ヲ給シ遺族中遺族扶助料ヲ受ケヘキ者ノ順位ハ官吏遺族扶助ノ例ニ據ル

第五條 甲療料ハ死亡者ノ受ケタル給料ノ月額ヲ給ス其ノ給料ヲ受ケタル者ニアリテハ安東縣軍政署官立之ヲ給ス

第六條 遺族扶助料ハ死亡者ノ受ケタル給料月額ノ五倍トス其ノ給料ヲ受ケサル者ニアリテハ安東縣軍政署官立之ヲ給ス

附則

第七條 本則ハ明治三十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●理髮營業者心得

明治三十九年五月五日
安東縣軍政署令

理髮營業人ハ男女ニ拘ラス左記ノ各項ヲ遵守スヘシ

一 常に清潔ニ掃除シ毛髮ハ一定ノ容器ニ收容スルコト

一 唾壺ヲ備ヘ少量ノ水ヲ入レ日々交換スルコト

一 椅子ノ凭倚部分ハ清潔ナル白布ヲ以テ之ヲ覆ヒ時々交換スルコト

一 被布ハ時々洗淨シテ手拭頭卷等ハ一人毎ニ清潔ナルモノト交換スルコト

一 就業中ハ清潔ナル被服ヲ着用スルコト

一 毎回理髮ニ著手前石鹼ヲ以テ洗手スルコト

一 理髮ニ使用スル器具ハ一人ノ理髮ヲ終ル毎ニ刷毛ヲ用ヒ炭酸曹達水(百分三以上)又石鹼及温湯ヲ以テ洗淨シ日々一回以上左ノ方法ノ一ヲ履ヒ消毒スヘシ

一 酒精(百分中八十六分)浸漬一時間以上

一 石炭酸(百分中五分)浸漬一時間以上

一 フォルマリン水(百分中フォルムアルデヒド一分以上)浸漬一時間以上

一 煮沸 煮沸一時間以上

皮膚疾患アル者ニ使用シタル器具及被布手拭頭卷類ハ其ノ都度前項ノ方法ニ從ヒ消毒スヘシ

第九 安東領事館

一五一

一 理髮所外ニ就業スル者及家族徒隷傭人ト雖右ノ各項ニ從フヘシ
明治三十八年五月十五日ヨリ實施ス

●飲食物處分

明治三十九年五月五日
館令第十五號

傳染病豫防上必要ニ付腐敗ニ傾キタル飲食物及不熟ノ菜實ヲ販賣スルコトヲ禁止シ又警察官ヲシテ之ヲ廢棄セシム

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●生河豚販賣貯藏禁止

明治三十九年四月八日
館令第三號

生河豚ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ貯藏スルコトヲ得ス

生河豚ハ食用ニ供スルコトヲ得ス

本令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●罌粟栽培禁止

明治三十九年八月七日
館令第六號

安東新市街及其ノ附屬地域内ニ於テ自今罌粟ノ栽培ヲ禁止ス

●牛乳營業取締規則

明治三十九年五月五日
安東縣軍政署令

牛乳營業取締規則

第一條 牛乳ノ搾取販賣ヲ業トナス者ハ左ノ事項ヲ詳記シ軍政署ニ願出テ認可ヲ受ケルモノトス

一 營業者ノ族籍現住所氏名履歷

二 畜舎ノ位置

第九 安東領事館

三 畜舎ノ構造(平面圖側面圖ヲ要ス)
四 運動場ノ坪數
五 牛ノ頭數

- 第二條 牛乳ハ全乳及煉乳ノ販賣ヲ許サス
- 第三條 牛乳搾取販賣業者ハ左ノ牛ヨリ牛乳ヲ搾取スルコトヲ得ス
 - 一 總テノ疾病ニ罹リ又ハ疾病ノ疑アル者
 - 二 分娩后七日以内ノ者
- 第四條 牛乳搾取販賣業者ハ左ノ牛乳ヲ販賣又ハ貯藏スルコトヲ得ス
 - 一 腐敗シタルモノ
 - 二 粘稠者ハ異臭異味ヲ有スルモノ又ハ異色ヲ呈スルモノ
 - 三 他物ヲ混合シタルモノ
 - 四 第三條ノ牛ヨリ搾取シタルモノ
- 第五條 牛乳搾取販賣業者ハ左ノ金屬及軸索ヲ施シタル器具ヲ以テ容器量器及運搬器ニ使用スルコトヲ得ス
- 第六條 牛乳搾取販賣業者ハ營業ニ要スル容器ハ使用ノ都度煮沸消毒スルハ勿論常ニ清潔ニ保持スヘシ
- 第七條 牛乳搾取販賣業者ハ常ニ牛舎及牛體ノ清潔ニ注意シ牛舎ノ附近ニハ凡テノ汚物ヲ堆積スヘカラス
- 第八條 牛乳搾取販賣業者ハ牛ヲ異動スル毎ニ二日以内ニ軍政署ニ届出ツヘシ
- 第九條 牛乳搾取場内ニハ牛乳牛牝牛及犢ノ外飼養スヘカラス
- 第十條 安東縣軍政署所轄地以外ヨリ牛乳ヲ輸入スルコトヲ禁ス
- 第十一條 本則ニ違反スル者ハ銀五十圓以下ノ罰金ニ處シ二回以上ノ違反アリトキハ營業ヲ停止又ハ禁止ス

屠獸及獸肉取締規則

- 本則ニ規定セサル事項ハ大日本帝國牛乳營業取締規則 明治三十三年四月七日內務省令第十五號ニ依リ處分ス
- 附則
 - 屠獸及獸肉取締規則 明治三十三年七月一日 安東縣軍政署令
- 第一條 食用獸ノ屠殺及輸入獸肉ノ検査ハ安東縣軍政署ニ於テ之ヲ行フ
- 第二條 屠獸及輸入獸肉ハ獸醫ヲシテ検査ヲ行ハシム所獸又ハ肉質不買ト認メタルトキハ屠殺者ハ販賣ヲ禁止シ之ヲ廢棄セシム
- 第三條 屠獸場ニ於テ屠殺シタル獸肉及内臟其ノ他食用ニ供スル部分ハ獸醫之ヲ検査シ警察官ノ檢印ヲ受ケタル後ニ非サレハ食用ニ供シ又ハ食用ニ供スル爲販賣スルコトヲ得ス他地方ヨリ輸入シタル獸肉モ亦同シ
- 第四條 第一條ノ検査ヲ受ケスシ屠殺シタル獸肉ハ販賣シタル獸肉ハ獸醫ヲシテ之ヲ検査ナシシメ安東縣屠獸場ニ於テ定メタル検査料ノ十倍ヲ徴收セシム
- 第五條 屠獸及輸入獸肉検査料ハ屠獸場ニ於テ其ノ額ヲ定メ官ノ認可ヲ受クヘシ
- 第六條 屠獸場ノ構造及該場取締ニ關シテハ官ノ命令ヲ遵守スヘシ

獸骨營業取締規則

- 第一條 獸骨營業トハ獸骨ヲ買収又ハ拾集シテ貯藏シ安東縣ニ於テ化學製シ又ハ安東縣以外ニ輸出スル者及其ノ仲買ヲ爲ス者ヲ謂フ
- 第二條 獸骨營業者ハ本則ニ據ルノ外安東縣軍政署管内居住民營業取締規則ニ據ルモノトス
- 第三條 獸骨營業者ハ本則ニ據ルノ外安東縣軍政署管内居住民營業取締規則第七條所定ノ願書項目ニ左ノ二項ヲ附加スルコトヲ要ス
 - 一 貯藏場ノ位置及構造圖面
 - 二 買収又ハ拾集地名及骨ノ種類(例之ハ牛骨馬骨ノ如シ)
- 第四條 獸骨貯藏場ハ新市街築堤内ニ設クルコトヲ得ス
- 第五條 獸骨ヲ運搬スルニハ使徒トナシ又ハ有蓋箱ヲ用ヅルモノトス
- 第六條 獸骨ヲ輸出セムトスルトキハ其ノ都度斤量輸出日時及積込ノ場所ヲ明記シ二日以前ニ安東縣軍政署ニ届出テ検査ヲ受クヘシ
- 第七條 獸骨ハ前條届出テ以前ニ於テ二十倍ノ石灰水又ハ粉末石灰ヲ以テ消毒スヘシ但シ既ニ化學製シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 第八條 獸骨營業者ハ安東縣軍政署管内居住民營業取締規則第十五條所定ノ納銀ヲ要セズ
- 第九條 本則ニ違反シタル者ハ貯藏シタル獸骨ヲ沒收シ十日以下ノ拘留又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 附則
 - 第十條 本則ハ明治三十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

獸肉販賣取締規則

明治三十三年三月五日 館令第一一號

第九 安東領事館

- 第一條 食用ニ供スル目的ヲ以テ獸肉ヲ販賣セムトスル者ハ住所氏名及肉ノ種別ヲ記シ警察署ニ届出テ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 獸肉販賣ノ許可ヲ得タル者農業者屠屋又ハ肉ノ種別ヲ變更シタルトキハ三日以内ニ警察署ニ届出フヘシ
- 第三條 獸肉ハ當該検査吏員ノ檢印アルニアラサレハ販賣スルコトヲ得ス他ヨリ輸入シタル獸肉モ亦同シ
- 第四條 馬肉ト他ノ獸肉トヲ販賣スルトキハ其ノ屠殺者異ニシ獸名ヲ掲ケ置クヘシ
- 第五條 腐敗シタル獸肉又ハ諸獸ノ肉ヲ混合シ又ハ獸名ヲ詐稱シテ販賣スルコトヲ得ス
- 第六條 獸肉ハ清潔ナル麻布、綿布ノ類ヲ以テ之ヲ包ヒ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ塵埃及蚊蠅ヲ防クヘキ裝置ヲ爲スヘシ
- 第七條 獸肉ヲ運搬スルトキハ蓋付ノ容器ヲ用ヒ血液ノ滲漏ヲ防クヘキ裝置ヲ爲スヘシ
- 第八條 獸肉置場ハ空氣ノ流通ヲ善クシ地盤ハ洗滌シ易キ構造ト爲レ該置場及肉運其ノ他使用器具ハ清潔ニ掃除スヘシ
- 第九條 獸肉ヲ販賣スル店舖ハ左記様式ノ看板ヲ店頭ニ掲ケヘシ

寸六尺曲

牛(馬羊豚)肉販賣營業
住 所
氏 名
名

第十條 獸肉配達人又ハ行商人ハ左記様式ノ標札ヲ製シ警察署ノ檢印ヲ

受ケ之ヲ携帶スヘシ

曲尺三寸

表 寸二尺曲 獸肉配達人 氏名	裏 寸二尺曲 牛(馬羊豚)販賣業者 住 所 氏名
--------------------------	--------------------------------------

曲尺三寸

寸二尺曲 牛(馬羊豚)行商 住 所 氏名	被雇人ナレハ住所何某雇人ト記ス ルコト
-------------------------------	------------------------

第十一條 警察官吏又ハ獸肉検査吏員ハ臨時獸肉ヲ検査シ食用ニ適セス
ト認ムルトキハ其ノ販賣ヲ禁止メ又ハ之ヲ投棄セシムルコトアルヘシ
第十二條 本則ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

●牛馬羊豚ノ屠殺場所 明治三十八年三月十日
館令第二號
食用ニ供スル牛馬羊豚ハ官許ノ屠殺場又ハ臨時警察署ノ許可シタル場所
以外ニ於テ屠殺スルコトヲ得ス違フ者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

本則ハ明治四十二年三月二十一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十九年三月十六日ヨリ施行ノ屠殺取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢
止ス

●飼犬取締規則 明治三十八年三月五日 館令第五號

飼犬取締規則左ノ通相定ム
飼犬取締規則
第一條 飼犬ニハ飼主ノ氏名ヲ記シタル頸輪又ハ金剛製ノ札ヲ頸部ニ附
シ置ケヘシ
第二條 狂犬病ニ罹リ若ハ其ノ疑アル犬ハ飼主ニ於テ緊キ直ニ警察
署又ハ派出所ニ届出ツヘシ
第三條 人畜ヲ咬傷スル癖ノアル犬ハ飼主ニ於テ緊キ直ニ警察署
署メ置ケヘシ
第四條 飼犬ニ咬傷セラレタル者ハ其ノ旨直ニ警察署又ハ派出所ニ届出
ツヘシ
第五條 第一條第二條第三條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス
第六條 飼主ノ不明ナル犬又ハ第二條第三條ニ該當スル犬ハ撲殺スルコ
トアルヘシ
附則
第七條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●墓地及埋火葬取締規則 明治三十八年十月 安東縣軍政署令

墓地及埋火葬取締規則
第一條 屍體ノ埋葬又ハ火葬ハ軍政事務所ノ指定シタル墓地又ハ火葬場
ニ限ルモノトス
第二條 屍體ハ火葬スルニアラサレハ埋葬スルヲ得ス
第三條 屍體ハ死後二十四時間ヲ経過スルニアラサレハ火葬スルコトヲ
得ス

得ス

第四條 屍體ヲ火葬セムトスル者ハ主治醫ノ死亡診斷書ヲ添ヘ又醫師ノ
治療ヲ受タル猶豫ナクシテ死亡シタル者ノ爲ニハ醫師ノ検査書ヲ添ヘ
火葬料トシテ一人ニ付キ銀八圓(十四歳未満ノ者ハ其ノ半額)ヲ軍政事
務所ニ納付シ火葬認可證ヲ受ケヘシ
第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ軍政事務所ノ認可證ヲ有セサル屍體ヲ
火葬セシメ又ハ火葬シタルモノニアラサレハ埋葬セシムルコトヲ得ス
第六條 本規則ニ違反シタル者ハ警察署則チ以テ處分ス

●通關營業取締規則 明治三十九年三月三日 館令第十一號

通關營業取締規則左ノ通定ム
通關營業取締規則
第一條 通關營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ警察官署ヲ經テ領
事ニ届出テ許可ヲ受ケヘシ
一 原籍、住所、氏名、年齢及商號但シ法人ノ營業ニ係ルトキハ社名定
款並其ノ代表者ノ本籍、住所、氏名、年齢
二 營業所ノ位置
三 營業資本金額但シ會社ノ株金ニ付テハ其ノ拂込金額
四 通關手数料
五 營業者ノ經歷
前項第一號第二號第四號ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ届出テ第三號ヲ
變更セムトスルトキハ願出テ許可ヲ受ケヘシ
第二條 營業者ハ其ノ業務開始以前ニ保證金トシテ金千圓又ハ之ニ相當
スル有價證券ヲ領事ニ供託ス可シ但シ身元確實且信用アル者ト認メタ
ル者ハ之ヲ免除スルコトアルヘシ

第九 安東領事館

●官有財産管理會規則 明治三十九年四月二日 館令第六號

官有財産管理會規則左ノ通相定ム
官有財産管理會規則
第一條 安東官有財産管理會ハ領事ノ指揮監督ヲ受ケ在安東官有財産ヲ管理
ス
第二條 管理會ハ委員五名ヲ以テ組織ス委員ハ領事館員安東居留民團行
政委員及安東在留帝國臣民中ヨリ領事ノ命ス其ノ任期ハ一箇年トス

第九 安東領事館

但シ重任ヲ妨ケス

領事ハ前項ノ委員中ヨリ委員長一名ヲ命ス

第三條 委員長及委員ハ名譽職トス

第四條 委員長ハ管理會ヲ代表シ其ノ會務ヲ處理ス

委員ハ領事又ハ委員長ノ招集ニ應ジ在安東官有財産ノ管理方法ヲ審議ス

第五條 管理會ニ有給吏員ヲ附キ委員長ニ隷屬セシム

前項ノ吏員ハ領事之ヲ任免ス

第六條 管理會ハ其ノ管理ニ係ル官有土地ノ借地權ニ關スル契約ヲ公證ス

第七條 管理會ノ管理ニ係ル財産ヨリ生スル收入ハ其ノ維持改善又ハ一般公共ノ費用ニ充フルモノトス

一般公共ノ費用ハ其ノ費途ヲ指定シ若ハ指定セズシテ之ヲ安東居留民團ニ交付ス但シ民團ニ屬セサル事業ニ關スル費用ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 管理會ハ毎年前條收支ノ豫算ヲ議決シ領事ノ認可ヲ經ヘシ

管理會ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

第九條 前條ノ豫算中ニハ豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ取リヘシ豫備費ノ支出ハ管理會ニ於テ決議シ領事ノ認可ヲ經ルヲ要ス

第十條 管理會ハ毎年相當ノ積立金ヲナスヲ要ス

毎年度歲計剩餘金ハ之ヲ積立金ニ繰入ルヘシ積立金ノ處分ハ管理會ニ於テ決議シ領事ノ認可ヲ經ヘシ

第十一條 管理會ノ決議ヲ經タル官有財産維持改善ノ事業ハ安東居留民

團行政委員會ヲシテ之ヲ實施セシム但シ時宜ニ依リ領事ハ管理會ヲシテ之ヲ實施セシムルコトアルヘシ

第十二條 安東居留民團行政委員會ニ於テ施行シタル事業ノ費用ハ官有財産管理委員長ノ通告ヲ以テ安東居留民團行政委員會ヲシテ其ノ支拂ヲ司ラシム

第十三條 安東居留民行政委員會ハ左ノ報告ヲ管理會ニ提出スヘシ

一 毎月收支報告ハ翌月五日以内

一 事業實施報告ハ各事業ノ終了後五日以内

第十四條 管理會ノ出納閉鎖ハ年度經過後三箇月ヲ以テ期限トス

管理會ハ其ノ出納閉鎖後一箇月以内ニ收支決算報告ヲ領事ニ提出スヘシ

●官有財産貸下規則

明治三十三年四月二日 館令第七號

安東官有財産貸下規則左ノ通相定ム

安東官有財産貸下規則

第一條 安東官有財産管理會ノ管理ニ係ル官有財産ノ貸下ハ本規則ニ據ル

第二條 官有財産ノ貸下ハ競争入札ノ法ニ據ル但シ特別ノ事情ニ依リ特別貸下ヲ許可スルコトヲ管理會ニ於テ決議シ領事ノ認可ヲ經タル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 官有土地貸下期限ハ二十箇年以内トス期限満了後更ニ貸下ヲ爲スニ際シテハ前借地人ハ他人ニ先チ貸下ヲ受ケルモノトス

第四條 貸下財産ハ管理會ノ承認ヲ經シテ其ノ原形ヲ變更スルコトヲ得ズ違反スルトキハ相當ノ賠償ヲ命シ又ハ原形ニ復シメ及貸下許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十一條 官有財産貸下ノ手續ハ管理會ヲシテ之ヲ定メシム但シ領事ノ認可ヲ經ルヲ要ス

第十二條 借地權ノ取得又ハ移轉ハ土地權限ノ登録及地券ノ交付又ハ裏書ヲ終ルニアラサレハ之ヲ以テ管理會又ハ領事ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十三條 相續ニ因リ借地權名義ノ書換ヲナサントスル者ハ戶籍謄本ヲ添ヘ土地權限ノ登録及地券ノ書換ヲ出願スヘシ

第十四條 地券ノ紛失燒失等ノ場合ニハ運轉ナク其ノ事由ヲ明ニシテ地券ノ再交付ヲ出願スヘシ管理會ハ三日間其ノ旨ヲ公告シ更ニ五日ヲ經過シタル後再交付ヲ爲ス但シ其ノ費用ハ出願者ノ負擔トス

第十五條 貸下地地權ノ分合ハ管理會ノ承認ヲ經テ之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 貸下地ハ官用又ハ公共ノ用ニ供シ其ノ他官ノ都合アル場合ニ於テ貸下期間内ト雖之ヲ返還テ命スルコトアルヘシ

第十七條 官用又ハ公共ノ用ニ供スル爲返還テ命シタル場合ニ於テハ管理會ハ其ノ決議ヲ以テ換地ヲ給シ又ハ管理會カ相當ト認ムル賠償ヲ爲スヘシ但シ必要ノ場合ニ於テハ之ニ要スル費用ヲ全借地人ニ分擔セシムルコトアルヘシ

第十八條 期間満了以外ノ事由ニ因リ借地權力失效シタル場合ニ於テハ其ノ地上ニ正當ニ建物ヲ所有スル者ハ他人ニ先チテ該土地ノ貸下ヲ受ケルモノトス

第十九條 特別貸下ヲ受ケタル土地ハ管理會ノ承認及領事ノ認可ヲ經ルニアラサレハ之ヲ讓渡シ若ハ許可ノ目的又ハ條件ニ反シテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

附則

第十七條

第十八條

第十九條

第二十條

第二十一條

第二十二條

第二十三條

第二十四條

第二十五條

第二十六條

第二十七條

第二十八條

第二十九條

第三十條

第三十一條

第三十二條

第三十三條

第三十四條

第三十五條

第三十六條

第三十七條

第三十八條

第三十九條

第四十條

第四十一條

第四十二條

第四十三條

第四十四條

第四十五條

第四十六條

第四十七條

第四十八條

第四十九條

第五十條

第五十一條

第五十二條

第五十三條

第九 安東領事館

第五條 前條ノ場合ニ於テ官有財産ノ貸下ヲ受ケタル者管理會ノ命ニ從ヒ任意ニ原形ニ復セサルトキハ同會ニ於テ自ラ之ヲ原形ニ復シ其ノ費用ヲ徵收スルコトヲ得

第六條 管理會ハ官有財産ノ貸下ヲ受ケタル者ヨリ貸下料及使用料ヲ徵收ス

新ニ定ムル使用料或ハ使用料ノ變更ニ付テハ領事ノ認可ヲ受ケヘシ

貸下料及使用料ハ管理會ヨリ納入告知書ヲ發シ安東居留民團行政委員會ヲシテ之ヲ收納セシム

第七條 貸下料又ハ使用料ヲ告知期限ニ納付セサル者アルトキハ安東居留民團行政委員會ハ管理會ノ決議ニ基キ國稅ノ徵收ニ關スル規定ニ準據シテ之ヲ處分スヘシ

國稅ノ徵收ニ關スル規定中ノ罰則ニ於テ科セラレタル刑ハ罰金百圓以内又ハ拘留三十日以内ヲ以テ之ニ代フ

第八條 第六條第三項及第七條ノ規定ハ第四條ノ賠償第五條ノ費用及第十六條第二項ノ費用ニ準用ス

第九條 官有財産ノ貸下ヲ受ケタル者安東居留民團地區内ニ住所ヲ有セサルカ又ハ之ヲ有スルモ一箇月以上該地區内ヲ離ルルトキハ該地區内ニ住所ヲ有スル帝國臣民タル管理人ヲ定メ管理會ニ届出ヲ行フヲ要ス

一箇月以上前項ノ届出ヲ怠ルトキハ管理會ハ貸下許可ヲ取消スコトアルヘシ

管理人ハ借地人ニ代リテ借地人ニ屬スル一切ノ義務ヲ履行スル責ニ任スルモノトス

第十條 管理會ハ官有土地ノ貸下ヲ受ケタル者ニ一定ノ借地券ヲ交付スヘシ借地券ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第九 安東領事館

第十九條 本規則施行前安東居留民團行政委員會又ハ官有財産管理委員會ヨリ借地券狀ノ交付ヲ受ケタル者ハ明治四十三年六月三十日迄ニ管理會ニ該借地券狀ヲ呈示シテ新ニ地券ノ交付ヲ出願スヘシ

借地權ニ關スル契約公證規則 明治三十九年四月日 館令第八號

借地權ニ關スル契約公證規則左ノ通相定ム

借地權ニ關スル契約公證規則

- 第一條 安東官有財産管理會ノ管理ニ係ル貸下地借地權ノ貸入及行使ニ關スル契約ハ管理會ノ公證ヲ經ルニアラサレハ之ヲ以テ管理會又ハ管理會ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第二條 借地權カ貸入セラレタル場合ニ於テハ賃權者ノ承諾アルニアラサレハ該借地權ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス
借地權カ數次ニ貸入セラレタル場合ニ於テ賃權者ノ一人ニ該借地權ヲ讓渡スルモ亦前項ニ準ス
第三條 借地權貸入ノ場合ニ於テ債務者其ノ債務ヲ履行セザルトキハ管理會ハ其ノ公證ヲ經タル賃權者ノ申請ニ基キ該借地權ノ讓渡ヲ爲スヘシ讓渡申請ヲ爲シ又ハ爲ササル賃權者モ讓渡ニ加ハルコトヲ得
第四條 前條ノ場合ニ於テ賃權者ハ該借地權ニ係ル貸下料使用料其ノ他ノ負擔又ハ公課ニ先テ該賃代金ヨリ辨濟ヲ受クルコトヲ得
第五條 借地權讓渡ノ場合ニ於テ公證ヲ經タル賃權者ノ讓渡代金ヨリ辨濟ヲ受クル順位ハ公證ノ順序ニ據ル但シ公證ヲ經タル賃權者ハ之ヲ經サル賃權者ニ優先スルモノトス
第六條 借地權讓渡ノ場合ニ於テハ債務辨濟期限ノ到來セザル債權者ト雖期限ノ利益ヲ主張スルコトヲ得ス
第七條 本規則施行前安東居留民團行政委員會ニ於テ爲シタル公證ノ效力ハ本規則ニ據ル

土木建築請負營業取締規則

明治三十九年七月日 安東縣軍政署令

土木建築請負營業取締規則

- 第一條 土木建築請負營業者ハ本規則ニ據ルノ外安東縣軍政署管内居住民營業取締規則ニ據ルモノトス
第二條 如何ナル名義ヲ以テスルモ請負人ハ注文者ノ同意ヲ得ズシテ其ノ工事ヲ他人ニ下請セシムルコトヲ得ス
第三條 請負營業者ハ毎月末日調子以テ翌月五日迄ニ營業報告ヲ安東縣軍政署ニ提出スヘシ
營業報告ニハ競争契約タルト隨意契約タルト同ハス工事ノ種類請負金額請負月日ヲ記入スルヲ要ス
第四條 請負營業者ノ納銀額ハ請負金額ノ千分ノ五トス但シ安東縣軍政署管内居住民營業取締規則第十五條所定ノ納銀額ヲ要セス
前項ノ納銀ハ毎月末日調子以テ翌月十日迄ニ安東縣軍政署ニ納入スヘシ
第五條 安東縣軍政署ニ於テ必要ト認ムルトキハ請負營業者ノ業務及財產ノ狀況ヲ臨檢スルコトアルヘシ
第六條 本規則第二條第三條第四條ノ規定ニ違反シタル者及第五條ノ臨檢ヲ拒ミタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ百圓以下ノ罰銀ニ處ス
第七條 故意ヲ以テ帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ二十五圓以下ノ罰銀ニ處シ脱納者ハ脱納額三倍ノ罰銀ニ處ス
第八條 本規則ハ明治三十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
第九條 現行ノ請負營業稅規則ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢ス

第十 長春警務署

警務署事務開始 明治三十九年二月三日 告示 第二號

明治四十一年四月二十日關東都督府告示第三十八號ニ依リ長春警務署ヲ元長春警察官吏派出所跡ニ設置シ明治四十一年四月二十三日ヨリ事務ヲ開始ス

公主嶺支署事務開始 明治三十九年四月三日 告示 第三號

明治四十一年四月二十日關東都督府告示第三十八號ニ依リ公主嶺警務署ヲ明治四十一年四月二十三日限り廢止シ更ニ元公主嶺警務署跡ニ長春警務署公主嶺支署ヲ設置シ同日ヨリ事務ヲ開始ス

警務署移轉 明治三十九年十月日 告示 第五號

明治四十一年十月一日ヨリ長春警務署ヲ長春東第十六區新築廳舎ニ移轉ス

長春市街地居住者遵守事項 明治三十九年二月三日 告示 第一號

- 當長春市街地ニ居住スル者ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ
一 邸宅及其ノ地先道路ハ常に清潔ニ保持シ塵芥汚物ヲ投棄シ又ハ散亂セシムヘカラス
二 降雪ノ際ハ其ノ都度之ヲ掃除シ交通ノ妨害トナラサル場所ニ積集シ置クヘシ
三 各戸又ハ隣接兩戸共同シ塵芥箱ヲ設置スヘシ

第十 長春警務署

本告示ニ違フ者ハ相當處罰スルコトアルヘシ

阿片煙土及煙膏所持者ニ注意 明治三十九年七月日 告示 第一號

阿片ノ吸食及販賣ハ國法ノ嚴禁スル所ナルニモ拘ラス往々之カ遠近者有ルハ甚々遺憾トスル所ナリ目下煙土及煙膏所持者ニシテ其ノ過チ改メ此ノ際當官衙ニ呈出スルニ於テハ相當代金ヲ補償スルモ若シ之ヲ總スルカ如キ者ニ在リテハ濟國官衙ニ交付シ處罰セシムルハ勿論存案ノ煙膏煙土ハ無償ニテ沒收スヘシ管内居住ノ清國人一般本告示ノ總旨ヲ遵守シ悔テ後日ニ貽ス勿レ

第十一 長春領事館

公布式 明治二十五年六月六日 館令第一號

在長春領事ノ發スル命令ハ領事館揭示場ニ公示スルヲ以テ公布式ト定ム

領事館移轉 明治二十五年六月一日 告示第七號

今同當領事館事務所ハ元長春滿鐵俱樂部跡ニ移轉セリ但シ領事館警察署ハ従前ノ通

領事館事務取扱 明治二十五年六月八日 告示第八號

左ノ事項ハ領事館内ニ於テ之ヲ取扱フ

- 一 戶籍ニ關スル事項
- 一 旅券ニ關スル事項
- 一 營業證明ニ關スル事項

登記事務取扱 明治二十五年五月三日 告示第四號

當館ニ於テ本日ヨリ登記事務ヲ取扱フ

手数料等納付方ノ件 明治二十五年五月十六日 告示第七號

長春領事館ノ徵收スル手数料及出張費用ニ關スル規程第九條ニ依リ收入印紙ヲ以テ手数料及出張費用ヲ納付セシムルコトヲ得ル地ニ追加シ來ル六月一日ヨリ之ヲ實施スル旨本年五月九日外務省告示第二號ヲ以テ指定セラレタリ

長春居留民取締規則

明治二十五年六月六日 館令第二號

長春居留民取締規則左ノ通相定ム

長春居留民取締規則

第一條 本令ニ於テ居留民ト稱スルハ長春及其ノ附近(鐵道附屬地ヲ除ク)ニ住所ヲ定メ又ハ或ル期間内ニ在留スル帝國臣民ヲ指ス

第二條 居留民ハ到着ノ日ヨリ五日以内ニ其ノ氏名、族籍、身分、職業、生年月日及戶主、家族、同居人、使用人ノ區別並ニ居留ノ場所ヲ具シタル書面ヲ以テ當館警察署ニ届出ツヘシ其ノ居留ノ場所ヲ變更シタルトキ亦同シ

前項ノ届出ハ家族同居人使用人ニアリテハ戶主、世帯主又ハ家主ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 居留民ニシテ出生、死亡、轉出其ノ他戶籍又ハ前條第一項ノ届出事項ニ異動ヲ生シタルトキハ速急ナク戶主、世帯主、家主、同居人又ハ家主ヨリ當館警察署ニ届出ツヘシ但シ出生、死亡其ノ他身分ニ關スル異動ニシテ戶籍法ニ依リ領事ニ届出ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 居留民ニシテ一月ヲ稱ヘタル者ハ戶主又ハ世帯主、同居者ノ氏名ヲ書シタル門札ヲ掲グヘシ

第五條 左ノ營業ヲ爲サントスル者ハ營業ノ種類、商號、營業ノ場所ヲ具シ當館警察署ニ届出テ許可ヲ受クヘシ但シ特別ノ規定アルモノハ其ノ手續ニ依ルヘシ

一 新聞雜誌ノ發行

二十六 宿屋、下宿屋、料理店、飲食店、貸席、待合茶屋、引手茶屋、芝居

茶屋、掛茶屋

二十七 貸座敷、藝妓檢査

二十八 藝妓、娼妓、酌婦營業

二十九 俳優、相撲、遊藝師匠及遊藝營業

三十 人力車、乗合馬車營業

三十一 醫術開業

三十二 藥劑師開業

三十三 獸醫開業

三十四 屠工開業

三十五 產婆營業

三十六 鹹治業

三十七 灸治業

三十八 按摩業

三十九 理髮業

四十 清涼飲料水製造業

四十一 牛乳搾取、販賣業

四十二 製氷水貯藏及販賣業

四十三 罐詰製造業

四十四 賣藥業

四十五 掃除業

四十六 湯屋業

四十七 給水業

四十八 私立病院ノ設置

- 二 電気、瓦斯、汽機、汽機及石油發動機ヲ使用スル諸營業
- 三 銃砲火藥其ノ他爆發物ノ輸出入製造及販賣業
- 四 鐵道輸送業
- 五 製藥業
- 六 賣藥製造業及賣藥部外藥劑製造業
- 七 屠獸場營業
- 八 化成場營業
- 九 市場營業
- 十 銀行、倉庫、保險業
- 十一 煙火業
- 十二 石油輸出入及販賣業
- 十三 黃燐摺付木製造業
- 十四 鍛冶、鑄物製造業
- 十五 質屋
- 十六 古物商
- 十七 印刷業
- 十八 印版彫刻業
- 十九 運送業
- 二十 狩獵業
- 二十一 代書業
- 二十二 案内業
- 二十三 雇入口入業
- 二十四 演劇、寄席其ノ他諸興行業
- 二十五 勸商場、觀物場、遊藝場及遊藝場

第十一 長春領事館

四十九 牧畜業

五十 獸肉販賣業

五十一 其ノ他特ニ規定シタルモノ

第六條 前條ニ列記セル以外ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ營業ノ種類、商號、營業ノ場所ヲ具シテ當館警察署ニ届出ツヘシ

第七條 營業ヲ廢止シタルトキハ五日以内ニ當館警察署ニ届出ツヘシ但シ許可證又ハ鑑札ハ廢棄届出ノ際返納スヘシ

第八條 營業者ハ其ノ營業ニ關シ當館警察署ヨリ命令シタル事項ヲ遵守スヘシ

第九條 公安風俗又ハ衛生上必要ト認ムルトキハ警察官吏チテ營業ノ場所ニ臨檢セシムルコトアルヘシ

第十條 營業者ニシテ公安風俗又ハ衛生ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ禁止シ若ハ營業許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十一條 居留民ハ衛生、教育其ノ他居留民共同ノ利益ニ關スル事項ヲ協議處辨スル爲規約ヲ定メ領事ノ認可ヲ受ケ居留民會ヲ組織スルコトヲ得

第十二條 領事ハ公安上必要ト認ムルトキハ居留民會ヲ解散シ又ハ役員ノ改任ヲ爲スコトアルヘシ

第十三條 居留民ハ居留民會ノ定ムル所ニ依リ必要ナル公費ヲ負擔スヘシ

第十四條 本令第二條乃至第七條及第十三條ニ違背シ又ハ本令ニ基キ命令若ハ處分ニ違背シタル者ハ其ノ情狀ニ依リ五十圓以内ノ罰金若ハ料料又ハ拘留ニ處ス

附則

第十五條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 本令ニ依リ許可ヲ受ケヘキ營業ニシテ從來届出ニヨリ營業ヲ爲シ居ル者ハ本令施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ本令ニ依リ手續ヲ爲スニテラサレハ引續キ營業ヲ爲スコトヲ得ス

●料理店營業取締規則 明治三十二年五月二十七日 館令第二二號

料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業取締規則左ノ通相定ム

料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業取締規則

第一條 料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シテ代價又ハ料金を定メ當館警察署ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ第二號第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 氏名、族籍、住所、年齢及商號

二 營業場所ノ位置及營業ノ種類

三 營業用建物ノ平面圖(出入口、通路、取換氣法及暖氣法)ノ前項ノ出願者ニシテ未成年者、禁治產者ニ在リテハ法定代理人準據治產者ニ在リテハ保佐人準據ニ在リテハ夫ノ選擇又ハ同意書ノ添附ヲ要ス

第二條 營業者自ら營業ヲ管理シ能ハサル事情アルトキハ管理人ヲ定メ當館警察署ノ認可ヲ受ケヘシ

第三條 營業者ハ左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ當館警察署ニ届出ツヘシ但シ死亡、失踪ノ場合ハ家族又ハ同居人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

一 休業、廢業、死亡、失踪

二 氏名、族籍、住所、商號ヲ變更シ又ハ法定代理人、保佐人、夫、管理人

ニ異動アリタルトキ

第四條 物價ノ高低ニ依リ飲食物ノ代價、容料、席料、手数料ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ當館警察署ノ認可ヲ受ケヘシ

第五條 營業者ニシテ使用人ヲ雇入レタルトキハ其ノ氏名、族籍、住所、年齢ヲ具シ三日以内ニ當館警察署ニ届出ツヘシ解雇、死亡、失踪ノトキ亦同シ但シ藝妓、前婦及雇女取締規則ニ依ルヘキ者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 營業者ハ賭場所ニ氏名又ハ商號及住所營業名ヲ明記シタル看板標、二尺五寸ヲ掲ケ夜間ハ標燈ヲ點スヘシ

第七條 客室ノ入口ニ番號ヲ標記シ飲食物ノ代價、容料、手数料ハ客ノ賭場所ニ揭示スヘシ

第八條 結核病、癩病、梅毒其ノ他ノ傳染病ニ罹レル者チシテ飲食物若ハ容器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲スヘキ場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス

第九條 飲食物ノ取扱者ニ對シ當館警察署ノ指定シタル醫師ノ健康診斷書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第十條 風俗若ハ衛生上必要ト認ムルトキハ當館警察署ハ營業者ニ對シ其ノ使用人ノ解雇ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 客ノ變死傷又ハ携帶品ノ紛失、盜難アリタルトキハ他客ノ出入ヲ止メ置キ速ニ警察官吏ニ届出ツヘシ傳染病ノ疑アル患者チ生シタルトキ亦同シ

第十二條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 客引ヲ出シ又ハ種々ノ手段ヲ設ケ強テ客ヲ誘引スヘカラス

二 不當ノ代料ヲ請求シ若ハ客ノ求メサル飲食物ヲ供シ又ハ遊興ヲ勸ムヘカラス

第十一 長春領事館

第十一 長春領事館

三 客ニ供スル飲食器具ハ常に清潔ナラシムヘシ

四 家庭ノ内外ハ常に清潔ニシテ便所其ノ他不潔ノ場所ハ毎月五回以上消毒ノ清潔法ヲ施行スヘシ

五 客室廊下其ノ他適當ノ場所ニ唾棄ヲ設置スヘシ

六 客ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ故ナク之ヲ應答シ又ハ其ノ取次ヲ拒ムヘカラス

七 飲食物ノ代價、容料、席料、手数料ノ抵價トシテ客ノ所持品ヲ取ラムトスルトキ又ハ客ノ衣類ニ依リ所持品ヲ入質又ハ竊却セムトスルトキハ當館警察署又ハ警察官吏派所ニ届出テ其ノ承認ヲ受ケヘシ

八 身分不相應ノ金錢ヲ混費シ又ハ舉動其ノ他ニ於テ不審ト認ムル者アルトキハ當館警察署又ハ警察官吏派所者ハ進行ノ警察官吏ニ申告スヘシ

九 料理店、飲食店、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業者ハ客ヲ宿泊セシムヘカラス下宿屋營業者ニシテ下宿人以外ノ客ニ對シテ亦同シ

十 料理店、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業者ハ午後十二時以後午前七時前ニ於テ歌舞音曲ヲ演セシムルコトヲ得ス

十一 飲食店、宿屋、下宿屋營業者ハ客チシテ放歌詩吟又ハ歌舞音曲ヲ演シ他客ニ妨害ヲ與フヘキ行為ヲ爲サシムヘカラス

十二 免許ナキ婦女チシテ藝妓、前婦ノ稼業又ハ之ニ類スル所ヲ爲サシムヘカラス

第十三條 宿屋營業者ハ別記様式ニ依リ宿泊人名簿ヲ調製シ且午後十二時前ノ投宿者ニ對シテハ午後十二時迄午後十二時以後ノ投宿者ニ對シテハ翌日午前八時迄ニ當館警察署又ハ警察官吏派所ニ宿泊人名簿

第十一 長春領事館

下同一事項ヲ記載シタル投宿届ヲ爲スヘシ

第十四條 下宿屋營業者ハ下宿人ノ氏名、族籍、住所、職業、年齢ヲ記載シタル下宿人名簿ヲ編製シ其ノ異動ヲ三日以内ニ當館警察署ニ届出ツヘシ

第十五條 營業取締上警察ノ必要アリト認ムルトキハ警察官吏ハ隨時營業所ニ臨檢スルコトアルヘシ

第十六條 營業許可ノ後正當ノ理由ナクシテ六十日以上閉業セザルトキ又ハ閉業後百八十日以上休業シタルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十七條 營業者ニシテ公安、風俗又ハ衛生ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ營業ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十八條 營業上ニ關シテハ家族、同居人及雇人ノ所爲ト雖營業者又ハ管理人其ノ責任ニ任ス

第十九條 各營業者ニシテ組合規約ヲ設ケムトスルトキハ役員選舉ノ方法及組合費ノ收支其ノ他組合事務ニ關スル事項ヲ具シ當館警察署ノ認可ヲ受ケヘシ其ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ組合規約ノ認可ノ後ト雖之カ取消又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十條 本則又ハ本則ニ基ク處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十一條 前條ノ規定ハ十二歳未満ノ者及禁治産者ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス

第二十二條 本令ハ明治四十二年五月一日ヨリ施行ス

本令施行ノ際現ニ許可ヲ得テ營業中ノ料理店、飲食店、宿屋ハ本令ニ依リ

附則

ル者ニ對シ當該吏員ハ其ノ健康診斷ヲ行フコトヲ得

第十條 前條ノ婦女ニシテ傳染性疾患又ハ其ノ疑似症ニ罹リタルトキハ病院ニ收容シ治療ヲ受ケシムヘシ其ノ入院費用ハ抱主雇主又ハ本人ヨリ之ヲ徴收ス

第十一條 當館警察署ニ於テ風俗若ハ衛生上必要ト認ムルトキハ警察、抱主ハ雇主ハ雇主ニ對シ警察、抱主又ハ雇主ノ員數ヲ制限スルコトアルヘシ

第十二條 警察、抱主及第二條ニ規定スル雇主ニシテ風俗若ハ衛生ニ害及ホス者ト認ムルトキハ其ノ從業ヲ停止シ又ハ其ノ許可若ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

前項ニ依リ從業ヲ停止セラルトキハ停止期間中許可證又ハ認可證ヲ提供シ其ノ許可又ハ認可ヲ取消サレタルトキハ之ヲ返納スヘシ

第十三條 此ノ規則ニ基ク處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十四條 本令ハ明治四十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ許可ヲ受ケ營業中ノ警察及前條ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

●新聞紙取締規則 明治三十二年五月一日 館令第一號

新聞紙取締規則左ノ通相定ム

新聞紙取締規則

第一條 新聞紙ヲ發行セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ領事ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ

一 題號

一 遊技ニ托シ賭博ニ類スル所業ヲ爲スヘカラス

二 異様ノ粉裝又ハ醜態ヲ爲スヘカラス

三 猥褻ナル放歌又ハ舞踊ヲナシ若ハ之ヲ爲サシムヘカラス

第七條 藝妓ハ午後十二時以後午前七時前ニ於テ歌舞音曲ヲ演スルコトヲ得ス

第八條 藝妓、酌婦ニシテ他家ニ宿泊セムトスル者ハ當館警察署ノ認可ヲ受ケヘシ

第九條 藝妓、酌婦及第二條ニ規定スル雇主又ハ風俗衛生上取締ヲ要スル場所ニ同居若ハ出入スル婦女ニシテハ傳染性疾患ノ虞アリト認ム

第十一 長春領事館

一六五

許可ヲ受ケタルモノト看做ス

●藝妓、酌婦及雇主女取締規則 明治三十二年五月七日 館令第三號

藝妓、酌婦及雇主女取締規則左ノ通相定ム

第一條 藝妓又ハ酌婦ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ且月籍、股本及當館警察署ノ指定シタル醫師ノ健康診斷書ヲ添ヘ當館警察署ニ願出テ許可證ヲ受ケヘシ

一 氏名、族籍、住所、身分、年齢

二 藝名ヲ有スル者ハ其ノ名稱

三 前居住地、職業、雇主アリタル者ハ其ノ氏名、住所、職業及解雇年月日

四 抱主アルトキハ其ノ氏名、住所、職業及抱主トノ契約上ノ關係

未成年者又ハ有夫ノ婦ニ在リテハ前項ニ記載スル事項ノ外親權者、後見人又ハ夫ノ同意書ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條 料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、待合茶屋、貸座敷、引手茶屋、遊技場營業者ニシテ客ヲ接待セシムル目的ヲ以テ藝妓、酌婦以外ノ婦女ヲ雇入レムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ且本人ノ月籍、股本及當館警察署ノ指定シタル醫師ノ健康診斷書ヲ添ヘ連署ヲ以テ當館警察署ニ願出テ認可證ヲ受ケヘシ其ノ未成年者ニ在リテハ身元保證書ヲ添附ヲ要ス

一 前條第一項第一號及第三號ニ記載シタル事項

二 口入人アルトキハ其ノ氏名、住所、職業

三 雇傭期間及雇傭賃金

ル者ニ對シ當該吏員ハ其ノ健康診斷ヲ行フコトヲ得

第十條 前條ノ婦女ニシテ傳染性疾患又ハ其ノ疑似症ニ罹リタルトキハ病院ニ收容シ治療ヲ受ケシムヘシ其ノ入院費用ハ抱主雇主又ハ本人ヨリ之ヲ徴收ス

第十一條 當館警察署ニ於テ風俗若ハ衛生上必要ト認ムルトキハ警察、抱主ハ雇主ハ雇主ニ對シ警察、抱主又ハ雇主ノ員數ヲ制限スルコトアルヘシ

第十二條 警察、抱主及第二條ニ規定スル雇主ニシテ風俗若ハ衛生ニ害及ホス者ト認ムルトキハ其ノ從業ヲ停止シ又ハ其ノ許可若ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

前項ニ依リ從業ヲ停止セラルトキハ停止期間中許可證又ハ認可證ヲ提供シ其ノ許可又ハ認可ヲ取消サレタルトキハ之ヲ返納スヘシ

第十三條 此ノ規則ニ基ク處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十四條 本令ハ明治四十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ許可ヲ受ケ營業中ノ警察及前條ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

●新聞紙取締規則 明治三十二年五月一日 館令第一號

新聞紙取締規則左ノ通相定ム

新聞紙取締規則

第一條 新聞紙ヲ發行セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ領事ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ

一 題號

一 遊技ニ托シ賭博ニ類スル所業ヲ爲スヘカラス

二 異様ノ粉裝又ハ醜態ヲ爲スヘカラス

三 猥褻ナル放歌又ハ舞踊ヲナシ若ハ之ヲ爲サシムヘカラス

第七條 藝妓ハ午後十二時以後午前七時前ニ於テ歌舞音曲ヲ演スルコトヲ得ス

第八條 藝妓、酌婦ニシテ他家ニ宿泊セムトスル者ハ當館警察署ノ認可ヲ受ケヘシ

第九條 藝妓、酌婦及第二條ニ規定スル雇主又ハ風俗衛生上取締ヲ要スル場所ニ同居若ハ出入スル婦女ニシテハ傳染性疾患ノ虞アリト認ム

第十一 長春領事館

一六五

- 二 記載ノ種類
- 三 發行ノ時期
- 四 發行所及印刷所
- 五 發行人、編輯人及印刷人ノ原籍、住所、氏名、年齢
- 六 既載ノ記載ノ種類又ハ發行人、編輯人、印刷人ヲ變更セムトスルトキハ領事ニ願出テ許可ヲ受ケルヘシ
- 七 前二條ノ場合ニ於テハ發行人、編輯人、印刷人ノ履歷書ヲ添附ス
- 八 發行人、編輯人、印刷人ノ死亡シタルトキハ一週間以内ニ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ其ノ手續ヲ終ル迄ハ假定擔當者ヲ届出テ發行スルコトヲ得
- 九 發行ノ時期、發行所、印刷所ヲ變更シタルトキハ運滯ナク其ノ旨届出ツヘシ
- 十 發行人、編輯人、印刷人ハ之ヲ兼スルコトヲ得ス
- 十一 發行人ハ金千圓以内ニ於テ領事ノ指定シタル保證金ヲ領事館ニ提供スヘシ但シ時價ニ準シ公債證券、國庫債券及勲業債券ヲ以テ代納スルコトヲ得
- 十二 發行人ハ保證金ヲ完納シタル後ニアラサレハ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得
- 十三 保證金ハ發行ヲ廢止シ又ハ發行ノ許可ヲ取消サレタルトキハ之ヲ還付ス
- 十四 新聞紙ノ發行ヲ休止セムトスルトキハ其ノ旨届出ツヘシ
- 十五 發行許可ノ日ヨリ五十日ヲ過クルモ發行セズ若ハ正當ノ理由ナクシテ休止スルトキハ發行ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

- 第十六 新聞紙ハ發行毎ニ領事館ニ二部關東都府府及長春警察署ニ各一部ヲ納付スヘシ
- 第十七 新聞紙ハ毎號ニ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名及發行所ヲ記載スヘシ
- 第十八 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ關シ其ノ關係人ヨリ正誤又ハ取消ヲ求メタルトキハ運滯ナク正誤又ハ取消ヲナスヘシ但シ取消又ハ正誤文ノ字數原文ノ二倍ニ超過スルトキハ之ヲ拍ムコトヲ得
- 第十九 正誤又ハ取消文ハ原文ト同一活字ヲ用ヒ同一欄内ニ掲載スヘシ
- 第二十 官報又ハ他ノ新聞紙雜誌等ヨリ抄録セシ事項ニシテ其ノ官報、新聞紙雜誌等ニ正誤取消ノ記載アリタルトキハ速ニ正誤又ハ取消ヲ爲スヘシ
- 第二十一 購讀申込ミナキ新聞紙ヲ配布シ又ハ掲載ノ申込ミナキ廣告ヲ掲載シテ其ノ代價ヲ要求シ又ハ強テ廣告ノ依頼ヲ要求スルコトヲ得
- 第二十二 領事ハ取締上必要ト認メタルトキハ發行人ニ對シ隨時命令ヲ發スルコトアルヘシ
- 第二十三 本令又ハ本令ニ基テ命令ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ニ處ス
- 第二十四 領事ハ公安上必要ト認ムルトキハ前條ノ處分ヲ爲シタル場合ト否トナ同ハス新聞紙ノ發賣額ヲ禁止シ又ハ發行ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第二十五 附則
- 第二十六 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第二十七 本令施行ノ際現ニ發行スル新聞紙ハ一箇月以内ニ第七條ノ保證金ヲ提供スルニアラサレハ引續キ發行スルコトヲ得

警察犯處罰令

明治二十一年十月廿日 正第四一號令

警察犯處罰令

明治二十一年十月廿日 正第四一號令

- 一 警察取締上ノ制止ヲ背セサル者
- 二 正當ノ理由ナクシテ官署ノ召喚ニ應セサル者
- 三 水火其ノ他ノ變ニ際シ官署ヨリ防禦スヘキ求メテ受ケ之ニ應セサル者
- 四 開業ノ醫師、產婆故ナク病者又ハ妊婦、產婦ヲ招キニ應セサル者
- 五 濫ニ人家稱密ノ場所ニ於テ煙火其ノ他ノ火器ヲ玩ヒタル者
- 六 濫ニ人家ノ近傍又ハ山林原野ニ於テ火ヲ焚ク者
- 七 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壊セムトスル家屋其ノ他ノ建造物ノ修理ヲ爲ササル者
- 八 官署ノ命令ヲ受ケテ煙筒ノ掃除ヲ爲ササル者
- 九 流官淫猥ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者
- 十 濫ニ吉兎福福ヲ祝キ又ハ祈禱符呪ヲ爲シ利ヲ圖ル者
- 十一 人ノ看守セサル建造物内ニ潜伏シタル者
- 十二 物品ヲ強奪シ又ハ強テ技藝ヲ演シテ報酬ヲ求ムル者
- 十三 許可ヲ受ケシテ金錢物品ノ寄附惠與ヲ勸誘募集スル者
- 十四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ威迫ノ行爲ヲ爲シタル者
- 十五 購讀申込ミナキ出版物ヲ配布シ又ハ掲載ノ申込ミナキ廣告ヲ掲載シテ其ノ代價ヲ要求シ又ハ強テ廣告ノ依頼ヲ要求シタル者

- 十六 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配者ハ金品ヲ強請シタル者
- 十七 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 十八 新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ謗大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 十九 祭事、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 二十 廟廟佛堂其ノ他公ノ建造物ヲ汚損シタル者
- 二十一 一定ノ生業ヲ諸方ニ徘徊スル者
- 二十二 乞丐ヲ爲シ又ハ乞丐ヲ爲サシメタル者
- 二十三 營業者ノ承諾ナクシテ無錢ニテ遊興又ハ飲食ヲ爲シタル者
- 二十四 宿屋、下宿屋ニ於テ氏名ヲ詐稱シタル者
- 二十五 官署、位記、勳章、學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、歌草ヲ體用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者
- 二十六 官署又ハ官吏ニ對シ不實ノ申請ヲ爲シ又ハ其ノ職務アル者ニシテ故ナク申請ヲ背セサル者
- 二十七 賭博シテ路上ニ喧嘩シ又ハ騷亂シタル者
- 二十八 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シ制止ヲ背セサル者
- 二十九 劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ食案ノ妨害ヲ爲シタル者
- 三十 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ背セシ混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者
- 三十一 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
- 三十二 市街又ハ曠見シ得ヘキ場所ニ於テ賭博ヲ爲シタル者
- 三十三 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合停止ヲ爲シタル者

- 三十四 濫ニ儲蓄術又ハ隱匿術ヲ爲シタル者
- 三十五 道路ニ於テ車馬ノ練習若ハ遊戯ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 三十六 許可ヲ受ケスシテ道路ニ露店又ハ小屋掛ヲ爲シタル者
- 三十七 賭車、商品其ノ他物件ヲ横へ通行ノ妨害ヲ爲シタル者
- 三十八 交通ノ妨害トナルヘキ井濘凹所又ハ木石其ノ他ノ堆積物ニ防圍ヲ設ケス夜間點燈ヲ爲ササル者
- 三十九 犬其ノ他ノ獸類ヲ養ヒ又ハ驚逸セシメタル者
- 四十 雇主又ハ使用者ニシテ雇人又ハ勞役者ニ對シテ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者
- 四十一 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク縫裝シタル者
- 四十二 狂犬猛獸等ノ繁殖ヲ忌リ路上ニ放チタル者
- 四十三 濫ニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 四十四 瓦礫ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
- 四十五 制止ヲ肯セシメテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽入レタル者
- 四十六 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅シタル者
- 四十七 濫ニ街燈ヲ消シタル者
- 四十八 通行禁止其ノ他標示ノ禁條ヲ犯シタル者
- 四十九 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者
- 五十 許可ヲ受ケスシテ死屍ヲ解剖シタル者
- 五十一 自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官ニ申告セズ又ハ他所ニ移シタル者
- 五十二 許可ヲ要セズシテ死屍ヲ埋葬シ又ハ改葬シタル者
- 五十三 濫ニ瓦礫塵芥汚物又ハ禽獸死屍ヲ投棄シタル者
- 五十四 飲用ヲ禁シタルホチ飲料ニ販賣シタル者

- 五十五 不潔ノ異物又ハ腐敗シタル食物ヲ販賣シタル者
 - 五十六 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者
 - 五十七 傳染病者ヲ隱匿シ又ハ其ノ届出ヲ爲ササル者
 - 五十八 市街ニ於テ便所外ニ屎尿ヲ爲シタル者又ハ爲サシメタル者
 - 五十九 官署ノ督促ヲ受ケテ掃除ヲ爲ササル者
 - 六十 他人ノ要キタル牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者
 - 六十一 電柱橋樑標示樹木圍欄其ノ他公用ノ建造物ニ牛馬ヲ繫キタル者
 - 六十二 禁示標、境界標、指導標及看板標札廣告札等ノ類ヲ毀壞汚損シタル者
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十二 遼陽警務署

● 公布式 明治二十五年五月五日 告示第八號

遼陽警務署長ノ發スル告示ハ本署揭示場ニ揭示スルヲ以テ公布式ト定ム

● 願届等ハ便宜領事館警察署ニ提出方

明治二十五年五月五日 告示第九號

遼陽警務署ニ提出スヘキ願届其ノ他ノ書類ハ差出人ノ都合ニ依リ便宜在遼陽日本領事館警察署ニ提出スルコトヲ得

● 滿鐵會社遼陽出張所ヲ經由スヘキ願届

明治二十五年五月四日 告示第十號

人民ヨリ當署ニ提出スル諸願届ハ從來南滿洲鐵道株式會社遼陽出張所ヲ經由セルモ爾今左ニ記載シタルモノノ外直接當署ニ差出サルヘシ

- 一 廢業届
- 一 退去届又ハ鐵道附屬地外ニ移轉スル場合
- 一 營業名稱替換願

● 口頭ニテ願届ケ得ヘキ事項 明治二十五年四月五日 告示第四號

自今左記事項ハ口頭ヲ以テ當署ニ願届出ツルコトヲ得

- 左記
- 一 盜難届

第十二 遼陽警務署

- 二 一時ノ街路使用願
- 三 煙火打揚願

四 傳染病及其ノ疑似症届但シ醫師ヨリノ届書ハ此ノ限ニ在ラズ

五 變死傷又ハ行旅病死入届

六 遺失、紛失、遺留、埋藏物又ハ拾得物届

七 宿泊料又ハ遊興費ノ抵償トシテ物品受領承認願

八 簡易ナル祝儀願

九 保護及行政捜査願

十 藝妓、酌婦、雇婦女、健康診察願

十一 驅獸ノ爲入院中ノ藝妓、酌婦、雇婦女、外出願

十二 藝妓、酌婦、外泊又ハ旅行願

十三 車體又ハ馬匹ノ検査願

十四 放棄興行願

十五 學術技藝ニ關スル集會届

十六 料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋ノ使用人雇入又ハ解雇願

● 電話ニテ願届ケ得ヘキ件 明治二十五年五月五日 告示第十號

本年四月五日告示第四號ヲ以テ告示セシ口頭ヲ以テ願届出ツルコトヲ得ヘキ件及其ノ他簡易ナル願届ハ自今電話ヲ以テ本署又ハ最寄警察官吏差出所ニ願届出ツルコトヲ得但シ必要ト認ムルトキハ出願ヲ命スルコトアルヘシ

一六九

● 夜間通行者燈火携帯ノ件 明治二十五年五月二日 告示第二號

第十二 遼陽警務署

夜間通行ノ者ハ可成燈火ヲ携帯スヘシ携帯セサル者ハ當署派遣ノ密行警
戒員ノ爲ニ誰何セラルルコトアルヘシ

●火災豫防上注意事項 明治三十一年五月五日 告示第一號

今ヤ漸次寒冷ニ向ヒ火災豫防上最モ注意ヲ要ス從來ニ於ケル火災ノ原因
ヲ調査スルニ其ノ最モ多キハ煙突ノ構造不完全ナルト火氣取扱ヒ粗瀆ナ
ルトニ基因スルモノノ如シ就テハ此ノ際左記各項ヲ遵守シ周到ナル注意
ヲ拂ヒ以テ斯ノ恐ルヘキ災害ヲ未然ニ豫防スヘシ

注意事項

- 一 煙突ハ壁トノ中間接續點ノ構造設備ヲ完全ナラシムルコト
- 二 煙突ノ掃除ハ一週間一回以上之ヲ爲スコト
- 三 石炭焚殺ハ之ヲ一定ノ場所ニ投棄シ直ニ注水シテ火氣ヲ滅スルコト
- 四 藪屑糸屑腐屑等引火シ易キ物件ハ散亂セシムルコトナク必ス之ヲ
取纏メ一定ノ完全ナル場所ヘ片付ケ置ケコト
- 五 引火又ハ引火シ易キ物件ヲ貯藏シ又ハ取扱フ場所ニ於テハ喫煙ヲ
嚴禁スルコト
- 六 火工場其ノ他業務上ノ火氣ヲ使用スルモノニアリテハ終業後必ス
能ク其ノ火氣ヲ消滅スルコト
- 七 劇場寄席旅人宿料理店飲食店湯屋病院及寄宿舎等多數集合スル場
所ニ於テハ特ニ殘火ノ取片付ケテ注意スルコト
- 八 屋内又ハ人家ノ近傍ニ於テ裸火ヲ焚クヲ嚴禁スルコト

●密殺獸肉販賣ニ付注意 明治三十一年三月九日 告示第一號

近來往々密殺シタル獸肉ニ爲印ヲ捺シ附屬地内ニ販賣スル者アリ購買者
ハ檢印ノ眞否ヲ確メタル後購入スヘシ檢印見本ハ當署ニ保管シアルヲ以
テ希望者ハ隨時照覽スヘシ

●飼犬者ノ注意事項 明治三十一年六月八日 告示第一號

近來警署野犬捕所ニ持歸シ行人ヲ咬傷スルモノアルニ付隨時之ヲ撲
殺チ行フ旨ニ付飼犬所有者ハ左記各條ノ通り處置セラルヘシ其ノ處置ヲ
爲ササルモノハ野犬ト看做シ撲殺スルコトアルヘシ

- 一 飼犬ニハ頭環又ハ牌子ヲ附シ之ニ飼主ノ住所氏名ヲ記入スルコト
- 二 人畜ヲ咬傷スル虞アル飼犬ハ之ヲ放飼スヘカラス

●炭酸瓦斯ニ關スル注意事項 明治三十一年六月八日 告示第二號

防寒ノ爲室内ニ於テ多量ノ木炭ヲ燃焼シ往々炭酸瓦斯中毒ニ罹リ人事不
省ニ陥リ甚シキニ至リテハ生命ヲ失フ者從來其ノ例ニ乏シカラス今ヤ況
寒ノ候ニ向ヒ防寒保溫ノ必要ヲ感スルニ就テハ左記各項ヲ遵守シ之ヲ不
測ノ禍害ヲ避クサレ爾各自注意スヘシ

注意事項

- 一 増設障口ヲ相當修理シ衣服履具ニ意ヲ用ヒ可成木炭ノ使用ヲ制限
スルコト
- 二 室内ヲ密閉シテ多量ノ木炭ヲ燃焼セサルコト
- 三 炭火ハ必ス室外ニ於テ亦化セシメタル後ニアラサレハ室内ノ置置
爐又ハ火鉢ニ入レサルコト
- 四 時々窓戸ヲ開キ通宜ノ換氣法ヲ行フコト
- 五 就眠ニ際シテハ特ニ前項ニ留意スルコト

第十三 遼陽領事館

●遼陽出張所開始 明治三十一年五月五日 告示第一號

遼奉天總領事館遼陽出張所本日より開始ス

●鐵道敷地内居留民取締事務引繼 明治三十一年五月二十日 告示第二十七號

當署所屬敷地内居留民取締事務ハ本月二十一日關東都督府奉天警務署
遼陽支署ヘ引繼チ行フ

●公布式 明治三十一年五月六日 告示第八號

當館ノ發スル館令告示諭達ハ南滿日報ニ掲載シ又ハ當館揭示場ニ揭示ス
ルヲ以テ公布式ト定ム

●關東總督府及軍政署發布ノ規則中效力ノ件 明治三十一年八月三日 奉天總領事館令第五號

從前關東總督府及軍政署ノ發布シタル諸規則ニシテ當館令ニ依リ改廢
セラレサルモノハ總テ從前ノ通知力チ有ス

●願届等ハ便宜警務署ニ提出方 明治三十一年七月五日 告示第七號

當領事館警務署ニ提出スヘキ願届其ノ他ノ書類ハ差出人ノ都合ニ依リ便
宜遼陽警務署ニ提出スルコトナラサ

●口頭ニテ願届ケ得ヘキ件 明治三十一年四月五日 告示第二號

第十三 遼陽領事館

自今左記事項ハ口頭ヲ以テ當領事館警務署ニ願届出ラレルコトナラサ

- 左記
- 一 盜難届
 - 二 煙火打揚願
 - 三 傳聲機及其ノ疑似音聲機ノ修理ヨリノ願届ハ此ノ限ニ在ラズ
 - 四 變死傷又ハ行旅病死人屬
 - 五 遺失、紛失、遺留物又ハ拾得物屬
 - 六 宿泊料又ハ遊興費ノ抵償トシテ物品受領承認願
 - 七 物品ナル既驗願
 - 八 保護及行政捜査願
 - 九 養妓酌量健康診察願
 - 十 驅散ノ爲入院中ノ養妓酌量外庶願
 - 十一 養妓酌量外泊旅行願
 - 十二 車體又ハ馬匹ノ檢査願
 - 十三 放棄與行願
 - 十四 學術技藝ニ關スル集會願
 - 十五 料理店、飲食店、旅人宿、下宿屋使用人雇入又ハ解雇願
- 電話ニテ願届ケ得ヘキ件 明治三十一年十月八日 告示第七號
- 本年四月五日告示第二號ヲ以テ告示セシ口頭ヲ以テ願届ケ出ラレルコトナ
得ヘキ件及其ノ他物品ナル願届ハ自今電話ヲ以テ當領事館警務署ニ願届ケ出
ラレルコトナラサ但シ必要ト認ムルトハ出願ヲ命ズルコトアルヘシ
- 在留臣民ノ態度ニ關スル注意 明治三十一年八月五日 奉天總領事館告示第二號

第十三 遼陽領事館

遼陽及其附近ニ在留スル帝國臣民ハ自今本總領事及在遼陽副領事ノ保護及取締ヲ受クル各自ハ今後益其ノ態度ヲ慎重ニシ其ノ業務ニ精勵シテ自家ノ幸福ヲ展フルト同時ニ本邦人殊ニ清國人ニ對シテハ専ラ和衷親睦ヲ尙ヒ以テ彼我相互ノ福祉ヲ増進スルニ勉ム可シ

遼陽居留民會規則

明治三十九年八月二十四日 奉天總領事館令第七號

第五四〇號令(第九號第一、第二、第三)

- 第一條 本會ハ遼陽及其附近ニ在留スル帝國臣民ヲ以テ組織ス
第二條 本會ハ會長及副會長一名ヲ置ク
會長及副會長ハ當分ノ領事官ニ於テ選任ス會長及副會長ニ選定セラレタル者ハ當然行政委員ノ資格ヲ有シ且行政委員會ノ議長及副議長トシテ各其ノ職責ニ任スルモノトス
第三條 本會ニ行政委員六名ヲ置キ土木衛生教育其ノ他居留民共同ノ利益ニ關スル事項ヲ審議處理セシム
第四條 行政委員六名ノ内當然ノ委員タル會長及副會長ヲ除キ他ノ一名ハ領事官ニ於テ選定シ他ノ三名ハ當分ノ領事官ノ選定シタル三名ノ委員ニ於テ推舉シ領事官ノ承認ヲ受ケシ
第五條 會長副會長及行政委員ノ任期ハ一箇年トス
會長副會長及選定又ハ推舉ヲ受ケタル行政委員ハ直ニ就任スヘシ又領事官ニ於テ正當視スル理由ニ依ルノ外任期中辭任スルコトヲ得サルモノトス
第六條 行政委員會ハ第三條ノ施設ニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メ賦課金

及課目ヲ議定シ居留民ニ對シテ賦課徵收スルコトヲ得
第七條 行政委員會ニ於テ決議シタル事項ハ領事官ノ認可ヲ經ヘシ
第八條 行政委員會ハ四名以上出席スルニアラサレハ開會スルコトヲ得

遼陽居留民衛生組合規則

明治四十一年四月十日 奉天總領事館令第十一號

- 第一條 遼陽居留民ハ本規則ニ據リ衛生組合ヲ組織スヘシ
第二條 各衛生組合ノ區域ハ居留民ニ於テ議決シ當館ニ申報スヘシ
第三條 各衛生組合ニ組合長一人副組合長一人委員五人ヲ置ク
第四條 組合長ハ居留民會長ノ監督ヲ受ケ左ノ職務ヲ行フ但シ別ニ規定

遼陽居留民衛生組合規則

明治四十一年九月一日ヨリ實施ス

- スレモノハ此ノ限ニ在ラス
一 衛生ニ關スル官署ノ命令ヲ組合員ニ傳達スルコト
二 組合員ノ衛生ヲ監視シ組合内ノ公共衛生ニ關スル事務ヲ處辨スルコト
第五條 副組合長ハ組合長ヲ輔佐シ組合長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
第六條 委員ハ組合ニ於ケル重要事項ヲ評議決定ス組合長ハ委員會ノ會長ト爲リ議事ヲ監督ス
第七條 組合長、副組合長及委員ハ組合員ノ選舉シ居留民會長ハ之ヲ當館ニ申報スヘシ
第八條 組合長ハ組合ニ於ケル重要事項ヲ居留民會長ニ報告シ居留民會長ハ之ヲ當館ニ申報スヘシ
第九條 組合ハ法令又ハ議決ノ執行ニ基キ其ノ組合ニ特別ナル出費ヲ其ノ年度精算ノ上各組合員ニ分擔セシムルヲ得組合長ハ前項出費ノ收支計算ヲ明ニシ監督者又ハ組合員ノ請求アリタルトキハ之ヲ提示説明スヘシ
第十條 居留民會ハ衛生組合ノ組織ヲ監督シ其ノ事業ヲ助長スヘシ
附則
本則ハ明治四十年四月十日ヨリ施行ス

居留民取締規則

明治三十九年八月三日 奉天總領事館令第一號

- 第一條 遼陽及其附近ニ住所ヲ定メ又ハ或期間在留セムトスル者ハ到

第十三 遼陽領事館

著ノ日ヨリ三日以内ニ本人ヨリ其ノ旨書面又ハ口頭ヲ以テ届出ツヘシ但シ家族同居者又ハ被傭人ニ關シテハ戶主又ハ雇傭者ヨリ届出ツルコトヲ得
前項ノ届出チナスニハ戶籍簿本又ハ放券ヲ有スル者ハ其ノ原本及寫ヲ呈出スヘシ但シ之ヲ有セサル者ハ左ノ各項ヲ書面又ハ口頭ニテ通知スヘシ

- 一 本籍
二 職業
三 身分(戶主家族ノ別、家族ナルトキハ戶主ノ氏名及戶主トシテ之ヲ記載スヘシ)
四 氏名
五 生年月日
六 到着年月日
七 遼陽ニ於ケル住所又ハ居所

- 第一條 遼陽居留民ハ本規則ニ據リ衛生組合ヲ組織スヘシ
第二條 各衛生組合ノ區域ハ居留民ニ於テ議決シ當館ニ申報スヘシ
第三條 各衛生組合ニ組合長一人副組合長一人委員五人ヲ置ク
第四條 組合長ハ居留民會長ノ監督ヲ受ケ左ノ職務ヲ行フ但シ別ニ規定

第十三 遼陽領事館

- 六 湯屋業
- 七 質屋金貨業
- 八 新聞雜誌ノ發行
- 九 各種遊藝業
- 十 氷雪此清涼飲料水製造業
- 第四條 第三條ニ列記セル以外ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ豫メ左ノ事項ヲ口頭又ハ書面ヲ以テ届出ツヘシ
 - 一 營業ノ種類
 - 二 營業ノ場所
 - 三 營業主ノ族籍身分姓名生年月日
 - 四 營業ニ用ユヘキ店號
 - 五 支店又ハ出張所ナルトキハ本店ノ所在地及店號
 - 六 共同ノ營業ニ係ル者ハ業務主任者ノ本籍身分姓名生年月日
 - 七 業務ニ關スル使用人ノ本籍身分姓名生年月日
- 第五條 前條列記事項中變更アルトキハ遲滞ナク届出ツヘシ
- 第六條 營業ヲ廢止セムトスル者ハ少クテモ五日以前ニ届出ツヘシ
- 第七條 土地建物ノ賃貸貸借買入抵當等ハ契約締結後三日以内ニ當事者連署ヲ以テ契約書ノ寫ヲ添ヘ届出ツヘシ
- 第八條 居留民ニシテ一月ヲ據ヒタル者ハ戶主及同居人ノ氏名ヲ書シタル門札ヲ掲クヘシ
- 第九條 本則又ハ本則ニ基ク處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 附則
- 第十條 本令ハ明治三十九年八月三日ヨリ施行ス

●旅人宿竝料理店營業取締規則

明治三十九年八月三日 奉天總領事館令第二號

- 旅人宿營業取締規則左ノ通相定ム
- 旅人宿營業取締規則
- 第一條 遼陽ニ於テ旅人宿業又ハ料理店業ヲ營ムトスル者ハ族籍身分職業年齡氏名ヲ附申シ營業家屋ノ圖面ヲ添ヘ書面ヲ以テ其ノ營業ノ許可ヲ出願スヘシ
- 第二條 旅人宿及料理店ハ同一家屋ニ於テ營業スルコトヲ得ス
- 第三條 旅人宿營業者竝料理店營業者ニ於テ新ニ使用人ヲ雇入タル場合ニ於テハ其ノ雇入レノ日ヨリ二日以内ニ族籍身分年齡姓名及雇入レノ目的ヲ詳細ニ書面ヲ以テ届出ツヘシ解雇シタル場合亦同シ
- 第四條 第一條及第三條届出及届出ノ場合ニ於テ旅人宿業若ハ月籍本ヲ有スル者ハ其ノ原本及寫ヲ呈出スヘシ
- 第五條 旅人宿營業者ハ宿泊人ナシテ夜間靜慮ヲ保テ四隣ノ安眠ヲ妨害セシメサル責ニ任スヘシ
- 第六條 旅人宿營業者ハ宿泊人名簿甲乙二冊ヲ備ヘ宿泊人ノ族籍職業年齡氏名特徴及出資地ヲ記シ翌日正午迄ニ領事館ニ呈出スヘシ
- 第七條 料理店營業者ハ來客ヲ宿泊セシムルコトヲ得ス又午後十二時以後歌舞音曲其ノ他安眠ヲ妨害スルカ如キ喧嘩ノ行爲アルヘカラス
- 第八條 旅人宿又ハ料理店營業者ハ組合ヲ設ケ取締人ヲ定メ宿泊料飲食代其ノ他組合ニ關スル規約ヲ設ケ認可ヲ受クヘシ
- 第九條 旅人宿及料理店營業組合ニ加盟セサル者ハ營業ヲ許可セズ
- 總テ願屆類ハ取締人ノ連署ヲ要ス

- 第十條 本則又ハ本則ニ基ク處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 附則
- 第十一條 本令ハ明治三十九年八月三日ヨリ施行ス但シ第二條ノ規定ハ從前ノ營業者ニ對シテハ明治三十九年十二月三十一日迄其ノ施行ヲ延期ス

●藝妓酌婦取締規則

明治三十九年八月三日 奉天總領事館令第四號

- 藝妓酌婦取締規則
- 第一條 藝妓又ハ酌婦タラムトスル者ハ本人出願シ左ノ事項ヲ具シ願出テ許可ヲ受クヘシ
 - 一 氏名族籍住所身分年齡
 - 二 藝名ヲ有スル者ハ其ノ名稱
 - 三 前居住地職業雇主アル者ハ其ノ氏名住所職業及解雇年月日
- 未成年者ハ有夫ノ婦ニアリテハ前項ニ記載スル事項ノ外親權者後見人又ハ夫ノ同意書ヲ添附スヘシ
- 第二條 藝妓酌婦ノ抱主ハ藝妓酌婦カ前條ノ手續ヲ爲スニ當リ本人出願シテ氏名住所職業及契約上ノ關係ヲ詳細ニ書面ヲ提出スヘシ
- 第三條 藝妓酌婦ニシテ許可證面ニ異動ヲ生シ又ハ許可證ヲ毀損亡失シタルトキハ三日以内ニ届出テ其ノ再下付ヲ受クヘシ
- 第四條 藝妓酌婦廢業シタルトキハ三日以内ニ届出テ許可證ヲ返納スヘシ但シ抱主アル者ハ抱主ノ連署ヲ要ス死亡又ハ失踪ノ場合ハ抱主又ハ家族若ハ同居人ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第五條 藝妓酌婦ハ從業中許可證ヲ携帶スヘシ許可證ハ之ヲ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第十三 遼陽領事館

- 第六條 警察官更ハ藝妓酌婦ノ許可證ヲ檢査スルコトアルヘシ
- 第七條 藝妓酌婦ハ從業中左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 演技ニ托シ賭博ニ類スル處業ヲ爲スヘカラス
 - 二 異性ノ扮裝又ハ醜態ヲ爲スヘカラス
 - 三 猥褻ナル放歌又ハ舞踏ヲ爲スヘカラス
- 第八條 藝妓ハ午後十二時以後午前七時前ニ於テ歌舞音曲ヲ演スルコトヲ得ス
- 第九條 藝妓酌婦ハ認可ヲ受ケルニアラサレハ他家ニ宿泊スルコトヲ得ス
- 第十條 藝妓酌婦ニ對シテハ一定ノ健康診察ヲ行フ
- 第十一條 藝妓酌婦ニシテ不健康ノ狀態ニヨリ又ハ風俗ヲ壞亂スル者ト認ムルトキハ從業ヲ停止シ又ハ許可證ヲ取消スルコトアルヘシ
- 第十二條 本則又ハ本則ニ基ク處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本規則ハ明治三十九年八月三日ヨリ施行ス

●賣藥行商取締規則

明治三十九年八月三日 奉天總領事館令第八號

- 賣藥行商取締規則左ノ通相定ム
- 賣藥行商取締規則
- 第一條 賣藥行商ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ保證人連署ノ上願出テ許可證ヲ受クヘシ
 - 一 本籍
 - 二 現住所

- 十 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ專業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタル者
- 十一 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 十二 新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 十三 新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ謄寫又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者
- 十四 申込ナキ新聞紙雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者
- 十五 祭事祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 十六 自己占有ノ場所内ニ老幼不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知りテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者
- 前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者
- 十七 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧嘩シ、横臥シ又ハ泥酔シテ徘徊シタル者
- 十八 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬、舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 十九 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者
- 二十 劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者
- 二十一 道路ニ於テ車馬ノ練習若ハ遊戯ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 二十二 濫ニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

- 二十三 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者
- 二十四 夜中燈火ナクテ車馬ヲ使用シタル者
- 二十五 瓦礫ヲ道路、家屋、汽車、圍圍ニ投擲シタル者
- 二十六 電柱、橋梁、指示標、樹木、圍欄其ノ他公衆用ノ建造物ニ牛馬ヲ繫キタル者
- 二十七 人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虛報ヲ爲シタル者
- 二十八 妄ニ吉凶禍福ヲ說キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者
- 二十九 病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者
- 三十 濫ニ催眠術ヲ施シタル者
- 三十一 官職、位記、勳章學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ濫用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者
- 三十二 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ申述ノ義務アル者ニシテ故ナク之ヲ肯セサル者
- 三十三 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者
- 三十四 飲料ヲ禁シタル水ヲ飲料ニ販賣シタル者
- 三十五 河川濘泥又ハ下水路ノ疏通ヲ妨害シタル者
- 三十六 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者
- 三十七 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者
- 三十八 官公署ノ標示若ハ官公署ノ指揮ニ依リ標示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル標識ヲ汚濁若ハ撤去シタル者

- 三十九 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入り若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求テ受ケタルニ拘ラズ傍觀シテ之ニ應セサル者
- 四十 濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者
- 四十一 他人ノ田野、圍圍ニ於テ菜果ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
- 四十二 使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者
- 四十三 濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者
- 四十四 他人ノ身體又ハ物件ニ對シ危害ヲ及ボスヘキ物件ヲ抛擲シタル者
- 四十五 神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚濁シタル者
- 四十六 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬製シタル者
- 四十七 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 四十八 不熟ノ果物腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ賣利ノ用ニ供シタル者
- 四十九 濫ニ他人ノ繫キタル舟筏、牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者
- 五十 警察官吏ノ戸口調査ヲ拒ミ又ハ其ノ尋問ニ對シ眞實ヲ告ケサル者
- 五十一 宿屋、下宿屋ニ於テ氏名ヲ詐稱シタル者
- 五十二 路上ニ於テ放歌遊聲ヲ禁テ制止ヲ肯セサル者
- 五十三 許可ヲ受ケスシテ左ノ行爲ヲ爲シタル者

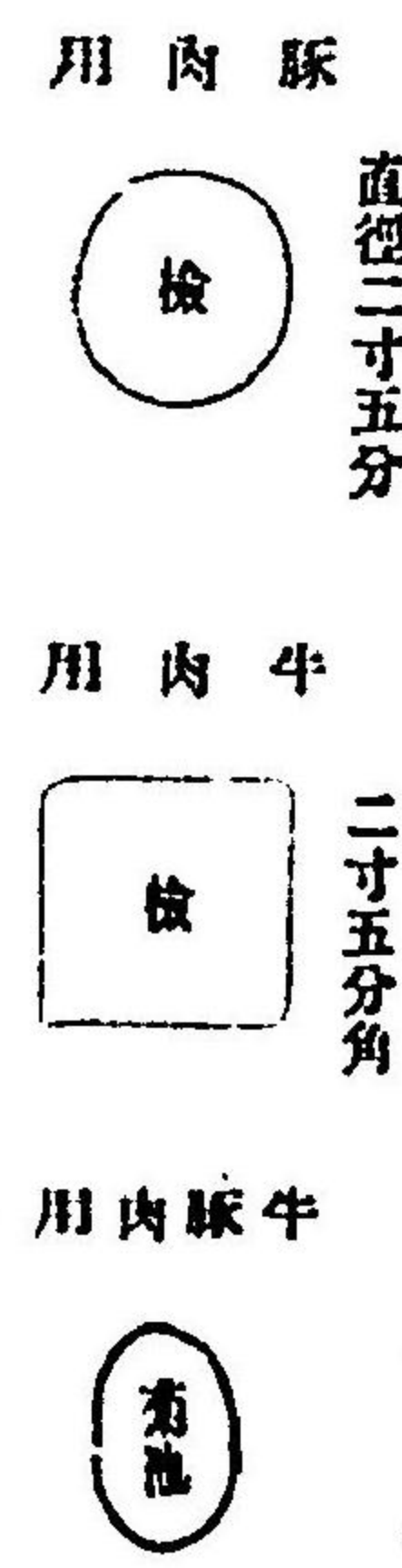
- 一 人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之ヲ保存ヲ爲シタル者
- 二 死屍ヲ埋火葬シ又ハ改葬シタル者
- 三 道路ニ露店又ハ小屋掛ヲ爲シタル者
- 四 工場、屋其ノ他營業ノ川ニ供スル糞糞、煙、火塵ヲ隨散シタル者
- 五 劇毒其ノ他ノ劇物ヲ開キタル者
- 六 煙火爆竹ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
- 七 火藥類ヲ運搬シタル者
- 五十四 街路又ハ公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ粗糞、糞體シ又ハ糞部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者
- 五十五 異樣又ハ不禮儀ナル服裝ヲ爲シタル者
- 五十六 街路ニ於テ尿尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 五十七 濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇毒スヘキ物ヲ玩ロタル者
- 五十八 家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火ノ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者
- 五十九 石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ怠リシタル者
- 六十 開業ノ醫師、產婆故ナク病者又ハ妊婦、產婦ノ招キニ應セサル者
- 六十一 故ナク官公署ノ召喚ニ應セス又ハ指定ノ時刻ニ出頭セサル者
- 六十二 炮臺、洗滌劑皮等ヲ棄セス其ノ糞食川ニ供スヘキ飲食物ニ關シテ
- 六十三 濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之ヲ取除ノ義務ヲ怠リタル者

第十三 遼陽領事館

- 六十四 監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者
- 六十五 瀝ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ啖シ又ハ驚逸セシメタル者
- 六十六 狂犬猛獸等ノ監護ヲ怠リ逸走セシメタル者
- 六十七 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者
- 六十八 瀝ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚濁シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、資家札其ノ他標標ノ類ヲ汚濁シ若ハ撤去シタル者
- 六十九 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壊セムトスル家屋其ノ他ノ建造物ノ修理工ヲ爲ササル者
- 七十 橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繋キタル者
- 七十一 渡船橋梁其ノ他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
- 七十二 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬諸車ヲ牽入レタル者
- 七十三 午後十二時以後歌舞音曲ヲ爲シタル者
- 七十四 傳染病又ハ其ノ疑似症患者ヲ隱蔽シテ其ノ届出ヲ爲ササル者
- 七十五 官署ノ命令ヲ受ケテ煙筒其ノ他ノ掃除ヲ爲ササル者

● 檢印ナキ牛豚肉購買禁止 明治三十九年八月三日
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十九年八月三日館令第三號遼陽警目ハ之ヲ廢止ス
 告示第二十四號

當遼陽ニ於テ購買スル牛豚肉ハ官設屠場ニテ屠殺シ獸醫検査ノ上檢印ヲ捺スノ規定ナル處近來清國人中密殺ヲ爲シ無檢査ニテ販賣スルモノ道々増加ノ概有之是等肉類ハ病菌ノ潜在スルモ雖計衛生上甚タ危險ニ付向後別記檢印ナキ牛豚肉ハ一切購買ス可カラズ
 (別記)



- ベスト豫防ニ關スル注意 明治三十九年七月廿五日 告示第二號
- 今向營口附近ニ肺病新菌發生シ漸次流行ノ恐有之該病ハ傳染病中劇性最モ險惡ニシテ一タヒ之ニ感染セハ救治ノ途ナキ必死ノ疾患ナレハ此ノ際共同一致全力ヲ盡シテ病者ノ進入ヲ豫防スル必要アルニ付左記注意事ニ據リ豫防ヲ勵行スヘシ
- 百新菌豫防ニ關スル注意
- 一 流行地及其ノ附近ヨリ物質ノ運送ヲ爲スヘカラス
- 一 流行地及其ノ附近ニ立寄ルヘカラス
- 一 流行地及其ノ附近ヲ經過シタル人馬物品ハ嚴密ナル注意ヲ要ス其ノ人馬ニ對シテハ必要ニ應ジ検査及消毒ヲ行ヒ物品ニ對シテハ消毒或ハ梱包材料ノ焼却等ヲ行フヘシ
- 一 裸足ハ極メテ危險ナルヲ以テ必ス足袋ヲ穿ツヲ要ス且ツ指趾ノ創傷ハ個令輕微ノモノト雖消毒處理ヲ怠ルヘカラス
- 一 此ノ際特ニ家屋内外一般ノ清潔法ヲ勵行スヘシ

- 一 鼠ハ本病傳播ニ有力ナルモノナレハ此ノ際特ニ捕鼠ヲ勵行スヘシ
- 一 鼠糞ヲ發見スルコトニ務メ之ヲ發見シタルトキハ手指ヲ觸レヌ木片等ヲ以テ挾ミ空甕等適宜ノ容器ニ入レ最寄病院ニ就キ檢査ヲ依頼スヘシ鼠糞並之ニ觸レタル木片等ハ燒却スヘシ
- 一 蚤其ノ他ノ昆蟲モ病傳播ノ媒介ヲナスモノナレハ之ヲ驅除法ヲ行フヘシ
- 一 出所不明ノ履履、古履、古著、紙屑、毛皮等ノ類ハ可成接觸セサル様注意スヘシ若シ巴ムヲ得サルトキハ一旦消毒ノ上之ヲ取扱フヘシ
- 一 略痰ハ一定ノ唾壺ヲ設ケ必ス隨處ニ略出スヘカラス
- 一 此ノ際疾病ノ種類ト輕重トヲ問ハス總テ病者ハ可成速ニ醫師ノ診察ヲ受ケ實業又ハ手療治等ノ姑息手段ニ頼ルヘカラス
- 一 以上各項ノ外豫防上必要ト認メタル事項ハ傳染病豫防法、同施行細則ニ準シ勵行スルヲ要ス

● 傳染病豫防要項 明治三十九年八月廿五日 告示第五號

當遼陽地方傳染病ノ發スルハ毎夏秋ノ兩季間ニシテ現今漸ク其ノ時期ニ入り當城内居留民中既ニ三名ノ腸炎扶斯病患者ヲ生スルニ至レリ此ノ際右病者ノ蔓延ヲ防ク同時ニ個人ニ於テ是等ノ惡疫ニ罹ラサル様自衛スヘキハ目下ノ急務ト思料シ其ノ豫防要項ヲ左ニ列記ス各人須ク注意スヘシ

- 一 腸炎扶斯病ハ發病後數日ヲ經過セザレハ其ノ病症確定セサルモノニ付凡テ發熱症ニ罹リタルモノハ直ニ診察ヲ乞フノ外發病者ノ服用器具衣服等ハ他ノ分ト隔離シ相當ノ消毒ヲ行フヘシ
- 一 病者ノ傳染ノ多クハ飲食物ヨリ來レルモノニ付此ノ際食物ハ可成

第十三 遼陽領事館

- 一 煮沸シタルヲ用ヒ決シテ生水ヲ飲用スヘカラス又普通含嗽ニ用フル水ハ一般ニ生水ヲ用フルモ道ハ極メテ危險ニ付必ス煮沸ワ經タル水ヲ用フヘシ
- 一 便所ニハ常ニ石灰ヲ貯ヘ置キ用ヒタル度毎ニ之ヲ撒布スヘシ
- 一 傳染病患者アリタル家ハ患者專用ノ器具衣服等嚴重ニ消毒ヲ行フハ勿論尙便所ノ消毒ニ最モ留意スヘシ而シテ便所ノ戸ハ何人モ開ケ「ツマミ」ヲ取リ閉閉毎ニ接觸シ病者傳播ノ憂ナレトセザレハ此ノ「ツマミ」ノ消毒ハ一層ノ注意ヲ要ス
- 一 現今往々脚氣症ニ罹ルモノアリ該病豫防ニ就テハ我カ駐屯軍隊ノ經驗ニヨリ米食ヲ腹シ麥飯ヲ用ヒテ最モ效果アリ故ニ該患者ハ麥三分以上ノ割合ヲ以テ麥飯ヲ用フルヲ可トス

● 傳染病ニ關スル注意事項 明治三十九年七月廿五日 告示第七號

今々漸ク傳染病發生ノ季ニ向ヒ既ニ奉天長春等ノ各地ニ腸炎扶斯、赤痢、痘疹流行ノ兆アリ當遼陽ノ地ハ幸ニシテ過般嚴密附屬地内ニ一名ノ腸炎扶斯患者ヲ出シタルニ過キサルハ地方ノ爲慶スヘシト雖旅客ノ來往頻繁ナル當地ノ如キハ何時病者ノ侵入スルヤモ測ル可カラサルヲ以テ各自相警戒シ之ヲ豫防ニ努ムルハ實ニ刻下ノ急務ナリトス故ニ此ノ際左記事項ヲ遵守シ特ニ日常ノ飲食物ヲ慎ミ不測ノ禍害ヲ蒙ラサル様注意スヘシ

注意事項

- 一 身體ニ違和ヲ感シテニ發熱等ノ場合ハ速ニ醫師ノ診察ヲ受ケヘキコト
- 二 病者ノ傳染ハ多ク飲食物ニ因スルヲ以テ常習ナキモノハ飲食セザルコト

第十三 遼陽領事館

- 三 一旦煮沸セサルモノ又ハ沸水ニテ洗浄セサルモノハ飲食セサルコト
- 四 未熟ノ果物等總テ下痢誘致ノ虞アル飲食物ヲ避クルコト
- 五 腐敗ニ傾キタル炭アルモノハ飲食セサルコト
- 六 暴飲暴食ヲ慎ミ飲酒ヲ節スル勿論深更ニ飲食ヲ避クルコト
- 七 飲食物ニハ蠅除チナスコト
- 八 飲食器具ヲ清潔ニ取扱フコト
- 九 衣服寝具等其ノ他ノ敷物類ハ時々日光ニ曝スコト
- 十 身体衣服ヲ清潔ニスルコト
- 十一 寒冷寒胃ヲ防グコト
- 十二 睡眠ノ不足及過激ノ勞働ヲ避クルコト
- 十三 家屋ノ内外特ニ便所下排水塵芥箱等ハ毎日掃除ヲ爲シ塵芥汚物ヲ停滯セシメサルコト
- 十四 便所其ノ他不潔ノ場所及臭氣アル場所ニハ時々消毒藥防臭劑「ヂシンフエクトール」又ハ「アルボリス」液ヲ可トス「液」ヲ撒布スルコト
- 十五 水溜又ハ濕潤ノ場所ニハ盛土又ハ石灰ヲ撒布スル等適宜ノ方法ヲ以テ可成乾燥ヲ計ルコト
- 十六 適宜ノ方法ヲ以テ蠅又ハ蚊ヲ驅除スルコト
- 十七 便所ニハ常ニ石灰ヲ貯ヘ置き多少ニテモ下痢スル者アルトキハ上圖後必ス撒布スルコト
- 十八 脚氣症ノ氣味アルモノハ麥飯(米七分多三分)ヲ用ユルコト

●飼犬者ノ注意事項

明治二十一年五月五日 告示 第八號

近來往々狂犬出沒シ又傳感ナル野犬諸所ヲ徘徊シ行人ヲ咬傷スルモノアリ以テ當分ノ内隨時之方撲殺ヲ行フ各ニ付飼犬所有者ハ左記各號ノ通達區セラルヘシ若シ第一號第二號ノ處置ヲ爲ササル者ハ野犬ト看做シ撲殺スルコトアルヘシ

- 一 飼犬ニハ頸環又ハ牌子ヲ附シ之ニ飼主ノ住所氏名ヲ記スルコト
- 二 傳感ニシテ人畜ヲ咬傷スル虞アル飼犬ハ之ヲ放飼スヘカラス
- 三 畜犬ニシテ狂犬病又ハ其ノ疑アル疾患ニ罹リタルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ拘束シ當所警察署ニ届出ラヘシ

第十四 鐵嶺警務署

●口頭ニテ願届ケ得ヘキ事項

明治二十一年五月四日 告示 第三號

自今左記事項ハ口頭ヲ以テ願届出ツルコトヲ得

左記

- 一 盜難届
- 二 煙火打揚届
- 三 傳染病及疑似症届但シ醫師ヨリノ届書ハ此ノ限ニ在ラス
- 四 遺失紛失遺留埋藏物又ハ拾得物届
- 五 宿泊料又ハ遊興費ノ抵償トシテ物品受領承認届
- 六 簡易ナル既驗届
- 七 保護及行政捜査届
- 八 藝妓酌婦健康診断届
- 九 驅除ノ爲入院中ノ藝妓酌婦ノ外出届
- 十 無錢興行届
- 十一 料理店飲食店宿屋下宿屋待合茶屋使用人解雇届
- 十二 留置人ニ對スル差入及面會届

●火災警戒

明治二十一年二月二十日 告示 第二號

寒氣烈ノ時期ニハ各戸防寒ノ爲火氣ヲ使用スルコト多キカ故毎年嚴寒季節火氣其ノ數ヲ増スノ傾キアリ本年モ去ル十四日鐵嶺救急町ニ出火アリシ以來附屬地内外各所ニ於テ火災ニ罹ラムトシタルコト數回ニ及ヒ甚々寒心ニ堪ヘサル次第ニ付此ノ際各自暖爐煙突及炊事場ノ蓋等ハ充分ナ

第十四 鐵嶺警務署

ル危險預防ノ裝置ヲナシ燃買物ハ安全ナル場所ニ置キ其ノ他煙燭等ハ勿論夜間洋燈等ノ火氣ハ厚ク注意シ災害ノ起ラサル機警戒セラルヘシ

第十五 鐵嶺領事館

公布式 明治三十一年十月五日

當領事館令ハ當館揭示場ニ揭示シ鐵嶺新聞ニ掲載スルヲ以テ公布式ト

●口頭ニテ願届ケ得ヘキ事項 明治三十一年十月五日

自今左記事項ハ口頭ヲ以テ警察署ニ願届出ツルコトヲ得

- 一 左記
- 一 盜難届
- 二 煙火打揚届
- 三 傳染病及疑似症届但シ醫師ヨリノ届書ハ此ノ限ニ在ラス
- 四 遺失、紛失、遺留、埋藏物又ハ拾得物届
- 五 宿泊料又ハ遊興費ノ抵償トシテ物品ノ受領承認届
- 六 簡易ナル脱獄届
- 七 保護及行政捜査届
- 八 驅散ノ爲入院中ノ藝妓酌婦ノ外出届
- 九 藝妓酌婦外泊又ハ旅行届
- 十 無錢興行届
- 十一 料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、待合茶屋使用人解雇届
- 十二 留置人ニ對スル差入及面會届

●清國內地旅行者ニ注意 明治三十一年十月五日

告示 第三十號

從來各外國人ノ清國內地旅行者ハ條約ノ規定ニヨリ必ス護照携帯ノ要アリニ拘ラス近來各省内地旅行ノ外國人ニシテ往々護照ヲ携帯セザルモノアリ右ハ前ニ條約ト符合セス甚タ不都合ナルノミナラス地方官ニ於テ保護スルニ由ナキニ付今後内地旅行者ハ總テ護照ヲ携帯シ以テ保護ニ便セシムル様致度旨清國外務部ヨリ照會アリタル總今同伊集院公使ヨリ通知アリタリ

●在留民取締規則 明治三十一年十月五日

館令 第三號

在留民取締規則左ノ通相定ム

在留民取締規則

- 第一條 當鐵嶺領事館管轄内ニ在留セムトスル者ハ到着ノ日ヨリ五日以内ニ左記事項ノ届出ヲ爲スヘシ但シ同居人又ハ雇人ニアリテハ雇主又ハ雇主ヨリ届出ヲ爲スヘシ
- 一 本籍
- 一 住所
- 一 身分
- 一 職業
- 一 氏名(片假名ヲ以テ檢閲ヲ附スヘシ)
- 一 生年月日
- 一 到着年月日
- 前項ノ届出ニハ月籍簿本ヲ添附スヘシ
- 第二條 在留者ニシテ出生死亡轉出其ノ他月籍上又ハ届出ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ月主、雇主又ハ家族ヨリ届出ヲ爲スヘシ
- 第三條 左記ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ願届出ヲ許可ヲ受ケヘシ

- 新聞、雜誌ノ發行
- 銀行、會社、病院、倉庫、保險業
- 電氣、瓦斯、汽機、汽機及石油發動機ヲ使用スル諸營業
- 銃砲火藥其ノ他爆發物ノ輸出入製造及販賣業
- 製藥及賣藥業
- 居歇場
- 市場
- 石油輸出入及販賣業
- 鍛冶鑄物製造業
- 質屋
- 古物商
- 宿屋、下宿屋、料理店、飲食店業
- 藝妓、酌婦業
- 湯屋業
- 運送業
- 印刷及印刷彫刻業
- 狩獵
- 代書業
- 雇人口入業
- 人力車、馬車營業
- 醫師、產婆及鍼灸業
- 理髮業
- 氷雪或清涼飲料水製造及販賣業
- 牛乳採取及販賣業

第十五 鐵嶺領事館

- 一 生肉販賣業
- 一 演劇寄席其ノ他興行業
- 一 各種遊藝業
- 第四條 前條以外ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ届出ヲ爲スヘシ
- 第五條 前二條ノ願届書ニハ左記ノ事項記載ヲ要ス
- 一 營業ノ種類
- 一 營業ノ場所
- 一 營業主ノ族籍身分住所氏名生年月日
- 一 屋號又ハ商號
- 一 支店又ハ出張所ナルトキハ本店ノ所在地及商號
- 一 共同營業ニ係ル者ハ主任者ノ族籍身分氏名生年月日
- 前項ノ事項中變更アルトキ又ハ廢業セムトスルハ其ノ旨届出ヲ爲スヘシ
- 第六條 家屋建築又ハ改築スル場合ハ届出ヲ受ケクヘシ
- 第七條 雇引又ハ景品附商品ノ賣出シテ爲サムトスル者ハ其ノ期間方法及景品等届出ヲ認可ヲ受ケヘシ
- 第八條 在留民ニシテ一戸ヲ構ヘタル者ハ住所或ハ主及同居人ノ族籍氏名ヲ書シタル門札ヲ掲クヘシ

第何番區
何 號 地
何府(縣)士族(平民)
何ノ 姓

第十五 鐵嶺領事館

第九條 本規則ニ違犯シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十九年八月館令第三號居留民取締規則ハ之ヲ廢止ス

鐵嶺居留民會規則

明治三十九年八月
館令第二號

鐵嶺居留民會規則左ノ通相定ム

第一章 組織

第一條 本會ハ鐵嶺及其ノ附近ニ居留スル帝國臣民ヲ以テ組織ス但シ鐵嶺附近地ヲ除ク

第二章 目的

第二條 本會ハ帝國在留民ノ公益ヲ進捗スルカ爲之ニ關スル一切ノ事項ヲ審議スルヲ以テ目的トス

第三章 監督

第三條 本會公共ノ事務ハ領事ノ監督ヲ受ケ之ヲ處理ス

第四章 役員

第四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長 一名 名譽職
副會長 一名 同
理事 一名 有給
書記 二名 同
議員 十六名以下名譽職

第五章 役員ノ任命

第五條 會長副會長ハ議員之ヲ互選シ領事ノ認可ヲ得ヘシ

第六條 理事ハ議員之ヲ公選シ領事ノ認可ヲ得ヘシ

第七條 本會議員ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ選任ス
一 中數ハ學識名望アル者ヨリ領事ノ任命セル者
一 他ノ中數ハ一種賦課額銀五圓以上ノ負擔者ノ互選ニ依リ當選シタル者

第八條 任期ハ會長副會長議員ハ一箇年理事ハ三箇年トシ領事ニ於テ正當ト認ムル事由ニ依リ外任期中辭任スルヲ得ス

書記ノ任期ハ別ニ之ヲ定メス

第六章 役員ノ權限

第九條 會長ハ外部ニ對シテ本會ヲ代表シ議員會ニ於テ議長ノ職ヲ擔ハ

第十條 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長不在又ハ事故アル場合ニハ之ニ代ルヘキモノトス

第十一條 議員中ヨリ事務委員五名ヲ選舉シ學事一切ノ職務ニ當ラシム

第十二條 理事ハ會長指揮ノ下ニ議員會開會ノ準備ヲ爲シ其ノ決議ヲ執行ス

書記ハ理事ヲ補佐シ庶務ヲ分掌シ議員會ニ於ケル書記ヲ兼務ス

第七章 議員會

第十三條 議員會ハ之ヲ通常會及臨時會ニ分チ通常會ハ每年五月及十二月ニ開會シ臨時會ハ必要ニ應ジ之ヲ開會ス

議員ノ三分ノ一以上出席スルニ非レハ議決スルコトヲ得ス但シ同一ノ議事ニ付召集二回ニ及ラズ議員會定數ニ充テサヤトキハ此ノ限ニ在ラズ

三週日以前ニ收支豫算表ヲ調製シ議員會ノ議決ヲ經ヘシ後會計期ノ一月一日ヨリ六月三十日迄ヲ上中期トシ七月一日ヨリ十二月三十一日迄ヲ下中期トス
第二十條 豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ議員會ノ決議ヲ經テ之ヲ支出スルコトヲ得
第二十一條 理事ハ收入支出ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナル帳簿ヲ備ヘ翌月五日迄三前月分ニ係ル明細表ヲ領事ニ提出スヘシ
第二十二條 會長ハ議員會ノ決議ニ依リ領事ノ認可ヲ得タル條項及其ノ必要ナル事項ハ便宜ナル方式ヲ以テ其ノ要領ヲ公告スヘシ
第二十三條 本會ハ居留民居住地域ニ依リテ行政區ヲ分チ區ニ區長及其ノ代理者ヲ置キ本會事務執行ノ補助機關ニ充テ
第二十四條 區長及其ノ代理者ハ其ノ區内ニ居住シ賦課額銀三圓以上ヲ本會ニ納付スル者ヨリ議員之ヲ公選シ領事ノ認可ヲ得ヘキモノトス
區長及其ノ代理者ノ選舉事務ハ會長之ヲ管理スルモノトス

附則
本規則ハ明治四十三年三月七日ヨリ實施ス
明治四十一年十二月十五日館令第九號ハ之ヲ廢止ス

旅人宿下宿屋料理店取締規則

明治三十九年七月五日
館令第四號

旅人宿下宿屋、料理店取締規則左ノ通相定ム

第一章 通則

旅人宿下宿屋、料理店取締規則

第十四條 議員會ハ會長之ヲ召集ス若シ四分ノ一以上ノ議員ノ請求アルトキハ必ス之ヲ召集スヘシ其ノ召集時會議事項ヲ告知スルハ急ヲ要スル場合ヲ除ク外少クモ開會ノ三日前タルヘシ

第十五條 議員ヨリ議員會ニ議案ヲ提出セムトスルトキハ會長若ハ議員二名以上ノ賛成ヲ經ルヲ要ス

第十六條 議員會ノ決議スヘキ事項ノ概目左ノ如シ
一 居留民會諸規則ノ制定改正ニ關スルコト
二 居留民會費ヲ以テ支辨スヘキ教育、衛生、消防、慈善其ノ他ノ事業經營ニ關スルコト
三 歳入歳出豫算ノ議定豫算外支出及豫算超過ノ事後承諾並新ニ義務ノ負擔權利ノ拋棄等ヲ決定スルコト
四 決算報告ヲ承認スルコト
五 居留民會ノ賦課金、使用料、手数料及其ノ他ノ賦課徵收ニ關スルコト
六 基本財産ノ設置及管理及處分ニ關スルコト
七 財産及營造物ノ管理處分法ヲ定ムルコト
八 居留民會ニ係ル争訟又ハ和解ニ關スルコト
九 其ノ他領事ノ指揮命令ニ依リ居留民會ノ權限ニ關スル事項

第十七條 議員會ノ採決ハ多數決ニ依ル可同數ナルトキハ再議ニ附シ尙同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第十八條 議員會ノ議事ハ公開ス但シ事件ノ性質ニ依リ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第八章 豫算決算

第十九條 會長ハ毎會計期收入支出ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ會計期

第十五 鐵嶺領事館

第十五 鐵嶺領事館

- 第一條 旅人宿下宿屋料理店飲食店營業ヲ爲サムトスル者ハ左記ノ事項ヲ具シテ願出テ許可ヲ受ケヘシ其ノ營業家屋ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 一 族籍住所身分氏名生年月日屋號
- 一 營業ノ種類及場所
- 一 營業家屋ノ圖面
- 第二條 營業ノ許可ヲ得タル後三箇月以内ニ開業セス又ハ六箇月以上休業シタルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第三條 族籍身分住所氏名屋號ニ異動ヲ生シ又ハ休業廢業シタルトキハ三日以内ニ届出チ爲スヘシ
- 第四條 雇人ヲ雇入レタルトキハ其ノ族籍住所氏名生年月日ヲ記シ三日以内ニ届出チ爲スヘシ解雇シタルトキ亦同シ但シ雇人届ニハ雇人ノ目的及前雇主ノ住所氏名職業ヲ附記スヘシ
- 第五條 營業者ハ營業ノ種類住所屋號氏名ヲ明記シタル看板ヲ店頭又ハ門戸ニ掲出シ夜間ハ標燈ヲ點スヘシ
- 第六條 營業者ハ組合ヲ設ケ取締人ヲ定メ其ノ組合ニ關スル規約ヲ作り認可ヲ受ケヘシ
- 第七條 營業ニ關スル願届ニハ凡テ取締人ノ連署ヲ要ス
- 第二章 旅人宿下宿屋
- 第八條 旅人宿下宿屋ハ客室ノ境界ハ壁若ハ襖板戸ヲ用キ室内ニハ唾壺ヲ備ヘ且堅固ナル鏡前ヲ附シタル押入又ハ戸棚ヲ設ケヘシ
- 第九條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ日々清潔ニ掃除スヘシ
- 第十條 客室ニハ每室ノ入口ニ番號ヲ標記スヘシ
- 第十一條 宿泊料又ハ下宿料ノ額ヲ定メ帳場及客室ニ揭示スヘシ
- 第十二條 宿泊人ノ求メサル飲食物ヲ供シ不當ノ金錢ヲ要求スヘカラス

- 第十三條 宿泊料ノ抵償トシテ客ノ所持品ヲ受取ラムトスルトキハ警察官吏ノ承認ヲ受ケヘシ
- 第十四條 宿泊人ノ承諾ナクテ他人ヲ室ニ入ラシメ又ハ同伴者ニアラサル男女ヲ同室ニ宿泊セシムヘカラス
- 第十五條 宿泊人又ハ下宿人ニシテ盜竊又ハ疾病死傷アリタルトキハ速ニ届出チ爲スヘシ
- 第十六條 旅人宿下宿屋營業者ハ宿泊人又ハ下宿人名簿ヲ備ヘ其ノ族籍住所身分職業氏名年齢特徴及投宿ノ時日出發地行先地ヲ記シ翌日正午迄ニ届出チ爲スヘシ其ノ出發シタルトキ亦同シ但シ軍隊學校生徒ノ如キ多數一團ノ宿泊者アルトキハ其ノ引率者ノミナ記シ其ノ他ハ外何名トスルモ妨ケナシ
- 第十七條 下宿屋營業者ハ其ノ下宿人ノ名札ヲ店頭又ハ門戸ニ掲ケヘシ
- 第三章 料理店飲食店
- 第十八條 料理店飲食店營業者ハ來客ヲ宿泊セシムヘカラス
- 第十九條 客ノ求メナキ飲食物ヲ供シ又ハ遊興ヲ勸ムヘカラス
- 第二十條 藝妓酌婦又ハ雇人ヲ店頭ニ出シ客ヲ誘引セシムヘカラス
- 第二十一條 夜間午前一時後歌舞音曲ヲ演シ其ノ他安眠ヲ妨害スルカ如キ行爲アルヘカラス
- 第二十二條 飲食物ハ覆蓋又ハ蠟燭ヲ設ケ汚モ腐敗ニ傾キタル材料等ヲ使用スヘカラス
- 第四章 罰則
- 第二十三條 本規則ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 第二十五條 本規則ノ營業者ニシテ公安風俗又ハ衛生ニ害アルモノト認メタルトキハ營業ヲ禁止或ハ許可ノ取消ヲ爲スコトアルヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十九年八月館令第四號旅人宿下宿屋料理店營業取締規則ハ之ヲ廢止ス

藝妓酌婦取締規則 明治三十九年八月五日 館令第五號

- 藝妓酌婦取締規則左ノ通相定ム
- 第一條 藝妓酌婦タラムトスル者ハ左記事項ヲ具シ願出テ許可ヲ受ケヘシ
- 一 族籍住所氏名生年月日
- 一 藝名アル者ハ其ノ名稱
- 一 抱主ノ氏名
- 一 前住地並職業
- 前項願届ニハ月籍籍本及抱主トノ契約書ノ寫醫師ノ健康診斷書未成年者ニ在テハ親權者又ハ後見人存夫ノ婦ニ在テハ夫ノ承諾書ヲ添附スヘシ
- 第二條 藝妓酌婦ニシテ許可證面ニ異動ヲ生シ又ハ許可證ヲ毀損亡失シタルトキハ三日以内ニ届出テ其ノ再下付ヲ受ケヘシ
- 第三條 藝妓酌婦廢業シタルトキハ三日以内ニ許可證ヲ添附シ其ノ旨届出ラナスヘシ
- 死亡又ハ失踪ノ場合ハ抱主又ハ家族者ハ同居人ニ於テ前項ノ手續ヲナスヘシ
- 第四條 藝妓酌婦ハ從業中許可證ヲ携帶スヘシ許可證ハ之ヲ他人ニ貸與スルコトヲ得ズ

第十五 鐵嶺領事館

- 第五條 藝妓酌婦ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
- 一 遊技ニ托シ賭博ニ類スル所爲アルヘカラス
- 一 異様ノ扮裝又ハ醜態ヲ爲スヘカラス
- 一 猥褻ニ涉ルヘキ放歌又ハ舞踏ヲ爲スヘカラス
- 第六條 藝妓酌婦ハ午前一時以後午前七時前ニ於テ歌舞音曲ヲナスヘカラス
- 第七條 藝妓酌婦ハ許可證ヲ受ケシテ旅行又ハ他家ニ宿泊スヘカラス
- 第八條 藝妓酌婦ハ定期ノ健康診斷ヲ受ケヘシ若シ病氣ノ爲受檢スルコト能ハサルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ其ノ旨届出ラナスヘシ
- 第九條 藝妓酌婦ノ願届ニ關シテハ凡テ抱主及料理店組合取締人ノ連署ヲ要ス
- 第十條 料理店飲食店ニ在ル風婦女ハ届出テ認可ヲ受ケヘシ
- 前項願届ニハ本規則ノ一部ヲ準用スコトアルヘシ
- 第十一條 本規則ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 第十二條 藝妓酌婦ニシテ公安風俗又ハ衛生上害アルモノト認メタルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

附則

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十九年八月館令第五號ハ之ヲ廢止ス

質屋營業取締規則 明治三十九年二月九日 館令第一號

- 質屋營業取締規則左ノ通相定ム
- 第一條 質屋營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願

第十五 鐵道領事館

- 出テ許可ヲ受ケヘシ其ノ支店又ハ出張所ヲ設ケムトスルトキ亦同シ
- 一 營業所
- 二 營業者ノ本籍、住所、族稱、氏名、生年月日
- 三 共同營業ニ在リテハ其ノ主任者及共同者ノ本籍、住所、族稱、氏名、生年月日並出資額
- 四 屋號又ハ商號
- 五 資本金額
- 六 支店又ハ出張所ニ於テハ管理人ヲ設ケ其ノ本籍、住所、族稱、氏名、生年月日並本店ノ所在地及其ノ屋號又ハ商號
- 前項ノ事項中變更ヲ生ジタルトキハ三日以内ニ届出ツヘシ但シ營業所並資本額ノ變更ニ付テハ届出テ許可ヲ受ケルコトヲ要ス
- 第二條 質屋營業者ハ領事官ノ認可ヲ受ケ組合ヲ設ケルコトヲ得其ノ規約ハ領事官ノ認可ヲ受ケヘシ
- 領事官ニ於テ取締上必要ト認ムルトキハ組合規約ノ改正又ハ役員ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ
- 第三條 質屋營業者ハ其ノ店舗外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス
- 第四條 質屋營業者ハ左ノ事項ヲ其ノ店舗内ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ
 - 一 利子ノ歩合
 - 一 流賃ノ期限
 - 一 質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處置方
 - 一 質物出入時間
- 第五條 質屋營業者ハ質置主ノ質入物件ニ對スル權利確認ノ上契約ヲ締結スヘク不正品ノ嫌疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ
- 第六條 質屋營業者ハ住所氏名不詳ノ者ノ物品ヲ質契約ノ目的トナスコトヲ得ズ但シ住所氏名ノ詳ナルモノハ保證又ハ警察官ノ許可アリタルト

- キハ此ノ限ニ在ラス
- 第七條 質屋營業者ハ一定ノ帳簿ヲ備ヘ置キ質契約ニ關スル事項ヲ詳記スヘシ
- 質屋營業者ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ
- 帳簿、質札及通帳ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム
- 第八條 質屋營業者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ質物ヲ保管シ轉賣使用收益シ若ハ貸付スルコトヲ得ス
- 第九條 質置主ハ流賃期限内何時ニテモ元利金ヲ拂濟シテ其ノ質物ヲ受戻スコトヲ得
- 第十條 質屋營業者ハ質札又ハ通帳持差人ノ請求ニ應ジ其ノ質物ヲ返還スルコトヲ得
- 第十一條 質屋營業者ハ流賃期限經過後自由ニ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得
- 第十二條 領事官ニ於テ必要ト認ムルトキハ警察官ヲシテ質屋營業者其ノ倉庫又ハ質物ヲ藏匿セリト認ムル場所ニ監檢セシメ若ハ營業ニ關スル帳簿ヲ檢閲セシムルコトアルヘシ
- 第十三條 傳染病汚染ノ虞アル物件ハ消毒ノ後ニアラサレハ質契約ノ目的ト爲スコトヲ得
- 前項ノ物件ニ對シ警察官ハ消毒ヲ施サシメ或ハ之ヲ棄却セシムルコトヲ得
- 第十四條 警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ質物品圖書ヲ發スルコトアルヘシ
- 前項ノ品圖書到達シタルトキハ其ノ到達年月日等ヲ該品圖書ノ録白ニ附記シ保存スヘシ

質屋營業者ハ質物中前項品圖書ニ記載セル物件ニ相當スル物件ノ存在ヲ知リタルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

ハ科料ニ處ス

附則

本則ハ明治四十三年二月十日ヨリ施行ス

本則施行ノ際既ニ許可ヲ經テ現ニ質屋營業ヲ爲ス者ハ本則ニ依リ許可ヲ得タモノト看做ス

● 賣藥行商取締規則 明治二十二年五月五日 館令 第八號

- 第十六條 質屋營業者ハ帳簿閉鎖ノトキヨリ起算シ三箇年間其ノ營業ニ關スル帳簿ヲ保存スルコトヲ要ス若シ前項ノ期間内ニ之ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第十七條 休業又ハ廢業ヲ爲サムトスルトキハ其ノ休業又ハ廢業前二届出ツヘシ但シ休業ニ在リテハ其ノ期間ヲ表示スルコトヲ要ス
- 第十八條 質屋營業者ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スルモノハ領事官ハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ
 - 一 公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊スノ行爲アリト認メタルトキ
 - 二 本則ニ依リ處罰セラレ尙改悛ノ狀ナシト認メタルトキ
 - 三 公課ヲ滞納シ督促ニ應セザルトキ
- 許可ヲ取消サレタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理人又ハ管理人タルコトヲ得ズ營業停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間内亦同シ
- 第十九條 質屋營業者廢業、休業シ若ハ營業許可ヲ取消サレタルトキト雖其ノ以前ニ締結シタル質契約及其ノ目的物ニ付テハ尙本則ヲ適用ス
- 營業停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間内亦同シ
- 第二十條 領事官ハ取締ノ必要上質屋營業者ニ對シ特ニ命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得
- 第二十一條 本則又ハ本則ニ基テ命令若ハ處分ニ違背シタル者ハ拘留又

- 賣藥行商取締規則左ノ通相定ム
- 第一條 賣藥行商ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ保證人選定ノ上願出テ許可證ヲ受ケヘシ
 - 一 本籍
 - 一 現住所
 - 一 身分
 - 一 氏名
 - 一 生年月日
- 前項ノ保證人ハ店舗ヲ有スル賣藥營業者タルヲ要ス
- 第二條 賣藥行商者ニシテ許可證面ニ異動ヲ生シ又ハ許可證ヲ毀損亡失シタルトキハ三日以内ニ届出テ其ノ再下付ヲ受ケヘシ
- 第三條 賣藥行商許可證ノ效力ハ其ノ下付ノ日ヨリ六箇月間トス
- 第四條 賣藥行商證ノ有効期限ヲ經過シ引續キ行商セムトスル者ハ更ニ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第五條 賣藥行商者行商スルトキハ許可證ヲ携帯スヘシ

第十五 鐵道領事館

第六條 賣藥行商者ハ組合ニ於テ定メタル服裝ノ外異樣ノ服裝ヲ爲スヘ

カラス但シ認許ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七條 賣藥行商許可證ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第八條 賣藥行商者ニシテ不正ノ所爲アリト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取

消スコトアルヘシ

第十條 本規則ニ違犯シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年九月館令第八號ハ之ヲ廢止ス

●銃獵者ニ注意 明治三十九年三月九日 告示第十八號

近來本邦人ニシテ人家稠密ノ場所ニ於テ銃獵ヲ爲シ甚キハ濫ニ他人ノ邸宅内ニ立入り發砲スルモノアリ右ハ明治四十一年館令第二號警察犯處罰令ニ違背スルモノナルヲ以テ自今嚴重取締ヲ加フヘキニ依リ各自斯ル不都合ノ行爲ヲキ様注意ヲ要ス

●警察犯處罰令 明治三十九年二月五日 館令 第二號

警察犯處罰令左ノ通相定ム

警察犯處罰令

左ノ各號ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一 故ナク人ノ居室又ハ看守セサル邸宅遺物者ハ船舶内ニ潛伏シタル者

二 一定ノ住居又ハ生業ヲシテ諸方ニ徘徊スル者

三 官職位記勸學學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾勳章ヲ借用シ若ハ

之ニ類似ノモノヲ使用シタル者

四 濫ニ他人ノ氏名屋號等ヲ利用シテ人ヲ欺罔シタル者

五 正當ノ理由ナクシテ官署ノ召喚ニ應セサル者

六 官署公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ故ナク申述ヲ背セサル者

七 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ背セス其ノ場ニ立入石ハ其ノ場

ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求メテ受ケ之ニ應セサル者

八 許可ヲ得ズシテ左ノ行爲ヲ爲シタル者

一 工場倉庫其ノ他營業ノ用ニ供スル蒸氣機爐煙筒火爐等ヲ點燃管理シタル者

一 劇場其ノ他觀物場ヲ設ケタル者

一 煙火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者

一 火藥類ヲ運搬シタル者

一 銃獵シタル者

一 道路ニ輕便軌道ヲ敷設シタル者

一 道路ニ塵店又ハ小屋掛ヲ爲シタル者

一 道路ヲ遮斷シ又ハ道路ニ於テ作業ヲ爲シタル者

一 道路ニ竹木土石ヲ置キ或ハ板圍繩網足代支柱等ノ設ケヲ爲シタル者

一 道路ニ軒檯檯標燈看板物干日除等ヲ突出シ又ハ商品其ノ他ノ物件ヲ堆積シタル者

九 濫ニ人家稠密ノ場所ニ於テ煙火其ノ他ノ火器ヲ玩ヒタル者

十 濫ニ人家ノ近傍又ハ山林原野ニ於テ火ヲ焚ク者

十一 官署ノ督促ヲ受ケテ廟壇セムトスル家屋其ノ他ノ遺物ノ修理ヲ爲ササル者

十二 官署ノ命令ヲ受ケテ煙筒ノ掃除ヲ爲ササル者

十三 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者

十四 妄ニ吉凶禍福ヲ說キ又ハ祈符呪ヲ爲シ利ヲ圖リタル者

十五 公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者

十六 濫ニ催眠術ヲ施シタル者

十七 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者

十八 濫ニ銃砲刀劍仕込杖ノ類ヲ携帯又ハ使用シタル者

十九 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者

二十 新聞雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者

二十一 濫ニ金錢物品ノ寄附惠與ヲ勸誘募集シ又ハ強テ物品入場券等ヲ配付シタル者

二十二 物品ヲ強賣シ又ハ強テ技藝ヲ演シ報酬ヲ求ムル者

二十三 購讀ノ申込ナキ新聞雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ掲載シテ其ノ代價ヲ要求シ若ハ強テ廣告ノ依頼ヲ要求シタル者

二十四 雇主又ハ使用者ニシテ雇人若ハ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者

二十五 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文ヲ爲シタル者

二十六 宿屋下宿屋ニ於テ族籍ノ身分ノ職業ノ氏名年齢ヲ詐稱シタル者

二十七 制止ヲ背セスシテ夜間午前一時後歌舞音曲ヲ爲シ其ノ他喧噪シテ他人ノ安眠ヲ妨害シタル者

二十八 階面シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者

二十九 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シ制止ヲ背セサル者

第十五 鐵嶺領事館

三十 賭博ニ類スル所業ヲ爲シタル者

三十一 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ粗褻穢惡足躡脚又ハ男子ニシテ褌ヲ穿ラズシテ外出シ其ノ他見苦シキ風體ヲ爲シタル者

三十二 密淫賣ヲ爲シ又ハ其ノ媒合者ハ禁止ヲ爲シタル者

三十三 廟壇傍其ノ他公私ノ建造物ヲ汚損シ又ハ廣告貼紙等ヲ爲シタル者

三十四 濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺道路公園其ノ他公衆用ノ常燈ヲ消シタル者

三十五 道路公園ノ竹木ヲ折リ採リタル者

三十六 電柱橋樑橋示樹木圍欄其ノ他公共用ノ建物ニ牛馬ヲ繫キタル者

三十七 禁示標境界標指導標又ハ看板標札廣告札等ヲ毀壞汚損シタル者

三十八 他人ノ繫キタル牛馬其ノ他ノ禽獸若ハ船舶ヲ解放シタル者

三十九 道路ノ左側ヲ通行セス又ハ人道ニ車馬ヲ乘入レタル者

四十 通行禁止其ノ他標示ノ禁條ヲ犯シタル者

四十一 交通ノ妨害トナルヘキ場所ニ在ル井濠凹所又ハ木石其ノ他ノ堆積物ニ防圍ヲ設ケス若ハ夜間點燈ヲ爲ササル者

四十二 夜間點燈ナクシテ車馬ヲ行使シタル者

四十三 道路ニ於テ車馬ノ練習若ハ遊戯ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

四十四 濫ニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

四十五 道路ニ於テ演藝其ノ他ノ奇ヲ爲シ通行ノ妨害ヲ爲シタル者

四十六 瓦礫竹木ヲ道路又ハ家屋汽車圍圍等ニ投擲シタル者

四十七 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サス又ハ撒水セサル者

第十五 鐵嶺領事館

- 四十八 道路ニ於テ便所外ニ尿尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 四十九 道路溝渠ニ瓦礫塵芥汚物又ハ禽獸ノ死屍ヲ投棄シタル者
- 五十 犬其ノ他ノ獸類ヲ嘍シ又ハ驚逸セシメタル者
- 五十一 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ忘リ路上ニ放チタル者
- 五十二 飼犬ニ首輪又ハ名札ヲ附セサル者
- 五十三 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者
- 五十四 五歳以下ノ小兒ヲ道路ニ獨歩セシメタル者
- 五十五 醫師産婆ニシテ故ナク病者又ハ妊婦産婦ノ求メニ應セサル者
- 五十六 許可ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者
- 五十七 自己ノ所有地内ニ屍體アルコトヲ知テ官ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル者
- 五十八 許可ヲ得スシテ死屍ヲ埋火葬シ若ハ吹葬シタル者
- 五十九 許可ヲ得スシテ劇毒藥ヲ販賣シタル者
- 六十 傳染病患者ヲ隠蔽シ其ノ届出ヲ爲ササル者
- 六十一 不熟ノ果物又ハ腐敗シタル飲食物其ノ他衛生上有害ノ物品ヲ販賣シタル者
- 六十二 其ノ僅飲食スヘキ物ニ覆蓋ヲ設ケスシテ店頭ニ陳列シ又ハ行商ヲ爲シタル者
- 六十三 御符像ヲ不敬ニ汚ル場所ニ掲ケ又ハ陳列シ或ハ露店ニ於テ販賣シタル者
- 六十四 淫ニ褻褻者ノ類似ノ物ヲ商品又ハ引札廣告看板建物其ノ他ノ物件ニ使用シタル者
- 六十五 官許ナキ外國ノ度量衡ヲ使用シ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 六十六 警察取締上ノ制止ヲ背セサル者

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十九年八月館令第二號邊野頭目ハ之ヲ廢止ス

● 火災警戒

明治三十九年二月九日
 告示第一號
 寒氣酷烈ノ時期ニハ各月防寒ノ爲メ火氣ヲ使用スルコト多キカ故毎年嚴寒季節ハ火災其ノ數ヲ増スノ傾キアリ本年モ去ル十四日夜數島町ニテ出火アリシ以來各所ニ於テ火災ニ罹ラムトシタルコト既ニ數回ニ及ヒ甚々寒心ニ堪ヘサル次第ニ付此ノ際各自暖爐煙突及炊事場ノ竈等ハ充分危險豫防ノ裝置ヲ爲シ燃質物ヘ安全ノ場所ニ置キ其ノ他炬燵ハ勿論夜間洋燈等ノ火元ニ厚ク注意シ災害ノ起ラサル様警戒セラルヘシ

● 清潔保持規則

明治三十九年二月九日
 館令第十一號
 清潔保持規則左ノ通相定ム
 清潔保持規則
 第一條 居留民邸宅及其ノ地先道路(海邊下水)ハ常に清潔ヲ保持シ降雪ノ際ハ速ニ地先道路ノ除雪ヲ爲スヘシ
 第二條 居留民邸宅及其ノ地先道路ヲ掃除セムトスル場合ニ於テ地面乾燥シ土砂飛揚ノ虞レアル時ハ適量ノ散水ヲ爲シタル後之ヲ行フヘシ
 第三條 居留民ハ各月又ハ數月共同シ塵芥箱及汚水ハ他ニ放棄スヘカラズ
 第四條 居留民邸宅内外ハ春秋二期ニ於テ指定ノ日時ニ大清潔法ヲ行ヒ當該官吏ノ検査ヲ受クヘシ
 第五條 居留民各家ノ尿尿ハ勿論汚水塵芥ヲ他ニ運搬シタル後ニハ可成

石灰ヲ撒布スヘシ

- 第六條 居留民各戸ノ蒐集シタル汚物ヲ一定ノ場所ニ運搬シ適當ノ處置ヲ爲スヘシ
- 第七條 本則ノ規定ニ依ル責任者ハ其ノ邸宅居住者トス居住者ナキ邸宅ハ其ノ管理者トス
- 第八條 本則ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ怠リタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

追録

道 録

●大連市市場販賣店ノ營業種目等改正

明治四十二年二月告示第三號大連市々場ニ關スル諸表中大連及小崗子市場販賣店並倉庫ノ營業種目、區別、等級、貸下料等ハ左表ノ通之ヲ改ム
 大連信濃町市場販賣店
明治四十二年七月七日 告示第三十八號

區域	營業種目	販賣店番號	店數	一箇月貸下料
内 部	日用食料品	自一號至五號	一五	二付金十圓
魚 類	鳥 獸 肉	自五九號至六八號	一〇	同
蔬菜及果實	魚 類	自三六號至五八號	二三	同
魚 類	魚 類	自六號至三五號	三〇	同
外 部	雜 貨	自一號至三〇號	三〇	二付金五圓
生 鳥 類	雜 貨	自三一號至三九號	九	同

小崗子市場販賣店

營業種目	販賣店番號	店數	一箇月貸下料
蔬菜及果實	自一號至六號	一二	二付金五圓
魚 類	自七號至二六號	六	同
鳥 獸 肉	自二三號至二〇號	八	同

小崗子市場倉庫

室 數	一箇月貸下料
一四	金一圓
一室二付	同

法令番號索引

法 律	勅 令	省 令
明治三十四年 勅一四八號 二〇三	明治三十四年 勅一四八號 二〇三	明治三十四年 勅一四八號 二〇三
明治三十九年 法一七號 七四三 法三一號 七四三 法四八號 二〇〇 法四九號 二〇二 法五二號 九八一	明治三十九年 勅一四二號 二〇九 勅一九六號 二〇〇 勅二〇〇號 二〇二 勅二〇一號 九八一	明治三十九年 勅一四二號 二〇九 勅一九六號 二〇〇 勅二〇〇號 二〇二 勅二〇一號 九八一
明治四十一年 法五二號 九八四	明治四十一年 勅二〇九號 二四九 勅二一九號 一〇六一 勅二二九號 一五九 勅二三二號 二二〇 勅二三六號 一一四〇 勅二四〇號 八五七 勅二四一號 八七七 勅二四七號 九一八 勅二五六號 二六五 勅二五七號 一一四四 勅二六二號 七三五	明治四十一年 勅二〇九號 二四九 勅二一九號 一〇六一 勅二二九號 一五九 勅二三二號 二二〇 勅二三六號 一一四〇 勅二四〇號 八五七 勅二四一號 八七七 勅二四七號 九一八 勅二五六號 二六五 勅二五七號 一一四四 勅二六二號 七三五
明治四十二年 法三六號 九八三 法三九號 一〇〇七	明治四十二年 勅二二九號 一〇六一 勅二二九號 一五九 勅二三二號 二二〇 勅二三六號 一一四〇 勅二四〇號 八五七 勅二四一號 八七七 勅二四七號 九一八 勅二五六號 二六五 勅二五七號 一一四四 勅二六二號 七三五	明治四十二年 勅二二九號 一〇六一 勅二二九號 一五九 勅二三二號 二二〇 勅二三六號 一一四〇 勅二四〇號 八五七 勅二四一號 八七七 勅二四七號 九一八 勅二五六號 二六五 勅二五七號 一一四四 勅二六二號 七三五
明治四十三年 勅六三號 一九〇	明治四十三年 勅二六三號 九八二 勅二七七號 一九六 勅二七二號 七二〇 勅二七三號 一五三 勅二七四號 二六四 勅二七五號 三三九 勅二七九號 二五一 勅三〇六號 一四六 勅三三六號 二〇九 勅三三三號 七九五 勅三三五號 二二四 勅三六三號 九八四 勅三〇八號 九八四 勅三〇九號 九八五 勅三一〇號 一〇二七 勅三一四號 九八四 勅三三五號 一〇五八 勅三三七號 一〇〇四	明治四十三年 勅二六三號 九八二 勅二七七號 一九六 勅二七二號 七二〇 勅二七三號 一五三 勅二七四號 二六四 勅二七五號 三三九 勅二七九號 二五一 勅三〇六號 一四六 勅三三六號 二〇九 勅三三三號 七九五 勅三三五號 二二四 勅三六三號 九八四 勅三〇八號 九八四 勅三〇九號 九八五 勅三一〇號 一〇二七 勅三一四號 九八四 勅三三五號 一〇五八 勅三三七號 一〇〇四

番號索引

番號索引

勅一八〇號	一七九	署三號	五八一	府六號	六八	府二五號	五三八
勅一八一號	一五四	署四號	五五四	府七號	一一四〇	府二六號	二五一
勅二二七號	一三六	署五號	五五九	府八號	四五五	府二八號	二五〇
勅二五二號	二二二	署六號	五七六	府一〇號	六	府二九號	七四九
勅二六七號	一三〇	署七號	三二六	府一一號	二二二	府三〇號	一八九
勅二七四號	八五四	署八號	三二七	府一二號	一六四	府三一號	九一九
勅二八八號	一五〇	署九號	三一八	府一三號	一七一	府三二號	七五〇
勅二九四號	三三五	署一〇號	三二〇	府一四號	一六七	府三三號	七三〇
勅三〇四號	一一四四	署一一號	三三二	府一五號	一六九	府三四號	九八一
關東州民政署令							
明治三十八年							
署二號	四八三	署一八號	六二六	府一九號	一〇五一	府四〇號	二六〇
署三號	四八三	署一九號	五六一	府二〇號	一五九	府四一號	七九二
署四號	五六七	署二〇號	六四二	府二一號	一四一	府四二號	三〇八
署五號	四七六	署二一號	五〇〇	府二二號	七	府四三號	九二五
署六號	五八五	署二二號	五六二	府二三號	五〇	府四四號	五四四
署七號	六四四	署二三號	五〇四	府二四號	二三五	府四五號	六六五
署八號	五八三	署二四號	五八二	府二五號	六一	府四六號	一〇五二
署九號	四九五	署二五號	五八二	府二六號	七四六	府四七號	六六四
署一〇號	四八八	署二六號	五八二	府二七號	一七八	府四八號	七五九
署一一號	四八八	署二七號	五八二	府二八號	六	府四九號	一〇五二
署一二號	四八八	署二八號	五八二	府二九號	一七八	府五〇號	六六四
署一三號	四八八	署二九號	五八二	府三〇號	一七八	府五一號	七五九
署一四號	四八八	署三〇號	五八二	府三一號	一七八	府五二號	一〇五二
署一五號	四八八	署三一號	五八二	府三二號	一七八	府五三號	六六四
署一六號	四八八	署三二號	五八二	府三三號	一七八	府五四號	七五九
署一七號	四八八	署三三號	五八二	府三四號	一七八	府五五號	一〇五二
署一八號	四八八	署三四號	五八二	府三五號	一七八	府五六號	六六四
署一九號	四八八	署三五號	五八二	府三六號	一七八	府五七號	七五九
署二〇號	四八八	署三六號	五八二	府三七號	一七八	府五八號	一〇五二
署二一號	四八八	署三七號	五八二	府三八號	一七八	府五九號	六六四
署二二號	四八八	署三八號	五八二	府三九號	一七八	府六〇號	七五九
署二三號	四八八	署三九號	五八二	府四〇號	一七八	府六一號	一〇五二
署二四號	四八八	署四〇號	五八二	府四一號	一七八	府六二號	六六四
署二五號	四八八	署四一號	五八二	府四二號	一七八	府六三號	七五九
署二六號	四八八	署四二號	五八二	府四三號	一七八	府六四號	一〇五二
署二七號	四八八	署四三號	五八二	府四四號	一七八	府六五號	六六四
署二八號	四八八	署四四號	五八二	府四五號	一七八	府六六號	七五九
署二九號	四八八	署四五號	五八二	府四六號	一七八	府六七號	一〇五二
署三〇號	四八八	署四六號	五八二	府四七號	一七八	府六八號	六六四
署三一號	四八八	署四七號	五八二	府四八號	一七八	府六九號	七五九
署三二號	四八八	署四八號	五八二	府四九號	一七八	府七〇號	一〇五二
署三三號	四八八	署四九號	五八二	府五〇號	一七八	府七一號	六六四
署三四號	四八八	署五〇號	五八二	府五一號	一七八	府七二號	七五九
署三五號	四八八	署五一號	五八二	府五二號	一七八	府七三號	一〇五二
署三六號	四八八	署五二號	五八二	府五三號	一七八	府七四號	六六四
署三七號	四八八	署五三號	五八二	府五四號	一七八	府七五號	七五九
署三八號	四八八	署五四號	五八二	府五五號	一七八	府七六號	一〇五二
署三九號	四八八	署五五號	五八二	府五六號	一七八	府七七號	六六四
署四〇號	四八八	署五六號	五八二	府五七號	一七八	府七八號	七五九
署四一號	四八八	署五七號	五八二	府五八號	一七八	府七九號	一〇五二
署四二號	四八八	署五八號	五八二	府五九號	一七八	府八〇號	六六四
署四三號	四八八	署五九號	五八二	府六〇號	一七八	府八一號	七五九
署四四號	四八八	署六〇號	五八二	府六一號	一七八	府八二號	一〇五二
署四五號	四八八	署六一號	五八二	府六二號	一七八	府八三號	六六四
署四六號	四八八	署六二號	五八二	府六三號	一七八	府八四號	七五九
署四七號	四八八	署六三號	五八二	府六四號	一七八	府八五號	一〇五二
署四八號	四八八	署六四號	五八二	府六五號	一七八	府八六號	六六四
署四九號	四八八	署六五號	五八二	府六六號	一七八	府八七號	七五九
署五〇號	四八八	署六六號	五八二	府六七號	一七八	府八八號	一〇五二
署五一號	四八八	署六七號	五八二	府六八號	一七八	府八九號	六六四
署五二號	四八八	署六八號	五八二	府六九號	一七八	府九〇號	七五九
署五三號	四八八	署六九號	五八二	府七〇號	一七八	府九一號	一〇五二
署五四號	四八八	署七〇號	五八二	府七一號	一七八	府九二號	六六四
署五五號	四八八	署七一號	五八二	府七二號	一七八	府九三號	七五九
署五六號	四八八	署七二號	五八二	府七三號	一七八	府九四號	一〇五二
署五七號	四八八	署七三號	五八二	府七四號	一七八	府九五號	六六四
署五八號	四八八	署七四號	五八二	府七五號	一七八	府九六號	七五九
署五九號	四八八	署七五號	五八二	府七六號	一七八	府九七號	一〇五二
署六〇號	四八八	署七六號	五八二	府七七號	一七八	府九八號	六六四
署六一號	四八八	署七七號	五八二	府七八號	一七八	府九九號	七五九
署六二號	四八八	署七八號	五八二	府七九號	一七八	府一〇〇號	一〇五二
署六三號	四八八	署七九號	五八二	府八〇號	一七八	府一〇一號	六六四
署六四號	四八八	署八〇號	五八二	府八一號	一七八	府一〇二號	七五九
署六五號	四八八	署八一號	五八二	府八二號	一七八	府一〇三號	一〇五二
署六六號	四八八	署八二號	五八二	府八三號	一七八	府一〇四號	六六四
署六七號	四八八	署八三號	五八二	府八四號	一七八	府一〇五號	七五九
署六八號	四八八	署八四號	五八二	府八五號	一七八	府一〇六號	一〇五二
署六九號	四八八	署八五號	五八二	府八六號	一七八	府一〇七號	六六四
署七〇號	四八八	署八六號	五八二	府八七號	一七八	府一〇八號	七五九
署七一號	四八八	署八七號	五八二	府八八號	一七八	府一〇九號	一〇五二
署七二號	四八八	署八八號	五八二	府八九號	一七八	府一〇一〇號	六六四
署七三號	四八八	署八九號	五八二	府九〇號	一七八	府一〇一一號	七五九
署七四號	四八八	署九〇號	五八二	府九一號	一七八	府一〇一二號	一〇五二
署七五號	四八八	署九一號	五八二	府九二號	一七八	府一〇一三號	六六四
署七六號	四八八	署九二號	五八二	府九三號	一七八	府一〇一四號	七五九
署七七號	四八八	署九三號	五八二	府九四號	一七八	府一〇一五號	一〇五二
署七八號	四八八	署九四號	五八二	府九五號	一七八	府一〇一六號	六六四
署七九號	四八八	署九五號	五八二	府九六號	一七八	府一〇一七號	七五九
署八〇號	四八八	署九六號	五八二	府九七號	一七八	府一〇一八號	一〇五二
署八一號	四八八	署九七號	五八二	府九八號	一七八	府一〇一九號	六六四
署八二號	四八八	署九八號	五八二	府九九號	一七八	府一〇二〇號	七五九
署八三號	四八八	署九九號	五八二	府一〇〇號	一七八	府一〇二一號	一〇五二
署八四號	四八八	署一〇〇號	五八二	府一〇一號	一七八	府一〇二二號	六六四
署八五號	四八八	署一〇一號	五八二	府一〇二號	一七八	府一〇二三號	七五九
署八六號	四八八	署一〇二號	五八二	府一〇三號	一七八	府一〇二四號	一〇五二
署八七號	四八八	署一〇三號	五八二	府一〇四號	一七八	府一〇二五號	六六四
署八八號	四八八	署一〇四號	五八二	府一〇五號	一七八	府一〇二六號	七五九
署八九號	四八八	署一〇五號	五八二	府一〇六號	一七八	府一〇二七號	一〇五二
署九〇號	四八八	署一〇六號	五八二	府一〇七號	一七八	府一〇二八號	六六四
署九一號	四八八	署一〇七號	五八二	府一〇八號	一七八	府一〇二九號	七五九
署九二號	四八八	署一〇八號	五八二	府一〇九號	一七八	府一〇三〇號	一〇五二
署九三號	四八八	署一〇九號	五八二	府一〇一〇號	一七八	府一〇三一號	六六四
署九四號	四八八	署一〇一〇號	五八二	府一〇一一號	一七八	府一〇三二號	七五九
署九五號	四八八	署一〇一一號	五八二	府一〇一二號	一七八	府一〇三三號	一〇五二
署九六號	四八八	署一〇一二號	五八二	府一〇一三號	一七八	府一〇三四號	六六四
署九七號	四八八	署一〇一三號	五八二	府一〇一四號	一七八	府一〇三五號	七五九
署九八號	四八八	署一〇一四號	五八二	府一〇一五號	一七八	府一〇三六號	一〇五二
署九九號	四八八	署一〇一五號	五八二	府一〇一六號	一七八	府一〇三七號	六六四
署一〇〇號	四八八	署一〇一六號	五八二	府一〇一七號	一七八	府一〇三八號	七五九

府令

明治三十九年	府一號	二四九	府九號	五五八	府七三號	一一九九	府四三號	一一二四
	府二號	二五〇	府一〇號	二二二	府七四號	七五九	府四四號	一一二四
	府三號	二六一	府一一號	七四六	府七五號	一〇六六	府四五號	一一二四
	府四號	二六二	府一二號	六五三	府七六號	二六六	府四六號	一一二四
	府五號	二六三	府一三號	六五三	府七七號	三三九	府四七號	一一二四
	府六號	二六四	府一四號	六五三	府七八號	三三九	府四八號	一一二四
	府七號	二六五	府一五號	六五三	府七九號	三三九	府四九號	一一二四
	府八號	二六六	府一六號	六五三	府八〇號	三三九	府五〇號	一一二四
	府九號	二六七	府一七號	六五三	府八一號	三三九	府五一號	一一二四
	府一〇號	二六八	府一八號	六五三	府八二號	三三九	府五二號	一一二四
	府一一號	二六九	府一九號	六五三	府八三號	三三九	府五三號	一一二四
	府一二號	二七〇	府二〇號	六五三	府八四號	三三九	府五四號	一一二四
	府一三號	二七一	府二一號	六五三	府八五號	三三九	府五五號	一一二四
	府一四號	二七二	府二二號	六五三	府八六號	三三九	府五六號	一一二四
	府一五號	二七三	府二三號	六五三	府八七號	三三九	府五七號	一一二四
	府一六號	二七四	府二四號	六五三	府八八號	三三九	府五八號	一一二四
	府一七號	二七五	府二五號	六五三	府八九號	三三九	府五九號	一一二四
	府一八號	二七六	府二六號	六五三	府九〇號	三三九	府六〇號	一一二四
	府一九號	二七七	府二七號	六五三	府九一號	三三九	府六一號	一一二四
	府二〇號	二七八	府二八號	六五三	府九二號	三三九	府六二號	一一二四
	府二一號	二七九	府二九號	六五三	府九三號	三三九	府六三號	一一二四
	府二二號	二八〇	府三〇號	六五三	府九四號	三三九	府六四號	一一二四
	府二三號	二八一	府三一號	六五三	府九五號	三三九	府六五號	一一二四
	府二四號	二八二	府三二號	六五三	府九六號	三三九	府六六號	一一二四
	府二五號	二八三	府三三號	六五三	府九七號	三三九	府六七號	一一二四
	府二六號	二八四	府三四號	六五三	府九八號	三三九	府六八號	一一二四
	府二七號	二八五	府三五號	六五三	府九九號	三三九	府六九號	一一二四
	府二八號	二八六	府三六號	六五三	府一〇〇號	三三九	府七〇號	一一二四
	府二九號	二八七	府三七號	六五三	府一〇一號	三三九	府七一號	一一二四
	府三〇號	二八八	府三八號	六五三	府一〇二號	三三九	府七二號	一一二四
	府三一號	二八九	府三九號	六五三	府一〇三號	三三九	府七三號	一一二四
	府三二號	二九〇	府四〇號	六五三	府一〇四號	三三九	府七四號	一一二四
	府三三號	二九一	府四一號	六五三	府一〇五號	三三九	府七五號	一一二四
	府三四號	二九二	府四二號	六五三	府一〇六號	三三九	府七六號	一一二四
	府三五號	二						

訓六號	八九一	訓六〇號	六二	訓六四號	一一	訓五號	一一〇六
訓一〇號	八三一	訓六一號	六八三	訓六七號	一一〇二	訓一〇號	一一〇八
訓一三號	七七三	訓六八號	九六	訓六八號	七五七	訓一三號	一一〇八
訓一四號	七六六	訓六九號	二四四	訓七一號	八六〇	訓一三號	一一〇八
訓一五號	七六一	訓七〇號	一四二	訓八三號	八〇五	訓一五號	一一〇九
訓一六號	七五三	訓七一號	五三一	訓八七號	五七一	訓一六號	一一〇九
訓一八號	七四九	訓七九號	六九三	訓九二號	一〇六八	訓一六號	一一〇九
訓一九號	六一五	訓八〇號	八八〇	訓九四號	一二五八	訓一六號	一一〇九
訓二〇號	七五九	訓八二號	九〇五	訓一〇四號	一二五八	訓一六號	一一〇九
訓二一號	六六六	訓八三號	一八六	訓一〇五號	三四四	訓一六號	一一〇九
訓二二號	一四八	訓八四號	九三九	訓一〇六號	九四	訓一六號	一一〇九
訓二五號	七一九	訓八五號	一八二	訓一〇七號	九四	訓一六號	一一〇九
訓二六號	七一九	訓八六號	八六二	訓一〇八號	二五三	訓一六號	一一〇九
訓二八號	七八〇	訓八七號	六六二	訓一〇九號	四四九	訓一六號	一一〇九
訓二九號	六三	訓八八號	七二一	訓一一〇號	八二	訓一六號	一一〇九
訓三〇號	六四	訓八九號	六六	訓一一一號	九〇	訓一六號	一一〇九
訓三一號	二四五	訓九〇號	一九七	訓一一二號	九二	訓一六號	一一〇九
訓三四號	二五二	訓九一號	一九八	訓一一三號	五二	訓一六號	一一〇九
訓三六號	七五二	訓九二號	七五九	訓一一四號	八五	訓一六號	一一〇九
訓三七號	七五三	訓九三號	七八二	訓一一五號	九三	訓一六號	一一〇九
訓三九號	七五三	訓九四號	七五二	訓一一六號	八二	訓一六號	一一〇九
訓四〇號	七五〇	訓九五號	八七三	訓一一七號	八二	訓一六號	一一〇九
訓四三號	七五〇	訓九六號	七五九	訓一一八號	九二	訓一六號	一一〇九
訓四五號	七五二	訓九七號	八五〇	訓一一九號	五二	訓一六號	一一〇九
訓五五號	一〇六七	訓九八號	八五〇	訓一二〇號	二五三	訓一六號	一一〇九
		訓九九號	八五〇	訓一二一號	二五三	訓一六號	一一〇九
		訓一〇〇號	八五〇	訓一二二號	二五三	訓一六號	一一〇九

番號索引

明治四十一年

訓一號	五四〇	訓六四號	一一	訓一號	八六六
訓二號	五四〇	訓六五號	一一〇二	訓二號	二五七
訓三號	一四二	訓六六號	七五七	訓三號	七五七
訓四號	一四二	訓六七號	八六〇	訓四號	二五七
訓五號	一四二	訓六八號	八〇五	訓五號	二五七
訓六號	五三一	訓六九號	五七一	訓六號	二五七
訓七號	六九三	訓七〇號	一〇六八	訓七號	二五七
訓八號	八八〇	訓七一號	一二五八	訓八號	二五七
訓九號	九〇五	訓七二號	三四四	訓九號	二五七
訓一〇號	一八六	訓七三號	九四	訓一〇號	二五七
訓一一號	八六二	訓七四號	九四	訓一一號	二五七
訓一二號	七二一	訓七五號	二五三	訓一二號	二五七
訓一三號	六六	訓七六號	四四九	訓一三號	二五七
訓一四號	二二	訓七七號	八二	訓一四號	二五七
訓一五號	三六	訓七八號	九二	訓一五號	二五七
訓一六號	二二九	訓七九號	五二	訓一六號	二五七
訓一七號	一一二九	訓八〇號	八五	訓一七號	二五七
訓一八號	四四九	訓八一號	九三	訓一八號	二五七
訓一九號	一四四	訓八二號	八二	訓一九號	二五七
訓二〇號	一六三	訓八三號	九二	訓二〇號	二五七
訓二一號	一四〇	訓八四號	八二	訓二一號	二五七
訓二二號	八七六	訓八五號	九二	訓二二號	二五七
訓二三號	八八〇	訓八六號	八二	訓二三號	二五七
訓二四號	八八〇	訓八七號	九二	訓二四號	二五七
訓二五號	八八〇	訓八八號	八二	訓二五號	二五七
訓二六號	八八〇	訓八九號	九二	訓二六號	二五七
訓二七號	八八〇	訓九〇號	八二	訓二七號	二五七
訓二八號	八八〇	訓九一號	九二	訓二八號	二五七
訓二九號	八八〇	訓九二號	八二	訓二九號	二五七
訓三〇號	八八〇	訓九三號	九二	訓三〇號	二五七
訓三一號	八八〇	訓九四號	八二	訓三一號	二五七
訓三二號	八八〇	訓九五號	九二	訓三二號	二五七
訓三三號	八八〇	訓九六號	八二	訓三三號	二五七
訓三四號	八八〇	訓九七號	九二	訓三四號	二五七
訓三五號	八八〇	訓九八號	八二	訓三五號	二五七
訓三六號	八八〇	訓九九號	九二	訓三六號	二五七
訓三七號	八八〇	訓一〇〇號	八二	訓三七號	二五七
訓三八號	八八〇	訓一〇一號	九二	訓三八號	二五七
訓三九號	八八〇	訓一〇二號	八二	訓三九號	二五七
訓四〇號	八八〇	訓一〇三號	九二	訓四〇號	二五七
訓四一號	八八〇	訓一〇四號	八二	訓四一號	二五七
訓四二號	八八〇	訓一〇五號	九二	訓四二號	二五七
訓四三號	八八〇	訓一〇六號	八二	訓四三號	二五七
訓四四號	八八〇	訓一〇七號	九二	訓四四號	二五七
訓四五號	八八〇	訓一〇八號	八二	訓四五號	二五七
訓四六號	八八〇	訓一〇九號	九二	訓四六號	二五七
訓四七號	八八〇	訓一〇一〇號	八二	訓四七號	二五七
訓四八號	八八〇	訓一〇一一號	九二	訓四八號	二五七
訓四九號	八八〇	訓一〇一二號	八二	訓四九號	二五七
訓五〇號	八八〇	訓一〇一三號	九二	訓五〇號	二五七
訓五一號	八八〇	訓一〇一四號	八二	訓五一號	二五七
訓五二號	八八〇	訓一〇一五號	九二	訓五二號	二五七
訓五三號	八八〇	訓一〇一六號	八二	訓五三號	二五七
訓五四號	八八〇	訓一〇一七號	九二	訓五四號	二五七
訓五五號	八八〇	訓一〇一八號	八二	訓五五號	二五七
訓五六號	八八〇	訓一〇一九號	九二	訓五六號	二五七
訓五七號	八八〇	訓一〇二〇號	八二	訓五七號	二五七
訓五八號	八八〇	訓一〇二一號	九二	訓五八號	二五七
訓五九號	八八〇	訓一〇二二號	八二	訓五九號	二五七
訓六〇號	八八〇	訓一〇二三號	九二	訓六〇號	二五七
訓六一號	八八〇	訓一〇二四號	八二	訓六一號	二五七
訓六二號	八八〇	訓一〇二五號	九二	訓六二號	二五七
訓六三號	八八〇	訓一〇二六號	八二	訓六三號	二五七
訓六四號	八八〇	訓一〇二七號	九二	訓六四號	二五七
訓六五號	八八〇	訓一〇二八號	八二	訓六五號	二五七
訓六六號	八八〇	訓一〇二九號	九二	訓六六號	二五七
訓六七號	八八〇	訓一〇三〇號	八二	訓六七號	二五七
訓六八號	八八〇	訓一〇三一號	九二	訓六八號	二五七
訓六九號	八八〇	訓一〇三二號	八二	訓六九號	二五七
訓七〇號	八八〇	訓一〇三三號	九二	訓七〇號	二五七
訓七一號	八八〇	訓一〇三四號	八二	訓七一號	二五七
訓七二號	八八〇	訓一〇三五號	九二	訓七二號	二五七
訓七三號	八八〇	訓一〇三六號	八二	訓七三號	二五七
訓七四號	八八〇	訓一〇三七號	九二	訓七四號	二五七
訓七五號	八八〇	訓一〇三八號	八二	訓七五號	二五七
訓七六號	八八〇	訓一〇三九號	九二	訓七六號	二五七
訓七七號	八八〇	訓一〇四〇號	八二	訓七七號	二五七
訓七八號	八八〇	訓一〇四一號	九二	訓七八號	二五七
訓七九號	八八〇	訓一〇四二號	八二	訓七九號	二五七
訓八〇號	八八〇	訓一〇四三號	九二	訓八〇號	二五七
訓八一號	八八〇	訓一〇四四號	八二	訓八一號	二五七
訓八二號	八八〇	訓一〇四五號	九二	訓八二號	二五七
訓八三號	八八〇	訓一〇四六號	八二	訓八三號	二五七
訓八四號	八八〇	訓一〇四七號	九二	訓八四號	二五七
訓八五號	八八〇	訓一〇四八號	八二	訓八五號	二五七
訓八六號	八八〇	訓一〇四九號	九二	訓八六號	二五七
訓八七號	八八〇	訓一〇五〇號	八二	訓八七號	二五七
訓八八號	八八〇	訓一〇五一號	九二	訓八八號	二五七
訓八九號	八八〇	訓一〇五二號	八二	訓八九號	二五七
訓九〇號	八八〇	訓一〇五三號	九二	訓九〇號	二五七
訓九一號	八八〇	訓一〇五四號	八二	訓九一號	二五七
訓九二號	八八〇	訓一〇五五號	九二	訓九二號	二五七
訓九三號	八八〇	訓一〇五六號	八二	訓九三號	二五七
訓九四號	八八〇	訓一〇五七號	九二	訓九四號	二五七
訓九五號	八八〇	訓一〇五八號	八二	訓九五號	二五七
訓九六號	八八〇	訓一〇五九號	九二	訓九六號	二五七
訓九七號	八八〇	訓一〇六〇號	八二	訓九七號	二五七
訓九八號	八八〇	訓一〇六一號	九二	訓九八號	二五七
訓九九號	八八〇	訓一〇六二號	八二	訓九九號	二五七
訓一〇〇號	八八〇	訓一〇六三號	九二	訓一〇〇號	二五七

明治四十三年

訓三號	三六四	訓五九號	一八七	明治三十九年	告四號	六五	告二號	三四二
訓四號	三九七	訓六〇號	三九一	明治三十九年	告一〇號	一一三〇	告二號	三四〇
訓七號	五五	訓六一號	一一一	明治三十九年	告一三號	七二	告二號	二七七
訓八號	一八四	訓六二號	一九五	明治三十九年	告一五號	七二	告二號	二七七
訓九號	一一一	訓六三號	四三三	明治三十九年	告一七號	七二	告二號	二七七
訓一五號	二二七	訓六四號	二二五	明治三十九年	告一九號	二六六	告二號	二七七
訓一八號	一五	訓六五號	六五一	明治三十九年	告二五號	二八〇	告二號	二七七
訓二〇號	八六八	訓六六號	一一二	明治三十九年	告二七號	三五〇	告二號	二七七
訓二一號	一〇七八	訓六七號	一一二	明治三十九年	告三〇號	三三〇	告二號	二七七
訓二二號	一一八	訓六八號	一一四	明治三十九年	告三三號	三三〇	告二號	二七七
訓二三號	九〇	訓六九號	三九八	明治三十九年	告三五號	三三〇	告二號	二七七
訓二四號	一一一	訓七〇號	一〇九〇	明治三十九年	告三六號	三三〇	告二號	二七七
訓二七號	九一七	訓七一號	八六六	明治三十九年	告三九號	三三〇	告二號	二七七
訓二八號	五九九	訓七二號	三三三	明治三十九年	告四一號	三三〇	告二號	二七七
訓三〇號	八七六	訓七三號	三三三	明治三十九年	告四三號	三三〇	告二號	二七七
訓三二號	二六二	訓七四號	七〇	明治三十九年	告四五號	三三〇	告二號	二七七
訓三三號	八六五	訓七五號	三二五	明治三十九年	告四七號	三三〇	告二號	二七七
訓三六號	一〇八五	訓七六號	九二四	明治三十九年	告四九號	三三〇	告二號	二七七
訓三七號	一一三	訓七七號	七八	明治三十九年	告五一號	三三〇	告二號	二七七
訓三九號	八〇二	訓七八號	二四三	明治三十九年	告五三號	三三〇	告二號	二七七
訓四三號	九〇四	訓七九號	二二四	明治三十九年	告五五號	三三〇	告二號	二七七
訓五三號	八七四	訓八〇號	七二	明治三十九年	告五七號	三三〇	告二號	二七七
訓五四號	二二七	訓八一號	二二六	明治三十九年	告五九號	三三〇	告二號	二七七
訓五七號	八六一	訓八二號	七二	明治三十九年	告六一號	三三〇	告二號	二七七
		訓八三號	七〇	明治三十九年	告六三號	三三〇	告二號	二七七
		訓八四號	六九	明治三十九年	告六五號	三三〇	告二號	二七七
		訓八五號	三二五	明治三十九年	告六七號	三三〇	告二號	二七七
		訓八六號	九二四	明治三十九年	告六九號	三三〇	告二號	二七七
		訓八七號	七八	明治三十九年	告七一號	三三〇	告二號	二七七
		訓八八號	二四三	明治三十九年	告七三號	三三〇	告二號	二七七
		訓八九號	二二四	明治三十九年	告七五號	三三〇	告二號	二七七
		訓九〇號	七二	明治三十九年	告七七號	三三〇	告二號	二七七
		訓九一號	二二六	明治三十九年	告七九號	三三〇	告二號	二七七
		訓九二號	七二	明治三十九年	告八一號	三三〇	告二號	二七七
		訓九三號	七〇	明治三十九年	告八三號	三三〇	告二號	二七七
		訓九四號	三二五	明治三十九年	告八五號	三三〇	告二號	二七七
		訓九五號	九二四	明治三十九年	告八七號	三三〇	告二號	二七七
		訓九六號	七八	明治三十九年	告八九號	三三〇	告二號	二七七
		訓九七號	二四三	明治三十九年				

番號索引

告八二號	一三八	告二二號	二九〇	告四六號	一〇六五	告一〇八號	五五一	民衆三號	九四一
告八八號	一三三	告二六號	七四	告六一號	二七九	告二七號	一一三九	民衆四號	五六一
告九二號	七九	告二八號	七四	告六三號	八三〇	告二〇號	七二		
告九五號	一三八	告五〇號	七九四	告六四號	八三〇	告三一號	一一三九	明治三十九年	三二〇
告九七號	六九	告五三號	一〇七〇	告六五號	六八九	告三二號	七九四	論一號	二六一
告九八號	二二五	告五九號	一三八	告六九號	一〇六五	告三五號	九六三	論二號	二六八
告九九號	二二二	告六四號	七四	告七〇號	五四六	告三七號	一一三六	論三號	
告一〇〇號	二二〇	告六六號	一一三九	告七四號	三〇一	告四〇號	九六三	論四號	二四八
告一〇一號	二三一	告七五號	九六六	告七五號	九六三	告四二號	一一七五	明治四十年	三二四
告一〇二號	六八	告七六號	七五	告八〇號	七九四	告四三號	九五三	論一號	
告一〇三號	六八	告九四號	六九	告八一號	一〇八四	告四六號	九六四	論二號	三二四
告一〇四號	六六	告九九號	七五	告八二號	一一三六	告四八號	一一一一	明治四十一年	三二四
告一〇六號	一一三	告一〇五號	七六	告八五號	七七	告五二號	一一〇〇	論一號	三二四
告一〇七號	一一三	告一〇六號	七六	告九三號	七七	告五八號	二二三	論二號	三二七
告一〇八號	七三七	告一〇七號	七六	告九四號	七七	告五九號	二七四	明治四十三年	三二四
告一〇九號	七三	告一一二號	七六	告九六號	一一三六			論一號	三〇四
告一一〇號	七三	告一一五號	一一三六	告一〇一號	二四三			論二號	二七四
告一一一號	七三	告一二〇號	七九	告一〇四號	三〇四	明治三十八年	五六一		
告一一二號	七三	告一二〇號	七九	告一〇七號	六八	民衆一號	五六一		

明治四十三年十一月三十日印刷
 明治四十三年十二月一日發行

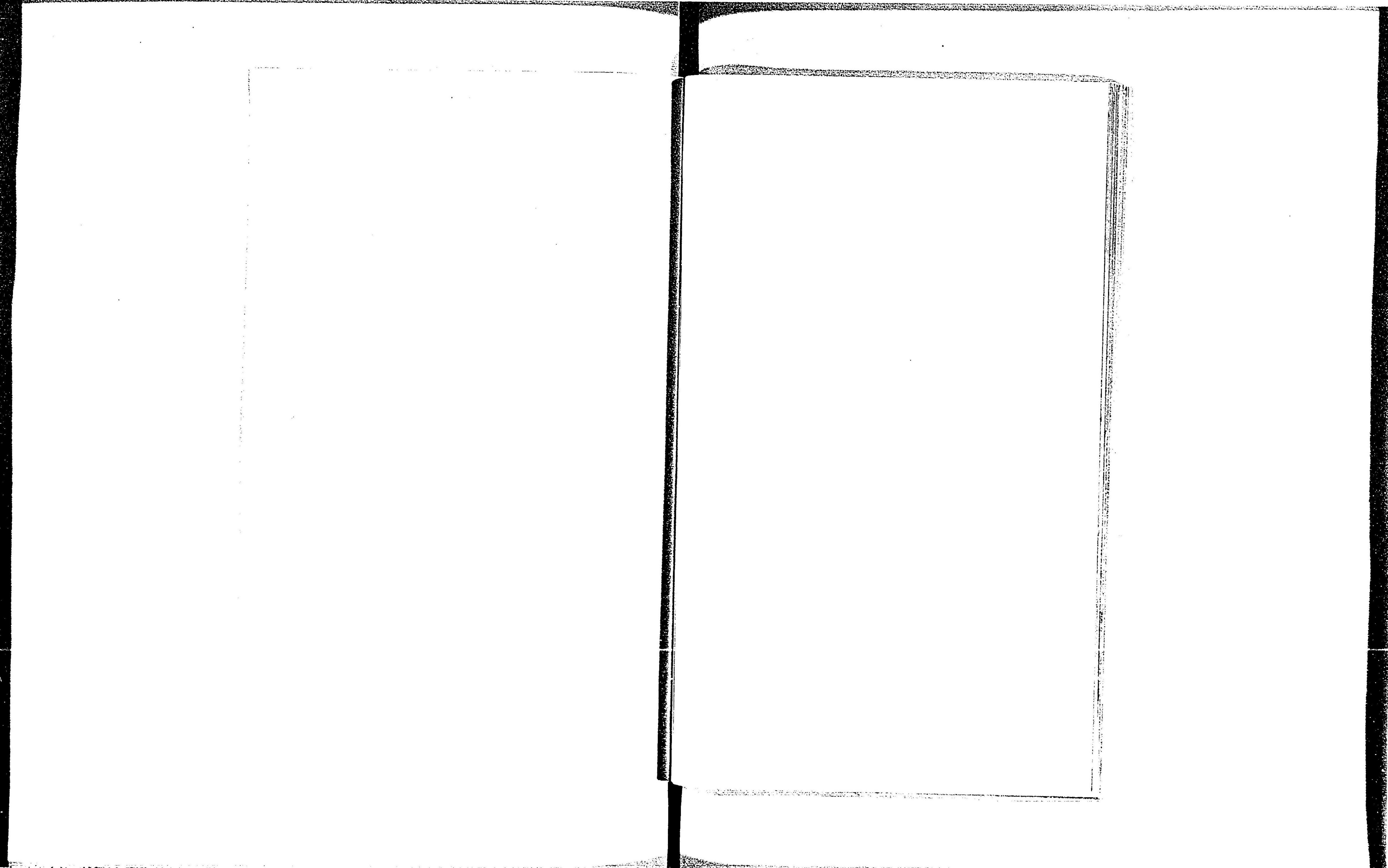
定價 上製金參圓八拾五錢
 並製金參圓六拾錢

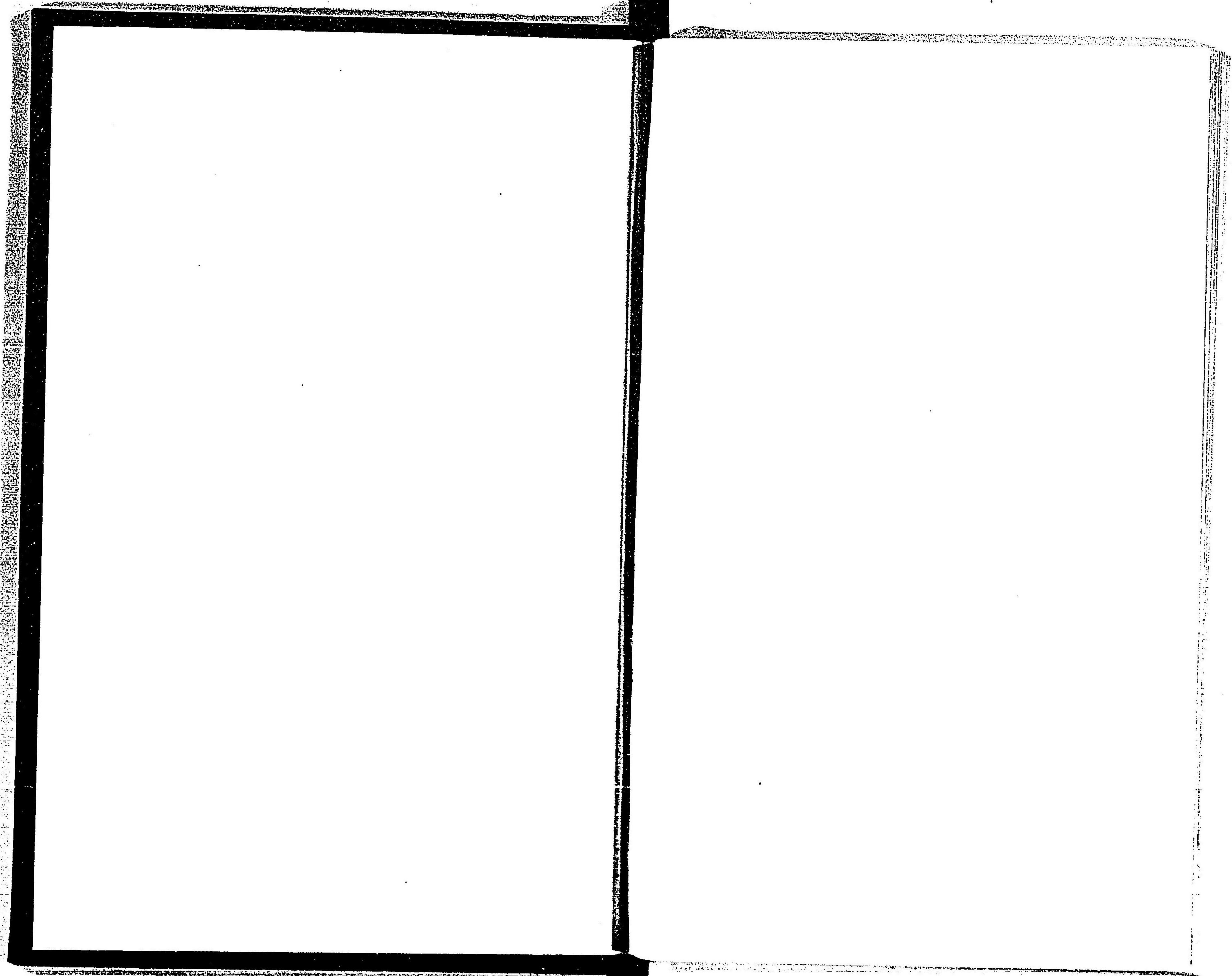
關東都督官房文書課編纂

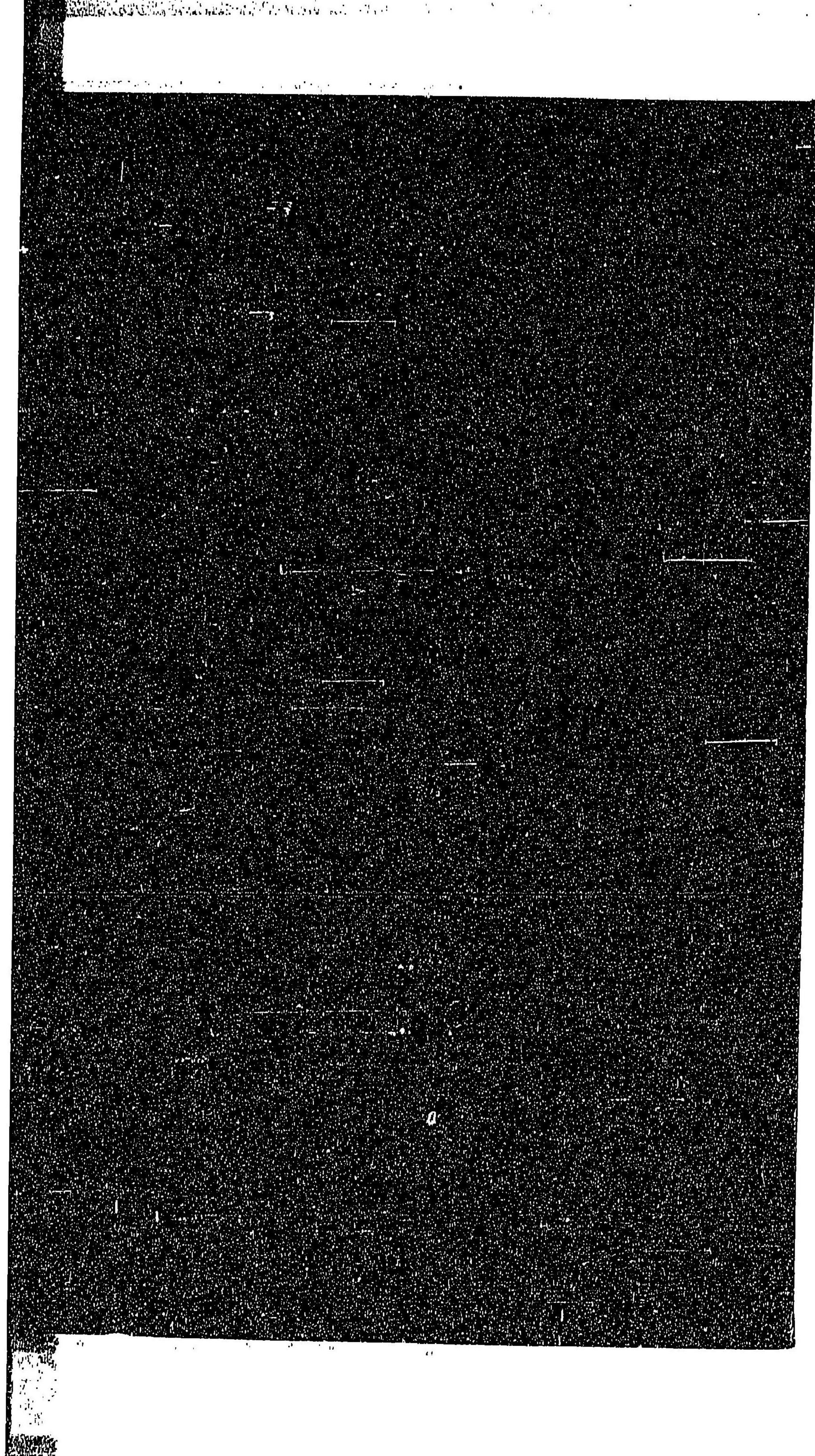
印刷人 金澤求也

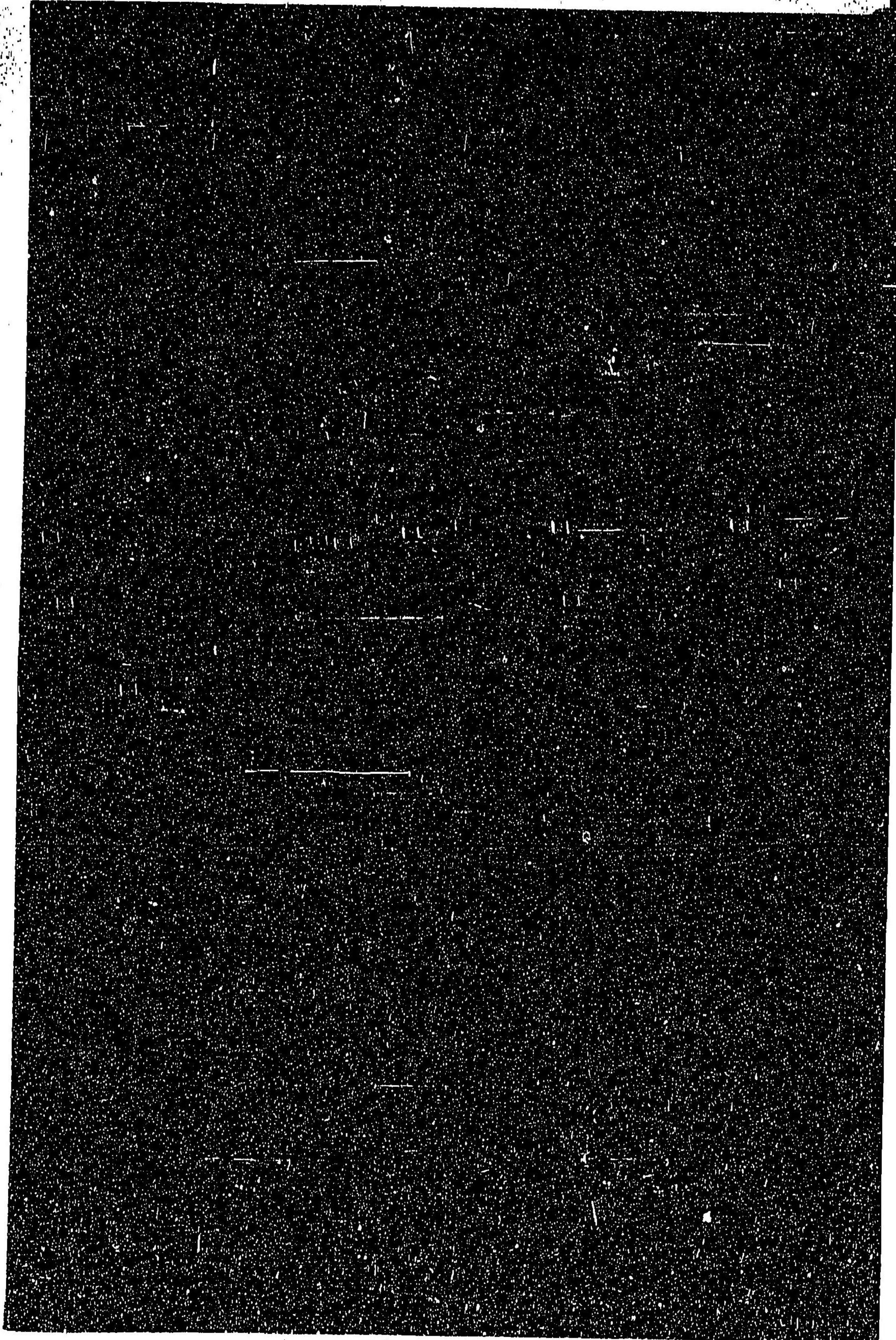
發售所 大連市東公園町十七番地
 新滿洲日日印刷部

4# + B - 65









030873-003-5

CZ-13-D-02

関東都督府法規提要

関東都督府文書課／編

M40-44

BBC-0067



